

Parallels[®] Plesk Panel

Parallels Plesk Panel 9.5

管理者ガイド

著作権表示

ISBN: N/A

Parallels

660 SW 39th Street

Suite 205

Renton, Washington 98057

USA

電話 : +1 (425) 282 6400

FAX : +1 (425) 282 6444

Copyright 1999-2009,

Parallels, Inc.

All rights reserved

著作権保有者による書面による事前の許可なしに、いかなる形式によっても本書もしくはその派生物を配布することを一切禁じます。

特許を取得した技術は、アメリカ合衆国の特許番号7,328,225、7,325,017、7,293,033、7,099,948、7,076,633により保護されます。

Patents pending in the U.S.

ここに記載の製品名およびサービス名は、それぞれの権利保有者の商標です。

目次

序文	8
表記規則	8
フィードバック	9
Parallels Plesk Panel について	10
ビジネスモデル、ユーザアカウント、および権限の概要	11
Parallels Plesk Panel が管理するソフトウェアコンポーネントの概要	11
はじめに	13
Parallels Plesk Panel にログインする	14
パスワードを忘れた場合	16
Parallels Plesk Panel に慣れる	16
パスワードおよび連絡先情報の変更	22
Parallels Plesk Panel の設定	24
ライセンスキーのアップグレード	25
トライアルライセンスキーのアップグレード	26
Parallels Plesk Panel アドオンの追加ライセンスキーのインストール	27
ライセンスキーのアップグレード	28
以前使用していたライセンスキーへのロールバック	28
Parallels Plesk Panel の保護	29
Parallels Plesk Panel への管理アクセスの制限	30
SSL 暗号化によるサーバ通信の保護	32
グローバルアカウントの設定	36
グローバルアカウントの作成	38
ローカルアカウントをグローバルアカウントに接続	39
アカウントの切り替え	40
グローバルアカウントパスワードの変更	40
グローバルアカウントからローカルアカウントを接続解除	41
Parallels Plesk Panel の再ブランディング	41
ホームページのカスタマイズ	42
インターフェース言語およびスキンの変更（Linux ホスティング）	44
インターフェース言語およびスキンの変更（Windows ホスティング）	46
カスタムロゴの設定	48
カスタムハイパーリンクボタンの追加および削除	48
Parallels Plesk Panel テーマ（スキン）のインストールおよび削除	50
インターフェース言語のインストールと削除	51
ボタンの表示および非表示	53
顧客のホームページのカスタマイズ	55
セッション設定の変更	57

サーバの設定およびメンテナンス	58
IP アドレスの追加および削除	59
サーバで使用するソフトウェアコンポーネントの選択と設定 (Windows ホスティング)	62
DNS サービスの設定	63
ファイアウォールおよびネットワークアドレス変換を行うルータの背後で実行する Parallels Plesk Panel の設定	68
Parallels Plesk Panel のファイアウォールの設定 (Windows ホスティング)	70
受動 FTP モード用のポート範囲の設定 (Windows ホスティング)	75
メールサービスの設定	76
スパム防止の設定	79
ウイルス防止の設定 (Linux ホスティング)	91
ウイルス防止の設定 (Windows ホスティング)	93
Mailman メーリングリストソフトウェアの設定 (Linux ホスティング)	93
顧客による大量メール送信の防止 (Linux ホスティング)	94
Parallels Plesk Panel のデータベースホスティング設定	94
リモートデータベースホスティングの設定	96
データベースサーバの管理	98
外部データベース管理システムへの接続の設定 (Windows ホスティング)	100
外部データベースへの新規接続の作成 (Windows ホスティング)	101
既存の ODBC 接続設定の変更 (Windows ホスティング)	101
外部データベースへの接続の削除 (Windows ホスティング)	102
Adobe ColdFusion のサポートを有効化 (Linux ホスティング)	102
Sitebuilder との統合の有効化 (Linux ホスティング)	103
Google ウェブサイト サービスの統合	106
Panel ユーザに Google ウェブサイト サービスへのアクセス権を提供	109
Miva e-コマースアプリケーションのサポートの有効化 (Linux ホスティング)	111
Miva e-コマースアプリケーションのサポートの有効化 (Windows ホスティング)	113
ASP.NET の設定 (Windows ホスティング)	114
IIS アプリケーションプールの設定 (Windows ホスティング)	116
共有 SSL の設定 (Windows ホスティング)	119
統計の設定	121
メール通知システムの設定	121
ヘルプデスクの設定	127
システム日時の調整	130
サービスの起動、停止、再起動	132
Web サービス中断の危険性を削減するための Web サーバのパイプログの有効化 (Linux ホスティング)	134
メールサーバメッセージキューおよびトラブルシューティングメール混雑のモニタリング (Linux ホスティング)	135
Crontab によるタスクのスケジューリング (Linux ホスティング)	137
Windows タスクスケジューラによるタスクのスケジューリング (Windows ホスティング)	140
モジュールによる Parallels Plesk Panel 機能の拡張 (Linux ホスティング)	143
モジュールのインストール	145
モジュールの設定および管理	145
モジュールの削除	147
テクニカルサポートエンジニアへの管理特権の委託 (Windows ホスティング)	147
追加の管理者アカウントの作成	148
追加の管理者アカウントの変更	149
追加の管理者アカウントの中断および中断解除	150
追加の管理者アカウントの削除	150

顧客へのサービス	151
顧客へのサービス提供を開始する前に	152
ユーザアカウントの設定の簡略化	153
ドメインおよびウェブサイトの設定の簡略化	164
顧客が使用できるパッケージ済みアプリケーション	171
新規 Web サイトのコンテンツの事前定義	177
顧客のデフォルトホームページ設定の事前定義	178
ユーザアカウントの管理	179
ユーザアカウントの追加	179
ユーザアカウントの変更	190
代理店アカウントをクライアントアカウントに変換	196
クライアントアカウントを代理店アカウントに変換	197
ドメイン管理者アカウントをクライアントアカウントに変換	197
請求システムの勘定残高レポートの表示	197
ユーザアカウントの中断および中断解除	198
ユーザアカウントの削除	199
Web サイトのホスティング	200
ドメイン名の取得	201
ウェブサイトのホスティングアカウントの設定	201
サイトの作成および公開	210
サイトのプレビュー	221
ASP.NET の設定（Windows ホスティング）	221
ドメインの PHP バージョンの設定（Windows ホスティング）	229
データベースの配置	230
外部データベース（Windows ホスティング）からデータにアクセス	233
Adobe ColdFusion のデータソース名の設定（Windows ホスティング）	235
アプリケーションのインストール	238
Google ウェブサイト サービスの使用法	244
IIS アプリケーションプールの使用（Windows ホスティング）	246
Web サイトの保護	250
サブドメインを含むサイト構造の編成	270
サイトの追加ドメイン名の設定（ドメインエイリアス）	275
仮想ディレクトリの使用（Windows ホスティング）	278
Web サーバでの個人用 Web ページのホスティング	290
サーバへの anonymous FTP アクセスの設定	292
ウェブサーバのエラーメッセージのカスタマイズ（Linux ホスティング）	294
Web サーバのエラーメッセージのカスタマイズ（Windows ホスティング）	296
ドメインの DNS ゾーン設定のカスタマイズ	298
外部ドメインネームサーバを持つサイトの供給	304
Web ホスティングタイプを物理的から転送へ変更	305
他のサーバにホストされているサイトのドメイン名の使用（ドメイン転送）	307
ユーザアカウント間のドメイン転送	308
Web サイトホスティングアカウントのアップグレード	309
Web サイトの中断および中断解除	311
Web サイトの削除	311
メールサービスの使用	312
ヘルプデスクを使用した顧客の問題の解決	360
ヘルプデスクでのトラブルチケットの表示	361
トラブルチケットへのコメントおよびクローズ	362

他のホスティングプラットフォームからデータの移行 **363**

ファイルからデータのインポート	366
Linux/Unix ベースのサーバからデータのインポート	367
Windows ベースのサーバからデータのインポート	368

データのバックアップおよび復元 **369**

グローバルバックアップの設定	370
FTP リポジトリ使用のためのコントロールパネルの設定	371
サーバ全体のバックアップ	372
ユーザのドメインによる個別ユーザアカウントのバックアップ	373
個別ドメイン (Web サイト) のバックアップ	374
データベースのバックアップ (Windows ホスティング)	375
バックアップのスケジューリング	376
バックアップアーカイブからのデータの復元	377
データベースの復元 (Windows ホスティング)	379
孤立したデータベースユーザの復元 (Windows ホスティング)	380
バックアップファイルリポジトリの維持	381
バックアップファイルのサーバへのアップロード	381
サーバからのバックアップファイルのダウンロード	382
サーバからのバックアップファイルの削除	383
データベースのバックアップファイルリポジトリの維持 (Windows ホスティング)	384
サーバへデータベースのバックアップファイルのアップロード	385
サーバからデータベースのバックアップファイルのダウンロード	386
サーバからデータベースのバックアップファイルの削除	386

統計の表示 **387**

Webalizer による Web 統計表示のプリファレンスの調整	390
自分のサイトおよび他のサイトからの内部参照の表示および非表示	391
他のサイトからの参照のグループ化とグループ解除	392
ダイレクトリクエストの表示と非表示	393
レポート生成とメールによる配信の自動化	394
ログファイルの表示およびログファイルの再利用の設定	396
ウイルスおよびスパム保護統計の表示	397

コントロールパネルへの接続と FTP サービスのモニター **398**

コントロールパネルへの接続のモニタリング	399
FTP サービスへの接続のモニタリング	400
サーバへのターミナルセッション接続のモニタリング (Windows ホスティング)	402

リモートデスクトップ (Windows ホスティング) 経由でサーバにアクセス **403**

コントロールパネルで顧客が実行したアクションのロギング **405**

アクションログの設定	406
アクションログのダウンロード	407

アクションログの消去.....	407
多数の Parallels Plesk Panel サーバに対する集中アクセスの使用	408
サーバレコードの追加.....	409
サーバ情報の表示およびサーバへのログイン	409
サーバレコードの削除.....	410
コントロールパネルのアップグレード	411
アップデーター設定の変更	413
コントロールパネルからアップデーター機能へのアクセスを拒否（Linux ホスティング）	414
付録. 拡張機能	415
イベント追跡メカニズムの使用	416
イベントハンドラの追加（Linux ホスティング）	417
イベントハンドラの追加（Windows ホスティング）	419
イベントハンドラの削除.....	420
Web サーバ設定ファイルへのディレクティブのインクルード	421
Tomcat Java コネクタポートの変更	422
メール設定の復元.....	423
Qmail または Courier-IMAP メールサーバのカスタム SSL 証明書のインストール	423
Qmail 用 SSL 証明書のインストール	424
Courier-IMAP メールサーバの SSL 証明書のインストール.....	426

序文

このセクションの内容:

表記規則	8
フィードバック	9

表記規則

特殊な意味を持つ箇所は、以下のフォントで区別しています。

フォント	意味	例
特殊太字	メニューオプション、コマンドボタン、リスト内の項目など、選択する必要のある項目。	[QoS] タブに進みます。
	章、セクション、サブセクションのタイトル。	「 基本管理 」の章をご参照ください。
斜体	初出用語または実際の名前や値に置き換えられるコマンドラインのプレースホルダーの指定などの、重要な箇所を強調。	システムはいわゆる <i>ワイルドカード</i> 文字検索に対応しています。
固定幅	スタイルシートセレクタの名前、ファイルおよびディレクトリ、CSS フラグメント。	ライセンスファイルは <code>license.key</code> と呼ばれています。

書式設定済み太字	入力した文字をコンピュータ画面上の出力と区別。	Unix/Linux: # cd /root/rpms/php Windows: >cd %myfolder%
書式設定済み	コマンドラインセッションでのコンピュータ画面上への出力、XML や C++ やその他のプログラミング言語のソースコード。	Unix/Linux: # ls -al /files total 14470 Windows: >ping localhost Reply from 127.0.0.1: bytes=32 time<1ms TTL=128

フィードバック

当ガイドの表記ミスを見つけた場合や、当ガイドをより良いものにするアイデアがある方は、sales@parallels.co.jp宛てにお知らせいただければ幸いです。間違いを見つけた場合は、章、セクション、サブセクション名や該当部分の文章を提示して問題を特定しやすいようにしていただきますようお願い致します。

第 1 章

Parallels Plesk Panel について

Parallels Plesk Panel はホスティング自動化ソリューションであり、ホスティングプロバイダが管理するウェブホスティングサーバの完全なコントロールを提供し、ユーザアカウント、ウェブサイト、メールアカウントの設定および管理を容易にします。

Parallels Plesk Panel には 定性、安全性、信頼性があり、そして Parallels Plesk Panel をご使用いただく一番の利点は管理者である貴社および貴社の技術スタッフの時間と労力の削減です。すべての顧客（およびリセラーの顧客）は個別に分離されたコントロールパネル環境を持ち、自分でサイトやメールアカウントを管理できるようになります。

この章の内容:

ビジネスモデル、ユーザアカウント、および権限の概要.....	11
Parallels Plesk Panel が管理するソフトウェアコンポーネントの概要.....	11

ビジネスモデル、ユーザアカウント、および権限の概要

Parallels Plesk Panel のユーザアカウント階層は 5 つのユーザレベルに制限されています。

- サーバ管理者アカウント。
- 代理店アカウント。これらのアカウントは、ホスティングサービスを再販して自分の Web サイトをホスティングする必要のある顧客向けに作成されました。
- クライアントアカウント。これらのアカウントは、ホスティングサービスを再販する必要はないけれども、Web サイトをホスティングする必要のある顧客向けに作成されました。
- ドメイン管理者アカウント。これらのアカウントは、サイト管理者がコントロールパネルにアクセスできるように作成されました。1 つのサイトごとに 1 つのドメイン管理者アカウントになります。
- メールユーザアカウント。これらのアカウントは、メールユーザがコントロールパネルにアクセスできるように作成されました。

管理者がコントロールパネル内の動作についての設定で代理店にすべてを許可すると、代理店は顧客への割り当てができるようになります。管理者が定義した代理店へのリソース割り当ては代理店の顧客へさらに再割り当てすることができます。定義可能な許可およびリソース使用率の制限の詳細な一覧については、「ユーザアカウントの管理」(179 ページ)の章を参照してください。

Parallels Plesk Panel が管理するソフトウェアコンポーネントの概要

Parallels Plesk Panel for Linux/UNIX は、以下のソフトウェアコンポーネントおよびサービスで動作します。

- Bind DNS サーバ
- Apache ウェブサーバ
- ProFTPd FTP サーバ
- MySQL および PostgreSQL データベースサーバ
- Qmail メールサーバ
- Courier-IMAP IMAP/POP3 サーバ
- Mailman メーリングリストサーバ
- Spamassassin アンチスパムソフトウェア

- Dr.Web および Kaspersky アンチウィルスプログラム
- Webalizer および AWStats 統計パッケージ
- Tomcat Java アプリケーションランタイム環境
- Parallels Plesk Panel Billing (請求)

Parallels Plesk Panel for Windows プラットフォームは、以下のソフトウェアコンポーネントおよびサービスで動作します。

- Microsoft IIS ウェブサーバまたは Apache ウェブサーバ
- Microsoft FTP サーバ
- Gene6 FTP サーバ 3.4.0.16 および Serv-U FTP サーバ
- Bind DNS サーバ
- Microsoft DNS サーバおよび Simple DNS Plus DNS サーバ
- MySQL、Microsoft Access および Microsoft SQL データベースサーバ
- Acronis True Image Enterprise サーババックアップシステム
- MailEnable メールサーバ
- Merak、MDaemon、SmarterMail、hMailServer、CommuniGate Pro メールサーバ
- Courier-IMAP IMAP/POP3 サーバ
- SpamAssassin アンチスパムソフトウェア
- SiteBuilder
- Dr.Web および Kaspersky Antivirus アンチウィルス
- ClamAV and Merak Antivirus アンチウィルス
- Webalizer および AWStats 統計パッケージ
- Urchin および SmarterStats 統計パッケージ
- Microsoft FrontPage
- Horde IMP H3 ウェブメールクライアント
- MailEnable ウェブクライアント、IceWarp Web Mail 5、SmarterMail ウェブクライアント
- Apache Tomcat

Parallels Plesk Panel パッケージのインストール後、DNS、ウェブ、FTP、メールなどの必須のサービスはデフォルトの最適な設定で実行できるように構成され、すぐに顧客へ提供することが可能です。しかしながら、そのデフォルト設定が自分のニーズに合うかどうか確認すること、そしてホスティングアカウントのセットアップを更に容易にするユーザアカウントテンプレートとドメインテンプレートを作成することをお勧め致します。

第 2 章

はじめに

この章では、Parallels Plesk Panel のインストール後にまず実行すべきことについてご説明致します。

この章の内容:

Parallels Plesk Panel にログインする	14
Parallels Plesk Panel に慣れる	16
パスワードおよび連絡先情報の変更	22

Parallels Plesk Panel にログインする

➤ **Parallels Plesk Panel にログインするには、以下を実行してください。**

1. Webブラウザを開き、アドレスバーにParallels Plesk Panelの配置されているURLを入力します。

例えば<https://your-domain.com:8443>では、your-domain.comの部分がWebホストのドメイン名となります。

2. ENTERキーを押します。Parallels Plesk Panelログイン画面が開きます。
3. ユーザ名「admin」を【ログイン】ボックスに、パスワードを【パスワード】ボックスに入力します。インストールしたばかりのParallels Plesk Panelに初めてログインする場合はデフォルトパスワードである「setup」を使用します。
4. 初めてログインする場合、Parallels Plesk Panelで使用する言語を【インターフェース言語】メニューで選択します。以前にインターフェース言語を指定し、それをインターフェースのプリファレンスに保存している場合は、【ユーザデフォルト】を選択したままにします。
5. 【ログイン】をクリックします。

初めてのログイン後、ライセンス使用承諾書に同意し、次にサーバに割り当てるホスト名およびIPアドレスを指定します。

6. ライセンス契約を熟読してから、【このライセンス契約に同意します】および【次回から表示しない】チェックボックスを選択します。
7. 【同意する】をクリックしてインストール後の設定に進みます。
8. サーバのホスト名を【フルホスト名】フィールドに入力します。このホスト名は省略されておらず一番後ろにドットがついていない必要があります（例：host.domain.tld）。
9. サーバのデフォルトアドレスとして使用するIPアドレスを指定します。以下の2つのオプションがあります。

- 既存のIPアドレスの1つをドロップダウンボックスから選択します。このリストは自動的にサーバ上で利用可能なすべてのIPアドレスを含んでいます。

または

- 【IPアドレスの追加】オプションボタンをクリックし、ネットワークインターフェースを選択し、新規IPアドレスおよびサブネットマスクを【IPアドレス】ボックスに入力します。

注：Parallels Plesk Panel では、すべての IP アドレスを顧客に割り当てる *前* に共有にするか専用にするかを決めることができます。これにより、コントロールパネルでその区別ができ、専用 IP アドレスを一度に複数の顧客に割り当てないようにします。専用 IP アドレスは 1 人の顧客に割り当てられ、共有 IP アドレスは複数のユーザアカウント間で共有されます。

10. **[共有IP]** セクションで、既存のアドレスのタイプ（共有または専用）を指定します。IPアドレスのタイプを変更するには **[共有]** および **[専用]** ボタンをクリックします。

ここではこの作業を省略して後で IP アドレスのタイプを指定することもできます（**[ホーム]** > **[IP アドレス]**（**[サーバ]** グループ内））。

11. **[管理者の選択設定]** セクションでデフォルトの管理者パスワードを変更します。

デフォルトの管理者パスワードを変更します。**[新しいパスワード]** および **[パスワードの確認]** フィールドで新しいパスワードの入力および確認を行います。パスワードは最大 14 文字です。パスワードは大文字と小文字を区別しますのでご注意ください。

注：管理者パスワードのデフォルトから個別のパスワードへの変更は必ず行ってください。デフォルトのパスワード「setup」で管理者アカウント下の Parallels Plesk Panel へのアクセスが可能であり、それを多数の Parallels Plesk Panel ユーザが知っているからです。

12. **[OK]** をクリックします。
13. 管理者の連絡先情報を入力します。
14. **[OK]** をクリックします。

このセクションの内容:

パスワードを忘れた場合 16

パスワードを忘れた場合

以下の方法のいずれかで忘れたパスワードを入手することができます。

- サーバのファイルシステムの `/etc/psa/.psa.shadow` ファイルから探す（Linux ホスティング）。
- Parallels Plesk Panel のパスワードリマインダを利用する。

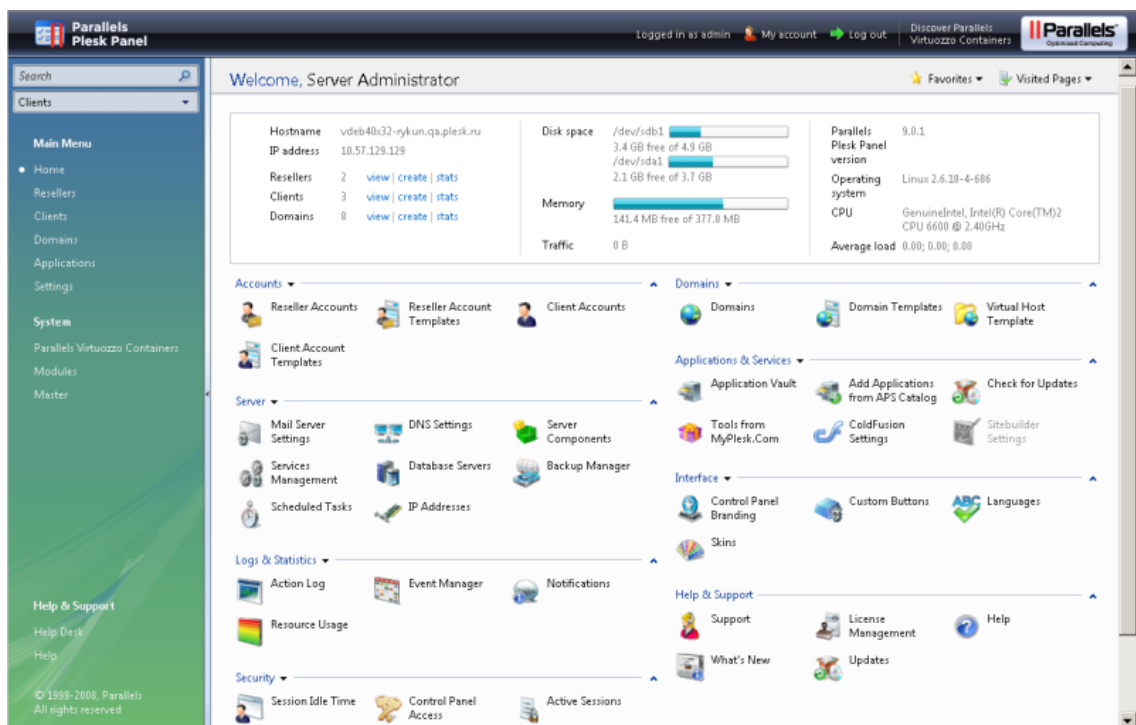
➤ パスワードリマインダを利用するには、以下を実行してください。

1. WebブラウザのアドレスバーにParallels Plesk Panelが配置されているURL（例：<https://your.domain.com:8443>）を入力します。
2. ENTERを押します。
Parallels Plesk Panel ログイン画面が開きます。
3. [パスワードを忘れましたか?] リンクをクリックします。
4. システムに登録されているログイン名およびメールアドレスを指定します。
5. [OK] をクリックします。
パスワードがメールで送信されます。パスワードが暗号化されてシステムに保存されているためメールで送信することができない場合は、新規パスワードを秘密コードで設定するよう指示されます。秘密コードはその目的のために生成されて送信されます。
6. パスワードリマインダからメールを受信したら、メッセージ本文のリンクをクリックしてください。
新規ブラウザウィンドウが開きます。
7. ログイン名および新規パスワードを指定します。 フォームの[秘密コード] フィールドはシステムが自動的に入力している筈です。そうでなかった場合は、受信したメッセージから秘密コードをクリップボードにコピーしてフォームに貼り付けてください。
8. [OK] をクリックして送信します。

注：秘密コードはそれが生成されてから 24 時間以内に使用しないと、有効期限が切れて上記のプロセスをすべてやり直すことになります。

Parallels Plesk Panel に慣れる

Parallels Plesk Panel にログインすると、よく実行する操作へのショートカットがホームページに表示されます。



トップバナーエリアから、以下の機能へアクセスできます。

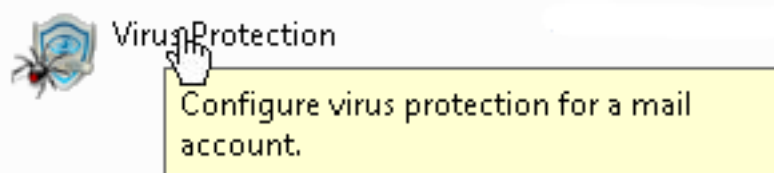
- **マイアカウント。** ここでコントロールパネルの言語およびテーマの選択や、連絡先情報の変更を行います。
- **ユーザ切替。** ここでユーザアカウントのユーザ切替を行います。このショートカットは、単一サインオンテクノロジーがサーバ上で使用可能な場合に限り表示されます。
- **ログアウト。** コントロールパネルでの作業が終了したら、ここでセッションを閉じます。

左側のナビゲーションペインは、以下の一連の機能へのアクセスを提供します。

- **検索エリア。** サーバでホスティングしているユーザアカウントおよびドメインを検索するには、これを使用します。
- **ホーム。** ここでコントロールパネルの作業を開始します。実行する必要がある操作のほとんどは、このエリアからアクセスできます。
- **代理店。** ここで代理店アカウントの操作を行います。代理店はホスティングサービスを使用して、エンドユーザにサービスを再販できます。代理店は他のユーザ用の代理店アカウントは作成できません。コントロールパネルのこのエリアから、以下のタスクを実行できます。
 - 代理店およびその顧客（クライアントとも呼ばれます）のユーザアカウントの作成、変更、削除
 - 代理店アカウントテンプレートの作成、変更、削除
 - トラフィック使用率レポートの表示

- **クライアント。** ここでユーザアカウントの操作を行います。クライアントとはホスティングサービスのエンドユーザであり、ホスティングサービスの再販はできません。コントロールパネルのこのエリアから、以下のタスクを実行できます。
 - ユーザアカウントの作成、変更、削除
 - ユーザアカウントテンプレート（クライアントアカウントテンプレートとも呼ばれます）の作成、変更、削除
 - トラフィック使用率レポートの表示
- **ドメイン。** ここで Web サイトの操作を行います。コントロールパネルのこのエリアから、以下のタスクを実行できます。
 - Web サイトの追加（DNS ゾーンのセットアップ、Web ホスティング設定の実行、リソース使用量制限の設定）、ホスティング設定の変更、Web サイトの削除
 - Web サイトホスティングテンプレート（ドメインテンプレートとも呼ばれます）の作成、変更、削除
- **アプリケーション。** ここで、ユーザのサイトにインストール可能なアプリケーションを選択します。
- **設定。** ここで、Parallels Plesk Panel が使用するサーバおよびプログラムコンポーネントを設定および管理します。
- **モジュール。** Parallels Plesk Panel の機能を拡張する追加のモジュール（ファイアウォール、ゲームサーバ、VPN、その他）を管理します。
- **マスター。** このショートカットから Parallels Plesk Panel が使用可能なサーバの集中管理へアクセスできます。
- **グローバルアカウント。** このショートカットは、ホスティングサーバでシングルサインオン機能がオンになったときに Parallels Plesk Panel に表示されます。シングルサインオン技術によって、1つのグローバルログイン名およびパスワードで様々な Parallels 製品にログインできます。このショートカットを使用して、グローバルログイン設定を変更します。
- **ヘルプデスク。** コントロールパネルと統合されたヘルプデスクシステムです。顧客から貴社に報告された問題の表示と解決ができます。
- **ヘルプ。** 検索機能の付いた、状況に応じたヘルプを提供します。

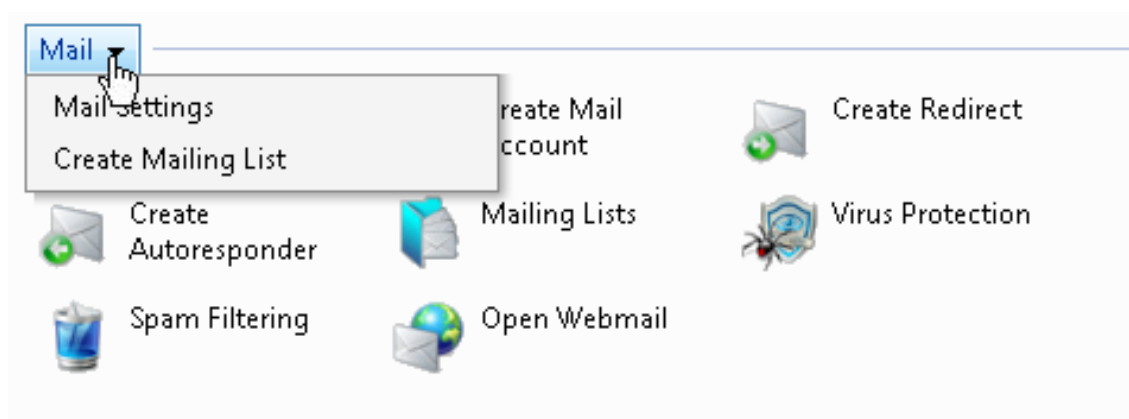
ツールまたはページ上の項目の詳細を見るには、項目の上にカーソルをクリックせずに置くと、その項目の補足情報が記載された小さなボックスが表示されます。



Sitebuilder コンポーネントをインストールして、「Sitebuilder との統合の有効化」(103 ページ)に記載したとおりに設定すると、以下のショートカットもコントロールパネルのナビゲーションペインに表示されます。【Sitebuilder 管理】グループの下です。

- **デスクトップ。** タスク指向のウィザードへのショートカットが提供されます。ここから、Sitebuilder システム経由でアカウントおよび Web サイト上のあらゆる操作を実行できます。詳細は http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/reseller/ja_JP/html/using_desktop_interface.htm をご覧ください。
- **ユーザ。** ここで顧客のユーザアカウントおよびサービスプランを追加および管理できます。詳細は http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/reseller/ja_JP/html/signing_up_customers.htm をご覧ください。
- **サイト。** ここでサイトを追加および管理できます。詳細は http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/reseller/ja_JP/html/managing_sites.htm をご覧ください。
- **サーバ。** ここで以下のシステム設定を表示および管理できます。
 - **トライアルサイト設定。** ここで、見込み客が作成したトライアルサイトの設定を行うことができます。詳細は http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/reseller/ja_JP/html/setting_up_sitebuilder_wizard_for_anonymous_visits.htm をご覧ください。
 - **ブランディング。** ここで、見込み客のロゴおよびタイトル設定を行うことができます。詳細は http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/reseller/ja_JP/html/setting_up_logo_and_title_bar_text.htm をご覧ください。
 - **通知。** ここで、Sitebuilder からユーザに送信される通知の設定を行うことができます。詳細は http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/reseller/ja_JP/html/configuring_email_message_sent_at_trial_site_publishing_attempt.htm をご覧ください。
 - **モジュール。** ここで使用可能なモジュール一覧を参照できます。詳細は http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/reseller/ja_JP/html/viewing_and_configuring_sitebuilder_wizard_presets_and_modules.htm をご覧ください。
 - **ページセット。** ここで使用可能なページセット一覧を参照できます。詳細は http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/reseller/ja_JP/html/viewing_and_configuring_sitebuilder_wizard_presets_and_modules.htm をご覧ください。
 - **サイトファミリー。** ここで、デザインテンプレートおよびページセットを結合する使用可能なテンプレート一覧を参照できます。詳細は http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/reseller/ja_JP/html/viewing_and_configuring_sitebuilder_wizard_presets_and_modules.htm をご覧ください。

右側のメイン作業エリアで、ナビゲーションペインで選択したコントロールパネルの現行セクションで使用可能なツールへアクセスできます。追加操作は、グループタイトルをクリックすると表示されるドロップダウンメニューからアクセスできます。



Parallels Plesk Panel のナビゲートにはパスバーを使用できます。画面右側のバナーエリアの下に一連のリンクが表示されます。

Home ▶ Domains ▶ example.com ▶ Mail Accounts ▶

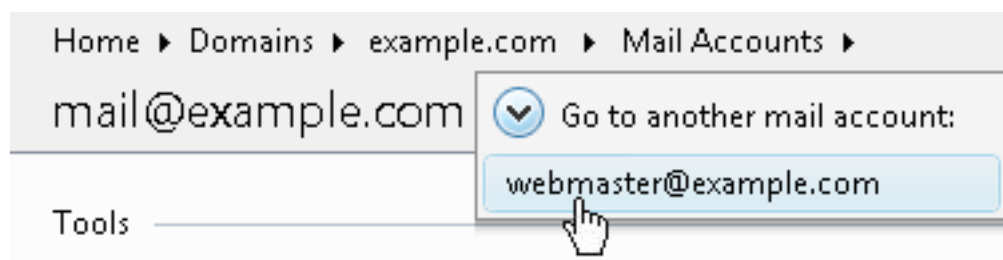
パスバーの右側に、【お気に入り】および【訪問ページ】メニューがあります。【訪問ページ】メニューは、最近訪問したコントロールパネル画面へのショートカットを保存します。これらのショートカットは自動的に追加されます。【お気に入り】メニューは、手作業でお気に入りに追加した画面へのショートカットを保存します。【お気に入り】メニューのショートカットで作業する詳細については、「ホームページのカスタマイズ」(42 ページ)のセクションをご覧ください。

前の画面に戻るには、パスバーのショートカットを使用するか、画面右上の上位レベルアイコンを使用します。

ユーザアカウント、ドメイン名、またはメールアカウントの設定を変更する場合は、設定を変更する別のユーザアカウント、ドメイン名、またはメールアカウントも選択できます。それには、ユーザ名、ドメイン名、またはメールアドレスの右側の小さな矢印アイコンをクリックします。



すると、選択可能なユーザアカウント、ドメイン名、またはメールアカウントのリストが開きます。



特定のパラメータでリストを昇順または降順に並べ替えるには、カラムのヘッダ一部分のパラメータ名をクリックします。パラメータタイトルの隣の小さな三角印は並び順を表します。

パスワードおよび連絡先情報の変更

➤ **連絡先情報を変更するには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [個人データ]（[アカウント] グループ内）に進みます。
2. 必要に応じて情報を更新し [OK] をクリックします。

➤ **パスワードを変更するには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [パスワードの変更]（[アカウント] グループ内）に進みます。
2. 古いパスワードと新しいパスワードを入力します。
3. [OK] をクリックします。

➤ **パスワードを忘れた場合は、以下を実行してください。**

1. Webブラウザのアドレスバーに、Parallels Plesk Panelの配置されているURLを入力します。
2. 例えば、<https://your-server.com:8443>となります。
3. ENTERキーを押します。 Parallels Plesk Panelログイン画面が開きます。
4. [パスワードを忘れましたか?] リンクをクリックします。
5. システムに登録されているログイン名およびメールアドレスを指定するよう指示されます。 ログイン名を [ログイン] ボックスに、システムに登録されているメールアドレスを [メールアドレス] ボックスにそれぞれ入力し [OK] をクリックします。
6. パスワードが暗号化されてシステムに保存されているためメールで送信することができない場合は、新規パスワードを秘密コードで設定するよう指示されます。秘密コードはその目的のために生成されてメールで送信されます。
7. パスワードリマインダからメールを受信したら、メッセージ本文のリンクをクリックしてください。 新規ブラウザウィンドウが開きます。
8. ここではログイン名および新規パスワードを指定します。
フォームの [秘密コード] フィールドはシステムが自動的に入力している筈です。そうでなかった場合は、受信したメッセージから秘密コードをクリップボードにコピーしてフォームに貼り付けてください。

9. [OK] をクリックして送信します。
パスワード復元方法の説明がメールで送信されます。

第 3 章

Parallels Plesk Panel の設定

この章では、Parallels Plesk Panel のセットアップや管理に必要な設定手順を説明します。

この章の内容:

ライセンスキーのアップグレード	25
Parallels Plesk Panel の保護	29
グローバルアカウントの設定	36
Parallels Plesk Panel の再ブランディング	41
セッション設定の変更	57

ライセンスキーのアップグレード

Parallels Plesk Panel にはトライアルライセンスキーが付与されており、コントロールパネルへ自動的にインストールされます。このライセンスキーにより、1つのユーザーアカウントの作成や、1つのウェブサイトおよび1つのメールボックスのホスティングが可能です。従って、Parallels Plesk Panel を十分に活用するには、Parallels またはリセラーからライセンスキーを取得してコントロールパネルにインストールする必要があります。

Parallels Plesk Panel 9.5 は、仮想化ソリューション Parallels Virtuozzo Containers、Microsoft Hyper-V、Xen、VMWare、および KVM で作成した仮想環境で実行できます。仮想環境内で実行する Parallels Panel ソフトウェアには特別なライセンスオプションがあります。ライセンスオプションについて詳細は、Parallels 営業担当までお問い合わせください。お問い合わせ先の電話番号は<http://www.parallels.com/jp/contact/> を参照してください。

Parallels Plesk Panel ライセンスキーには有効期限が組み込まれています。不正行為および盗難を防ぐためです。Parallels Plesk Panel ソフトウェアは 10 日間の猶予期間（有効期限前）中に、盗難の届出がなく、エンドユーザーライセンス契約に従って使用されていること（つまり、1 台のサーバにのみインストールされていること）を Parallels のライセンスサーバで確認する必要があります。確認されると、有効期限は延長されます。

Parallels Plesk Panel はポート 5224 経由でライセンスサーバに TCP/IP 接続しますので、それがファイアウォールでブロックされていないことを確認してください。更新プロセスは自動的に実行され、Parallels Plesk Panel 管理者は問題が発生しない限り何もする必要はありません。Parallels Plesk Panel キーの期限が切れたら、ファイアウォールを確認して【ホーム】>【ライセンス管理】（【ヘルプ & サポート】グループ内）へ進み【キーの取得】をクリックしてください。キーが更新されない場合は、リセラーまたは Parallels（ライセンスキーを直接 Parallels から購入した場合）にご連絡ください。

ライセンスサーバへの接続はいつでもテストすることができます。それには、【ホーム】>【ライセンス管理】（【ヘルプ & サポート】グループ内）へ進み【キーの取得】をクリックしてください。

このセクションの内容:

トライアルライセンスキーのアップグレード	26
Parallels Plesk Panel アドオンの追加ライセンスキーのインストール	27
ライセンスキーのアップグレード	28
以前使用していたライセンスキーへのロールバック	28

トライアルライセンスキーのアップグレード

➤ **トライアルライセンスキーをアップグレードするには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [ライセンス管理]（[ヘルプ & サポート] グループ内）に進んで、[Parallels Plesk Panelアップグレードの注文] をクリックします。
2. Parallelsオンラインストアが別のウィンドウで開きます。このウィンドウで、Parallels Plesk Panelライセンスに含めたい項目や機能を選択して[送信] をクリックします。次に、通貨、ライセンスキーの数、連絡先情報、請求先住所、支払方法を指定してフォームを送信します。新しいキーが指定したメールアドレスに送信されます。
3. 新しいキーをローカルマシンのハードディスクに保存します。
4. Parallels Plesk Panelで[ライセンス管理] 画面サイド開いて（[ホーム] > [ライセンス管理]（[ヘルプ & サポート] グループ内））、[キーのアップロード] をクリックします。
5. ローカルマシンに保存したキーファイルのパスを入力するか、[参照] をクリックしてアップロード先の場所を指定します。
6. [選択されたキーを、インストールされているライセンスキーと入れ替えます] チェックボックスを選択し、新しいライセンスキー変更の続行を確認します。
このチェックボックスを選択しないと、新しいライセンスキーはインストールされずインストールが中止されます。
7. 新しいライセンスキーがサーバ上ですでにホストしているサイトより少ないサイトしかホスティングできない場合、Parallels Plesk Panelは動作を停止します。実際のリソース使用量と、新しいキーによりカバーされる使用量をParallels Plesk Panelが比較しないようにするには、[キーにより制限されたリソース使用の制限をチェックしない] チェックボックスを選択します。
この設定は、コントロールパネルを介したアップグレードを行う目的でライセンスキーがカバーしている以上のリソースを一時的にインストールしたい場合に有益です。
8. [OK] をクリックし、新しいキーをコントロールパネルにインストールします。

Parallels Plesk Panel アドオンの追加ライセンスキーのインストール

➤ アドオン *Parallels Plesk Panel* コンポーネントに追加のライセンスキーをインストールするには、以下を実行してください。

1. [ホーム] > [ライセンス管理]（[ヘルプ & サポート] グループ内）に進みます。
2. [Parallels Plesk Panel アドオンの注文] をクリックします。
3. 使用可能なアドオンが一覧表示された Parallels オンラインストアが別のウィンドウで開きます。このページで注文したいアドオンを選択し、[送信] をクリックします。
4. Parallels Plesk Panel アドオンが既存のライセンスキーに追加されるため、Parallels Plesk Panel 番号確認システム画面が開きます。この機能を追加するライセンスキーの番号を入力して [送信] をクリックします。
5. 次に、通貨、キーの数、連絡先情報、請求先住所、支払方法を指定してフォームを送信します。注文が処理されるとメールで通知が来ます。
6. メール通知を受信したら [ライセンス管理] 画面に戻り（[ホーム] > [ライセンス管理]（[ヘルプ&サポート] グループ内））、[キーの取得] をクリックして注文したライセンスキーを取得します。Parallels Plesk Panel ライセンスマネージャは Parallels ライセンスサーバからアップグレードされたライセンスキーを取得し、コントロールパネルに自動的にインストールします。

ライセンスキーのアップグレード

顧客ベースの拡張をしたり現在のライセンスのままサーバ上でホストできるサイトの数を増やしたい場合は、ライセンスキーのアップグレードが必要です。

➤ **ライセンスキーをアップグレードするには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [ライセンス管理]（[ヘルプ & サポート] グループ内）に進みます。
2. [Parallels Plesk Panelアップグレードの注文] をクリックします。
3. Parallelsオンラインストアページで希望するアップグレードオプションを選択し、[送信] をクリックします。
4. 次に購入の詳細を指定してフォームを送信します。注文が処理されるとメールで通知が来ます。
5. メール通知を受信したら [ライセンス管理] 画面に戻り（[ホーム] > [ライセンス管理]（[ヘルプ&サポート] グループ内））、[キーの取得] をクリックして注文したライセンスキーを取得します。 Parallels Plesk Panelライセンスマネージャはライセンスサーバから購入したライセンスキーを取得し、コントロールパネルに自動的にアップロードします。

以前使用していたライセンスキーへのロールバック

➤ **以前使用していたライセンスキーにロールバックするには、以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [ライセンス管理]（[ヘルプ & サポート] グループ内）に進みます。
2. [ロールバックキー] をクリックします。 前回インストールしたライセンスキーが復元されます。

Parallels Plesk Panel の保護

このセクションの内容:

Parallels Plesk Panel への管理アクセスの制限	30
SSL 暗号化によるサーバ通信の保護	32

Parallels Plesk Panel への管理アクセスの制限

セキュリティ上の不安を軽減する為、特定の IP アドレスからのコントロールパネルへの管理アクセスを制限します。

➤ **コントロールパネルへの管理アクセスを特定の IP アドレスやネットワークからだけ許可するには、以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [コントロールパネルアクセス]（[セキュリティ] グループ内）に進みます。

2. [新しいネットワークの追加] をクリックし、必要な IP アドレスを指定します。 [OK] をクリックします。

サブネットの指定には、ワイルドカード記号(*)とサブネットマスクを使用できます。

3. [リストにないネットワークからの受信を拒否する] オプションを選択し、[設定] をクリックします。 確認画面が表示されたら、[OK] をクリックします。

➤ **特定の IP アドレスやネットワークからの管理アクセスを禁止するには、以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [コントロールパネルアクセス]（[セキュリティ] グループ内）に進みます。

2. [新しいネットワークの追加] をクリックし、IP アドレスを指定します。 [OK] をクリックします。

サブネットの指定には、ワイルドカード記号(*)とサブネットマスクを使用できます。

3. [リスト上のネットワーク以外からの受信を許可する] オプションを選択し、[設定] をクリックします。 確認画面が表示されたら、[OK] をクリックします。

Parallels Plesk Panel のデフォルトでは、同じログイン名とパスワードを使って複数のユーザがコントロールパネルにログインし、同時に複数のセッションを実行することができます。 この機能は管理機能を他のユーザに委任したり、間違えてログアウトせずにブラウザを閉じてしまいセッションの有効期限まで再度ログインできなくなってしまう場合などに有効です。 必要なればこの機能を無効にできます。

➤ **管理コントロールパネルへの同時セッションを禁止するには以下を実行してください。**

1. ホームページで、[サーバ] グループタイトルをクリックします。 ドロップダウンメニューが開きます。 このメニューで [サーバ設定] を選択します。

2. [管理者権限での複数セッションを許可する] チェックボックスの選択を外して [OK] をクリックします。

SSL 暗号化によるサーバ通信の保護

セキュリティ上の理由により、コントロールパネルへのアクセスはセキュアソケットレイヤーが有効なハイパーテキスト転送プロトコルにより提供されるセキュア接続を通してのみ可能です。Parallels Plesk Panel が管理するサーバで交換されるすべてのデータは暗号化されており、機密情報の傍受を防ぎます。データ暗号化のプロセスで使用する SSL 証明書はコントロールパネルのインストール中に自動的に生成され、サーバへインストールされます。いわゆる自己署名証明書です。認証局（CA）からの承認を受けていないため、コントロールパネルに接続しようとすると Web ブラウザに警告メッセージが表示されます。

顧客の信頼を得るには信頼のおける認証局から SSL 証明書を購入し、コントロールパネルにインストールする必要があります。

以下のいずれかの方法で、SSL 証明書を入手できます。

- コントロールパネルの提供する機能を使用して SSL 証明書を Comodo、GeoTrust, Inc.、または GoDaddy から購入。
または
- コントロールパネルから証明書署名リクエスト（CSR）を作成し、SSL 証明書を作成している任意の認証局へ送信。


注: コントロールパネルの機能を使用して MyPlesk.com オンラインストア経由で証明書を購入する場合は、証明書署名リクエスト作成にコマンドラインツールを使用しないでください。

➤ **MyPleskCom オンラインストア経由で Comodo、GeoTrust, Inc.、または GoDaddy から SSL 証明書を購入し、コントロールパネルを保護するには、以下を実行してください。**

1. ホームページで、[セキュリティ] グループタイトルをクリックします。ドロップダウンメニューが開きます。このメニューで [SSL証明書] を選択します。リポジトリ内にある SSL 証明書のリストが表示されます。
2. [SSL証明書の追加] をクリックします。
3. 証明書のプロパティを指定します。
 - 証明書の名前。リポジトリ内で証明書を識別するのに役立ちます。
 - 暗号化レベル。SSL 証明書の暗号化レベルを選択します。1024 ビット以上を選択するようお勧めします。
 - 場所と組織名の指定。入力できるのは 64 文字までです。
 - SSL 証明書を購入するホスト名の指定。例えば、以下のようになります。
your-domain.com
 - メールアドレスを入力します。


4. この情報をもとに秘密鍵が生成されるため、間違いがないかよく確認してください。
5. **【SSL証明書の購入】** をクリックします。

秘密鍵および証明書署名リクエストが生成されます。それらは削除しないでください。 MyPlesk.com ログインページが新しいブラウザウィンドウで開きます。
6. 既存のMyPlesk.comアカウントへ登録またはログインし、ステップバイステップの手順に従って証明書を購入します。
7. 購入したい証明書の種類を選択します。
8. **【購入に進む】** をクリックし、証明書を注文します。 **【承認者メールアドレス】** ドロップダウンボックスで、正しい承認者メールアドレスを選択します。

承認者メールアドレスは、特定のドメイン名の証明書が権限を持つユーザによりリクエストされたことを確認するためのメールアドレスです。
9. 証明書リクエストが処理されると確認のメールが送信されます。承認すると証明書がメールで送信されます。
10. 受信したSSL証明書はローカルマシンかネットワークに保存してください。
11. SSL証明書リポジトリへ戻ります（ **【ホーム】** > **【セキュリティ】** グループタイトルメニュー > **【SSL証明書】** ）。
12. ページの中央にある **【参照】** をクリックし、保存された証明書のある場所へ行きます。 証明書をクリックし、 **【ファイル送信】** をクリックします。 証明書がリポジトリにアップデートされます。
13. 追加したばかりの証明書に該当するチェックボックスを選択し  **【セキュリティコントロールパネル】** をクリックします。

➤ **他の認証局からのSSL証明書を使用してコントロールパネルを保護するには、以下を実行してください。**

1. ホームページで、 **【セキュリティ】** グループタイトルをクリックします。ドロップダウンメニューが開きます。 このメニューで **【SSL証明書】** を選択します。 リポジトリ内にあるSSL証明書のリストが表示されます。
2. **【SSL証明書の追加】** をクリックします。
3. 証明書のプロパティを指定します。
 - 証明書の名前。 リポジトリ内で証明書を識別するのに役立ちます。

- 暗号化レベル。SSL 証明書の暗号化レベルを選択します。1024 ビット以上を選択するようお勧めします。
 - 場所と組織名の指定。入力できるのは 64 文字までです。
 - SSL 証明書を購入するホスト名の指定。例えば、以下のようになります。
your-domain.com
 - メールアドレスを入力します。
4. この情報をもとに秘密鍵が生成されるため、間違いがないかよく確認してください。
 5. [リクエスト] をクリックします。秘密鍵と証明書署名リクエストが生成され、リポジトリに格納されます。
 6. 証明書一覧で、必要な証明書の名前をクリックします。証明書のプロパティを表示したページが開きます。
 7. ページ内でCSRセクションを検索し、テキストを -----BEGIN CERTIFICATE REQUEST----- から -----END CERTIFICATE REQUEST----- までクリップボードにコピーします。
 8. SSL証明書を購入する証明書認証機関のWebサイトを開き、リンクを辿って証明書の注文処理を開始します。CSRテキストの入力を指示されたら、データをクリップボードからオンラインフォームに貼り付けて、[続行] をクリックします。入力した情報に基づいて、証明書認証機関がSSL証明書を作成します。
 9. 受信したSSL証明書はローカルマシンかネットワークに保存してください。
 10. SSL証明書リポジトリへ戻ります（[ホーム] > [セキュリティ] グループタイトルメニュー > [SSL証明書] ）。
 11. ページの中央にある [参照] をクリックし、保存された証明書のある場所へ行きます。証明書をクリックし、[ファイル送信] をクリックします。証明書がリポジトリにアップデートされます。
 12. 追加したばかりの証明書に該当するチェックボックスを選択し  [セキュリティコントロールパネル] をクリックします。

➤ **自己署名証明書を作成する必要がある場合は、以下の手順に従ってください。**

1. [ホーム] > [セキュリティ] グループタイトルメニュー > [SSL証明書] に進みます。リポジトリ内にあるSSL証明書のリストが表示されます。
2. [SSL証明書の追加] をクリックします。

3. 証明書のプロパティを指定します。

- 証明書の名前。 リポジトリ内で証明書を識別するのに役立ちます。
- 暗号化レベル。 SSL 証明書の暗号化レベルを選択します。 1024 ビット以上を選択するようお勧めします。
- 場所と組織名の指定。 入力できるのは 64 文字までです。
- SSL 証明書を購入するホスト名の指定。 例えば、以下のようになります。
your-domain.com
- メールアドレスを入力します。

4. [自己署名] ボタンをクリックします。 証明書が生成され、リポジトリに格納されます。

グローバルアカウントの設定

グローバルアカウントはシングルサインオン (SSO) テクノロジー機能であり、1つのグローバルログイン名およびパスワードを用いて、様々な Parallels 製品にログインできます。Parallels Plesk Panel に複数のアカウントをお持ちの場合、それらをすべてグローバルアカウントに接続して、それらのアカウントを毎回パスワードを入力せずに切り替えることができます。他の Parallels 製品のアカウントをグローバルアカウントに接続して、それらのアカウントを証明書を入力せずに切り替えることもできます。

シングルサインオンを使用するには、まずサーバに SSO サービスをインストールしてから、そこにご使用の Parallels Plesk Panel サーバを接続する必要があります。SSO サービスは、Parallels Plesk Panel がインストールされているのと同じ Linux/Unix ベースのサーバか、あるいは Linux/Unix OS を実行している別のネットワークコンピュータに置くことができます。

Windows ベースのマシンを使用して SSO サーバを稼働させることはできません。

Parallels Plesk Panel をビリングサポートと一緒にインストールした場合は、SSO サービスもサーバにインストールされているため、このセクションで後に説明するようにシングルサインオンのサポートに切り替えるだけで使用を開始することができます。

SSO サービスがインストールされていない場合は、それをご使用の Parallels Plesk Panel server for Linux/Unix か、別の Linux/Unix ベースのマシンにインストールする必要があります。

重要： 別の Linux/Unix ベースのマシンを SSO サーバとして使用する場合は、Parallels Plesk Panel サーバと SSO サービスを実行するコンピュータの間で、システム日時の同期を取る必要があります。これは SSO サービスコンポーネントをインストールする前に行う必要があります。それは、SSO クライアントとリモート SSO サーバ間の認証は、SSL 証明書を使用して行われるからです。証明書は、クライアントとサーバのマシンの日時が一致していることに関して非常に厳密です。

➤ SSO サービスをインストールするには、以下を実行してください。

1. SSHを介してサーバシェルにログインします。「root」ユーザアカウントを使用します。
2. Parallels Plesk Panelがインストール済みのサーバ上にインストールする場合は、`parallels_installer`バイナリファイルを検索します。それは通常、FreeBSDおよびRPMベースのLinuxシステムでは `/usr/local/psa/admin/bin/` ディレクトリに、DEBベースのLinuxシステムでは `/opt/psa/admin/bin/` ディレクトリにあります。

Parallels Plesk Panel がインストールされていないサーバ上にインストールする場合は、インストーラファイルを取得してサーバにコピーする必要があります。

- a <http://www.parallels.com/jp/download/plesk9/> から、ご使用の OS 用の Parallels 製品インストーラユーティリティをダウンロードしてください。
- b それをサーバのハードディスクに保存します。
- c 作業ディレクトリを、Parallels 製品のインストーラユーティリティがあるディレクトリに変更します。例えば以下の通りです。

```
# cd /root/plesk
```
- d Parallels 製品のインストーラの実行権限を設定します。

```
# chmod +x parallels_products_installer_file_name
```
3. インストーラを—web-interfaceオプションで実行します。

```
# parallels_products_installer_file_name—web-interface
```
4. ウェブブラウザを開いて、アドレスバーに
<https://machine.domain.name:8447/> または
<https://IP-address:8447/> と入力します。 Parallels製品インストーラのウェブインターフェースが表示されます。 rootでログインします。
5. [製品のインストールまたはアップグレード] をクリックします。 インストール済みまたはインストール可能なParallels製品のリストが表示されます。
6. SSO関連のチェックボックスを選択します。
7. フルインストールを選択して、[続行] をクリックします。
8. インストールが終了したら、[OK] をクリックします。

➤ **Linux/Unix サーバでシングル・サインオンのサポートを有効にするには、以下を実行してください。**

1. SSHを介してサーバシェルにログインします。「root」ユーザアカウントを使用します。
2. シングルサインオンサーバに自分のサーバを登録します。 それには、次のコマンドを実行します。

```
<parallels_plesk_panel_installation_directory>/bin/sso-set-prefs -server  

https://idp-master.example.com:11443
```
3. シングルサインオンを有効にします。 それには、次のコマンドを実行します。

```
<parallels_plesk_panel_installation_directory>/bin/sso -e
```

これで、「グローバルアカウントの作成」 (38 ページ)のセクションに進むことができます。

SSO コマンドラインユーティリティの使用方法について詳細は、(Parallels Plesk Panel 9.5 for Linux/Unix Command Line Utilities Reference) の「Single Sign-On Configuration」のセクションを参照してください。

➤ **Windows サーバでシングルサインオンのサポートを有効にするには、以下を実行してください。**

1. サーバシェルに管理者としてログインします。
2. シングルサインオンサーバに自分のサーバを登録します。 それには、次のコマンドを実行します。
`<parallels_plesk_panel_installation_directory>\bin\sso.exe—set-prefs -server https://idp-master.example.com:11443`
3. シングルサインオンを有効にします。 それには、次のコマンドを実行します。`<parallels_plesk_panel_installation_directory>\bin\sso.exe -e`

このセクションの内容:

グローバルアカウントの作成	38
ローカルアカウントをグローバルアカウントに接続.....	39
アカウントの切り替え	40
グローバルアカウントパスワードの変更	40
グローバルアカウントからローカルアカウントを接続解除	41

グローバルアカウントの作成

グローバルアカウントを作成してそれにローカルアカウントを接続すると、グローバルアカウントでログインした場合はグローバルアカウントに接続しているどのアカウントも選択できます。

➤ **グローバルアカウントを作成するには以下を実行してください。**

1. Parallels Plesk Panelにログインして [グローバルアカウント] に進み、 [グローバルアカウントに接続する] をクリックします。
2. [新しいグローバルアカウントの作成] を選択して、グローバルアカウントのログイン名とパスワードを入力します。
3. [OK] をクリックします。

グローバルアカウントがアクティブになりましたので、そこに他のアカウントを接続することができます。詳細は「ローカルアカウントをグローバルアカウントに接続」(39 ページ)のセクションをご覧ください。

ローカルアカウントをグローバルアカウントに接続

➤ **ローカル Parallels Plesk Panel アカウントをグローバルアカウントに接続するには、以下を実行してください。**

1. 接続するローカルアカウントでParallels Plesk Panelにログインします。
2. [グローバルアカウント]に進んで[グローバルアカウントに接続する]をクリックします。
3. [既存のグローバルアカウントを利用する]オプションが選択されていることを確認し、接続するグローバルアカウントのログイン名およびパスワードを入力します。
4. [OK] をクリックします。

必要に応じて他のローカルアカウントについてもステップ 1 から 4 を繰り返します。

➤ **SSO 対応の他の製品のアカウントをグローバルアカウントに接続するには、以下を実行してください。**

1. 接続するアカウントで、SSO対応のソフトウェア製品にログインします。
2. 各ソフトウェア製品の説明書の記述に従って、グローバルアカウントに接続します。既存のグローバルアカウントの資格情報を提供できるようにご用意ください。

必要に応じて他のアカウントまたは製品についてもステップ 1 から 2 を繰り返します。

注：ソフトウェア製品によっては、グローバルアカウント機能の名称が異なる場合があります（Federated ID、グローバルログイン、など）。詳細は各ソフトウェア製品の説明書をご覧ください。

必要なアカウントをすべてグローバルアカウントに接続したら、グローバルアカウントに接続しているローカルアカウントがあるあらゆる製品において、グローバルアカウントでいつでもログインできます。グローバルアカウントでログインするたびに、そこに接続しているローカルアカウント一覧が表示されるので、その時に使用するアカウントを選択できます。いつでも好きなときに他のアカウントへ切り替えることができます。詳細は「アカウントの切り替え」のセクションをご覧ください。

アカウントの切り替え

➤ **他のアカウントに切り替えるには以下を実行してください。**

1. 右上隅の【ユーザ切替】をクリックします。
2. 切り替え先のアカウントを選択します。
 - グローバルアカウントに接続しているアカウント一覧から、所要のローカルアカウントを選択します。
または
 - 【他のアカウントのクレデンシャルを指定する】を選択して、グローバルアカウントに接続していないローカルアカウントのログイン名とパスワードを入力します。【インターフェース言語】メニューからコントロールパネルの言語を指定することもできます。以前にそのアカウントのインターフェース言語を指定し、それをインターフェースのプリファレンスに保存している場合は、【デフォルト】を選択したままにします。
3. 【OK】をクリックします。

グローバルアカウントパスワードの変更

➤ **グローバルアカウントのパスワードを変更するには、以下を実行してください。**

1. グローバルアカウントまたはそこに接続しているローカルアカウントで Parallels Plesk Panel にログインします。
2. 【グローバルアカウント】に進んで【パスワードを変更する】をクリックします。
3. 今までのパスワードと新しいパスワードを入力して【OK】をクリックします。

グローバルアカウントからローカルアカウントを接続解除

➤ グローバルアカウントからローカルアカウントの接続を解除するには、以下を実行してください。

1. 接続を解除するローカルアカウントでParallels Plesk Panelにログインします。
2. [グローバルアカウント]に進んで[グローバルアカウントより接続解除する]をクリックします。
3. 接続解除を確認して[OK]をクリックします。

必要に応じて他のローカルアカウントについてもステップ1から3を繰り返します。

Parallels Plesk Panel の再ブランディング

このセクションの内容:

ホームページのカスタマイズ	42
インターフェース言語およびスキンの変更 (Linux ホスティング)	44
インターフェース言語およびスキンの変更 (Windows ホスティング)	46
カスタムロゴの設定	48
カスタムハイパーリンクボタンの追加および削除	48
Parallels Plesk Panel テーマ (スキン) のインストールおよび削除	50
インターフェース言語のインストールと削除	51
ボタンの表示および非表示	53
顧客のホームページのカスタマイズ	55

ホームページのカスタマイズ

➤ ホームページから項目を追加または削除するには以下を実行します。

1. [ホーム] > [インターフェース] グループタイトルメニュー > [ホームページのカスタマイズ] に進みます。
2. 該当項目のチェックボックスを選択して、ホームページに表示されるサーバ情報および統計を指定します。
3. ホームページに表示するアクションを指定します。 [選択したアクション] リストはどのショートカットが既にホームページに配置されているを示します。 [利用可能なアクション] リストはホームページにまだショートカットが配置されていないタスクを示します。
 - ホームページにショートカットを追加するには、[利用可能なアクション] リストで必要なタスクを選択し [追加>>] をクリックします。
 - ホームページからショートカットを削除するには、[選択したアクション] リストから必要のないタスクを選択し [<<削除] をクリックします。
4. 該当のチェックボックスを選択して、ホームページのドロップダウンメニューに表示されるアクションを指定します。
5. [OK] をクリックします。

➤ ホームページの [お気に入り] メニューに Parallels Plesk Panel 画面へのショートカットを追加するには、以下を実行します。

1. 必要なコントロールパネル画面に進みます。
2. [お気に入り] メニューで、[お気に入りに追加] を選択します。

➤ ホームページの [お気に入り] メニューのショートカットの説明を変更するには、以下を実行してください。

1. ホームページで [お気に入り] メニューを開きます。
2. ショートカットの上にマウスポインタを置いて、[お気に入りを編集] をクリックします。
3. ショートカットのタイトルと説明を入力して [保存] をクリックします。

➤ [お気に入り] メニューからショートカットを削除するには、以下を実行してください。

1. ホームページで [お気に入り] メニューを開きます。
2. 削除するショートカットの上にマウスポインタを置いて、[お気に入りから削除] をクリックします。

インターフェース言語およびスキンの変更 (Linux ホスティング)

➤ **顧客のインターフェース言語を変更するには、以下のステップを実行してください。**

1. [ホーム] > [インターフェース] グループタイトルメニュー > [言語]に進みます。
2. 新しいコントロールパネルユーザのデフォルトとして設定されるインターフェース言語を選択して、[デフォルトに戻す] をクリックします。

➤ **顧客のインターフェーススキンを変更するには、以下のステップを実行してください。**

1. [ホーム] > [インターフェース] グループタイトルメニュー > [スキン]に進みます。
2. 新しいコントロールパネルユーザのデフォルトとして設定されるインターフェーススキン（テーマ）を選択して、[デフォルトに戻す] をクリックします。

➤ **コントロールパネルのインターフェース言語とテーマ（スキン）を変更するには、以下のステップを実行してください。**

1. [ホーム] > [アカウント] グループタイトルメニュー > [インターフェースプリファレンス] に進みます。
2. 以下を指定します。
 - a 管理者のインターフェース言語。コントロールパネルの言語を選択します。
 - b 管理者のインターフェーススキン。コントロールパネルのスキン（テーマ）を選択します。
3. [OK] をクリックします。

コントロールパネル画面では、レビューが必要となる場合がある以下の設定もあることにご留意ください（ほとんどのユーザにおいてはデフォルト値にしておくことをお勧め致します）。

- a **ボタンラベルの長さ。** ボタンの翻訳した表題が英語より長くなり、コントロールパネルからはみ出すのを防ぐため、ここで長さを制限することができます。定義した制限よりも長いボタンの表題はすべて短縮され省略符号 (...) で終了します。
- b **インターフェース画面が完全にロードされるまでユーザはコントロールパネルで作業できなくなります。** コントロールパネルの準備が出来る前にユーザが作業しようとして発生するエラーを避けるには、これを選択したままにします。
- c **デフォルト・インターフェース・カスタマイズ・テンプレート。** 「インターフェース・カスタマイズ・テンプレートの使用」に記載したように、コントロールパネルをカスタマイズしてその設定をテンプレートに保存すると、ここでテンプレートを選択できます。
- d **ホームページプリセット。** ホームページをカスタマイズしてその設定をテンプレートに保存すると、ここでテンプレートを選択できます。
- e **管理者のインターフェース・カスタマイズ・テンプレート。** 「インターフェース・カスタマイズ・テンプレートの使用」に記載したように、コントロールパネルをカスタマイズしてその設定をテンプレートに保存すると、ここでテンプレートを選択できます。
- f **管理者ログインにおける多重セッションの許可。** Parallels Plesk Panel のデフォルトでは、同じログイン名とパスワードを使って複数のユーザがコントロールパネルにログインし、同時に複数のセッションを実行することができます。この機能は管理機能を他のユーザに委任したり、間違えてログアウトせずにブラウザを閉じてしまいセッションの有効期限まで再度ログインできなくなってしまう場合などに有効です。 必要なければこの機能を無効にできます。
- g **フルホスト名。**
- h **Apache 再起動インターバル** (Linux ホスティングに限り使用可能)。 コントロールパネル経由で変更したホスティングアカウント設定はすべて、Web サーバが再起動しないと有効になりません。 デフォルトでは、Web サーバは 15 分に 1 回以上は再起動しないように設定されています。 この値はほとんどの場合に最適であり、このデフォルト設定のままにしておくことをお勧め致します。 ホスティングアカウント設定に変更がなければ Web サーバは強制的に再起動されないことにご注意ください。
- i **Web およびトラフィック統計の保持期間。** デフォルトでは統計は 3 ヶ月間保持されます。 他の期間をここに指定したほうがいい場合もあります。
- j **ディスク容量および帯域幅使用量を計算する際に統計ユーティリティがカウントする項目。**
- k **ユーザに、他のユーザの DNS スーパーゾーン内での DNS サブゾーンの作成を許可しないでください。** このオプションは、ユーザが他のユーザに属する DNS ゾーン内で新しいサブドメインやドメインエイリアスを作成できないようにします。 このチェックボックスの選択が推奨されています。 そうしないと、あるユーザが他のユーザのドメイン下にサブドメインを作成して Web サイトやメールアドレスを作成し、スパムやフィッシング詐欺や ID の盗用が可能になってしまうからです。

インターフェース言語およびスキンの変更 (Windows ホスティング)

➤ **顧客のインターフェース言語を変更するには、以下のステップを実行してください。**

1. [ホーム] > [インターフェース] グループタイトルメニュー > [言語]に進みます。
2. 新しいコントロールパネルユーザのデフォルトとして設定されるインターフェース言語を選択して、[デフォルトに戻す] をクリックします。

➤ **顧客のインターフェーススキンを変更するには、以下のステップを実行してください。**

1. [ホーム] > [インターフェース] グループタイトルメニュー > [スキン]に進みます。
2. 新しいコントロールパネルユーザのデフォルトとして設定されるインターフェーススキン（テーマ）を選択して、[デフォルトに戻す] をクリックします。

➤ **コントロールパネルのインターフェース言語とテーマ（スキン）を変更するには、以下のステップを実行してください。**

1. [ホーム] > [アカウント] グループタイトルメニュー > [インターフェースプリファレンス] に進みます。
2. 以下を指定します。
 - a 管理者のインターフェース言語。コントロールパネルの言語を選択します。
 - b 管理者のインターフェーススキン。コントロールパネルのスキン（テーマ）を選択します。
3. [OK] をクリックします。

コントロールパネル画面では、レビューが必要となる場合がある以下の設定もあることにご留意ください（ほとんどのユーザにおいてはデフォルト値にしておくことをお勧め致します）。

- a **ボタンラベルの長さ。** ボタンの翻訳した表題が英語より長くなり、コントロールパネルからはみ出すのを防ぐため、ここで長さを制限することができます。定義した制限よりも長いボタンの表題はすべて短縮され省略符号 (...) で終了します。
- b **ホームページプリセット。** ホームページをカスタマイズしてその設定をテンプレートに保存すると、ここでテンプレートを選択できます。
- c **管理者のインターフェース・カスタマイズ・テンプレート。** 「インターフェース・カスタマイズ・テンプレートの使用」に記載したように、コントロールパネルをカスタマイズしてその設定をテンプレートに保存すると、ここでテンプレートを選択できます。
- d **管理者ログインにおける多重セッションの許可。** Parallels Plesk Panel のデフォルトでは、同じログイン名とパスワードを使って複数のユーザがコントロールパネルにログインし、同時に複数のセッションを実行することができます。この機能は管理機能を他のユーザに委任したり、間違えてログアウトせずにブラウザを閉じてしまいセッションの有効期限まで再度ログインできなくなってしまう場合などに有効です。必要なればこの機能を無効にできます。
- e **インターフェース画面が完全にロードされるまでユーザはコントロールパネルで作業できなくなります。** コントロールパネルの準備が出来る前にユーザが作業しようとして発生するエラーを避けるには、これを選択したままにします。

カスタムロゴの設定

トップフレームのデフォルト Parallels Plesk Panel ロゴバナーを自分のロゴに置き換えることができます。顧客は彼らのコントロールパネルにログインしたときにそれを目にします。このロゴに Web サイトへのハイパーリンクをつける事もできます。

ロゴには GIF、JPEG、もしくは PNG 形式のファイルを使用し、ダウンロード時間を少なくするため 100 キロバイト以下にしてください。画像の高さは 50 ピクセルをお勧め致します。

➤ **ロゴの画像を設定するには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [コントロールパネルのロゴ変更]（[インターフェース] グループ内）に進みます。
2. 事前設定ファイルへのパスを指定するか、[参照] をクリックしてファイルの位置を指定します。[開く] をクリックします。
3. ユーザがロゴをクリックした際に企業の Web サイトへジャンプするハイパーリンクを作成するには、希望の URL を [ロゴの新しい URL を入力する] ボックスに入力します。
4. ブラウザのタイトルバー（Windowsホスティングのみ）に表示されるテキストを変更するには、[デフォルトを使用] チェックボックスの選択を外して、[Parallels Plesk Panel タイトルバーテキスト] ボックスに会社名その他のテキストを入力します。
5. [OK] をクリックして送信します。

Parallels Plesk Panel のデフォルトロゴに戻すには、[デフォルトロゴ] をクリックします。

カスタムハイパーリンクボタンの追加および削除

➤ **コントロールパネルにカスタムハイパーリンクボタンの追加して、顧客が自分のコントロールパネルからそれを見ることができるかどうかを指定するには、以下を実行します。**

1. [ホーム] > [カスタムボタン]（[インターフェース] グループ内）に進んで、[カスタムボタンの作成] をクリックします。
2. 以下を実行してボタンのプロパティを指定します。

- **【ボタンラベル】** ボックスに、ボタンに表示されるテキストを入力します。
 - ボタンの配置場所を選択します。 ナビゲーションペインに配置するには、**【位置】** メニューの **【ナビゲーションペイン】** を選択します。 それぞれのクライアントのホームページに配置するには、**【クライアントのホームページ】** オプションを選択します。 それぞれのドメイン管理者のホームページに配置するには、**【ドメイン管理者のホームページ】** オプションを選択します。
 - ボタンの優先度を指定します。Parallels Plesk Panel は定義した優先度に従ってコントロールパネル上のカスタムボタンを配置します。 数字が小さいほど優先度が高くなります。 ボタンは左から右へ並べられます。
 - ボタン背景に画像を使用するには、その画像の保存場所へのパスを入力するか、**【参照】** をクリックしてそのファイルを参照します。 ナビゲーションペインに配置するボタンの画像は 16 x 16 ピクセルの GIF または JPEG ファイルを、メインフレームやデスクトップに配置するボタンの画像には 32 x 32 ピクセルの GIF または JPEG ファイルを使用するようお勧め致します。
 - **【URL】** ボックスにボタンに付加するハイパーリンクを入力します。
 - チェックボックスを使用し、URL にドメイン名、FTP ログイン、FTP パスワード、他の転送するデータを含めるかどうか指定します。 これらの情報は外部の Web アプリケーションで使用できます。
 - **【マウスオーバーヘルプ】** 入力フィールドには、ユーザがマウスをボタンの上にのせた際に表示されるテキストを入力します。
 - 指定した URL をコントロールパネルの右側のフレームで開きたい場合は、**【コントロールパネル内にて開く URL】** チェックボックスをチェックしてください。 このチェックボックスをチェックしないと、URL は別の新しいウィンドウで開くことになります。
 - このボタンをコントロールパネルにアクセスしている顧客や代理店やその顧客からも見えるようにするには、**【他のユーザに表示します】** チェックボックスを選択します。
3. 作成を完了したら **【OK】** をクリックします。

➤ **Parallels Plesk Panel からハイパーリンクボタンを削除するには、以下を実行します。**

1. **【ホーム】 > 【カスタムボタン】** （ **【インターフェース】** グループ内）に進みます。
2. 削除するボタンに対応するチェックボックスを選択し、**【削除】** をクリックします。

Parallels Plesk Panel テーマ（スキン）のインストールおよび削除

自分のコントロールパネルのカスタムスキンを開発して使用することができます。サードパーティが作成したスキンを使用するのは、スキンパッケージに悪質なコードが含まれている可能性があるため危険です。信頼できるソースから支給されるスキンのみを使用するよう強くお勧めします。


➤ **現在インストールされているスキンを表示するには、以下を実行してください。**

【ホーム】ページで【スキン】（【インターフェース】グループ内）をクリックします。

➤ **デフォルトのスキンを設定するには、以下を実行してください。**

1. 【ホーム】>【スキン】（【インターフェース】グループ内）に進みます。
2. デフォルトに設定するスキンを選択します。
 - デフォルトに設定するスキンを選択して【スキンの設定】をクリックします。
または
 - 該当するチェックボックスを選択して【デフォルト】をクリックします。

➤ **ローカルコンピュータにスキンパッケージをダウンロードするには、以下を実行してください。**

1. 【ホーム】>【スキン】（【インターフェース】グループ内）に進みます。
2. 適切な  アイコンをクリックするか、スキン名をクリックし、【スキンのダウンロード】をクリックします。
3. スキンファイルをパックしたいアーカイブの種類を選択し、【OK】をクリックします
スキンのダウンロードの準備ができると、ファイルのダウンロードのダイアログウィンドウが表示されます。
4. 【保存】をクリックし、ファイル名とダウンロードするスキンパッケージファイルを保存する場所を指定して【保存】をクリックします。

これでダウンロードしたアーカイブファイルの内容を変更して自分のスキンを作成できます。Parallels Plesk Panel のカスタムスキンを作成する方法については、(カスタム Parallels Plesk Panel スキンの作成およびインストール (Creating And Installing Custom Parallels Plesk Panel Skins))ガイドをご覧ください。コントロールパネルからアクセスできます（[ホーム] > [スキン]（[インターフェース] グループ内）> [カスタム Parallels Plesk Panel スキンリファレンス]）。

➤ **コントロールパネルに新規のスキンをインストールするには、以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [スキン]（[インターフェース] グループ内）に進みます。
2. [新しいスキンの追加] をクリックします。スキンパッケージファイルのロケーションを指定し、[OK] をクリックします。

➤ **既にインストールされているスキンの内容を更新するには、以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [スキン]（[インターフェース] グループ内）に進みます。
2. スキン名をクリックし、[スキンのアップデート] をクリックします。スキンパッケージファイルのロケーションを指定し、[OK] をクリックします。

➤ **リポジトリから1つまたは複数のスキンを削除するには、以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [スキン]（[インターフェース] グループ内）に進みます。
2. 該当するチェックボックスを選択し、[削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

注：特定のユーザのコントロールパネルで現在使用されているスキンを削除すると、そのユーザのコントロールパネルの外観がデフォルトのスキンに自動的に変更されます。デフォルトのコントロールパネルスキンは削除できません。

インターフェース言語のインストールと削除

Parallels サイトから新規の言語パックをダウンロードしコントロールパネルにインストールできます。コントロールパネルで使用できる言語の数は購入したライセンスキーによって決まります。許可されている以上の数の言語をインストールしようとする、コントロールパネルから警告が発せられます。

➤ **コントロールパネルにインストールされているインターフェース言語を表示するには、以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [言語]（[インターフェース] グループ内）に進みます。以下の情報が表示されます。

- 言語パックの現在のステータスが言語ステータスアイコンに表示されます。🟢はユーザが言語パックにアクセスできることを意味し、🔴はアクセスできないことを意味し、⚠️は言語パックの数が現在のライセンスによるサポートの上限数を超えているためユーザがその言語パックを使用できないことを意味します。

注：コントロールパネルユーザが言語を使用できないようにできます。それには、アイコン🟢をクリックします。ユーザが言語を使用できるようにするには🔴をクリックします。

- [言語コード] は 4 文字の言語コードです。
- [言語] は言語の名前を表します。
- [国] はこの言語を母国語としている国を表します。
- [使用中] はインターフェースでその言語を使用しているすべてのレベルのコントロールパネルのユーザの数を表します。

➤ **コントロールパネルの新規デフォルト言語を選択するには、以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [言語]（[インターフェース] グループ内）に進みます。
2. デフォルトに設定する言語のチェックボックスを選択して [デフォルト指定する] をクリックします。

➤ **Parallels Web サイトからダウンロードした新規言語パックをインストールするには以下を実行してください。 僅か**

1. [ホーム] > [言語]（[インターフェース] グループ内）に進みます。
2. [ロケールの追加] ボタンをクリックします。
3. 言語パックファイルへのパスを入力するか、[参照] ボタンでファイルの位置を指定します。

RPM ベースのシステムをご使用の場合は、ファイル名の拡張子が .rpm の言語パックファイルをご利用ください。

DEB ベースのシステムをご使用の場合は、ファイル名の拡張子が .deb の言語パックファイルをご利用ください。

FreeBSD ベースのシステムをご使用の場合は、ファイル名の拡張子が .tgz または .tbz の言語パックファイルをご利用ください。

MacOS ベースのシステムをご使用の場合は、ファイル名の拡張子が .sh の言語パックファイルをご利用ください。

4. [OK] をクリックして言語をシステムにインストールします。

➤ **コントロールパネルから言語パックを削除するには、以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [言語]（[インターフェース] グループ内）に進みます。
2. 適切なチェックボックスを選択し、[削除] をクリックします。次のページで削除を確認してください。

削除した言語パックを他のユーザが使用している場合は、そのインターフェース言語は自動的にデフォルト言語に設定されます。Parallels Plesk Panel ディストリビューションパックのデフォルト言語 (en-US) は削除できません。

ボタンの表示および非表示

定義済みのボタンを Parallels Plesk Panel インターフェースから簡単に非表示にすることができます。この場合、ユーザは許可されていないコントロールやサポートされていない（サービスがインストールされていない）機能を見ることができません。

➤ **ボタンを非表示にするには、以下を実行してください。**

1. ホームページで [インターフェース] グループタイトルメニューを開き、[インターフェースコントロール表示] を選択します。
2. チェックボックスを選択して、以下のコントロールのグループを非表示にできます。
 - ユーザが使用できないボタン。本来、コントロールパネルインターフェースの使用できない（グレーで表示される）アイコンは、インストールされていないためにコントロールパネルを通して管理できないサービスやコンポーネントを意味します。いくつかのサービスが使用できないことでユーザが失望しないように、このボタンを非表示にできます。使用不可能なすべてのボタンを非表示にするには、[利用できないボタンを隠します] チェックボックスを選択します。
 - 制限管理コントロール。クライアントに対し使用が許可されていない制限管理コントロールを非表示にするには、[利用できない制限を隠します] チェックボックスを選択します。
 - 権限管理コントロール。クライアントに対し使用が許可されていない権限管理コントロールを非表示にするには、[利用できないパーミッションを隠します] チェックボックスを選択します。
3. [ボタンセット] でチェックボックスを選択して、以下のボタンのセットを非表示にできます。

- MyPlesk.com オンラインストアにより提供されるサービスに関連するボタン。ドメイン登録サービスや SSL 証明書を再販する場合は、**「ドメイン登録のボタンを隠します」**、**「認証に必要な課金サービスのボタンを隠します」**、**「拡張ボタンのサービスを隠します」** チェックボックスを選択します。 MyPlesk.com に関連するすべてのボタンはすべてのユーザレベルでコントロールパネルから削除されます。
 - メール転送コントロール ドメイン内に存在しないメール受信者宛に送られたメールに対する返信ルールをユーザが自分で設定して使用できないようにするには、**「メールバウンスコントロールを隠します」**チェックボックスを選択します。
4. **「OK」** をクリックします。

➤ **非表示のボタンをインターフェースで表示させるには、以下を実行してください。**

1. ホームページで **「インターフェース」** グループタイトルメニューを開き、**「インターフェースコントロール表示」** を選択します。
2. インターフェースで再度表示させる非表示のボタンに該当するチェックボックスのチェックを外し、**「OK」** をクリックします。

顧客のホームページのカスタマイズ

➤ **代理店のホームページをカスタマイズするには、以下を実行してください。**

1. [代理店] > **代理店の名前** > [アカウント] グループタイトルメニュー > [ホームページのカスタマイズ] に進みます。
2. 該当項目のチェックボックスを選択して、ホームページに表示される代理店情報および統計を指定します。
3. ホームページに表示するアクションを指定します。 [選択したアクション] リストはどのショートカットが既にホームページに配置されているを示します。 [利用可能なアクション] リストはホームページにまだショートカットが配置されていないタスクを示します。
 - ホームページにショートカットを追加するには、[利用可能なアクション] リストで必要なタスクを選択し [追加>>] をクリックします。
 - ホームページからショートカットを削除するには、[選択したアクション] リストから必要のないタスクを選択し [<<削除] をクリックします。
4. 該当のチェックボックスを選択して、ホームページのドロップダウンメニューに表示されるアクションを指定します。
5. [OK] をクリックします。

➤ **クライアントのホームページをカスタマイズするには、以下を実行してください。**

1. [クライアント] > **クライアントの名前** > [アカウント] グループタイトルメニュー > [ホームページのカスタマイズ] に進みます。
2. 該当項目のチェックボックスを選択して、ホームページに表示されるクライアント情報および統計を指定します。
3. ホームページに表示するアクションを指定します。 [選択したアクション] リストはどのショートカットが既にホームページに配置されているを示します。 [利用可能なアクション] リストはホームページにまだショートカットが配置されていないタスクを示します。
 - ホームページにショートカットを追加するには、[利用可能なアクション] リストで必要なタスクを選択し [追加>>] をクリックします。
 - ホームページからショートカットを削除するには、[選択したアクション] リストから必要のないタスクを選択し [<<削除] をクリックします。

4. 該当のチェックボックスを選択して、ホームページのドロップダウンメニューに表示されるアクションを指定します。
5. [OK] をクリックします。

➤ **ドメイン所有者のホームページをカスタマイズするには、以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [ドメイン管理] グループタイトルメニュー > [ホームページのカスタマイズ] に進みます。
2. 該当項目のチェックボックスを選択して、ホームページに表示されるドメイン情報および統計を指定します。
3. ホームページに表示するアクションを指定します。 [選択したアクション] リストはどのショートカットが既にホームページに配置されているを示します。 [利用可能なアクション] リストはホームページにまだショートカットが配置されていないタスクを示します。
 - ホームページにショートカットを追加するには、[利用可能なアクション] リストで必要なタスクを選択し [追加>>] をクリックします。
 - ホームページからショートカットを削除するには、[選択したアクション] リストから必要のないタスクを選択し [<<削除] をクリックします。
4. 該当のチェックボックスを選択して、ホームページのドロップダウンメニューに表示されるアクションを指定します。
5. [OK] をクリックします。

セッション設定の変更

Parallels Plesk Panel ではどのセッションでもアイドル時間を変更することができます。

➤ **セッションのセキュリティパラメータを変更するには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [セッションアイドル時間]（[セキュリティ] グループ内）に進みます。
2. 適切なフィールドに**セッションアイドル時間**を分で入力します。 **セッションアイドル時間**の指定よりも長くセッションがアイドル状態にあった場合、コントロールパネルはセッションを終了します。
3. [OK] をクリックします。

➤ **1つのクライアントセッション中にIPの変更を許可するには、以下を実行してください (Windows ホスティングに限り使用可能)。**

1. [ホーム] > [セッションアイドル時間]（[セキュリティ] グループ内）に進みます。
2. [クライアントセッション中のIP変更を許可する]チェックボックスを選択します。 このオプションで、動的IPアドレスを持ちインターネット接続が不安定な顧客は、セキュリティリスクの増加を犠牲にしてParallels Plesk Panelで作業することができます。
3. [OK] をクリックします。

➤ **すべてのパラメータをデフォルト値に戻すには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [セッションアイドル時間]（[セキュリティ] グループ内）に進み、[デフォルト] をクリックします。 セッションアイドル時間がデフォルト値の30分 に設定されます。
2. [OK] をクリックします。

サーバの設定およびメンテナンス

Parallels Plesk Panel ソフトウェアをサーバにインストールして設定した後、システムおよびすべてのサービスを設定する必要があります。Parallels Plesk Panel 管理のサーバの設定は、この章に記載されている方法で行ってください。

この章の内容:

IP アドレスの追加および削除	59
サーバで使用するソフトウェアコンポーネントの選択と設定 (Windows ホスティング)	62
DNS サービスの設定	63
ファイアウォールおよびネットワークアドレス変換を行うルータの背後で実行する Parallels Plesk Panel の設定	68
メールサービスの設定	76
Parallels Plesk Panel のデータベースホスティング設定	94
外部データベース管理システムへの接続の設定 (Windows ホスティング) ...	100
Adobe ColdFusion のサポートを有効化 (Linux ホスティング)	102
Sitebuilder との統合の有効化 (Linux ホスティング)	103
Google ウェブサイト サービスの統合	106
Miva e-コマースアプリケーションのサポートの有効化 (Linux ホスティング)	111
Miva e-コマースアプリケーションのサポートの有効化 (Windows ホスティング)	113
ASP.NET の設定 (Windows ホスティング)	114
IIS アプリケーションプールの設定 (Windows ホスティング)	116
共有 SSL の設定 (Windows ホスティング)	119
統計の設定	121
メール通知システムの設定	121
ヘルプデスクの設定	127
システム日時の調整	130
サービスの起動、停止、再起動	132
Web サービス中断の危険性を削減するための Web サーバのパイプログの有効化 (Linux ホスティング)	134
メールサーバメッセージキューおよびトラブルシューティングメール混雑のモニタリング (Linux ホスティング)	135
Crontab によるタスクのスケジューリング (Linux ホスティング)	137
Windows タスクスケジューラによるタスクのスケジューリング (Windows ホスティング)	140
モジュールによる Parallels Plesk Panel 機能の拡張 (Linux ホスティング) ..	143
テクニカルサポートエンジニアへの管理特権の委託 (Windows ホスティング)	147

IP アドレスの追加および削除

インストール後、Parallels Plesk Panel はネットワーク設定ファイルからすべての IP アドレスを読み出します。これらの IP アドレスは、DNS ドメインおよびウェブサイトのホスティングに使用できます。

手動で行ったネットワーク設定ファイルへの変更は Parallels Plesk Panel で認識されないことがあるため、サーバで使用する新規の IP アドレスを取得した場合は、コントロールパネルを使用してアドレスを追加する必要があります。

Parallels Plesk Panel では、すべての IP アドレスを顧客に割り当てる *前* に共有にするか専用にするかを決めることができます。これにより、コントロールパネルでその区別ができ、専用 IP アドレスを一度に複数の顧客に割り当てないようにします。専用 IP アドレスは 1 人の顧客に割り当てられ、共有 IP アドレスは複数のユーザアカウント間で共有されます。





認証デジタル証明書による SSL 保護および匿名 FTP サービスでは、専用 IP アドレスに基づく専用ホスティングアカウントのみ使用できます。共有ホスティングアカウントも SSL 保護を利用できますが、このような保護付きのサイトを閲覧した場合、ブラウザにエラーメッセージが表示されます。

注: 今回のバージョンの Parallels Plesk Panel では、専用の IP アドレスは占有 IP アドレスと呼ばれます。

➤ 現在の IP アドレスを自分で確認するには、以下を実行してください。

1. [ホーム] > [IPアドレス]（[サーバ] グループ内）に進みます。

IP アドレスがリストと以下の補足情報が表示されます。

- IP アドレスがネットワークインターフェースで正しく設定されている場合、[S]（ステータス）列のアイコンに  が表示されます。IP アドレスがネットワークインターフェースから削除されていると、アイコンに  が表示されます。
- [T]（タイプ）には、アドレスが専用 IP アドレスとして単一の顧客に割り当てられている場合は  が、アドレスが複数の顧客間で共有されている場合は  が表示されます。
- [IPアドレス]、[サブネットマスク]、[インターフェース] の各列は、どの IP アドレスがどのネットワークインターフェース上にあるかを示します。
- [ユーザ] 列は、特定の IP アドレスを割り当てたユーザアカウントの番号を示します。ユーザを名前で表示するには、[ユーザ] 列で各番号をクリックします。

- **【ホスティング】**の列はIPアドレスがホストするウェブサイトの数を表示します。そのウェブサイトのドメイン名を表示するには**【ホスティング】**列で各番号をクリックします。
- 2. IPアドレス一覧およびそのステータスを更新するには、**【IP再読み込み】**をクリックします。

➤ **サーバに新規のIPアドレスを追加するには、以下を実行してください。**

1. **【ホーム】 > 【IPアドレス】**（**【サーバ】**グループ内）に進んで、**【IPアドレスの追加】**をクリックします。
2. **【インターフェース】**ドロップダウンボックスから、新規のIPのネットワークインターフェースを選択します。サーバにインストールされたすべてのネットワークカードが、このドロップダウンボックスに表示されます。
3. 該当するボックスに、IPアドレスとサブネットマスクを入力します（例：123.123.123.123/16）。
4. 新規IPアドレスのタイプ（共有または専用）を**【IPのタイプ】**ラジオアイコンを使用して選択します。
5. ドロップダウンボックスから、新規IPアドレスのSSL証明書を選択します。以下の証明書を選択することができます。
 - **デフォルト証明書** - Parallels Plesk Panel ディストリビューションパッケージに添付する証明書。ただし、この証明書は認証局により署名されていないため、ウェブブラウザに認識されません（警告メッセージが表示されます）。デフォルト証明書は、https プロトコルを使用してコントロールパネル（<https://server-name-or-IP-address:8443/>）にアクセスする場合に使用します。
 - **その他の証明書** - SSL 証明書のリポジトリに追加した（自己署名または認証局による署名済み）証明書（証明書の追加については、「SSL 暗号化によるサイト保護」（251 ページ）のセクションを参照してください）。
6. サーバがWindows OSを起動している場合は、専用IPアドレス上のドメインでセキュアなFTP接続（FTP over SSL）を使用するには、**【FTP over SSL】**チェックボックスを選択します。

注：セキュアなFTP接続を有効にするには、Parallels Plesk Panel サーバにインストールされているFTPサーバがFTP over SSLをサポートしていなければなりません。現在、Gene6 および Serv-U FTP サーバだけがFTP over SSLをサポートしています。

7. **【OK】**をクリックします。

➤ **IPアドレスをサーバから削除するには、以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [IPアドレス]（[サーバ] グループ内）に進みます。
2. それぞれのチェックボックスを選択し、[削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

➤ **ユーザにIPアドレスを割り当てるには、以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [IPアドレス]（[サーバ] グループ内）に進んで、[クライアント] 列でそれぞれの番号をクリックし、[割り当て] をクリックします。
2. 必要なユーザアカウントを選択し [OK] をクリックします。

➤ **ユーザのIPアドレスを取り消すには、以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [IPアドレス]（[サーバ] グループ内）に進んで、[クライアント] 列でそれぞれの番号をクリックします。
2. それぞれのチェックボックスを選択し、[削除] をクリックします。
3. 削除を確認して [OK] をクリックします。

ユーザはIPアドレスを入力することによって、サーバ上のウェブリソースを参照することができます。そのため、そのアドレスでホスティングしているウェブサイトが複数ある場合、Panelはどのサイトを表示するか判断しなければいけません。PanelはそのIPアドレスで最初に作成したウェブサイトを自動的にデフォルトウェブサイトにしますが、他のウェブサイトを選択してそれをデフォルトにすることもできます。

➤ **専用IPアドレスのデフォルトウェブサイト(デフォルトドメイン)を指定するには、以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [IPアドレス]（[サーバ] グループ内）に進んで、IPアドレスをクリックします。このIPアドレスでホスティングされるすべてのサイトが一覧表示されます。
2. 必要なサイトを選択し、★ [デフォルトとして選択] をクリックします。

➤ **IPアドレスの割り当てタイプ（共用、専用）を変更する、またはIPアドレスに別のSSL証明書を割り当てるには、以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [IPアドレス]（[サーバ] グループ内）に進んで、IPアドレスをクリックします。
2. IPアドレス割り当てタイプとSSL証明書を選択し、[OK] をクリックします。





サーバで使用するソフトウェアコンポーネントの選択と設定（Windowsホスティング）

Parallels Plesk Panel はアンチウィルスソリューションから Web メールサーバに至るまで、様々なサードパーティソフトウェアコンポーネントをサポートしています。サーバで使用するコンポーネントを選択することができます。

➤ **使用可能なコンポーネントのリストを表示して Parallels Plesk Panel が使用するコンポーネントを選択するには、以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [サーバコンポーネント]（[サーバ] グループ内）に進みます。

使用可能なコンポーネント一覧が表示されます。コンポーネントの現在の状態は以下のアイコンで示されます。

-  は、Parallels Plesk Panel がそのコンポーネントを使用し、コンポーネントが作業中であることを意味します。
-  は、Parallels Plesk Panel がそのコンポーネントを使用していない（大抵はライセンスキーが失効または無いため）が、コンポーネントが作業中であることを意味します。
-  は、そのコンポーネントが停止しているために Parallels Plesk Panel がそのコンポーネントを使用していないことを意味します。
-  は、Parallels Plesk Panel がそのコンポーネントを使用していないが、そのコンポーネントはシステムにインストールされており使用可能であることを意味します。

2. コンポーネント名（例：Mail Server）をクリックし、Parallels Plesk Panel がサポートしている使用可能なコンポーネント一覧からコンポーネントを選択します。

3. [OK] をクリックします。選択したコンポーネントを Parallels Plesk Panel が起動します。

いくつかのコンポーネント（例：Merak Mail Server）は [コンポーネントバージョン] テーブルでその名前をクリックすれば設定することができます。個々のコンポーネント設定はコンポーネントによって異なります。コンポーネントの設定が完了したら [OK] をクリックします。

使用可能なコンポーネントのリストを更新するには、[更新] をクリックします。

DNS サービスの設定

Parallels Plesk Panel は BIND DNS サーバと共に動作し、Web サイトをホストしているのと同じマシン上で DNS サービスを実行できます。

新しく追加されたドメインの DNS ゾーン設定は自動で行われます。コントロールパネルに新規のドメイン名を追加すると、ゾーンファイルはサーバ全体の DNS ゾーンテンプレートに従って生成され、ネームサーバデータベースに登録されます。ネームサーバはゾーンのプライマリ（マスター）DNS サーバとして働くように指示されます。

以下が可能となります。

- テンプレートからのリソースレコードの追加および削除
- 自動ゾーン設定 カスタム設定を以前のドメインベースのものに置換
- 他の DNS サーバの選択（例えば、BIND DNS サーバから Microsoft DNS サーバへの移行）
- プロバイダや他の組織が貴社のサイトに DNS サービスを実行しているときはこのマシンのドメインネームサービスをオフに切り替えてください。

➤ **サーバ全体の DNS テンプレートのデフォルトレコードを表示するには、以下を実行してください。**

[ホーム] > [DNS 設定]（[サーバ] グループ内）に進みます。リソースレコードテンプレートがすべて表示されます。<ip> と <domain> テンプレートは生成されたゾーンで本当の IP アドレスとドメイン名に自動的に置き換えられます。

➤ **サーバ全体の DNS テンプレートに新規のリソースレコードを追加するには、以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [DNS 設定]（[サーバ] グループ内）に進みます。
2. [DNS レコードの追加] をクリックします。
3. リソースの種類を選択し、希望のレコードプロパティを指定します
生成されたゾーンで本当の IP アドレスとドメイン名に自動的に置き換えられる <ip> と <domain> を使用することができます。また、ドメイン名を指定する場合にワイルドカード記号(*)を使用でき、必要な値を正確に指定できます。
4. [OK] をクリックします。

➤ **サーバ全体の DNS テンプレートから新規のリソースレコードを削除するには、以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [DNS 設定]（[サーバ] グループ内）に進みます。

2. 削除するレコードテンプレートに対応するチェックボックスを選択し、**【削除】** をクリックします。
3. 削除を確認して **【OK】** をクリックします。

Parallels Plesk Panel はゾーン名、ホスト名、管理者のメールアドレス、シリアル番号を自動的に更新し、Start of Authority (SOA) レコードパラメータのデフォルト値をゾーンファイルに書き込みます。デフォルト値はコントロールパネル経由で変更することができます。

➤ **サーバ全体の DNS テンプレートの Start of Authority (SOA) レコード設定を変更するには、以下を実行してください。**

1. **【ホーム】 > 【DNS設定】** (**【サーバ】** グループ内) に進みます。
2. **【SOAレコードテンプレート】** をクリックします。
3. 希望する値を指定します。
 - **【TTL】** 他の DNS サーバがそのレコードをキャッシュに保存するまでの時間です。Parallels Plesk Panel のデフォルト値は 1 日です。
 - **【更新】** セカンダリネームサーバがプライマリネームサーバに対して、ドメインゾーンのファイルへ何か変更が加えられたかどうかを確認する頻度です。Parallels Plesk Panel のデフォルト値は 3 時間です。
 - **【再試行】** セカンダリサーバが失敗したゾーン転送を再試行するまで待つ時間です。この時間は更新インターバルよりは短いのが普通です。Parallels Plesk Panel のデフォルト値は 1 時間です。
 - **【期限切れ】** そのゾーンが変更または更新されなかった場合、更新インターバルが経過した後、セカンダリサーバが問い合わせに応答するのを止めるまでの時間です。Parallels Plesk Panel のデフォルト値は 1 週間です。
 - **【最小値】** セカンダリサーバが負の応答をキャッシュするまでの時間です。Parallels Plesk Panel のデフォルト値は 3 時間です。
4. **【OK】** をクリックします。新規の SOA レコードのパラメータが新規に作成されたドメイン向けに設定されます。

IETF および RIPE 推奨のシリアル番号フォーマットを使用することが、一部のハイレベル DNS ゾーンで登録されたほとんどのドメイン（ほとんどはヨーロッパ）で必須となっています。ご使用のドメインがこれらのゾーンで登録されており、レジストラに SOA シリアル番号を拒否された場合、IETF および RIPE 推奨のシリアル番号フォーマットを使用すれば問題が解決します。

Parallels Plesk Panel サーバは UNIX タイムスタンプ構文を使用して DNS ゾーンを設定します。UNIX タイムスタンプは、1970 年 1 月 1 日 (Unix エポック) 以降の秒数です。32 ビットのタイムスタンプは、2038 年 6 月 8 日にオーバーフローしてしまいます。

RIPE は YYYYMMDDNN フォーマットの使用を推奨しています。YYYY が年 (4 桁)、MM が月 (2 桁)、DD が日 (2 桁) で NN がその日のバージョンです (2 桁)。YYYYMMDDNN フォーマットは 4294 年までオーバーフローしません。

➤ **サーバ全体の DNS テンプレートの Start of Authority (SOA) シリアル番号フォーマットを YYYYMMDDNN に変更するには、以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [DNS設定] ([サーバ] グループ内) に進みます。
2. [SOAレコードテンプレート] をクリックします。
3. [IETFとRIPEが推奨するシリアル番号フォーマットを利用する] チェックボックスを選択します。

注： 選択したフォーマットで生成した SOA シリアル番号のサンプルをご覧ください。生成した番号が現在のゾーン番号よりも小さい場合、変更によってこのドメイン用の DNS が一時的に誤動作する場合があります。ゾーンの更新がインターネットユーザから見えない場合があります。

4. [OK] をクリックします。

➤ **サーバ全体の DNS テンプレートの Start of Authority (SOA) シリアル番号フォーマットをデフォルト (UNIX タイムスタンプ) に戻すには、以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [DNS設定] ([サーバ] グループ内) に進みます。
2. [SOAレコードテンプレート] をクリックします。
3. [IETFとRIPEが推奨するシリアル番号フォーマットを利用する] チェックボックスの選択を外します。

注： 選択したフォーマットで生成した SOA シリアル番号のサンプルをご覧ください。生成した番号が現在のゾーン番号よりも小さい場合、変更によってこのドメイン用の DNS が一時的に誤動作する場合があります。ゾーンの更新がインターネットユーザから見えない場合があります。

4. [OK] をクリックします。

デフォルトでは、DNS ゾーン転送は各ゾーンに含まれる NS レコードが指定するネームサーバにしか許可されません。ドメイン名レジストラがすべてのゾーンへの転送許可を必要とする場合は、以下を実行してください。

1. [ホーム] > [DNS設定]（[サーバ] グループ内）に進みます。
2. [転送制限テンプレート] をクリックします。すべてのゾーンへのDNS ゾーン転送を許可されているすべてのホストが表示されます。
3. レジストラのIPまたはネットワークアドレスを指定して[ネットワークの追加] をクリックします。

➤ **サードパーティDNS サーバを使用しており自分のDNS サーバを稼働させていない場合は、コントロールパネルのDNS サーバをオフに切り替えてください。**

1. [ホーム] > [DNS設定]（[サーバ] グループ内）に進みます。
2. [スイッチオフ] をクリックします。

➤ **サーバ全体のDNS テンプレートの最初の設定を復元するには、以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [DNS設定]（[サーバ] グループ内）に進みます。
2. [デフォルトに復元します] をクリックします。

DNS サーバがクエリに対して再帰的なサービスを提供するべきかどうかを指定することができます。

再帰的なサービスが許可されている場合、DNS サーバはクエリを受けると、要求元の宛先 IP アドレスを見つけるのに必要な検索手順をすべて実行します。再帰的なサービスが許可されていない場合、DNS サーバは要求されたリソースがどこにあるかが分かっているサーバを見つけて要求元をそのサーバにリダイレクトするためだけの最低限の数のクエリしか実行しません。そのため、再帰的なサービスはより多くのサーバリソースを消費し、特にサーバがネットワーク外のクライアントからの再帰的なクエリを受けするように設定されている場合はサービス拒絶攻撃を受けやすくなります。

Parallels Plesk Panel をインストールした後で、内蔵のDNS サーバはデフォルトでは貴社のサーバおよび貴社のネットワーク内に置かれているサーバからの再帰的なクエリだけを受けようになっています。これが最適な設定です。Parallels Plesk Panel の前のバージョンからアップグレードした場合は、DNS サーバのデフォルトではすべてのホストからの再帰的なクエリを受けようになっています。

➤ **再帰的なドメインネームサービスについてこの設定を変更するには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [DNS設定] ([サーバ] グループ内) > [DNS再帰] に進みます。
2. 必要なオプションを選択します。
 - すべてのホストからの再帰的クエリを許可するには [すべてのリクエストを許可] を選択します。
 - 自分のサーバや自分のネットワーク上のホストからの再帰的クエリだけを許可するには [ローカルリクエストのみ許可] を選択します。
 - 自分のサーバからの再帰的クエリだけを許可するには [拒否] を選択します。
3. [OK] をクリックします。

デフォルトでは、ユーザは他のユーザに属する DNS ゾーン内で新しいサブドメインやドメインエイリアスを作成できます。これは、ユーザがスパム行為やフィッシング詐欺やIDの盗用に使用できるようなWebサイトやメールアカウントを作成できることを意味します。

➤ **ユーザが他のユーザに属するDNS ゾーン内でサブドメインやドメインエイリアスを設定できないようにするには、以下を実行してください。**

1. [設定] > [サブゾーンの作成を制限する] ([DNS] グループ内) に進みます。
2. [ユーザに、他のユーザのDNSスーパーゾーン内でのDNSサブゾーンの作成を許可しないでください] チェックボックスを選択します。
3. [OK] をクリックします。

➤ **サーバに新しいホスト名を再割り当てするには、以下を実行してください。**

1. [設定] > [ホスト名の変更] ([一般] グループ内) に進みます。
2. 新しいホスト名を入力して [OK] をクリックします。

ファイアウォールおよびネットワークアドレス変換を行うルータの背後で実行する Parallels Plesk Panel の設定

このセクションでは、Parallels Plesk Panel およびそのサービスへのアクセスを許可するためにファイアウォール設定で開く必要があるポートおよびプロトコルについて説明します。新しく作成したドメインの DNS ゾーンに IP アドレスを適切に割り当てるために実行すべき追加の手順についても説明します。Parallels Plesk Panel で新規の DNS ドメインを設定すると、そのゾーンファイルはドメイン名と貴社の Parallels Plesk Panel サーバのある IP アドレスと関連のあるリソースを含みます（例：192.168.1.10 のようなインターネットネットワークアドレス）。192.168.x.x という IP アドレスはプライベートサーバでの使用のため Internet Assigned Numbers Authority (IANA) により予約されているので、インターネットユーザはこのドメイン名にアクセスできません。この問題の対策として、ドメイン名とドメインのゾーンファイル内のルータ/ファイアウォール/NAT マシンの IP アドレスを関連付ける必要があります（[ドメイン] > ドメイン名 > [DNS 設定]（[Web サイト] グループ内））。新しく追加されたドメイン名と IP アドレスを自動的に関連付ける方法として、DNS ゾーンテンプレート（[ホーム] > [DNS 設定]）の使用をお勧め致します。

Parallels Plesk Panel およびそのサービスに必ずアクセスできるように、ファイアウォール設定で以下のポートを開きます。

サービス名	サービスが使用するポート
Parallels Plesk Panel 管理インターフェース	TCP 8443、8880
Samba（Windows ネットワーク上のファイル共有）	UDP 137、UDP 138、TCP 139、TCP 445
Parallels Plesk Panel VPN	UDP 1194
Web サーバ	TCP 80、TCP 443
FTP サーバ	TCP 21
SSH（セキュアシェル）サーバ	TCP 22
SMTP（メール送信）サーバ	TCP 25、TCP 465
POP3（メール取得）サーバ	TCP 110、TCP 995
IMAP（メール取得）サーバ	TCP 143、TCP 993
メールパスワード変更サービス	TCP 106
MySQL サーバ	TCP 3306
MS SQL サーバ	TCP 1433
PostgreSQL サーバ	TCP 5432

Java アプリケーションサーバの管理インターフェース	TCP 9008、TCP 9080
ライセンスサーバ接続	TCP 5224
シングルサインオン サービス	TCP 10001, TCP 11443, TCP 11444
ドメインネームサーバ	UDP 53、TCP 53

新しく作成したドメインに IP アドレスが適切に割り当てられるように、以下を実行してください。例えば、11.22.33.44 上で動作するファイアウォールにより保護されたプライベートネットワーク内の 192.168.1.10 上で動作する Parallels Plesk Panel サーバの設定方法は以下の通りです。

1. **【ホーム】 > 【DNS設定】**（**【サーバ】** グループ内）に進みます。
2. Aタイプのリソースレコードをすべて探し出します。どれも編集できないので、削除して新規のレコードを作成します。それぞれのAレコードの**【名前】**列の値をそのままにしておき、**【値】**列の <ip> テンプレートはファイアウォールホストのIPアドレスである11.22.33.44に置き換えます。
3. ルーティングデバイスを設定して適切なアドレス変換ができるようにします。

このセクションの内容:

Parallels Plesk Panel のファイアウォールの設定 (Windows ホスティング).....	70
受動 FTP モード用のポート範囲の設定 (Windows ホスティング)	75

Parallels Plesk Panel のファイアウォールの設定 (Windows ホスティング)

Parallels Plesk Panel にはファイアウォールがあり、サーバのセキュリティ侵害をもたらすネットワーク接続からサーバを保護します。ファイアウォールには事前定義済みのルールがあり、ホスティングサーバの適切な機能（Web やメールや FTP など）に必要なサービスへの接続は許可します。デフォルトではファイアウォールは無効になっています。

以下を実行するにはこの章をお読みください。

- ファイアウォールの作動
- 現在許可されている着信接続の表示
- 着信接続の許可および拒否
- ICMP 接続の許可および拒否
- ファイアウォールのデフォルト設定の復元
- ファイアウォールの停止



このセクションの内容:

ファイアウォールの有効化	71
許可されている着信接続の表示	71
着信接続の許可および拒否	73
ICMP 接続の許可および拒否	73
ファイアウォールのデフォルト設定の復元	74
サーバへのすべての接続をパニックモードを使用して閉鎖.....	75
ファイアウォールの無効化	75

ファイアウォールの有効化

➤ **ファイアウォールを有効にするには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [IPアドレス]（[サーバ] グループ内）> [ファイアウォール]に進みます。
2. [ツール] で [スイッチオン] をクリックします。
3. ファイアウォールを特定のネットワークインターフェースに対して作動させるには、ネットワークインターフェースがいくつもある場合はインターフェース一覧から必要なインターフェース名をクリックします。

適用されたフィルタリングポリシー（ルール）のリストが表示されます。ルールに合致するパケットをファイアウォールが防ぐ場合は [S]（ステータス）に  アイコンが表示され、ルールに合致するパケットをファイアウォールが通す場合は  アイコンが表示されます。




注： 特定のネットワークインターフェースのファイアウォールの設定は、Microsoft Windows Server 2003 に限り可能です。

許可されている着信接続の表示

デフォルトでは明確に許可されていない着信接続はすべて拒否されます。



➤ **着信接続に対して現在適用されているファイアウォールルールを表示するには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [IPアドレス]（[サーバ] グループ内）> [ファイアウォール]に進みます。
2. 必要なネットワークインターフェースをクリックします。

現在定義されている  ルールがすべて表示されます。ルールに合致するパケットをファイアウォールが防ぐ場合は [S]（ステータス）に  アイコンが表示され、ルールに合致するパケットをファイアウォールが通す場合は  アイコンが表示されます。

注： 特定のネットワークインターフェース用のファイアウォールの設定は、Microsoft Windows Server 2003 でのみご利用いただけます。Microsoft Windows Server 2008 をご使用の場合は、[ファイアウォールルール] タブに進んでください。

3. 以下のいずれかを実行します。
 - ルールのプロパティを表示または変更するにはそれぞれのルール名をクリックします。ルールの変更を保存するには [OK] をクリックします。変更を保管しないで前の画面に戻るには [キャンセル] または [上へ] をクリックします。

- サービスへの接続を許可するには、[ファイアウォールルールの追加]をクリックし、参照用にルール名を指定し、許可したい着信接続のポートおよびプロトコルを指定します。そのルールをすぐに適用したい場合は[ルールをスイッチオンする]チェックボックスを選択したままにします。[OK]をクリックします。
- 以前アクセス不可にしたサービスへの接続を許可したい場合は、[S]列でそれぞれの  アイコンをクリックします。
- サービスへの接続を一時的に拒否するには、[S]列の  アイコンをクリックします。
- サービスへの接続を永久に拒否するにはそれぞれのサービスへ接続を許可するルールに該当するチェックボックスを選択し[削除]をクリックします。ルールを削除するとそのルールで指定された接続が拒否されます。

着信接続の許可および拒否

デフォルトでは明確に許可されていない着信接続はすべて拒否されます。

➤ **サービスへの着信接続を許可するには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [IPアドレス]（[サーバ] グループ内）> [ファイアウォール]に進みます。
2. 必要なネットワークインターフェースをクリックします。

注： 特定のネットワークインターフェース用のファイアウォールの設定は、Microsoft Windows Server 2003 でのみご利用いただけます。Microsoft Windows Server 2008 をご使用の場合は、[ファイアウォールルール] タブに進んでください。

3. [ファイアウォールルールの追加] をクリックして以下のパラメータを指定します。
 - 参照用のルール名
 - 許可する着信接続のポートまたはポートの範囲およびプロトコル
4. そのルールをすぐに適用したい場合は [ルールをスイッチオンする] チェックボックスを選択したままにします。
5. [OK] をクリックします。

➤ **以前許可したサービスへの着信接続を拒否するには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [IPアドレス]（[サーバ] グループ内）> [ファイアウォール]に進みます。
2. 必要なネットワークインターフェースをクリックします。

注： 特定のネットワークインターフェース用のファイアウォールの設定は、Microsoft Windows Server 2003 でのみご利用いただけます。Microsoft Windows Server 2008 をご使用の場合は、[ファイアウォールルール] タブに進んでください。

3. それぞれのサービスへの接続を許可するルールに該当するチェックボックスを選択し、[削除] をクリックします。

ルールを削除するとそのルールで指定された接続が拒否されます。



ICMP 接続の許可および拒否

ICMP 接続はネットワークのトラブルシューティングに使用されます。デフォルトではすべての ICMP 接続が許可されています。ICMP メッセージの詳細は以下を参照してください。



<http://msdn.microsoft.com/library/default.asp?url=/library/jp-jp/xpeshelp/html/xeconconfiguringicmpsettingsinwindowsfirewall.asp>

➤ **ICMP 接続を拒否または許可するには、以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [IPアドレス] ([サーバ] グループ内) > [ファイアウォール] > [ICMPプロトコル] に進みます。

ICMP 接続の事前定義済みルールが一覧表示されます。ルールに合致するパケットをファイアウォールが防ぐ場合は [S] (ステータス) に  アイコンが表示され、ルールに合致するパケットをファイアウォールが通す場合は  アイコンが表示されます。

2. 以下のいずれかを実行します。

- 特定のタイプの ICMP リクエストを許可するには、[S] 列の  アイコンをクリックします。
- 特定のタイプの ICMP リクエストを拒否するには、[S] 列の  アイコンをクリックします。
- すべての ICMP リクエストを拒否するには、[パニックモード] をクリックします。
- ICMP リクエストのデフォルト設定を復元するには、[デフォルト] をクリックします。

ファイアウォールのデフォルト設定の復元

➤ **最初の設定を復元するには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [IPアドレス] ([サーバ] グループ内) > [ファイアウォール] に進みます。
2. 必要なネットワークインターフェースをクリックします。

注： 特定のネットワークインターフェース用のファイアウォールの設定は、Microsoft Windows Server 2003 でのみご利用いただけます。Microsoft Windows Server 2008 をご使用の場合は、[ファイアウォールルール] タブに進んでください。

3. [ツール] で [デフォルトに復元します] をクリックします。

サーバへのすべての接続をパニックモードを使用して閉鎖

サーバがセキュリティ侵害されて Web サイトに損傷があった場合、すべての脆弱性にパッチが当てられ顧客の Web サイトがバックアップから復元されるまではサーバをインターネットから切り離して停止するとよいでしょう。

➤ **サーバへの接続をすべて閉鎖するには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [IPアドレス]（[サーバ] グループ内）> [ファイアウォール]に進みます。
2. [パニックモード] をクリックします。

注： 特定のネットワークインターフェース用のファイアウォールの設定は、Microsoft Windows Server 2003 でのみご利用いただけます。Microsoft Windows Server 2008 をご使用の場合は、[ファイアウォールルール] タブに進んでください。

ファイアウォールの無効化

➤ **ファイアウォールを無効にするには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [IPアドレス]（[サーバ] グループ内）> [ファイアウォール]に進みます。
2. [ツール] で [スイッチオフ] をクリックします。

受動 FTP モード用のポート範囲の設定（Windows ホスティング）

➤ **サーバ上でホスティングしている全ドメインへの受動 FTP モード接続に使用できる特定のポートまたはポート範囲を設定するには、以下を実行してください。**

1. ホームページで [サーバ] グループタイトルメニューを開き、[FTP設定] を選択します。
2. [パッシブFTPモード接続用のポートまたはポートレンジ] フィールドにポートまたはポート範囲を入力して [OK] をクリックします。

メールサービスの設定

コントロールパネルはドメインにメールサービスを提供するメールサーバとともに動作します。インストール後、メールサーバは自動的に設定され使用できますが、デフォルト設定が希望に合うかどうか確認するようお勧め致します。

1. [ホーム] > [メールサーバ設定]（[サーバ] グループ内）に進みます。サーバ全体のメールプリファレンスの画面が[プリファレンス]タブで開きます。
2. サーバを通して送信されるメールメッセージのサイズを制限したい場合は、[最大メッセージサイズ] ボックスに希望の値をキロバイト単位で入力します。特に制限しない場合は、空欄にします。
3. 簡単なパスワードを許可しないことで辞書攻撃からユーザを保護する場合は、[メールボックスパスワードが推測されやすい値かチェックします] オプションを選択します。

辞書攻撃とは、誰かが様々な言語の組み合わせを試すプログラムを実行して有効なユーザ名およびパスワードを探し当てようとすることです。多くのユーザは不用意にパスワードを選択するので辞書攻撃は成功しやすいと言えます。

Windows ホスティングユーザに対する注意事項 この機能が Windows プラットフォームで正常に動作するためには、サーバのローカルセキュリティポリシー設定で [パスワードが要件に完全一致] オプションがオンになっている必要があります（オプションは [開始] > [管理ツール] > [ローカルセキュリティポリシー] > [アカウントポリシー] > [パスワードポリシー] にあります）。

4. 未許可のメールリレーや未承諾の大量メールからサーバを保護するには、[メッセージ送信を有効にする] チェックボックスを選択して、顧客によるポート587を通じたメールメッセージの送信を許可します。

また、顧客に、メールプログラムの設定で外部 SMTP 接続にポート 587 を指定してファイアウォール設定でこのポートへの接続を許可する必要があることを通知してください。



5. メールリレーモードを選択します。

クローズドリレーでは、メールサーバはこのサーバ上にメールボックスを持っているユーザへのメールしか受け付けません。顧客は貴社の出力 SMTP サーバを通して一切メールを送信できません。従って、メールリレーをクローズにすることはお勧めしません。

リレー認証後、顧客だけが貴社のメールサーバを通してメールの送受信ができます。[認証が必要] オプションを選択したままにしておき、許可方法を指定することをお勧め致します。

- **POP3 ロック時間。** POP3 認証では、ユーザが POP サーバの認証に成功すると、指定した時間内はメールサーバを通してメールの送受信が可能となります。

- **SMTP。** SMTP 認証では、外部のアドレスにメールメッセージを送る場合、メールサーバの認証が必要になります。

Windowsホスティングユーザに対する注意事項 信頼するネットワークに対してリレー制限を使用したくない場合は、**[以下のネットワークにおいては、リレー制限を適用しません:]** フィールドでネットワークIPおよびマスクを指定して（例： 123.123.123.123/16）、 アイコンをクリックします。一覧からネットワークを削除するには、削除したいネットワークに該当する  アイコンをクリックします。

一覧のネットワークのリレーホストはスパムやオープンリレーやオープンプロキシによって操作されないとみなされています。信頼されたホストはスパムをリレーすることはあったとしても、それを作成したりヘッダデータを偽造したりはしません。DNSブラックリストによるチェックはこれらのネットワーク上のホストを疑うことはしません。

未許可のリレーを開くオプションもあります。それはデフォルトではユーザインターフェースから隠されています。未許可のメールリレーを開くことは、スパムの発信者が未承諾のメールをサーバへ送ることを許可することになるため、推奨されていません。リレーを開くように設定するには、サーバのファイルシステムにログインして、Parallels Plesk Panel インストールディレクトリ（Unix の場合は `PRODUCT_ROOT_D/var/root.controls.lock`、Windows の場合は `PRODUCT_DATA_D/var/root.controls.lock`）で `root.controls.lock` というファイルを検索して、このファイルから `/server/mail.php3:relay_open` という行を削除します。コントロールパネルにリレーを開くオプションが表示されます。

6. ユーザが使用可能とするWebメールプログラムを選択します。
7. サーバで使用するアンチウイルスプログラムを選択します。
8. サーバで使用するスパム防止オプションを選択します。
9. メールアカウント名の形式を選択します。

[短縮形も完全形も使用を許可] オプションを選択すると、ユーザはメールアドレスの @ 記号の左側部分（例：username）だけを指定しても、またはメールアドレスをすべて（例：username@your-domain.com）指定しても、メールアカウントにログインできます。

メールユーザが異なるドメインに居て同一のユーザ名およびパスワードを使用していると認証問題が起こることがあるため、それを避けるために**[完全なメールアカウント名の使用のみ許可]** オプションの選択をお勧め致します。

メールサーバが完全なメールアカウント名だけをサポートするように設定すると、メールボックスに暗号化されたパスワードはなく異なるドメインに同じユーザ名およびパスワードがないことを確認するまでは、短縮形のアカウント名をサポートするように戻すことはできません。

10. [OK] をクリックして変更を送信します。

注：SpamAssassin スпамフィルタなどのスパム防止システムや、DomainKeys や DNS ブラックホールリストや SPF（送信側ポリシーフレームワーク）ベースの防止システムを設定するには、「スパム防止の設定」（79 ページ）のセクションに進んでください。

このセクションの内容:

スパム防止の設定	79
ウイルス防止の設定（Linux ホスティング）	91
ウイルス防止の設定（Windows ホスティング）	93
Mailman メーリングリストソフトウェアの設定（Linux ホスティング）	93
顧客による大量メール送信の防止（Linux ホスティング）	94

スパム防止の設定

ユーザをスパムから保護するには、コントロールパネルの以下のツールを使用できます。

- **SpamAssassin スパムフィルタ**。スパムを識別するためのローカルまたはネットワークテストを広範囲で行う強力なスパムフィルタです。

スパムフィルタを設定することで、メールサーバに届いた疑わしいメッセージを削除したり、そのようなメッセージの件名を変更し「X-Spam-Flag: YES」や

「X-Spam-Status: Yes」ヘッダを追加することができます。件名の変更は自分のコンピュータにインストールされているフィルタプログラムでメールフィルタを行いたいユーザに便利です。

SpamAssassin についての詳細は、<http://spamassassin.apache.org> をご参照ください。

SpamAssassin フィルタを設定してオンにするには、「SpamAssassin スパムフィルタの設定」 (81 ページ) のセクションに進んでください。

- **DomainKeys**。DomainKeys は送信者の認証に基づくスパム防止システムです。受領システムは、特定のドメインから送信されたとするメールに対して、そのメールが確かにそのドメインにメールを送信することが認証されている個人またはシステムから送信されたものであるかどうかを、DomainKeys が提供する仕組みによって検証します。送信者を検証した結果、照合されなければ受領システムはそのメールを削除します。サーバに DomainKeys システムを設定するには、「DomainKeys に基づくスパム防止の有効化」 (83 ページ) のセクションをご覧ください。

- **DNS ブラックホールリスト**。このスパム防止システムは動的な IP アドレスの広範囲なリストと同様にスパムの既知の、または文書化されたソースを含むデータベースへのメールサーバにより作成された DNS 照会プログラムをベースにしています。データベースからの応答としては、メールサーバに「550」エラーが返されるか、要求された接続が拒否されます。

DNSBL データベースで作業できるようにメールサーバを設定するには、「DNS ブラックホールリストに基づいたスパム防止の有効化」 (86 ページ) のセクションに進んでください。

- **SPF (送信側ポリシーフレームワーク)**。このスパム防止システムは DNS クエリベースでもあります。偽造のメールアドレスから送信されたスパムの量を減らすようにデザインされています。SPF により、インターネットドメイン所有者はドメインのユーザにメールを送信することを認証されているマシンのアドレスを指定することができます。すると、SPF を実装している受信側は、そのドメインから送信されているとしながらドメインが認証するロケーションからの送信に失敗しているメールを疑わしいものとして処理することができます。

SPF について詳細は<http://www.openspf.org/howworks.html> をご参照ください。

SPF に基づいたフィルタリングを有効化するには、「送信側ポリシーフレームワークシステムのサポートのセットアップ」 (88 ページ) のセクションに進んでください。SPF をベースにしたスパム防止システムは Parallels Plesk Panel for Linux でのみご利用いただけます。

- **サーバ全体のブラックリストとホワイトリスト。**ブラックリストとホワイトリストは標準のメールサーバ機能です。ブラックリストを使用して、メールが送られてきても受け入れないドメインを指定できます。ホワイトリストは、常にメールを受け入れるマシンの IP アドレスやネットワークを指定します。

サーバ全体のブラックリストとホワイトリストを設定するには、「サーバ全体のブラックリストとホワイトリストの設定」(86 ページ)のセクションへ進んでください。

- **グレイリスト** (Linux ホスティングに限り使用可能)。グレイリストとは、以下のように作用するスパム防止システムです。サーバに送信された各メールメッセージについて、送信者および受信者のメールアドレスがデータベースに記録されます。初めてメッセージが送信されて来た場合は、その送信者および受信者のアドレスはまだデータベースにリストされておらず、サーバは一時的にそのメッセージを SMTP エラーコードで拒否します。メールが正当なものであり、送信サーバが適切に設定されている場合、メールは再び送信され、そのメッセージは受諾されます。そのメッセージがスパムによって送信されたものだった場合、メール送信は再試行されません。スパムは通常何千人もの受信者にメールを一括送信しており、わざわざ再送はしません。

グレイリスト保護システムは、サーバ全体およびユーザごとの、メール送信者のブラックリストおよびホワイトリストも考慮します。ホワイトリストに掲載されている送信者からのメールはグレイリストチェックを通さずに受諾され、ブラックリストに掲載されている送信者からのメールは常に拒否されます。

グレイリストをサポートしているコンポーネントがサーバにインストールされている場合は、グレイリストは常にすべてのドメインに対して自動的に有効になります。すべてのドメインに対して一度に ([ホーム] > [サーバ] グループタイトルメニュー > [スパムフィルタ設定])、または個々のドメインに対して ([ドメイン] > **ドメイン名** > [メール] グループタイトルメニュー > [メール設定])、グレイリストをオフまたはオンに切り替えることができます。

このセクションの内容:

SpamAssassin スパムフィルタの設定	81
DomainKeys に基づくスパム防止の設定	83
DNS ブラックホールリストに基づいたスパム防止の有効化	86
サーバ全体のブラックリストおよびホワイトリストの設定	86
送信側ポリシーフレームワークシステムのサポートのセットアップ	88
グレイリストに基づくスパム防止の設定	89

SpamAssassin スпамフィルタの設定

➤ **SpamAssassin スпамフィルタを有効にするには、以下を実行してください。**

1. ホームページで [サーバ] グループタイトルメニューを開き、[SPAMフィルタ設定] を選択します。
2. 定義した設定に基づいたサーバ全体のフィルタリングを許可するには、[サーバ全体のSpamAssassinスパムフィルタを有効にします] チェックボックスを選択します。
3. ユーザがそれぞれのメールボックスに対するスパムフィルタの優先度を自分で設定できるようにするには、[SPAMフィルタリングにユーザごとの設定を適用する] チェックボックスを選択します。
4. スпамフィルタが使用するシステムリソースの量を調整するには (Linux ホスティングに限り使用可能)、1から5までの値を [スパム作業プロセスの上限数 (1-5)] ボックスに入力します (1が最小の負荷で、5が最大になります)。デフォルト値の使用が推奨されています。
5. スпамフィルタの検出感度を調整するには、[スパムとみなすのに必要なメッセージのポイントのスコアの数] ボックスに希望の値を入力してください。

SpamAssassin は、各メッセージのコンテンツおよび件名行に対して複数の異なるテストを実行します。その結果、各メッセージに複数のポイントが記録されます。ポイントが高くなるほど、メッセージがスパムである可能性が高くなります。例えば、件名行および本文にテキスト文字列「BUY VIAGRA AT LOW PRICE!!!」を含むメッセージの特定は 8.3 ポイントになります。デフォルトでは、スコアが 7 ポイント以上のメッセージがすべてスパムと分類されるようにフィルタ感度が設定されます。

- ユーザが現在の設定で多くのスパムメッセージを受け取る場合、[スパムとしてみなすのに必要なスコアの数] ボックスの値を 6 などに下げてください。
 - スпамフィルタでジャンクとみなされたためにユーザがメールを受信できない場合、[スパムとしてみなすのに必要なスコアの数] ボックスの値を高くし、フィルタ感度を下げてください。
6. Windowsサーバの負荷軽減のために、[指定されたメールサイズを超過した場合フィルタリングしません] チェックボックスを選択してスパムフィルタがテストするメッセージのサイズの最大値を指定することができます。お勧めのメールサイズ制限は、画像が添付されたHTML形式のメールメッセージの一般的なサイズである 150 - 250 キロバイトです。添付ファイルがあるメールメッセージの一般的な大きさである 500 キロバイトを超えると、メールサイズにおけるフィルタリングとサーバ負荷の兼ね合いが重要になってきます。

7. Windowsサーバのスパムフィルタがメールメッセージを何件かチェックしないままでは（着信メールが大量にある場合に起こることがあります）ことのないように、同時にチェックできるメッセージの数を【**SPAMフィルタが作成できるスレッド数**】フィールドで制限します。
8. スパムとみなされたメッセージをマークする方法を指定します。

サーバレベルではサーバ全体のスパムフィルタでスパムを自動的に削除するには設定できません。この設定は各メールボックスでのみ可能です。サーバ全体では、メッセージをスパムとしてマークするオプションのみ選択できます。

「X-Spam-Flag: YES」および「X-Spam-Status: Yes」ヘッダがデフォルトではメッセージソースに付加され、またスパムフィルタにより件名行の先頭に特定のテキスト文字列が追加されます。希望の記号や文字の組み合わせをメッセージの件名に含めるには、【**スパムと認識された各メッセージの件名の最初に以下のテキストを追加**】ボックスに入力してください。スパムフィルタにメッセージの件名を変更させたくない場合は、このボックスを空白のままにしてください。件名にメッセージのスコアを含めたい場合は、このボックスに *SCORE* と入力してください。
9. Parallels Plesk Panel for Windowsを使用している場合は、信頼できる言語を指定して、常にフィルターを通過できるメールの言語特性を定義します。
 - 【**信頼のおける言語**】および【**信頼する言語**】のボックスから必要な項目を選択し【**追加 >>**】をクリックします。
 - 指定した言語および定義済み文字セットの文字はスパムとみなされません。
10. 特定のドメインや送信者からのメールを受信したくない場合は、【**ブラックリスト**】タブをクリックしてスパムフィルタのブラックリストにそれぞれの項目を追加します。
 - ブラックリストに項目を追加するには、【**アドレスを追加**】をクリックします。ファイルにエントリのリストがある場合は、それを【**参照**】で指定し【**OK**】をクリックします。もしくは、【**リストから**】オプションを選択し【**メールアドレス**】ボックスにメールアドレスを入力します。その際、アドレスごとに改行するか、もしくはコンマやコロンや空白スペースでアドレスを区切って下さい。アスタリスク（*）は任意の組み合わせ文字を意味し、疑問符（?）は任意の一字を意味します 例えば、以下ようになります。 [address@spammers.net](#), [user?@spammers.net](#), [*@spammers.net](#)）。 [*@spammers.net](#)を指定すると spammers.net というドメインからの全てのメールをブロックします。追加したエントリを保存するには、【**OK**】をクリックして追加を確認して、もう一度【**OK**】をクリックしてください。
 - ブラックリストからエントリを削除するには、【**ブラックリスト**】タブからエントリを選択して【**削除**】をクリックします。削除を確認して【**OK**】をクリックします。
11. 特定の送信者からのメールを確実に受信するには、【**ホワイトリスト**】タブをクリックしてスパムフィルタのホワイトリストにそのメールアドレスまたは完全なドメイン名を追加します。

- ホワइटリストにエントリを追加するには、[アドレスの追加] をクリックします。 ファイルにエントリのリストがある場合は、それを [参照] で指定し [OK] をクリックします。 もしくは、 [リストから] オプションを選択し [メールアドレス] ボックスにメールアドレスを入力します。 その際、アドレスごとに改行するか、もしくはコンマやコロンや空白スペースでアドレスを区切って下さい。 アスタリスク (*) は任意の組み合わせ文字を意味し、疑問符 (?) は任意の一文字を意味します 例えば、以下ようになります。 address@mycompany.net, user?@mycompany.net, *@mycompany.net)。 *@mycompany.net を指定すると mycompany.net というドメインのメールアドレスがすべてホワइटリストに追加されます。 追加したエントリを保存するには、 [OK] をクリックして追加を確認して、もう一度 [OK] をクリックします。
- ホワइटリストからエントリを削除するには、 [ホワइटリスト] タブからエントリを選択して [削除] をクリックします。 削除を確認して [OK] をクリックします。

12. スпамフィルタの設定が終了したら、 [OK] をクリックします。

これで受信するメールはすべてサーバ側でフィルタリングされます。 デフォルトではスパムフィルタはスパムメールを削除しません。「X-Spam-Flag: YES」および「X-Spam-Status: Yes」ヘッダをメッセージに追加して、スパムとみなされた各メッセージの件名の最初に「*****SPAM*****」という文字列を追加するだけです。

[SPAM フィルタリングにユーザごとの設定を適用する] オプションを有効にしている場合は、ユーザはスパムフィルタが自動的に迷惑メールを削除するように設定することができます。 サーバ設定を上書きしてメールボックスごとのスパムフィルタに学習させるように自分のブラックリストとホワइटリストをセットアップすることもできます。

特定のメールボックス用にスパムフィルタを変更したい場合は「スパムからのメールボックスの保護」 (333 ページ) のセクションに進みます。

DomainKeys に基づくスパム防止の設定

➤ **DomainKeys に基づくスパム防止を有効にするには、以下を実行してください。**

1. Parallels Plesk Panel for Linux では、[ホーム] > [メールサーバ設定] ([サーバ] グループ内) に進みます。 Parallels Plesk Panel for Windows では、[ホーム] > [メールサーバ設定] ([サーバ] グループ内) > [スパムフィルタリング] タブに進みます。
2. [DomainKeys SPAM検知] グループで以下のオプションを選択します。

- **送信メールの電子署名を許可する。** このオプションを選択すると、コントロールパネルのドメイン管理画面からドメインベースごとに DomainKeys の電子メール署名のサポートを有効にできます（[ドメイン] > **ドメイン名** > [メール] グループタイトルメニュー > [メール設定] > [送信メールメッセージを電子署名するために DomainKeys SPAM 検知システムを利用する] オプション）。送信メールの電子署名を自動的に有効にするわけではありません。
- **受信メールの検証。** このオプションを選択すると、DomainKeys システムはサーバがホスティングしている全ドメイン下のメールユーザが受信する全メールを検証します。

3. [OK] をクリックします。

これでメールサーバは受信メールをすべて検証して、記載された送信者から送られたものであることを保証します。電子メール署名に DomainKeys を使用しているドメインから送信されたメールは、検証に失敗すると削除されます。DomainKeys プログラムに参加していないドメインから送信されたメールで電子メール署名していないものは、検証せずに承認されます。

➤ **1つのドメインに対して、送信メールメッセージへの署名を有効にするには、以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [メール] グループタイトルメニュー > [メール設定] に進みます。
2. [送信メールメッセージを電子署名するためにDomainKeys SPAM検知システムを利用する] チェックボックスを選択します。
3. [OK] をクリックします。

➤ **複数のドメインに対して一度に、送信メールメッセージへの署名を有効にするには、以下を実行してください。**

1. [ドメイン] をクリックします。
2. 必要なドメイン名の左のチェックボックスを選択します。リスト内のドメインをすべて選択するには、列の見出しの上部左のチェックボックスを選択します。
3. [修正] をクリックします。
4. [プリファレンス] で、[送信メールメッセージを電子署名するために DomainKeys SPAM検知システムを利用する] フィールドの隣の[スイッチオン] オプションを選択します。
5. [OK] をクリックします。

すると、選択したドメインに対して以下が実行されます。

- 秘密鍵が生成されて、サーバのデータベースに格納されます。

- 公開鍵が生成されて、ドメインの DNS ゾーンに作成された TXT リソースレコードに格納されます。
- DNS TXT リソースレコードに記載されている送信者ポリシーは、「このドメインからの全メールメッセージは暗号化署名されている必要があります。このドメインからであるとされる署名なしのメールメッセージを受信した場合、このメールは削除されなければなりません。（all e-mail messages sent from this domain must be cryptographically signed; if someone receives an e-mail message claiming to originate from this domain, which is not signed, then this e-mail must be discarded.）」に設定されます。
- 送信メールメッセージはデジタル署名されます。秘密鍵に基づいた署名を含む「DomainKeys-署名」ヘッダが、メッセージヘッダに追加されます。

DNS ブラックホールリストに基づいたスパム防止の有効化

サーバで無料および支払い済みのサブスクリプション・ブラックホールリストをご利用いただけます。 <http://spamlinks.net/filter-dnsbl-lists.htm> で使用したい DNSBL サーバを選択してください。

➤ **DNSBL ベースのスパム防止を有効にするには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [メールサーバ設定]（[サーバ] グループ内）に進みます。
2. [DNSブラックホールリストベースのSPAMプロティションをスイッチオンする] チェックボックスを選択します。
3. [DNSBLサービスのDNSゾーン] 入力ボックスにメールサーバが照会するホスト名を入力します（例：sbl.spamhaus.org）。
4. [OK] をクリックします。

これで、既知のスパマーからのメールメッセージはエラーコード 550（接続拒否）表示とともに拒否されます。

サーバ全体のブラックリストおよびホワイトリストの設定

➤ **指定したドメインからのメールを拒否するには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [メールサーバ設定] に進みます。
2. [ブラックリスト] タブをクリックします。
3. [ドメインの追加] をクリックします。
4. メールを受け取りたくないドメインの名前を指定します。例えば、「evilspammers.net」となります。
5. [OK] をクリックします。
6. 追加するドメインが複数ある場合は上記のステップ3から5を繰り返します。

➤ **特定のドメインまたはネットワークからのメール受信を許可するには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [メールサーバ設定] に進みます。
2. [ホワイトリスト] タブをクリックします。
3. [ネットワークの追加] をクリックします。
4. メールを受け取りたいIPアドレスまたはIPアドレスの範囲を指定します。
5. [OK] をクリックします。
6. 追加するアドレスが複数ある場合は上記のステップ3から5を繰り返します。

送信側ポリシーフレームワークシステムのサポートのセットアップ

➤ **Linux ベースのサーバに送信側ポリシーフレームワークをセットアップするには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [メールサーバ設定]（[サーバ] グループ内）に進みます。サーバ全体のメールプリファレンスの画面が[プリファレンス]タブで開きます。
2. [SPAMプロテクションを有効にする] チェックボックスを選択し、メールをどう扱うかを指定します。
 - SPF チェックの結果に関係なくすべての着信メッセージを受け取るには [SPF チェックモード] ドロップダウンボックスから [受信 SPF ヘッダを作成するだけ、拒否はしない] オプションを選択します。このオプションが推奨です。
 - DNS 検索問題のため SPF チェックに失敗した場合も SPF チェックの結果に関係なくすべての着信メッセージを受け取るには [SPF チェックモード] ドロップダウンボックスから [DNS 検索問題の場合は一時的エラーを生成する] オプションを選択します。
 - 問題となっているドメインの使用を許可されていない送信元からのメッセージを拒否するには [SPF チェックモード] ドロップダウンボックスから [SPF が fail と判断したらメールを拒否する] オプションを選択します。
 - 問題となっているドメインの使用を許可されていないと思われる送信元からのメッセージを拒否するには [SPF チェックモード] ドロップダウンボックスから [SPF が softfail と判断したらメールを拒否する] オプションを選択します。
 - ドメインに SPF の記録がないため SPF が認証しているのかいないのかが不明な送信元からのメッセージを拒否するには [SPF チェックモード] ドロップダウンボックスから [SPF が neutral と判断したらメールを拒否する] オプションを選択します。
 - 何らかの理由により SPF チェックを通過しなかった（例えば送信元のドメインが SPF を実装しておらず、SPF チェックが “unknown” ステータスを返した）場合にメッセージを拒否するには [SPF チェックモード] ドロップダウンボックスから [SPF が 通過と判断しなかったメールを拒否する] オプションを選択します。
3. メールサーバによって SPF チェックが行われる前のスパムフィルタに適用される追加のルールを指定するには、そのルールを [SPF ローカルルール] ボックスに指定します。

信頼できるユーザのオープンデータベースからのメッセージのチェックにルールを追加することをお勧め致します（例えば「include:spf.trusted-forwarder.org」）。SPF ルールについて詳細は、<http://tools.ietf.org/html/rfc4408>を参照してください。

4. SPFレコードを発行しないドメインに適用するルールを指定するには、
【SPF推測ルール】ボックスにルールを入力します。
例えば、以下のようになります。 `v=spf1 +a/24 +mx/24 +ptr ?all`
5. メッセージが拒否された場合にSMTP送信者に戻される任意のエラー通知を指定するには、それを【SPF説明テキスト】ボックスに入力します。
何も入力されなければ、デフォルトテキストが通知に使用されます。
6. 【OK】をクリックして設定を完了します。

グレイリストに基づくスパム防止の設定

グレイリストをサポートしているコンポーネントがサーバにインストールされている場合は、グレイリストは常にすべてのドメインに対して自動的に有効になります。そのため、追加のアクションは必要ありません。グレイリスト保護を使用したくない場合は、それをオフに切り替えることができます。

➤ すべてのドメインに対してグレイリスト保護をオフに切り替えるには、以下を実行してください。

1. 【ホーム】>【サーバ】グループタイトルメニュー>【スパムフィルタ設定】に進みます。
2. 【サーバ全体のグレイリストスパム防止を有効にします】チェックボックスの選択を外します。
3. 【OK】をクリックします。

➤ すべてのドメインに対してグレイリスト保護をオンに切り替えるには、以下を実行してください。

1. 【ホーム】>【サーバ】グループタイトルメニュー>【スパムフィルタ設定】に進みます。
2. 【サーバ全体のグレイリストスパム防止を有効にします】チェックボックスを選択します。
3. 【OK】をクリックします。

➤ 個々のドメインに対してグレイリスト保護をオフに切り替えるには、以下を実行してください。

1. 【ドメイン】> ドメイン名 > 【メール】グループタイトルメニュー>【メール設定】に進みます。
2. 【このドメイン下の全メールアカウントについて、グレイリスティングのスパム防止を有効にします】チェックボックスの選択を外します。

3. [OK] をクリックします。

➤ **個々のドメインに対してグレイリスト保護をオンに切り替えるには、以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [メール] グループタイトルメニュー > [メール設定] に進みます。
2. [このドメイン下の全メールアカウントについて、グレイリスティングのスパム防止を有効にします] チェックボックスを選択します。
3. [OK] をクリックします。

ウイルス防止の設定（Linux ホスティング）


メールユーザにアンチウイルス保護を提供するに当たって、Dr. Web または Kaspersky アンチウイルスソリューションのどちらかをご利用いただけます。Dr. Web および Kaspersky アンチウイルスは両方ともサーバのメールトラフィックをリアルタイムでスキャンできますが、Kaspersky アンチウイルスだけが特定のファイルタイプの添付ファイルをチューニングおよびフィルタリングできます。

そのプログラムは両方とも年間更新の追加のライセンスキーが必要です。現在の価格はプロバイダまたは Parallels サイトで確認してください。

➤ **Dr. Web または Kaspersky アンチウイルスをインストールするには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [アップデート] に進みます。
2. ご使用の Parallels Plesk Panel のバージョンをクリックします。
3. コンポーネント一覧から、[Dr.Webアンチウイルス] または [Kaspersky アンチウイルス] のどちらかを選択します。
4. [インストール] をクリックします。
インストール完了後に、以下の手順で選択したアンチウイルスプログラムのライセンスキーを取得してインストールします。
5. [ホーム] > [ライセンス管理]（[ヘルプ & サポート] グループ内）に進みます。
6. [新しいキーの注文] をクリックします。使用可能なアドオンが一覧表示された Parallels オンラインストアが別のウィンドウで開きます。
7. このページで、[Dr.Webアンチウイルス] または [Kaspersky アンチウイルス] の隣のチェックボックスを選択して [カートに追加] をクリックします。
8. Parallels Plesk Panel アドオンが既存のライセンスキーに追加されるため、Parallels Plesk Panel 番号確認システム画面が開きます。この機能を追加するライセンスキーの番号を入力して [送信] をクリックします。
9. 次に、通貨、キーの数、連絡先情報、請求先住所、支払方法を指定してフォームを送信します。注文が処理されるとメールで通知が来ます。

10. メールで通知を受信したら、**【ライセンス管理】** 画面に戻り（**【ホーム】**

> **【ライセンス管理】**） **【キーの取得】** をクリックして注文したライセンスキーを取得します。Parallels Plesk Panel ライセンスマネージャはParallelsライセンスサーバからアップグレードされたライセンスキーを取得して、コントロールパネルにインストールします。

11. **【設定】** > **【ウイルス保護設定】** に進みます。

12. **【アンチウイルスプリファレンス】** でアンチウイルスを選択して **【OK】** をクリックします。

Dr.Web をインストールした場合は、メールボックスごとにしか、しかもメールボックスを設定した後にして、アンチウイルス保護を有効にできません。デフォルトでは、ウイルス定義は Dr.Web のサイトから 5 時 ごとに取得されます。この設定はコントロールパネル経由で変更することはできません。

メールボックスのアンチウイルス保護を設定するには「ウイルスからのメールボックスの保護」（338 ページ）のセクションに進んでください。

Kaspersky アンチウイルスをインストールした場合は、
<http://www.parallels.com/jp/products/plesk/docs/> から (Kaspersky Antivirus Module Administrator's Guide) をご参照ください。

ウイルス防止の設定 (Windows ホスティング)

ウイルスやその他メール経由で浸透する不正ソフトウェアからユーザを保護するには、コントロールパネルに付属しているアンチウイルスサービスを有効にするとよいでしょう。

➤ **すべてのユーザのメールボックスに対してアンチウイルスをセットアップして有効にするには以下を実行してください。**

1. [設定] > [ウイルス保護設定] に進みます。
2. スキャンモードを選択します。
3. ユーザが着信および送信メールについてスキャンの設定を変更できるようにするには、それぞれのチェックボックスを選択します。
4. [OK] をクリックします。

これでアンチウイルスが有効になりました。 アンチウイルスはメールをスキャンして感染したメールはすべて削除します。

Mailman メーリングリストソフトウェアの設定 (Linux ホスティング)

顧客が自分のメーリングリストやニュースレターを実行できるようにするには、貴社のサーバに GNU Mailman パッケージをインストールして (Parallels Plesk Panel インストールの際にもできます)、メーリングリスト管理者アカウントを設定する必要があります (そうしないと稼働しません)。

➤ **コントロールパネルからメーリングリスト管理者アカウントを設定するには以下を実行してください。**

1. [設定] > [メーリングリストサーバのセットアップ] に進みます。
2. メーリングリストおよびその設定の管理に使用するユーザ名およびパスワードを指定します。
3. [OK] をクリックします。

一度 Mailman 管理者アカウントを設定すれば、以下の URL からメーリングリストソフトウェアを設定したり管理者ログイン名およびパスワードを変更したりできます。

<http://lists.yourservername.tld/mailman/admin/mailman>

注：Mailman 管理者アカウントを設定すると、コントロールパネルから [メーリングリストサーバのセットアップ] アイコンにアクセスすることはできません。

顧客による大量メール送信の防止（Linux ホスティング）

➤ ユーザによる大量メールの送信を防止するには、以下を実行してください。

1. ディレクトリ `$QMAIL_ROOT_D/qmail/control/` に `maxrcpt` という名前のファイルを作成します。

`$QMAIL_ROOT_D` は、ファイル `/etc/psa/psa.conf` で指定した場所です。

2. このファイルに許可された受領者の数を入力して保存します。

この数は、メーリングリストやメールグループの登録者に対するメール送信にも影響することにご注意ください。つまり、この値を 100 に設定すると、メーリングリストやメールグループの登録者は 100 人しかこのメールを受領できません。

受領者の数を制限する必要がなくなったら、`maxrcpt` ファイルを削除してください。

Parallels Plesk Panel のデータベースホスティング設定

ホストユーザのデータベースを 1 台のサーバにも、あるいは多数の異なるサーバにもホスティングすることができます。リモートサーバにユーザデータベースがあるとマルチサーバのインストールに便利です。管理、バックアップ、リソース利用には集中型データベースホスティングが適しているためです。しかし、単一 Parallels Plesk Panel サーバをご使用の場合は、すべてのデータベースをそこに保存しておくことをお勧め致します。

➤ ホスティングサーバでリモートデータベースサーバを使用するには以下が必要です。

1. リモートデータベースサーバのセットアップ。
 - a. MySQL、PostgreSQL、または Microsoft SQL ソフトウェアのインストール。
 - b. データベース管理者アカウントのセットアップ。
 - c. データベースサーバへのネットワークアクセスの有効化。
2. リモートデータベースで作業するよう Parallels Plesk Panel の設定。

このセクションの内容:

リモートデータベースホスティングの設定	96
データベースサーバの管理	98

リモートデータベースホスティングの設定

必要なリモートデータベースサーバをセットアップしたら、このデータベースサーバを Parallels Plesk Panel に登録する必要があります。

➤ **Parallels Plesk Panel へのデータベースの登録には以下を実行してください**

1. Parallels Plesk Panel にログインします。
2. [ホーム] > [データベースサーバ]（[サーバ] グループ内）に進んで、[データベースサーバの追加] をクリックします。
3. データベースサーバのプリファレンスを指定します。
 - [データベースサーバのタイプ] メニューでデータベースサーバエンジンを指定します。
 - データベースサーバのホスト名または IP アドレスを指定します。
 - データベースサーバが使用しているポート番号を指定します。このオプションはMySQLに限り有効です。デフォルトではMySQLサーバはポート3306です。MySQL データベースサーバデフォルトポートをご使用の場合は [ポート番号] は空白のままでも構いません。

注：MySQLサーバポート値に8306を入力しないでください。Parallels Plesk Panel が内部データベースとの通信に使用しているためです。

 - データベースサーバで動作しているデータベースタイプを指定します。
 - このデータベースサーバを顧客データベースのホスティングのデフォルトにするには [このデータベースを MySQL のデフォルトにする] チェックボックスを選択します。MS SQL データベースサーバをご使用の場合は [このサーバを MS SQL のデフォルトとして使用] チェックボックスを選択します。
 - データベースサーバ管理者のログイン名およびパスワードを指定します。
4. [OK] をクリックします。

➤ **Parallels Plesk Panel で作成したすべてのデータベースに影響を与えるデータベースホスティングプリファレンスを設定するには、以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [データベースサーバ]（[サーバ] グループ内）> [プリファレンス] に進みます。

2. 顧客のデータベースを簡単にメンテナンスするために、**「クライアントログイン名および下線を、データベース名の先頭に付加する」**チェックボックスを選択します。新規に作成されたデータベースの名前はすべて、クライアントの **ログイン名_データベース名** のようになります。それによって特定のParallels Plesk Panelユーザ関連のデータベースを置くことができます。このチェックボックスを選択しなくても、新規データベースの作成の際にParallels Plesk Panelはクライアントのログイン名をデータベース名入力ボックスに入れることをご留意ください。それを編集したり削除したりすることは可能です。
3. クライアントのログイン名を該当のデータベースユーザ名に追加するようにParallels Plesk Panelを設定して、顧客のデータベースのメンテナンスをさらに簡単にすることができます。それには、**「クライアントログイン名および下線を、データベース名の先頭に付加する」**チェックボックスを選択します。新規に作成されたデータベースユーザの名前はすべて、クライアントの **ログイン名_データベースユーザ名** のようになります。それによって特定のParallels Plesk Panelユーザ関連のデータベースを置くことができます。
4. Parallels Plesk Panelサーバでデータベースの作成が許可されているかどうかを指定してください。一部のアプリケーションはリモートデータベースをサポートしておらず、同じサーバでホスティングされているデータベースに限り処理できます。デフォルトオプション**「これらのWebアプリケーション用に、データベースのローカルホスティングを有効にします」**を選択することをお勧め致します。そうしないと、そのアプリケーションを使用することができません。
5. **「OK」** をクリックします。

前にセットアップしたリモート MS SQL データベースサーバでホスティングされているデータベースのバックアップを作成するには、その MS SQL データベースサーバのバックアップ設定を行う必要があります。

➤ **リモート MS SQL データベースサーバのバックアップ設定を行うには、以下を実行してください。**


1. **「ホーム」** > **「データベースサーバ」**（**「サーバ」** グループ内）に進み、リモートMS SQLデータベースサーバ名をクリックします。
2. **「テンポラリネットワークディレクトリ」** フィールドに、リモートMS SQLデータベースサーバのテンポラリディレクトリを指定します。

このディレクトリはネットワーク内のどこにでも置くことが可能であり、MS SQL データベースのバックアップおよび復元に必要です。このディレクトリは、ネットワーク経由で Parallels Plesk Panel サーバおよび MS SQL サーバの両方からアクセス可能でなければいけません。リモート MS SQL データベースサーバを実行している、Parallels Plesk Panel およびユーザは、このディレクトリに読み書き権限が必要です。

3. テンポラリネットワークディレクトリへのアクセスに必要なユーザ名およびパスワードを提供します。
4. [OK] をクリックします。

データベースサーバの管理

➤ **データベースサーバを管理するには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [データベースサーバ]（[サーバ] グループ内）に進みます。
2. 必要なデータベースサーバに対応する  アイコンをクリックします。データベース管理ツールのWebインターフェースが別のブラウザウィンドウに開きます。

➤ **データベースサーバ管理者パスワードを変更するには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [データベースサーバ]（[サーバ] グループ内）に進みます。
2. データベースサーバのホスト名をクリックします。
3. [パスワードの変更] をクリックします。
4. 新しいパスワードを入力し [OK] をクリックします。

➤ **Parallels Plesk Panel からデータベースサーバの登録を解除するには、以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [データベースサーバ]（[サーバ] グループ内）に進みます。
2. データベースサーバのホスト名の右側のチェックボックスを選択します。
3. [削除] をクリックします。
4. 内容を確認して [OK] をクリックします。

➤ **データベースがあるか、または顧客のデータベースのホスティングにデフォルトとして割り当てられているデータベースサーバを**

Parallels Plesk Panel から登録解除するには以下を実行してください。

1. データベースサーバからデータベースを削除します。
 - a. [ホーム] > [データベースサーバ]（[サーバ] グループ内）に進みます。
 - b. Parallels Plesk Panelから登録解除したいデータベースサーバのホスト名をクリックします。
 - c. リストの左上隅のチェックボックスを選択してすべてのデータベースを選択します。
 - d. [削除] をクリックします。
 - e. 削除を確認して [OK] をクリックします。
2. 他のデータベースサーバデフォルトを作成します。
 - a. 画面上部のパスバーで [データベースサーバ] ショートカットをクリックします。
 - b. デフォルトを作成したいデータベースサーバのホスト名をクリックします。削除しようとしているデータベースサーバタイプ（MySQLまたはMS SQL）と同じになります。
 - c. [プリファレンス] をクリックして [このサーバをMySQLのデフォルトとする] チェックボックスを選択します。MS SQLデータベースサーバをご使用の場合は [このサーバをMS SQLのデフォルトとして使用] チェックボックスを選択します。
 - d. [OK] をクリックします。
3. データベースサーバのリストに戻ります（[ホーム] > [データベースサーバ]）。
4. 必要なくなったデータベースサーバに対応するチェックボックスを選択します。
5. [削除] をクリックします。
6. 内容を確認して [OK] をクリックします。

重要：この方法では Web アプリケーションのデータベースを削除することはできません。それを削除するには、まず、それを使用しているドメインからそれぞれの Web アプリケーションを削除する必要があります。

データベース管理の詳細については「データベースの配置」（230 ページ）のセクションを参照してください。

外部データベース管理システムへの 接続の設定（Windows ホスティング）

貴社のユーザが外部データベース管理システムからのデータにアクセスするには、貴社が ODBC（オープンデータベースコネクティビティ）ドライバを使用する必要があります。例えば、Microsoft Access ODBC ドライバをインストールして外部 Microsoft Access データベースへの接続を作成し、Web アプリケーションがこのデータベースにデータを格納するようにします。

このセクションの内容:

外部データベースへの新規接続の作成（Windows ホスティング）	101
既存の ODBC 接続設定の変更（Windows ホスティング）	101
外部データベースへの接続の削除（Windows ホスティング）	102

外部データベースへの新規接続の作成（Windows ホスティング）

クライアントの Web アプリケーションがデータの格納に外部データベースを使用できるようにするには、適切な ODBC ドライバをインストールして外部データベースへの接続を作成する必要があります。

➤ **新規 ODBC ドライバをインストールして外部データベースへの接続を作成するには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [サーバ] グループタイトルメニュー > [ODBCデータソース] に進みます。
2. [新しいODBC DSNの追加] をクリックします。
3. ODBC接続名およびその説明を該当するフィールドに指定します。
4. [ドライバ] フィールドに必要なドライバを指定します。
5. [OK] をクリックします。
6. ドライバ設定画面で適切なオプションを選択します。通常、データベースへのパスと、ユーザ認証と、選択したドライバによって他の接続オプションを指定します。
7. [テスト] をクリックしてその設定で接続できるかどうかを確認します。
[終了] をクリックして作成を完了します。

既存の ODBC 接続設定の変更（Windows ホスティング）

➤ **既存の ODBC 接続設定を変更するには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [サーバ] グループタイトルメニュー > [ODBCデータソース] に進みます。
2. 一覧から必要な接続名をクリックします。
3. 必要に応じて設定を変更します。
4. [テスト] をクリックして新規設定で接続できるかどうかを確認します。
[終了] をクリックして変更を保存します。

外部データベースへの接続の削除（Windows ホスティング）

➤ **不要な ODBC 接続を削除するには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [サーバ] グループタイトルメニュー > [ODBCデータソース]に進みます。
2. 削除する接続のチェックボックスを選択します。
3. [削除] をクリックして、削除を確認し [OK] をクリックします。

Adobe ColdFusion のサポートを有効化（Linux ホスティング）

サーバの ColdFusion スクリプトをサポートするには、Adobe からディストリビューション パッケージを取得してサーバにインストールする必要があります。 Parallels Plesk Panel は Adobe ColdFusion のバージョン 6、7、8 をサポートしています。

➤ **サーバに Adobe ColdFusion をインストールしたら、以下を実行してください。**

1. Parallels Plesk Panelに管理者としてログインします。
2. [ホーム] > [アップデート] （ [ヘルプ & サポート] グループ内）に進みます。
3. 適切なリリースバージョンに対応するリンクをクリックします。
4. [Parallels Plesk PanelへのColdFusionサポート]の項目に対応するチェックボックスを選択して [インストール] をクリックします。 実行されたらインストールを確認します。
5. 選択したコンポーネントがインストールされたら、[ホーム]>[ColdFusion 設定] （ [アプリケーションおよびサービス] グループ内）に進みます。
6. ColdFusionインストレーションディレクトリへのパスを指定して [OK] をクリックします。

Sitebuilder との統合の有効化（Linux ホスティング）

Sitebuilder は Parallels が開発したウェブサイト作成およびコンテンツ管理システムです。ユーザはマークアップ言語の専門知識がなくてもプロが製作したかのようなウェブサイトを作成することができるため、Sitebuilder はサイト管理者にとって大変馴染み深いものとなっています。

➤ **Sitebuilder を使用したサイトの作成および公開をウェブホスティングの顧客に許可するには、以下を実行してください。**

1. Parallels Plesk Panel のインストール中に Sitebuilder をインストールしていない場合は、Sitebuilder を Parallels Plesk Panel ソフトウェアがインストールされているサーバにインストールします。 Parallels Plesk Panel の当バージョンではローカルにインストールされた Sitebuilder システムへの接続だけをサポートしています。
2. Sitebuilder のライセンスキーをインストールします。 URL `http://サーバのIPアドレスまたはホスト名/Admin` で Sitebuilder にログインして、**[ホーム] > [ライセンス管理]**（**[ヘルプ & サポート]** グループ内）> **[ライセンスキーのアップロード]** に進みます。 XML または ZIP 形式のライセンスキーファイルを選択して **[OK]** をクリックします。
3. Parallels Plesk Panel にログインして、**[OK] > [Sitebuilder 設定]**（**[アプリケーション & サービス]** グループ内）に進みます。
4. インストール中に Sitebuilder に指定したサーバ管理者のユーザ名およびパスワードを入力します。 Parallels Plesk Panel がそれを Sitebuilder システム内の認証に使用します。
5. **[OK]** をクリックします。

これで Parallels Plesk Panel が Sitebuilder に接続され、Sitebuilder 管理パネルへのショートカットがある Sitebuilder セクションが Parallels Plesk Panel のナビゲーションペインに表示されます。

- **デスクトップ。** タスク指向のウィザードへのショートカットが提供されます。 ここで Sitebuilder システム上のあらゆる操作を実行できます。 詳細は http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/admin/ja_JP/html/using_desktop_interface.htm をご覧ください。

- **ユーザ。** ここで顧客のユーザアカウントおよびサービスプランを追加および管理できます。詳細は http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/admin/ja_JP/html/signing_up_customers.htm をご覧ください。
- **サイト。** ここでサイトを追加および管理できます。詳細は http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/admin/ja_JP/html/managing_sites.htm をご覧ください。
- **サーバ。** ここで以下のシステム設定を表示および管理できます。
 - **ホスト。** ここでホストを追加および管理できます。詳細は http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/admin/ja_JP/html/specifying_hosts_used_for_publishing_sites.htm をご覧ください。
 - **ライセンス管理。** ここで Sitebuilder ライセンスをアップロードおよび取得できます。詳細は http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/admin/ja_JP/html/updating_upgrading_and_restoring_your_license.htm をご覧ください。
 - **統合。** ここで、サーバにインストールされた Parallels 製品のシングルサインオン設定を確認できます。詳細は http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/admin/ja_JP/html/viewing_sitebuilder_sso_settings.htm をご覧ください。
 - **バックアップ。** ここで必要に応じて Sitebuilder システムからデータをバックアップできます。詳細は http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/admin/ja_JP/html/backing_up_and_restoring_sitebuilder_data.htm をご覧ください。
 - **トライアルサイト設定。** ここで、見込み客が作成したトライアルサイトの設定を行うことができます。詳細は http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/admin/ja_JP/html/setting_up_sitebuilder_wizard_for_anonymous_visits.htm をご覧ください。
 - **ブランディング。** ここで、見込み客のロゴおよびタイトル設定を行うことができます。詳細は http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/admin/ja_JP/html/setting_up_logo_and_title_bar_text.htm をご覧ください。
 - **ログ設定。** ここで、Sitebuilder がログファイルに書き込むシステムエラーの情報量を調整できます。詳細は http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/admin/ja_JP/html/specifying_actions_to_be_logged.htm をご覧ください。
 - **通知。** ここで、Sitebuilder からユーザに送信される通知の設定を行うことができます。詳細は http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/admin/ja_JP/html/configuring_email_message_sent_at_trial_site_publishing_attempt.htm をご覧ください。
 - **言語。** ここで使用可能な言語一覧を参照できます。詳細は http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/admin/ja_JP/html/obtaining_additional_language_packs.htm をご覧ください。

- **スキン。** ここで使用可能なスキン一覧を参照できます。 詳細は http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/admin/ja_JP/html/choosing_language_skin_and_number_of_items_shown_per_page.htm をご覧ください。
- **テンプレート。** ここで使用可能なサイトデザインテンプレート一覧を参照できます。 詳細は http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/admin/ja_JP/html/manaing_site_design_templates.htm をご覧ください。
- **モジュール。** ここで使用可能なモジュール一覧を参照できます。 詳細は http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/admin/ja_JP/html/viewing_and_configuring_available_modules.htm をご覧ください。
- **ページセット。** ここで使用可能なページセッター一覧を参照できます。 詳細は http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/admin/ja_JP/html/managing_site_structure_templates.htm をご覧ください。
- **サイトファミリー。** ここで、デザインテンプレートおよびページセットを結合する使用可能なテンプレート一覧を参照できます。 詳細は http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/admin/ja_JP/html/managin_site_templates.htm をご覧ください。
- **ログ。** ここでシステムおよびセキュリティログを参照できます。 詳細は http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/admin/ja_JP/html/configuring_sitebuilder_logs.htm をご覧ください。

ユーザまたはサイトごとのサイト作成および管理サービスへのアクセスを顧客に提供することができます。 ユーザアカウントに対して変更可能な個々の設定があります（**[リセラー]** または **[クライアント]** ショートカット > **ユーザ名** > **[権限]**（**[アカウント]** グループ内）、そしてウェブサイト（**[ドメイン]** > **ドメイン名** > **[ウェブホスティング設定]**（**[ウェブサイト]** グループ内）に対して）。

サイト作成および管理サービスへのアクセス権がある顧客はすべて、**[Sitebuilder ウィザード]** ショートカットからサイトを作成および更新できます。そのショートカットは Parallels Plesk Panel のドメイン管理画面に表示されます（**ドメイン名** > **[Sitebuilder ウィザード]**）。また、ユーザのコントロールパネルのナビゲーションペインに表示された以下のショートカットから、ユーザが Sitebuilder 経由で自分のアカウントおよびサイトを管理する許可を与えることができます。**デスクトップ**、**ユーザ**、**サイト**、**サーバ**（クライアントのコントロールパネル）。**デスクトップ**および**サイト**（ドメイン管理者のコントロールパネル）。

Parallels Panel のユーザアカウントは、Sitebuilder の以下のアカウントタイプに対応しています。

- Parallels Panel の管理者アカウントは、Sitebuilder のリセラーアカウントに対応します。
- Parallels Panel のリセラーアカウントは、Sitebuilder のリセラーアカウントに対応します。
- Parallels Panel のクライアントアカウントは、Sitebuilder のリセラーアカウントに対応します。
- Parallels Panel のドメイン管理者アカウントは、Sitebuilder のサイトオーナーアカウントに対応します。

Google ウェブサイト サービスの統合

Parallels Plesk Panel 9.5 では、Google ウェブサイト サービスを簡単に統合することができます。

Google ウェブサイト サービスプログラムを導入すると、ホスティングプロバイダとその顧客に対して以下の利点があります。

- プロバイダは、顧客が Google AdSense プログラムに登録するか Google Site Search サービスを契約すると、収益を得ることができます。
- サイトオーナーは Google ツールを使用して、サイトの外観を改良しクオリティの高い検索やウィジェットを追加することで、ユーザを引き付けてリピート率を向上できます。さらにユーザの興味に関連する広告を表示してウェブサイトへのトラフィックから収益を得ることができます。

このプログラムの詳細については、

<http://www.google.com/webmasters/provider/overview.html> および

<http://www.google.com/webmasters/provider/faq.html> を参照してください。

➤ **Parallels Plesk Panel が管理するサーバに Google ウェブサイト サービスを統合するには、以下を実行してください。**

1. http://services.google.com/feedback/webmaster_provider_signup から、Google Apps アカウント (Standard Edition)、Google AdSense アカウント、および Google Affiliate Network アカウントを申し込みます。

Parallels Plesk Panel が管理する各ホスティングサーバごとに、Google AdSense アカウントおよび Google Affiliate Network アカウントと結び付いている Google Apps アカウントを作成する必要があります。

Google 側の処理が終了して貴社がプログラムに参加可能になると、メールでアクセス資格情報が送信されます。

2. 無料の OpenSSL ユーティリティを使用して RSA 秘密鍵とデジタル自己署名証明書を生成します。このユーティリティは Linux ディストリビューションに搭載されており、<http://www.openssl.org/related/binaries.html> からダウンロードして Windows ベースのコンピュータにインストールすることも可能です。

- a. コマンド `openssl genrsa -out rsaprivatekey.pem 1024` を実行します。

このコマンドを実行すると、1024 ビットの秘密鍵が生成されて `rsaprivatekey.pem` ファイルに格納されます。生成した秘密鍵は公開しないでください。

- b. コマンド `openssl req -new -x509 -key rsaprivatekey.pem -out rsacert.pem` を実行します。

質問にいくつか応えたと証明書が作成され、rsacert.pem として保存されます。SSO を設定するときは、このファイルをコントロールパネルから Google Apps アカウントにアップロードします。

3. Google Apps Control Panel (<http://www.google.com/a/<your-google-apps-domain>>) に管理者としてログインします。
4. [Advanced Tools] を選択して、[Set up single sign-on (SSO)] を選択します。
5. 以下を実行してください。
 - a. [Enable Single Sing-on] チェックボックスを選択します。
 - b. [Sign-in page URL] フィールドに、URLとして <https://<your-panel-server>:8443/plesk/gapps-identity-provider/> を入力します。
 - c. [Sign-out page URL] フィールドに、URLとして <https://<your-panel-server>:8443/> を入力します。
 - d. [Change password URL] フィールドに、URLとして <https://<your-panel-server>:8443/> を入力します。
 - e. [Verification certificate] フィールドに、証明書をアップロードします。
 - f. [Save changes] をクリックします。
6. ホスティングサーバ以外のコンピュータに秘密鍵を作成した場合は、そのファイルをサーバにアップロードする必要があります。
7. SSHまたはリモートデスクトップからホスティングサーバにログインします。
8. コンソールで、コマンドラインユーティリティ `server_pref` を以下のパラメータで実行します。

```
server_pref-update -gapps-domain <your-google-apps-domain-name> -gapps-gan-id
<your-google-affiliated-network-id> -gapps-dev-email
<your-google-adsense-developer-account-e-mail> -gapps-dev-passwd
<your-google-adsense-developer-account-password> -gapps-pk-path
<path-to-private-key>
```

<your-google-apps-domain-name> は Google Apps ドメイン名、
 <your-google-affiliated-network-id> は Google Affiliated Network ID、
 <your-google-adsense-developer-account-e-mail> は Google AdSense Developer アカウントプロパティで指定したメールアドレス、
 <your-google-adsense-developer-account-password> は Google AdSense Developer アカウントのパスワード、<path-to-private-key> はサーバ上で秘密鍵がある場所へのパスです。

このユーティリティへのパスは、Linux システムの場合は `/usr/local/psa/bin/server_pref`、Windows システムの場合は `C:\Program Files\Parallels\Plesk\bin\server_pref.exe` です。

これで Parallels Plesk Panel が Google Apps ドメインアカウントに接続されたので、Parallels Plesk Panel にユーザアカウントを作成して Google Apps ユーザアカウントに関連付けることができます。その方法は次のセクションで説明します。

自分のウェブサイトで Google サービスを使用する方法については、「Google ウェブサイト サービスの使用法」 (244 ページ) を参照してください。

このセクションの内容:

Panel ユーザに Google ウェブサイト サービスへのアクセス権を提供..... 109

Panel ユーザに Google ウェブサイト サービスへのアクセス権を提供

Parallels Plesk Panel に新しいユーザアカウントを作成したら、それを Google Apps ユーザアカウントに関連付ける必要があります。

➤ Panel ユーザアカウントを Google Apps ユーザアカウントに関連付けるには、以下を実行してください。

- Parallels Plesk Panel 管理者のアカウントに対して、`admin` コマンドラインユーティリティを、オプション—`create-gapps-account -gapps-admin-login <google-apps-administrator's-username> -gapps-admin-password <google-apps-administrator's-password>` で実行します。
このユーティリティへのパスは、Linux システムの場合は `/usr/local/psa/bin/admin`、Windows システムの場合は `C:\Program Files\Parallels\Plesk\bin\admin.exe` です。
- Parallels Plesk Panel リセラーのアカウントに対して、`reseller` コマンドラインユーティリティを、オプション—`create-gapps-account <reseller's-username-in-the-panel> -gapps-admin-login <google-apps-administrator's-username> -gapps-admin-password <google-apps-administrator's-password>` で実行します。
このユーティリティへのパスは、Linux システムの場合は `/usr/local/psa/bin/reseller`、Windows システムの場合は `C:\Program Files\Parallels\Plesk\bin\reseller.exe` です。
- Parallels Plesk Panel クライアントのアカウントに対して、`client` コマンドラインユーティリティを、オプション—`create-gapps-account <client's-username-in-the-panel> -gapps-admin-login <google-apps-administrator's-username> -gapps-admin-password <google-apps-administrator's-password>` で実行します。
このユーティリティへのパスは、Linux システムの場合は `/usr/local/psa/bin/client`、Windows システムの場合は `C:\Program Files\Parallels\Plesk\bin\client.exe` です。

これで、Panel のユーザアカウントが、新しく作成した Google Apps ユーザアカウントに関連付けられ、以下の項目がユーザの Parallels Plesk Panel に表示されます。

- ナビゲーションペインとユーザのホームページに、Google ウェブサイト サービスへのリンク。
- 上記のリンクから Google ウェブサイト サービスのページにアクセスできます。
ユーザはこのページから、ウェブサイトにカスタム検索エンジンを追加と新しい Google AdSense アカウントの作成が可能であり、Google ウェブサイトのウェブマスターツールと便利なリソースにリンクします。Parallels Plesk Panel のユーザがこれらのリンクをクリックすると、Google アカウントに自動的にログインします。

Panel からユーザアカウントを削除する場合は、まずこのユーザに関連付けている Google Apps アカウントを削除してから、Panel からユーザアカウントを削除してください。

➤ **ユーザに関連付けている Google Apps アカウントを削除するには、以下を実行します。**

- Parallels Plesk Panel 管理者のアカウントに対して、`admin` コマンドラインユーティリティを、オプション—`remove-gapps-account -gapps-admin-login <google-apps-administrator's-username> -gapps-admin-password <google-apps-administrator's-password>` で実行します。
このユーティリティへのパスは、Linux システムの場合は `/usr/local/psa/bin/admin`、Windows システムの場合は `C:\Program Files\Parallels\Plesk\bin\admin.exe` です。
- Parallels Plesk Panel リセラーのアカウントに対して、`reseller` コマンドラインユーティリティを、オプション—`remove-gapps-account <reseller's-username-in-the-panel> -gapps-admin-login <google-apps-administrator's-username> -gapps-admin-password <google-apps-administrator's-password>` で実行します。
このユーティリティへのパスは、Linux システムの場合は `/usr/local/psa/bin/reseller`、Windows システムの場合は `C:\Program Files\Parallels\Plesk\bin\reseller.exe` です。
- Parallels Plesk Panel クライアントのアカウントに対して、`client` コマンドラインユーティリティを、オプション—`remove-gapps-account <client's-username-in-the-panel> -gapps-admin-login <google-apps-administrator's-username> -gapps-admin-password <google-apps-administrator's-password>` で実行します。
このユーティリティへのパスは、Linux システムの場合は `/usr/local/psa/bin/client`、Windows システムの場合は `C:\Program Files\Parallels\Plesk\bin\client.exe` です。

Miva e-コマースアプリケーションのサポートの有効化（Linux ホスティング）

顧客が Miva e-コマースソリューションを使えるようにするには、Miva Empresa パッケージを（Parallels Plesk Panel インストール時にインストールしていなければ）Parallels Plesk Panel ディストリビューションからサーバにインストールしてそれぞれのホスティングアカウントで Miva アプリケーションのサポートを有効にする必要があります。

Miva Fasttrack および Miva Merchant オンラインストアアプリケーションは Parallels Plesk Panel と一緒に標準ウェブアプリケーションとして出荷されており、コントロールパネルのアプリケーションヴォルトセクションからインストールすることができます（[ドメイン] > ドメイン名 > [ウェブアプリケーション]（[アプリケーションおよびサービス] グループ内）> [アプリケーションのインストール]）。ただし顧客が Miva をインストールするには Miva または Parallels からライセンスを取得してそのシリアル番号を指定する必要があります。

Miva ソリューションについて詳細は

http://docs.smallbusiness.miva.com/en-US/merchant/WebHost/webhelp/web_host_resources.htm をご参照ください。

➤ **Miva Empresa パッケージをインストールするには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [アップデート]（[ヘルプ & サポート] グループ内）に進みます。
2. ご使用の Parallels Plesk Panel バージョンに該当するショートカットをクリックします。例えば [Parallels Plesk Panel 9.5] です。
3. [Miva Empresa サポート] の項目を検索しその左側のチェックボックスを選択します。
4. [インストール] をクリックします。これで Miva Empresa サーバ環境がインストールされました。

➤ **新規に作成したすべてのホスティングアカウントについて Miva アプリケーションのサポートをドメインテンプレートを使用して有効にするには以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > [ドメインテンプレート] に進みます。
2. 必要なテンプレート名をクリックします。

3. [Mivaサポート] チェックボックスを選択し、[OK] をクリックします。

➤ **既存のホスティングアカウントについてMiva アプリケーションのサポートを有効にするには以下を実行してください。**

1. ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
2. 必要なドメイン名に対応するチェックボックスを選択して [修正] をクリックします。
3. [ホスティング] グループで [Mivaサポート] フィールドの左側の [スイッチオン] オプションをクリックします。
4. [OK] をクリックします。

➤ **個々のホスティングアカウントについてMiva アプリケーションのサポートを有効にするには以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [ウェブホスティング設定]（[ウェブサイト] グループ内）に進みます。
2. [Mivaサポート] チェックボックスを選択し、[OK] をクリックします。

サイトに Miva Fasttrack または Miva Merchant をインストールするには、「アプリケーションのインストール」の指示に従ってください。

Miva e-コマースアプリケーションのサポートの有効化（Windows ホスティング）

顧客による Miva e-コマースソリューションの使用を許可するには、サーバに Miva Empresa パッケージをインストールして各ホスティングアカウントの Miva アプリケーションのサポートを有効にする必要があります。ただし顧客が Miva をインストールするには Miva からライセンスを取得してそのシリアル番号を指定する必要があります。

➤ **サーバに Miva e-コマースアプリケーションのサポートをインストールするには以下を実行してください。**

1. Miva WebサイトからMiva Empresaパッケージをダウンロードしてサーバにインストールします。インストールの方法については http://docs.smallbusiness.miva.com/en-US/merchant/WebHost/webhelp/web_host_resources.htm をご参照ください。
2. Parallels Plesk Panel リコンフィグレータを実行して [ディスク権限の修正] タスクを実行します。

➤ **新規に作成したすべてのホスティングアカウントについてMiva アプリケーションのサポートをドメインテンプレートを使用して有効にするには以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > [ドメインテンプレート] に進み、必要なテンプレート名をクリックします。
2. [Mivaサポート] チェックボックスを選択し、[OK] をクリックします。

➤ **既存のホスティングアカウントについてMiva アプリケーションのサポートを有効にするには以下を実行してください。**

1. [ドメイン] に進み、必要なドメイン名に対応するチェックボックスを選択して [修正] をクリックします。
2. [ホスティング] グループで [Mivaサポート] フィールドの左側の [スイッチオン] オプションをクリックします。

3. [OK] をクリックします。

➤ **個々のホスティングアカウントについてMivaアプリケーションのサポートを有効にするには以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [Webホスティング設定]（[Webサイト] グループ内）に進みます。
2. [Mivaサポート] チェックボックスを選択し、[OK] をクリックします。

個々のホスティングアカウントで Miva サポートを有効にした後で、ホスティングオーナーは必要な Miva アプリケーションをインストールして使用することができます。Miva アプリケーションのインストール方法については

http://docs.smallbusiness.miva.com/en-US/merchant/WebHost/webhelp/web_host_resources.htm をご参照ください。

Miva ソリューションの詳細については<http://smallbusiness.miva.com/> をご参照ください。



ASP.NET の設定（Windows ホスティング）

ASP.NET は柔軟なツールセットであり、ASP.NET フレームワークに基づいた多数のアプリケーションの採用が可能になる Web 開発テクノロジーです。Parallels Plesk Panel はその .NET フレームワークのバージョン 1.1.x および 2.0.x の両方をサポートしており、その構成のほとんどを設定することができます。ASP.NET アプリケーションに望みどおりの機能を持たせるために ASP.NET の設定をカスタマイズする必要がある場合、そのほとんどは Parallels Plesk Panel 経由で編集することが可能です。


➤ **サーバ全体の ASP.NET の構成を設定するには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [ASP.NET設定]（[アプリケーション & サービス] グループ内）に進みます。ASP.NET 1.1.x および ASP.NET 2.0.x の設定は対応するタブに配置されています。
2. データベースを使用する ASP.NET アプリケーションのデータベース接続データを決定するストリングをセットアップします。このオプションは ASP.NET 2.0.x でのみ有効です。


初めて ASP.NET の構成ページを開くと共通構成を持つ接続パラメータのサンプルが表示されます。サンプルは削除して自分のストリングを指定することができます。

- スtringを追加するには、[名前] および [接続パラメータ] 入力フィールドに必要なデータを入力してその隣の  をクリックします。
- Stringを削除するには、その隣の  をクリックします。

3. [カスタムエラー設定] フィールドで、ASP.NETアプリケーションが返すカスタムエラーメッセージをセットアップします。

- カスタムエラーメッセージモードを設定するには [カスタムエラーモード] メニューから適切なオプションを選択します。
 - [オン] - カスタムエラーメッセージは有効です。
 - [オフ] - カスタムエラーメッセージは無効であるエラーの詳細が表示されます。
 - [リモートのみ] - カスタムエラーメッセージはリモートクライアントにのみ表示され、ASP.NET エラーはローカルホストに表示されます。
- 新規カスタムエラーメッセージ（[オフ] モードが選択されていない限り適用されます）を追加するには [ステータスコード] および [転送 URL] フィールドに値を入力して  をクリックします。
 - [ステータスコード] は HTTP ステータスコードを定義し、エラーページへ転送します。
 - [転送 URL] はクライアントのエラーについて情報を提供するエラーページの Web アドレスを定義します。

競合を避けるため、既存のエラーコードで新規カスタムエラーメッセージを追加することはできませんが、既存のコードで URL を再定義することはできます。

- リストからカスタムエラーメッセージを削除するには、その隣の  をクリックします。

4. [編集およびデバッグ] フィールドで編集の構成を設定します。

- プログラミング言語を動的編集ファイルのデフォルトに使用するには、[ページデフォルト言語] 一覧からエントリを選択します。
- リテールバイナリのコンパイルを有効にするには、[デバッグの有効化] チェックボックスを外したままにします。
- デバッグバイナリのコンパイルを有効にするには、[デバッグの有効化] チェックボックスを選択します。この場合、ソースコードにエラーがあるとそれが診断ページメッセージに表示されます。

注：アプリケーションをデバッグモードで実行すると、メモリやパフォーマンスのオーバーヘッドが発生します。デバッグはアプリケーションのテストに使用し、そのアプリケーションの実動段階ではデバッグは無効にすることをお勧め致します。

5. [グローバル設定] セクションで以下を実行して ASP.NET アプリケーションのエンコード構成を設定します。

- すべてのリクエストに対して適応されるエンコードを設定するには、エンコード値を [リクエストのエンコード] フィールドに入力します（デフォルトは utf-8 です）。

- すべての返答に対して適応されるエンコードを設定するには、エンコード値を**【返答のエンコード】** フィールドに入力します（デフォルトは utf-8 です）。
- デフォルトで .aspx や .asmx や .asax ファイルの解析に使用されるエンコードを設定するには、エンコード値を**【ファイルのエンコード】** フィールドに入力します（デフォルトは Windows-1252 です）。
- 着信する Web リクエストに対してデフォルトで使用される国別環境を設定するには、**【国別環境】** リストから適切な項目を選択します。
- 地域依存のリソース検索においてデフォルトで使用される国別環境を設定するには、**【UI 国別環境】** リストから適切な項目を選択します。

6. ASP.NETアプリケーションのCAS（コードアクセスセキュリティ）信用レベルを**【コードアクセスセキュリティ】** フィールドで設定します。

CAS 信用レベルはアプリケーション実行が割り当てられるセキュリティゾーンであり、アプリケーションがアクセスするサーバリソースを定義します。

重要： アセンブリが低すぎる信用レベルを割り当てた場合は正しく機能しません。 許可レベルの詳細については

http://msdn.microsoft.com/library/jp-jp/dnnetsec/html/THCMCh09.asp?frame=true#c09618429_010 をご参照ください。

7. クライアントセッションパラメータを**【セッション設定】** フィールドで設定します。

- アプリケーションのデフォルト認証モードをセットアップするには、**【認証モード】** 一覧から適切な項目を選択します。 IIS 認証のフォームを使用している場合は **【Windows】** 認証モードを選択してください。
- セッションが停止せずにアイドル状態でいられる時間をセットアップするには、適切な分数を**【セッションタイムアウト】** フィールドに入力します。

8. **【OK】** をクリックしてすべての変更を適用します。

注： Parallels Plesk Panel は .NET フレームワークの異なるバージョン（1.1.x および 2.0.x）の設定を別々にサポートしています。

IIS アプリケーションプールの設定 (Windows ホスティング)

IIS アプリケーションプールにはサーバでホスティングするドメインのすべての Web アプリケーションがあります。 専用 IIS アプリケーションプールによってクライアントは自分のドメインが使用する Web アプリケーション間の独立性の基準を持つことができます。 各専用アプリケーションプールは個別に動作しているため、あるクライアントのあるアプリケーションプールで発生したエラーは他のクライアントの他のアプリケーションプールで動作しているアプリケーションには影響を及ぼしません。

デフォルトでは Parallels Plesk Panel は貴社のすべてのクライアントおよびその顧客に共有アプリケーションプールを提供しています。しかしながら、管理者およびクライアントポリシーの許可があればクライアントおよびドメインは専用アプリケーションプールを使用することができます。

IIS アプリケーションプールは以下の 3 つのモードで動作します。

- 共有プールは常にすべてのクライアントおよびドメインに対して使用されます。
- 専用プールは常に各クライアントおよびドメインに対して使用されます。
- デフォルトでは共有プールがクライアントおよびドメインに対して使用され、クライアントはその顧客に専用プールを割り当てることができます。

➤ **IIS アプリケーションプールの動作モードを変更するには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [IISアプリケーションプール]（[アプリケーション & サービス]グループ内）に進みます。
2. [グローバル設定] タブを選択します。
3. 必要なモードを選択し [OK] をクリックします。

➤ **IIS アプリケーションプールが使用できる CPU リソースの量を制限するには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [IISアプリケーションプール]（[アプリケーション & サービス]グループ内）に進みます。
2. [CPUモニタリングのスイッチオン] チェックボックスを選択して [最大CPU使用量(%)] フィールドにCPU使用量の最大値をパーセントで入力します。
3. [OK] をクリックします。

➤ **サーバアプリケーションプールで動作するすべてのアプリケーションを停止するには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [IISアプリケーションプール]（[アプリケーション & サービス]グループ内）に進みます。
2. [停止] をクリックします。

➤ **アプリケーションプールのすべてのアプリケーションを開始するには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [IISアプリケーションプール]（[アプリケーション & サービス]グループ内）に進みます。
2. [開始] をクリックします。

➤ **アプリケーションプールで動作しているすべてのアプリケーションを再開するには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [IISアプリケーションプール]（[アプリケーション & サービス]グループ内）に進みます。
2. [リサイクル] をクリックします。これは、アプリケーションにメモリリークがあったり長時間動作すると不安定になったりする場合などに便利です。

共有 SSL の設定（Windows ホスティング）

共有 SSL は、SSL 認証を購入していないサイト所有者が SSL（セキュアソケットレイヤー）でサイトへのアクセスを保護するためのものです。共有 SSL を採用している SSL は、実際には他のドメインと共有している認証を使用しています。SSL 認証を共有しているドメインはマスター SSL ドメインと呼ばれています。

自分に属するあらゆるドメインを選択して、Web ホスティングアカウント設定における SSL サポートを有効にして、そのドメインに有効な SSL 証明書をインストールして、それがサーバでホスティングされている他の全ドメインのマスター SSL ドメインとなるようにできます。または、自分のユーザ（代理店またはクライアントアカウント）の 1 つに属するあらゆるドメインを選択して、Web ホスティングアカウント設定における SSL サポートを有効にして、そのドメインに有効な SSL 証明書をインストールして、それがこのユーザの全ドメインのマスター SSL ドメインとなるようにできます。

マスター SSL ドメインが割り当てられると、顧客はセキュアなアクセスが必要な各ドメインに共有 SSL リンクを追加する必要があります。

➤ **マスター SSL ドメインを設定しサーバの共有 SSL を有効にするには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [セキュリティ] グループタイトルメニュー > [共有SSL] に進みます。
2. [共有SSLをスイッチオンする] チェックボックスを選択します。
3. [ドメイン名] ドロップダウンメニューから必要なドメイン名を選択します。サーバでホスティングしておりSSLが有効になっているドメインだけが一覧に表示されます。
4. [OK] をクリックします。

➤ **マスター SSL ドメインを設定しユーザの共有 SSL を有効にするには以下を実行してください。**

1. 代理店アカウントに対しては、[代理店] > 代理店名 > [共有SSL]（[拡張ツール] グループ内）に進みます。クライアントアカウントに対しては、[クライアント] > クライアント名 > [共有SSL]（[拡張ツール] グループ内）に進みます。
2. [共有SSLをスイッチオンする] チェックボックスを選択します。

3. **【ドメイン名】** ドロップダウンメニューから必要なドメイン名を選択します。
このユーザでホスティングしておりSSLが有効になっているドメインだけがリストに表示されます。
4. **【OK】** をクリックします。

ドメインの共有 SSL リンクの追加について詳細は、「他のドメインと共有の SSL 証明書の使用」 (258 ページ)を参照してください。

➤ **サーバの共有 SSL を無効にするには以下を実行してください。**

1. **【ホーム】 > 【セキュリティ】 グループタイトルメニュー > 【共有SSL】** に進みます。
2. **【共有SSLをスイッチオンする】** チェックボックスの選択を外します。
3. **【OK】** をクリックします。

➤ **ユーザの共有 SSL を無効にするには以下を実行してください。**

1. 代理店アカウントに対しては、**【代理店】 > 代理店名 > 【共有SSL】**（**【拡張ツール】** グループ内）に進みます。 クライアントアカウントに対しては、**【クライアント】 > クライアント名 > 【共有SSL】**（**【拡張ツール】** グループ内）に進みます。
2. **【共有SSLをスイッチオンする】** チェックボックスの選択を外します。
3. **【OK】** をクリックします。

統計の設定

インストール後、コントロールパネルの統計ユーティリティは以下のように設定されます。

- 送受信のトラフィックをカウントする
- Web コンテンツ、ログファイル、データベース、メールボックス、Web アプリケーション、メーリングリストアーカイブ、バックアップファイルに使用されるディスク容量をカウントする
- Webalizer または AWstats プログラムが収集した Web 統計およびトラフィック統計は最後の 3 ヶ月間分だけ保存する

➤ **これらの設定を確認または調整するには、以下を実行してください。**

1. [設定] > [サーバ統計の設定]（[ログ&統計] グループ内）に進みます。
2. [システムプレファレンス] グループで、顧客のために帯域幅使用量統計をどのくらいの期間保存するかを指定します。
3. ディスク容量および帯域幅使用量の算出で考慮すべき項目を指定します。
4. [OK] をクリックします。

注：統計関連の設定以外に、この画面はサーバのホスト名を変更する方法や、ユーザが他のユーザの DNS ゾーン内に新しいサブドメインやドメインエイリアスを作成することを許可または禁止するオプション（[他のユーザの DNS スーパーゾーン内に DNS サブゾーンを作成しないようにする] チェックボックス）を提供します。このチェックボックスの選択が推奨されています。そうしないと、あるユーザが他のユーザのドメイン下にサブドメインを作成して Web サイトやメールアカウントを作成し、スパムやフィッシング詐欺や ID の盗用が可能になってしまうからです。

統計の表示について詳細は、「統計の表示」（387 ページ）の章をご覧ください。

メール通知システムの設定

コントロールパネルは管理者とその顧客にディスク容量および帯域幅の有効範囲をメール送信により通知します。ただしデフォルト設定では、ドメイン（Web サイト）の所有者は通知を受けません。ドメイン（Web サイト）の所有者も自分のドメインや Web サイトで何が起きているかを知る必要があるため、彼らへのリソース有効範囲の通知を有効にするようお勧め致します。

リソース有効範囲の他にも、以下の場合にコントロールパネルは適切なユーザへ通知を行うことができます。

- 新規のユーザアカウントを作成した時

- 新規のドメインを追加した時
- ホスティングアカウントが期限切れになった時（期限はユーザアカウントと Web サイトで別々に定義されます）
- ヘルプデスクで顧客から新規のサポート依頼（トラブルチケット）があった時
- サポートの依頼が処理されトラブルチケットがヘルプデスクでクローズされた時
- 既存のトラブルチケットに新規のコメントが投稿された時
- 顧客が同じ問題に再度直面したため、クローズしたトラブルチケットが再度オープンした時

➤ **通知システム設定を表示または変更するには、以下を実行してください。**


1. [ホーム] > [通知]（[ログ&統計] グループ内）に進みます。
2. [通知] テーブルのチェックボックスを選択し、イベントについて通知を受信するコントロールパネルユーザまたは外部メールユーザを指定します。
また、[ドメイン管理者] の列ですべてのチェックボックスを選択して、代理店の顧客に彼らの Web サイトで何が起きているかを通知するようお勧め致します。
3. デフォルトの通知テキストを表示または編集するには、[テキスト] の列でそれぞれの  アイコンをクリックします。
通知では、実際の値と置換されるタグを使用できます（以下の表を参照してください）。
4. ユーザアカウントとドメイン（Webサイト）をホスティングするアカウントの期限通知をいつ行うかを指定します。 デフォルトでは、通知は期限切れの10日前に行われます。 [OK] をクリックします。

表. 通知メッセージに使用されるタグ

イベントタイプ	通知に使用されるタグ	タグが意味するデータ
ユーザアカウントの作成	<client_contact_name> <reseller_contact_name> <user_contact_name>	ユーザの姓および名
	<client_login> <reseller_login> <user_login>	コントロールパネルで認証されるユーザ名
	<password>	コントロールパネルで認証されるユーザのパスワード

<code><client_company_name></code> <code><reseller_company_name></code> <code><user_company_name></code>	会社名
<code><client_cr_date></code> <code><reseller_cr_date></code> <code><user_cr_date></code>	ユーザアカウントの作成日
<code><client_phone></code> <code><reseller_phone></code> <code><user_phone></code>	電話番号
<code><client_fax></code> <code><reseller_fax></code> <code><user_fax></code>	ファックス番号
<code><client_country></code> <code><reseller_country></code> <code><user_country></code>	国
<code><client_state_province></code> <code><reseller_state_province></code> <code><user_state_province></code>	州（都道府県）
<code><client_city></code> <code><reseller_city></code> <code><user_city></code>	市
<code><client_postal_ZIP_code></code> <code><reseller_postal_ZIP_code></code> <code>></code> <code><user_postal_ZIP_code></code>	郵便番号

	<client_address> <reseller_address> <user_address>	住所
	<client_id> <reseller_id> <user_id>	システムが割り当てた固有の ID
	<hostname>	コントロールパネルアクセスのためのホスト名
ユーザアカウントの有効期限	<client_login> <reseller_login> <user_login>	コントロールパネルで認証されるユーザ名
	<client_contact_name> <reseller_contact_name> <user_contact_name>	ユーザの姓および名
	<client_expiration_date> <reseller_expiration_date> <user_expiration_date>	ユーザアカウントの有効期限
サーバへの新規ドメイン名の追加	<domain_name>	ドメイン名
	<client_login> <reseller_login> <user_login>	コントロールパネルで認証されるユーザ名
	<client_contact_name> <reseller_contact_name> <user_contact_name>	ユーザの姓および名
	<dom_id>	システムが割り当てた固有の ID
	<ip>	ドメインがホストされる IP アドレス

ドメイン（Web サイト）ホス ティングアカウ ントの有効期限	<domain_name>	ドメイン名
	<client_login> <reseller_login> <user_login>	コントロールパネルで認証 されるユーザ名
	<client_contact_name> <reseller_contact_name> <user_contact_name>	ユーザの姓および名
	<dom_id>	システムが割り当てた固有 の ID
	<domain_expiration_date>	ドメインのホスティングア カウントの有効期限
リソースの有効 範囲	<domain_name>	ドメイン名
	<client_login> <reseller_login> <user_login>	コントロールパネルで認証 されるユーザ名
	<client_contact_name> <reseller_contact_name> <user_contact_name>	ユーザの姓および名
	<disk_usage>	ディスク使用量の情報
	<disk_space_limit>	アカウントに割り当てられ るディスク容量に関する情 報
	<resource_table>	制限値に達したまたは達し そうなすべてのリソースに 関する情報
	<traffic>	帯域幅使用量に関する情報
	<traffic_limit>	アカウントに割り当てられ る帯域幅の量に関する情報

ヘルプデスクの イベント	<ticket_id>	システムにより自動的に割り当てられるトラブルチケット識別番号
	<reporter>	代理店や複数のドメインの顧客からリクエストが送信されるとそのユーザのユーザ名を、代理店の顧客（ドメイン所有者）からリクエストが送信されるとそのユーザのドメイン名を、そしてそのリクエストがメールにより送信された場合はそのユーザのメールアドレスを返します
	<server>	ホスト名
	<ticket_comment>	チケットまたは投稿されたコメントの内容

注：旧版の Parallels Plesk Panel をアップグレードした場合、以前使用していたカスタム通知テンプレートはすべて引き続き有効になります。ユーザアカウント階層やリソース利用超過スキームが変更されたため、あらゆるタイプのリソースを利用超過できるようになりました。従って、利用超過されたリソースに関する情報をすべて通知テンプレートに表示する場合は、`<disk_usage>`、`<disk_space_limit>`、`<traffic>`、および `<traffic_limit>` といった変数を使用する代わりに、`<resource_table>` という変数を 1 つ使用することを推奨しています。

ヘルプデスクの設定

ヘルプデスクは、顧客がサポートを必要としている時に貴社に連絡するのに便利な機能です。ヘルプデスクをセットアップして有効にしておくと、代理店、ドメイン所有者、メールユーザなど、コントロールパネルへのアクセスが許可されているすべてのユーザがヘルプデスクにアクセスできるようになります。さらに、問題レポートをメールで提出することを許可できます。

ヘルプデスクは代理店およびその顧客により投稿されたすべてのレポートを表示します。代理店のヘルプデスクには、その代理店および顧客から投稿されたレポートのみが表示されます。ドメイン所有者のヘルプデスクには、そのドメイン所有者およびそのドメインで管理されているメールユーザから投稿されたレポートのみが表示されます。

➤ ヘルプデスクを設定し、顧客が問題レポートをコントロールパネルから投稿できるようにするには、以下を実行してください。

1. [ヘルプデスク] > [一般設定] に進みます。
2. [ユーザにチケットの送信を許可する] チェックボックスを選択します。
3. デフォルトとして顧客に提供されるトラブルチケットのキュー、優先度、カテゴリを選択します。

新規のチケットを投稿する際に、ユーザはどのような方法で問題を解決（キュー）したいか、リクエストの優先度（優先度）、どのカテゴリに関連する問題か（カテゴリ）を指定できます。キュー、優先度、カテゴリは抽象エンティティです。これはシステムには影響を及ぼしませんが、最初にどの問題を解決すべきかを判断するのに役立ちます。それぞれ 3 つの事前定義済みのキューと優先度レベル、そして次の 9 つの事前定義済みのカテゴリ（データベース、DNS、FTP、一般、ホスティング、メール、メーリングリスト、Web アプリケーション、Tomcat Java）があります。これらの項目を削除して、自身の項目を追加することができます。

4. [ツール] グループの [スイッチオン] をクリックし、[OK] をクリックします。

➤ **すべてのユーザにメールによる問題レポート提出を許可するには、以下を実行します**

1. helpdesk@your-domain.comといったような任意のメールアドレスでPOP3メールボックスを作成します。
2. そのメールボックスから問題レポートを定期的を取得し、ヘルプデスクに投稿するよう、ヘルプデスクを設定します。
3. ヘルプデスクのメールアドレスを顧客に通知します。

➤ **すべてのユーザにメールによるヘルプデスクへの問題レポート提出を許可するには、以下を実行してください。**

1. [ヘルプデスク] > [メールゲート設定] に進みます。
 2. 以下の設定を指定します。
 - **通知送信者名および通知送信者の返信用アドレス。** ヘルプデスクに投稿されたレポートがメールにより取得されると、ヘルプデスクはレポートの送信者に受信通知を送信します。 レポート送信者はその受信通知に返信することにより、その後もレポートにコメントを追加できます。 従って、[通知の返信アドレス] ボックスでヘルプデスクのボックスでメールアドレスを指定し、「<company name> Help Desk」といったフレーズを[通知の送信者名] ボックスに入力するようお勧め致します。 <company name> には自分の組織の名称を入力し、引用符は含めないようにしてください。
 - **POP3 サーバ：** メールが取り出される POP3 サーバです。
 - **POP3 ログイン：** メールサーバで認証されるユーザ名です。
 - **新規 POP3 パスワード：** メールサーバでの認証およびメールボックスからの問題レポート取得時に使用されるパスワードです。
 - **POP3 パスワードの確認：** 確認のためにパスワードを再度入力します。
 - **次の頻度でメールを検索：** ヘルプデスクがどれくらいの頻度で新規のレポートを検索するのかを指定します。
 - **チケット件名の書き出し文字：** メールメッセージ件名（問題レポート）の書き出し文字の指定です。 これはスパムをフィルタリングするのに役立ちます。 件名に指定した文字の組み合わせを持たないメールメッセージは削除されます。
 3. [ツール] グループの [スイッチオン] をクリックし、[OK] をクリックします。
- **キューを表示、追加、編集または削除するには、以下を実行してください。**

1. **【ヘルプデスク】 > 【キュー】**に進みます。キューがリストに表示されます。

- 新規のキューを追加するには**【新しいキューの追加】**をクリックし、**【タイトル】**ボックスに任意の数字を入力し、**【スイッチオン】**チェックボックスを選択したままで**【OK】**をクリックします。
- キューを編集するには、**【タイトル】**列内のタイトルをクリックします。必要に応じて編集し**【OK】**をクリックします。
- 新規のレポートを投稿する際にユーザが一時的にキューを選択できないようにするには、**【タイトル】**列内のタイトルをクリックして**【スイッチオン】**チェックボックスの選択を外し、**【OK】**をクリックします。
- キューを削除するには、該当するチェックボックスを選択して**【削除】**をクリックします。

➤ **優先度を表示、追加、編集または削除するには、以下を実行してください。**

1. **【ヘルプデスク】 > 【優先度】**に進みます。優先度がリストに表示されます。

- 新規の優先度を追加するには**【優先度の追加】**をクリックし、**【タイトル】**ボックスに任意の文字列を入力し、**【スイッチオン】**チェックボックスを選択したままで**【OK】**をクリックします。
- 優先度を編集するには、**【タイトル】**列内のタイトルをクリックします。必要に応じて編集し**【OK】**をクリックします。
- 新規のレポートを投稿する際にユーザが一時的に優先度を選択できないようにするには、**【タイトル】**列内のタイトルをクリックして**【スイッチオン】**チェックボックスの選択を外し、**【OK】**をクリックします。
- 優先度を削除するには、該当するチェックボックスを選択して**【削除】**をクリックします。

➤ **カテゴリを表示、追加、編集または削除するには、以下を実行してください。**

1. **【ヘルプデスク】 > 【カテゴリ】**に進みます。カテゴリがリストに表示されます。

- 新規のカテゴリを追加するには**【新しいカテゴリの追加】**をクリックし、**【タイトル】**ボックスに任意の文字列を入力し、**【スイッチオン】**チェックボックスを選択したままで**【OK】**をクリックします。
- カテゴリを編集するには、**【タイトル】**列内のタイトルをクリックします。必要に応じて編集し**【OK】**をクリックします。
- 新規のレポートを投稿する際にユーザが一時的にカテゴリを選択できないようにするには、**【タイトル】**列内のタイトルをクリックして**【スイッチオン】**チェックボックスの選択を外し、**【OK】**をクリックします。

- カテゴリを削除するには、該当するチェックボックスを選択して【削除】をクリックします。

➤ **顧客にメールによるヘルプデスクへのレポート提出を許可しないようにするには、以下を実行してください。**

1. 【ヘルプデスク】 > 【メールゲート設定】に進みます。
2. 【ツール】グループの【スイッチオフ】をクリックします。

➤ **すべての顧客および代理店にヘルプデスクの使用を許可しないようにするには、以下を実行してください。**

1. 【ヘルプデスク】 > 【一般設定】に進みます。
2. 【ツール】グループの【スイッチオフ】をクリックします。

「ヘルプデスクを使用した顧客の問題の解決」(360 ページ)のセクションもご参照ください。

システム日時の調整

インターフェースから手動でサーバの日時を設定し、サーバの時間をネットワークタイムプロトコル（NTP）サーバと同期させることができます。

➤ **システム日時の設定を調整するには、以下を実行してください。**

1. 【設定】 > 【システム時間】（【一般】グループ内）に進みます。
2. 時間と日付の設定を必要に応じて変更して、タイムゾーンを選択します。

タイムゾーンの変更を有効にするには、Parallels Plesk Panel サーバを再起動する必要があります。

Parallels Plesk Panel for Windows のユーザに対する注意事項： Parallels Plesk Panel による夏時間への自動調整を行いたくない場合は【自動的に夏時間調整する】チェックボックスを外してください。

3. ネットワークタイムプロトコルを実行しているサーバのサーバ時間と同期をとるには【システム時間の同期をとる】チェックボックスを選択して、有効な IP アドレスまたはドメイン名を指定します。 利用可能な NTP サーバの一覧については、
<http://ntp.isc.org/bin/view/Servers/WebSearch?search=open+access&scope=text> をご参照ください。





4. [OK] をクリックします。

注：[システム時間を同期する] 機能を有効にすると、手動で[システム日時] フィールドに入力した日時はすべて上書きされます。 入力するドメイン名もしくは IP アドレスが正しい NTP サーバのものであることを確認することも重要です。 これが間違っていた場合は、この機能は働かず、サーバは現在の時間設定のまま稼動し続けます。


サービスの起動、停止、再起動

Parallels Plesk Panel のさまざまなサービスをコントロールパネルから監視、起動、停止、再起動し、さらに始動タイプを変更することができます（Windows ホスティングに限り使用可能）。


➤ サービスのステータスを確認するには、以下を実行してください。

1. [ホーム] > [サービス管理]（[サーバ] グループ内）に進みます。
2. サービスグループのすべてのサービスを表示するには[すべて表示]をクリックします。すべてのサービスを非表示にするには[すべて隠す]をクリックします。サービスまたはサービスグループの現在のステータスは以下のアイコンで示されます。
 - はそのサービスまたはグループ内のすべてのサービスが稼働していることを意味します。
 - はそのサービスまたはグループ内のすべてのサービスが停止していることを意味します。
 - はグループ内のサービスがいくつか稼働しておりいくつか停止していることを意味します。
 - はサービスがインストールされていないか、またはライセンスキーがその管理機能をサポートしていないことを意味します。
 - [スタートアップタイプ] フィールドで、サービスが自動的に開始されるのか手動で開始しなければならないのかが分かります。


➤ サービスを開始するには以下を実行してください。

1. [ホーム] > [サービス管理]（[サーバ] グループ内）に進みます。
2. 開始するサービスに対応する  アイコンをクリックします。



➤ サービスを再開するには以下を実行してください。

1. [ホーム] > [サービス管理]（[サーバ] グループ内）に進みます。
2. 再開するサービスに対応する  アイコンをクリックします。


➤ サービスを停止するには以下を実行してください。

1. [ホーム] > [サービス管理]（[サーバ] グループ内）に進みます。
2. 停止するサービスに対応する  アイコンをクリックします。







➤ サービス開始タイプを設定するには以下を実行してください。

1. [ホーム] > [サービス管理]（[サーバ] グループ内）に進みます。
2. 一覧から必要なサービスに対応するチェックボックスを選択します。
3. 必要な始動タイプを選択します。
 - Parallels Plesk Panel 起動時に手動でサービスを開始するには  [手動] をクリックします。
 - Parallels Plesk Panel 起動時に自動でサービスを開始するには  [自動] をクリックします。

➤ サービスを無効にするには以下を実行してください。

1. [ホーム] > [サービス管理]（[サーバ] グループ内）に進みます。
2. 一覧から必要なサービスに対応するチェックボックスを選択します。
3.  [無効] をクリックします。

➤ サービスグループを変更するには以下を実行してください。

1. [ホーム] > [サービス管理]（[サーバ] グループ内）に進みます。
2. 一覧から必要なサービスに対応するチェックボックスを選択します。
3. 選択したサービスに対して実行したいアクションに対応するボタンをクリックします。
 - a. 選択したサービスを始動するには  [起動] をクリックします。
 - b. 選択したサービスを停止するには  [停止] をクリックします。
 - c. 再開したサービスを停止するには  [再起動] をクリックします。
 - d. 選択したサービスを無効にするには  [無効] をクリックします。
 - e. Parallels Plesk Panel 起動時に手動でサービスを開始するには  [手動] をクリックします。
 - f. Parallels Plesk Panel 起動時に自動でサービスを開始するには  [自動] をクリックします。

Web サービス中断の危険性を削減するための Web サーバのパイプログの有効化（Linux ホスティング）

300 以上ものドメインや Web サイトを自分のサーバ上でホスティングする場合、Apache Web サーバのパイプログを有効にする必要があります。それには以下を実行してください。

1. サーバシェルにログインします。
2. コマンド `mysql -uadmin -p'cat /etc/psa/.psa.shadow' -D psa -e "replace into misc (param,val) values ('apache_pipelog', 'true');" を実行します。`
3. コマンド `/usr/local/psa/admin/sbin/websrvmng -a -v` を実行して Apache 設定を再構築します。

すると約 900 ドメイン/Web サイトをホスティングできるようになります。900 ドメイン /Web サイト以上必要な場合は、<http://kb.parallels.com/en/260> のオンライン知識ベース（英語）の内容に従って Apache などのシステムパッケージをリコンパイルする必要があります。

メールサーバメッセージキューおよび トラブルシューティングメール混雑の モニタリング (Linux ホスティング)

顧客からメールサーバ経由でメールが送信できないと苦情が来た場合、それはメールサーバが過負荷で受信メッセージの量に対応できていないことを意味します。誰かがメールサーバからスパムを送ったり、メール送信の qmail 送信デーモンがおちているときに起こることがあります。

メールサーバを通常の状態に戻すには、メールサーバのメッセージキューの不要なメッセージを削除します。

メッセージキューのメッセージを見てそれを削除するには以下を実行してください。

1. **[ホーム] > [メールサーバ設定] ([サーバ] グループ内) > [メールキュー]** タブに進みます。 次の情報が表示されます。
 - 配送されなかったメッセージの総数。メッセージがメールサーバに到着するとまずメインキューに追加されます。それからメールサーバの事前プロセスが、メッセージを同じサーバ上のローカルメールアカウントに配送するのかりモート受信用のメールアドレスに配送するのかを判断します。事前プロセスのあと、ローカルメール受信宛てメッセージはローカルキューに置かれ、リモート受信宛てメッセージはリモートキューに置かれます。配送されるとメッセージはキューから削除されます。
 - メッセージプロパティ： 件名、送信元、宛先、キュータイプ（ローカル、リモート、事前処理がされていない）、メッセージがユーザのコンピュータから送信された日、メッセージがキューに置かれてからの時間、メッセージサイズ。
2. 特定の件名のメッセージを見つけるには、**[キュー]** ドロップダウンボックスでキューを選択し、見つけたい文字列を**[件名]** ボックスに入力し、**[検索]** をクリックします。検索基準と合致するメッセージが画面の下にリストされます。フィルターをリセットするには**[すべて表示]** をクリックします。
3. 特定の送信元からのメッセージを見つけるには**[高度な表示]** リンクをクリックしてメールアドレスを**[送信元]** ボックスに入力して**[検索]** をクリックします。検索基準と合致するメッセージが画面の下にリストされます。フィルターをリセットするには**[すべて表示]** をクリックします。
4. 特定の宛先へのメッセージを見つけるには**[高度な表示]** リンクをクリックしてメールアドレスを**[宛先]** ボックスに入力して**[検索]** をクリックします。検索基準と合致するメッセージが画面の下にリストされます。フィルターをリセットするには**[すべて表示]** をクリックします。

5. メッセージを日や経過時間やサイズで見つけるには **【高度な表示】** リンクから必要な値をそれぞれ **【日】**、**【経過時間】**、または **【サイズ】** ボックスに入力して **【検索】** をクリックします。 検索基準と合致するメッセージが画面の下にリストされます。 フィルターをリセットするには **【すべて表示】** をクリックします。
6. メッセージをキューから削除するには、該当するチェックボックスを選択して **【削除】** をクリックします。 すべてのメッセージをキューから削除するには、メッセージリストの右上隅のチェックボックスを選択して **【削除】** をクリックします。

Crontab によるタスクのスケジューリング (Linux ホスティング)

特定の時間にサーバでスクリプトを実行する必要がある場合、システムで自動的にスクリプトが実行されるタスクスケジューラ機能をサーバで実行します。

重要: ユーザ「root」の代わりにコントロールパネルユーザによるタスクのスケジューリングを禁止するには、サーバのファイルシステムの

/parallels_plesk_panel_installation_directory/var/ に
root.crontab.lock という名前の空のファイルを作成します。

Parallels Plesk Panel のインストール時に、以下のタスクが自動的に作成されます。

- autoreport.php - クライアントおよびドメインに毎日、毎週、毎月配送されます (3 つの別々のタスク)
- backupmng - 30 分ごとにドメインのスケジュールされたバックアップを開始
- statistics - トラフィックやディスク容量などの、ドメインの制限に関する統計を生成
- mysqldump.sh - 3 つの MySQL データベース (psadump、MySQL、Horde データベース) のバックアップコピーを作成

これらのタスクはすべてドメイン統計やデータベースやレポートに関連しているため、これらのタスクは変更したり削除したりしないことをお勧め致します。

注: ドメインベースごとにタスクのスケジューリングを行うこともできます。それには以下と同じ手順を踏みますが、ただし [設定] > [スケジューリング済みタスク] に進む代わりに [ドメイン] > [ドメイン名] > [スケジューリング済みタスク] に進んでください。

➤ **タスクをスケジューリングするには、以下の操作を実行します。**

1. [設定] > [スケジュールタスク] ([一般] グループ内) に進みます。
2. ハンドラを実行するシステムユーザアカウントを選択します。
3. [新しいタスクのスケジュール] をクリックします。
4. コマンドを実行する時間を指定します。
 - 分 - 0~59 の値を入力
 - 時 - 0~23 の値を入力
 - 日 - 1~31 の値を入力
 - 月 - 1~12 の値を入力するか、ドロップダウンボックスから月を選択
 - 曜日 - 0~6 (日曜日が 0) の値を入力するか、ドロップダウンボックスから曜日を選択

UNIX クロージャエントリ形式を使用して、時間をスケジュールできます。この形式では、次の作業を実行できます。

- 複数の値をコンマ区切りで入力します。ハイフンで区切った2つの数字は、包括的範囲を意味します。例えば、ある月の4日、5日、6日、20日にタスクを実行するには、「4-6,20」と入力します。
 - アスタリスクを挿入すると、そのフィールドに入力できるすべての値を指定できます。例えば、タスクを毎日実行するには、[日] テキストボックスに「*」と入力します。
- N ごとに実行するようにタスクをスケジュールするには、「*/N」の組み合わせを入力します。Nはそのフィールドの適切な値です（分、時、日、月）。例えば、[分] フィールドに「*/15」を入力すると、15分ごとに起動するようにタスクがスケジュールされます。
- 月および週は省略名（Aug、Jul、Mon、Satなどの最初の3文字）で入力できます。ただし、省略名はコンマで区切ったり、数字と一緒に指定することができません。

5. 実行するコマンドを指定します。 [コマンド] 入力ボックスに入力します。

例えば、バックアップ作成タスクを指定した時間に実行して、バックアップファイルをメールアドレスに送信するには、次のコマンドを「コマンド」入力ボックスに指定する必要があります。

```
/usr/local/psa/admin/sbin/backupmng
```

6. [OK] をクリックします。

➤ **スケジュールされたタスクの実行を一時的に中断するには以下を実行します。**

1. [設定] > [スケジュールタスク]（[一般] グループ内）に進みます。
2. タスクが実行されたシステムユーザアカウントを選択します。
3. 中断するタスクを選択し、そのコマンド名をクリックします。
4. [スイッチオン] チェックボックスを解除し、[OK] をクリックします。

➤ **スケジュールされたタスクを再開するには以下を実行します。**

1. [設定] > [スケジュールタスク]（[一般] グループ内）に進みます。
2. タスクが実行されたシステムユーザアカウントを選択します。
3. 実行を再開したいタスクを選択し、そのコマンド名をクリックします。
4. [スイッチオン] チェックボックスを選択し、[OK] をクリックします。

➤ **タスクをキャンセルするには、以下の操作を実行します。**

1. **【設定】 > 【スケジュールタスク】**（**【一般】**グループ内）に進みます。
2. タスクが実行されたシステムユーザアカウントを選択します。
3. スケジューリングを解除するタスクの左側のチェックボックスを選択します。
4. **【削除】** をクリックします。
5. 削除を確認して **【OK】** をクリックします。

Windows タスクスケジューラによるタスクのスケジューリング（Windows ホスティング）

特定の時間にサーバでスクリプトを実行する必要がある場合、システムで自動的にスクリプトが実行されるタスクスケジューラ機能をサーバで実行します。

Parallels Plesk Panel のインストール時に、以下のタスクが自動的に作成されます。

- Dr.Web アンチウィルスの更新 - Dr.Web アンチウィルスを更新します。
- 統計計算 - トラフィックやディスク容量などのリソース使用量の統計を生成します。

これらのタスクはすべてドメイン統計やデータベースやレポートに関連しているため、これらのタスクは変更したり削除したりしないことをお勧め致します。

注：ドメインベースごとにタスクのスケジューリングを行うこともできます。それには以下と同じ手順を踏みますが、ただし [設定] > [スケジューリング済みタスク] に進む代わりに [ドメイン] > [ドメイン名] > [スケジューリング済みタスク] に進んでください。

➤ タスクをスケジューリングするには、以下の操作を実行します。

1. [設定] > [スケジュールタスク]（[一般] グループ内）に進みます。
2. [新しいタスクのスケジュール] をクリックします。
3. スケジュール済みタスクを作成後すぐに有効にするには、[スイッチオン] チェックボックスを選択したままにしておきます。
4. [説明] フィールドにタスクの名前を入力します。
5. [スケジューラからの通知] でスケジューラがタスクを実行したときにそれを通知するかどうかを指定します。以下のオプションをご利用いただけます。
 - [スイッチオフ] - 通知しません。
 - [デフォルトメールに送信] - デフォルトメールアドレスに通知を送信します。
 - [指定するメールアドレスに送信] - 対応するフィールドで指定したメールアドレスに通知を送信します。このオプションを選択したら、右側のフィールドにメールアドレスを入力する必要があります。

[設定] をクリックしてスケジューラ通知設定を保存します。
6. 実行するコマンドを指定します。[実行ファイルへのパス] 入力ボックスに入力します。オプションとともにコマンドを実行する必要がある場合は、それを [引数] フィールドに入力します。

- 例えば、ディスク容量をカウントして example.com および example.net ドメインの詳細を見るために統計計算タスクを実行する場合、**【実行ファイルへのパス】** 入力ボックスに以下のパスを指定する必要があります。

C:\Program Files\Parallels\Plesk\admin\bin\statistics.exe

そして以下のオプションを**【引数】** フィールドに入力します。

• disk-usage-process-domains=example.com, example.net
-verbose

- 自分の php スクリプトをタスクスケジューラを用いて実行するには、以下のパスを**【実行ファイルへのパス】** 入力ボックスに指定する必要があります。

C:\Program Files
(x86)\Parallels\Plesk\Additional\PleskPHP5\php.exe

そしてそのスクリプトの場所を**【引数】** フィールドに入力します。

C:\Inetpub\vhosts\mydomain.tld\httpdocs\myscript.php

7. **【タスクの優先順位】** フィールドで適切な優先度を選択します。タスクの優先順位は**【低】**か**【中】**か**【高】**に設定できます。
8. **【時】**、**【日】**、**【月】**、**【曜日】** フィールドから適切なチェックボックスを選択して、コマンドをいつ実行するかを指定します。
9. **【OK】** をクリックしてタスクをスケジューリングするか、**【今すぐ実行する】** をクリックしてタスクをスケジューリングしてすぐに実行します。

➤ **スケジューリングされたタスクの実行を一時的に中断するには以下を実行します。**

1. **【設定】** > **【スケジュールタスク】**（**【一般】** グループ内）に進みます。
2. 中断するタスクを選択し、そのコマンド名をクリックします。
3. **【スイッチオン】** チェックボックスの選択を外します。

➤ **スケジューリングされたタスクを再開するには以下を実行します。**

1. **【設定】** > **【スケジュールタスク】**（**【一般】** グループ内）に進みます。
2. 実行を再開したいタスクを選択し、そのコマンド名をクリックします。
3. **【スイッチオン】** チェックボックスを選択します。

➤ **タスクをキャンセルするには、以下の操作を実行します。**

1. [設定] > [スケジュールタスク]（[一般]グループ内）に進みます。
2. スケジューリングを解除するタスクの左側のチェックボックスを選択します。
3. [削除] をクリックします。
4. 削除を確認して [OK] をクリックします。

モジュールによる Parallels Plesk Panel 機能の拡張 (Linux ホスティング)

Parallels Plesk Panel の当バージョンでは、アップグレードしなくてもコントロールパネルの機能性を拡張することができます。それには、Parallels またはサードパーティが開発したモジュールで追加の機能を持ったコンポーネントをインストールします。

モジュールは簡単にインストールおよび削除ができ、直接コントロールパネルから設定できます。

このモジュールは自己解凍型シェルスクリプトである単一 RPM パッケージもしくはオペレーティングシステムに合ったその他の形式で提供されます。モジュールをコマンドラインからインストールすることもできます。コントロールパネルでモジュールをサーバにインストールすると、モジュール構成画面が表示されます。

以下のモジュールを Parallels Plesk Panel 9 でご利用いただけます。

Acronis True Image サーバ管理モジュール - サーバオペレーションを停止せずにサーバディスクのバックアップイメージを作成し、システム全体を簡単かつ素早く復元することが可能です。このモジュールは無料ですが、Acronis True Image サーバアプリケーションにはライセンスキーが必要です。ライセンスキーは Parallels Plesk Panel から購入およびインストールできます。

***Battlefield 2 ゲームサーバモジュール** - Battlefield 2 ゲームサーバをインストールおよび管理できます。

***Counter-Strike ゲームサーバモジュール** - ゲームを作成および管理するための Half-Life: Counter-Strike をインストールおよび更新できます。

ファイアウォールモジュール - 無認可のアクセスからホストおよびプライベートネットワークを守ります。

Kaspersky アンチウイルスモジュール - メールトラフィックをウイルススキャンし、メールの添付をフィルタリングします。

Samba Fileserver 構成モジュール - SMB ネットワークのディレクトリ共有に有効です。

仮想プライベートネットワークモジュール - インセキュアなチャネル上でセキュアなネットワークを構築します。

Watchdog モジュール - Parallels Plesk Panel サービスをモニターしてサーバのセキュリティ脆弱性をスキャンします。

アスタリスク (*) の付いた Parallels Plesk Panel モジュールのご利用には追加ライセンスキーのインストールが必要です。

FreeBSD システムで Parallels Plesk Panel をインストールするとすべてのモジュールはデフォルトでインストールされます。RPM/Deb パッケージベースのシステムで Parallels Plesk Panel をインストールするとインストールしたいモジュールを選択することができます。

このセクションの内容:

モジュールのインストール	145
モジュールの設定および管理	145
モジュールの削除	147

モジュールのインストール

モジュールを Parallels Plesk Panel サーバにインストールするには2つの方法があります。コントロールパネルから（推奨）とコマンドラインからです。

➤ **コントロールパネルからモジュールをインストールするには以下を実行してください。**

1. コントロールパネルに管理者でログインします。
2. ナビゲーションペインの【モジュール】ショートカットをクリックします。
3. 【管理モジュール】をクリックします。
4. 【新しいモジュールを追加】をクリックします。
5. モジュールパッケージを選択して【OK】をクリックします。

➤ **コマンドラインからモジュールをインストールするには以下を実行してください。**

1. Parallels Plesk Panelがインストールされているサーバにrootでログインします。

2. コマンド

`/parallels_plesk_panel_installation_directory/admin/bin/modulemng-install-file=<module_filename>` を実行します。ここで「`parallels_plesk_panel_installation_directory`」はParallels Plesk Panelをインストールしているディレクトリです。

例：

```
/usr/local/psa/admin/bin/modulemng-install-file=cs-gs-1.0.0-rh9.build72041021.16.i586.rpm
```

注： Parallels Plesk Panel に付随するすべてのモジュールは Parallels Plesk Panel ディストリビューションの `/opt/modules` にあります。

モジュールの設定および管理

モジュールの使用を開始する前にそれを設定する必要があります。設定手順は各モジュールによって異なります。コントロールパネルでモジュールをサーバにインストールすると、モジュール設定画面が表示されます。コマンドラインでモジュールをサーバにインストールすると、Parallels Plesk Panel 経由で設定しなければなりません。




➤ **モジュール設定画面にアクセスするには以下を実行してください。**

- ナビゲーションペインで **【モジュール】** ショートカットを選択し、モジュール名の付いたボタンをクリックします。

または

- ナビゲーションペインで **【モジュール】** ショートカットを選択し、**【モジュールの管理】** をクリックします。モジュールのリストでリンクとして提供されているモジュール名をクリックします。

使用にライセンスキーのインストールが必要なモジュールもいくつかあります。使用期間を調べるには、モジュール製造業者の Web サイトか、コントロールパネルの **【モジュール管理】** 画面をご参照ください。インストールされた各モジュールにはアイコンを伴った対応するリストエントリがあり、ライセンスキーが必要かどうかを表示しています。以下を示す 3 種類のアイコンがあります。

-  - モジュールはライセンスキーを必要としません
-  - モジュールはライセンスキーを必要としており、そのキーはインストール済みです
-  - モジュールはライセンスキーを必要としますが、そのキーはインストールされていません

Parallels が提供するモジュールがライセンスキーを必要とする場合は、ライセンスマネージャ機能を利用して Parallels から入手できます。それ以外の場合は、モジュールのライセンスキーのインストールに関する情報をモジュール製造業者から入手してください。

モジュールの削除

Parallels Plesk Panel からモジュールを削除するには2つの方法があります。コントロールパネルから（推奨）とコマンドラインからです。

➤ **コントロールパネルを使用してモジュールを削除するには以下を実行してください。**

1. コントロールパネルに管理者でログインします。
2. ナビゲーションペインの【モジュール】ショートカットをクリックします。
3. 【管理モジュール】をクリックします。
4. 削除するモジュールに対応するチェックボックスを選択し、【削除】をクリックします。

➤ **コマンドラインからモジュールを削除するには以下を実行してください。**

1. Parallels Plesk Panelがインストールされているサーバにrootでログインします。
2. コマンド
`/parallels_plesk_panel_installation_directory/admin/bin/modulemng-remove-module=<module_codename>` を実行します。

例：

```
/usr/local/psa/admin/bin/modulemng-remove-module=cs-gs
```

以下のコマンドを実行してモジュールのコードネームを調べることができます。

```
# echo "SELECT name, display_name FROM psa.Modules;" | mysql -u admin -p<admin_password> psa
```

テクニカルサポートエンジニアへの管理特権の委託（Windows ホスティング）

テクニカルサポートエンジニアが多種多様な無制限の管理タスクを仮想的に実行できるように、追加の管理者レベルアカウントを作成することができます。追加の Parallels Plesk Panel 管理者アカウントで実行されたすべてのアクションはログに残されており、そのため実際の Parallels Plesk Panel 管理者はかつてないほどの水準で追加の管理者アカウントのアクティビティをコントロールすることができます。追加の管理者レベルアカウントには実際のサーバ管理者が持っている権限のうち、下記以外のすべての権限が仮想的にあります。

- 他のユーザに属する追加の管理者アカウントの表示および管理
- 管理者アカウント設定の表示および管理
- アクションログの消去

このセクションの内容:

追加の管理者アカウントの作成	148
追加の管理者アカウントの変更	149
追加の管理者アカウントの中断および中断解除	150
追加の管理者アカウントの削除	150

追加の管理者アカウントの作成

➤ **追加の管理者アカウントを作成するには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [アカウント] グループタイトルメニュー > [拡張管理者アカウント] に進みます。
2. [新しい管理者サブアカウントの追加] をクリックします。
3. 管理者アカウントプロパティを指定します。
 - 該当フィールドでアカウントログイン名、パスワード、メールアドレスを指定します。
 - [連絡先] フィールドで追加管理者アカウントユーザの名前を指定します。
 - この特定の追加管理者アカウントおよびそのユーザについてコメントがあれば [コメント] フィールドに入力します。これはアカウントを区別するのに有効です。例えば、1つのアカウントをクライアントアカウントを管理するテクニカルサポートエンジニア用に作成し、もう1つのアカウントをメール関連すべてを担当するテクニカルサポートエンジニア用に作成することができます。[コメント] フィールドに適切なコメントを入力しておけば、誰が何をしているのか一目で分かり混乱を避けることができます。
4. [OK] をクリックして追加管理者アカウントの作成を終了します。

これでアカウントのログイン名およびパスワードをその所有者に通知することができます。

追加の管理者アカウントの変更

➤ **追加の管理者アカウントを変更するには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [アカウント] グループタイトルメニュー > [拡張管理者アカウント] に進みます。
2. リストから追加の管理者アカウントログインをクリックします。
3. 新しい管理者アカウントプロパティを指定します。
 - 該当フィールドで新しいアカウントログイン名、パスワード、メールアドレスを指定します。
 - **【連絡先】** フィールドで新しい追加管理者アカウントユーザの名前を指定します。
 - この特定の追加管理者アカウントおよびそのユーザについてコメントがあれば**【コメント】** フィールドに入力します。これはアカウントを区別するのに有効です。例えば、1つのアカウントをクライアントアカウントを管理するテクニカルサポートエンジニア用に作成し、もう1つのアカウントをメール関連すべてを担当するテクニカルサポートエンジニア用に作成することができます。**【コメント】** フィールドに適切なコメントを入力しておけば、誰が何をしているのか一目で分かり混乱を避けることができます。
4. **【OK】** をクリックして追加管理者アカウント情報を更新します。

追加の管理者アカウントの中断および中断解除

➤ **追加の管理者アカウントを中断するには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [アカウント] グループタイトルメニュー > [拡張管理者アカウント] に進みます。
2. リストから追加の管理者アカウントログインをクリックします。
3. [コントロールパネルへのアクセスを許可する] チェックボックスの選択を外して [OK] をクリックします。

➤ **追加の管理者アカウントの中断を解除するには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [アカウント] グループタイトルメニュー > [拡張管理者アカウント] に進みます。
2. リストから追加の管理者アカウントログインをクリックします。
3. [コントロールパネルへのアクセスを許可する] チェックボックスを選択して [OK] をクリックします。

追加の管理者アカウントの削除

➤ **追加の管理者アカウントを削除するには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [アカウント] グループタイトルメニュー > [拡張管理者アカウント] に進みます。
2. 削除する追加の管理者アカウントに対応するチェックボックスを選択し、[削除] をクリックします。
3. 削除を確認して [OK] をクリックします。

第 5 章

顧客へのサービス

この章では、ユーザアカウント、Web サイト、メールアカウントの設定と管理に関する詳細な手順を示します。

この章の内容:

顧客へのサービス提供を開始する前に.....	152
ユーザアカウントの管理.....	179
Web サイトのホスティング.....	200
ヘルプデスクを使用した顧客の問題の解決.....	360

顧客へのサービス提供を開始する前に

ここでは、顧客にサービスを提供する前に実行すべき事柄についてご説明致します。

このセクションの内容:

ユーザアカウントの設定の簡略化	153
ドメインおよびウェブサイトの設定の簡略化	164
顧客が使用できるパッケージ済みアプリケーション	171
新規 Web サイトのコンテンツの事前定義	177
顧客のデフォルトホームページ設定の事前定義	178

ユーザアカウントの設定の簡略化

サービスに対して新規ユーザを登録する前に、リセラーアカウントテンプレートおよびクライアントアカウントテンプレートと呼ばれるアカウント構成プリセットを作成する必要があります。それによって、新規顧客のユーザアカウントの設定が簡単になります。このテンプレートは、すべてのリソース使用の割り当て、ユーザアカウントに定義できる権限と制限を対象とします。事前定義済みの、リセラーアカウントテンプレートおよびクライアントアカウントテンプレートがあります。それらを好きなように変更して使用することも、独自のテンプレートを作成することもできます。デフォルトテンプレートは削除できません。

➤ リセラーアカウントテンプレートを作成するには、以下を実行してください。

1. [リセラー] > [リセラーアカウントテンプレート] > [リセラーアカウントテンプレートの作成] に進みます。
2. 以下の設定を指定します。
 - **テンプレート名。** このテンプレートの名前を指定します。新規リセラーアカウントの設定の間に、必要なテンプレートを名前で選択するように要求されます。したがって、ホスティングプランのいずれかに対応する、または割り当てられたリソース量を記述する意味のある名前を選択することが推奨されています。例えば、**Reseller account**、**50 GB disk space**、**100 domains** などです。
 - **その他のユーザでも利用できるようにこのテンプレートを変更する。** 顧客がこのテンプレートを利用できるようにするには、このオプションを選択します。
 - **コントロールパネルへのアクセス。** これを選択すると、リセラーがコントロールパネルにアクセスして自分のアカウント、ユーザアカウント、およびサイトを管理できるようになります。
 - **クライアントアカウントの作成。** これを選択すると、リセラーはユーザアカウントを作成できます。
 - **ドメイン作成および物理ホスティング管理。** これら2つのオプションを選択すると、リセラーは新規サイト用のホスティングアカウントのセットアップ、ホスティングアカウント機能の変更、およびプログラミングとスクリプト言語のサポートの切り替えができます。
 - **ホスティングパフォーマンス管理。** リセラーが帯域幅使用量およびウェブサイトへの接続数を制限できるかどうかを指定します。

- **PHP セーフモード管理**（Linux ホスティングに限り使用可能）。リセラーが自分のサイトで PHP セーフモードをオフに切り替えることが出来るかどうかを指定します。デフォルトでは PHP は機能上の制限からセーフモードで操作するように設定されています。PHP セーフモードについて詳細は <http://php.net/features.safe-mode> をご参照ください。ウェブアプリケーションによってはセーフモードが有効になっていると正常に動作しないことがあります。サイトのアプリケーションがセーフモードのために失敗した場合はホスティングアカウントプロパティで [PHP の 'safe_mode' を有効(On)にする] チェックボックスの選択を外してセーフモードをオフに切り替えてください（ [ドメイン] > ドメイン名 > [ウェブホスティング設定] ）。
- **SSH を介したサーバへのアクセス管理**（Linux ホスティングに限り使用可能） または **リモートデスクトップを介したサーバへのアクセス管理**（Windows ホスティングに限り使用可能）。顧客がセキュアシェルまたはリモートデスクトッププロトコル経由でサーバにアクセスできるかどうかを指定します。サーバへのアクセスを許可すると、サーバセキュリティを脅かすことになる場合もあることにご注意ください。
- **ハードディスククォータ割り当て**。リセラーが自分のウェブサイト用に、および顧客自身の顧客のウェブサイト用にディスク空き容量でハードクォータを割り当てられるかどうかを指定します。
- **サブドメイン管理**。リセラーが自分のドメイン内で追加サイトを設定し、顧客自身の顧客にも追加サイトの設定を許可できるかどうかを指定します。
- **ドメインエイリアスの管理**。リセラーが自分のドメイン内で代替ドメイン名を追加設定し、顧客のユーザにも代替ドメイン名の追加設定を許可できるかどうかを指定します。
- **ログローテーション管理**。リセラーが自分のサイトで処理されたログファイルのクリーンアップと再利用を調整できるかどうかを指定します。
- **Anonymous FTP の管理**。リセラーが自分のすべてのユーザがログインとパスワードを入力せずに、ファイルをダウンロードおよびアップロードできる FTP ディレクトリを設定できるかどうかを指定します。匿名 FTP サービスを使用するためには、ウェブサイトが専用 IP アドレスに常駐している必要があります。匿名 FTP サービスを使用するためには、ウェブサイトが専用 IP アドレスに常駐している必要があります。
- **FTP アカウント管理**（Windows ベースのホスティングに限り使用可能）。リセラーがウェブサイトの追加 FTP アカウントを管理できるかどうかを指定します。
- **タスクのスケジューリング**。リセラーがシステム内のタスクをスケジューリングできるかどうかを指定します。スケジューリングされたタスクは、スクリプトまたはユーティリティの予定に沿った実行に使用できます。
- **制限の調整**。リセラーがウェブサイトおよびユーザアカウントに割り当てられたリソースを変更できるかどうかを指定します。このオプションは必ず選択してください。選択しない場合、リセラーはサーバ管理者が予め定義したユーザアカウントおよびドメインテンプレートを使用しないと、新しいユーザアカウントおよびウェブサイトをセットアップできなくなります。
- **DNS ゾーン管理**。リセラーが自分のドメインの DNS ゾーンを管理できるかどうかを指定します。

- **Java アプリケーション管理。** リセラーがコントロールパネルを使用して、ウェブサイトに Java アプリケーションおよびアプレットをインストールできるかどうかを指定します。
- **メーリングリスト管理。** 顧客が GNU Mailman ソフトウェア提供のメーリングリストを使用できるかどうかを指定します。
- **スパムフィルタ管理。** リセラーが SpamAssassin スпамフィルタ使用でき、フィルタリングの設定をカスタマイズできるかどうかを指定します。
- **アンチウイルス管理。** リセラーが送受信メールのフィルタ処理のためのサーバ側のアンチウイルス保護を使用できるかどうかを指定します。
- **リモート XML インターフェースの使用機能。** リセラーが自分のウェブサイトを、カスタムアプリケーションを使用してリモートで管理できるかどうかを指定します。ウェブサイトに統合されるカスタムアプリケーションの開発に XML インターフェースを使用できます。このカスタムアプリケーションは、ホスティングアカウントの設定の自動化、および顧客がサイトからホスティングサービスを購入するためのサービス設定の自動化などに使用できます。Parallels Plesk Panel の XML インターフェース（Parallels Plesk Panel API RPC と呼ばれています）の使用法について詳細は、API RPC の説明書（<http://www.parallels.com/ptn/documentation/ppp/>）を参照してください。
- **Sitebuilder を使用可能。** リセラーが自分のウェブサイトの作成および編集に Sitebuilder を使用できるかどうかを指定します。
- **IIS アプリケーションプール管理**（Windows ホスティングに限り使用可能）。リセラーが自分の IIS アプリケーションプールを管理できるかどうかを指定します。
- **ウェブ統計管理。** リセラーがウェブサイトに割り当てられたウェブ統計を管理できるかどうかを指定します。
- **拡張書込/編集の権限管理**（Windows ホスティングに限り使用可能）。リセラーがドメインの追加の書き込み/変更の権限を管理できるかどうかを指定します。これらの権限は、顧客のウェブアプリケーションが `httpdocs` または `httpsdocs` フォルダの `root` にあるファイルベースのデータベースを使用している場合に必要です。このオプションを選択すると、ウェブサイトセキュリティが著しく侵害される場合があることにご注意ください。
- **共有 SSL 管理**（Windows ホスティングに限り使用可能）。リセラーがウェブサイトの共有 SSL を管理できるかどうかを指定します。
- **ホームページ管理。** リセラーが自分のホームページをカスタマイズできるかどうかを指定します。
- **データベースサーバを選択可能。** リセラーが、デフォルトのデータベースサーバを使用するだけでなく、自分のデータベースを作成できるように各タイプのデータベースサーバを選択可能かどうかを指定します。

- **データのバックアップおよび復元の許可および使用。** 顧客がコントロールパネルの機能を使用して、顧客のサイトをバックアップおよび復元できるかどうかを指定します。バックアップファイルをサーバに保存するのを許可するには、**【サーバリポジトリ】** チェックボックスを選択します。顧客が任意の FTP サーバを使用してバックアップを保存できるようにするには、**【パーソナル FTP リポジトリ】** チェックボックスを選択します。
- **利用超過および販売超過ポリシー。** リセラーが、ホスティングプランが実際に提供しているよりも多くのリソースを顧客に販売できるかどうかを指定します。販売超過はマーケティング戦略であり、例えば 10 ギガバイトのディスク容量を割り当てられているリセラーが、割り当てられたディスク容量を実際にすべて使用する顧客はいないだろうと考えて顧客それぞれにディスク容量を 5 ギガバイトずつ提供する、といった基本構想に基づいています。リセラーの顧客が使用するディスクスペースの量が、リセラーのディスクスペースの割り当て量（この例では 10 ギガバイト）を超えた場合、このリセラーアカウント用に選択した利用超過ポリシーによって 2 つのことが発生する可能性があります。このリセラーに利用超過が許可されている場合は、リセラーは過剰分の料金を支払い、顧客に必要な増加分を確保できるようにホスティングアカウントをアップグレードします。このリセラーに**利用超過**が許可されていない場合は、このリセラーの顧客のウェブサイトとユーザアカウントはすべて中断されます。実際には顧客は自分の制限値は超えていないため、それは顧客に不満をもたらします。そのため、原則としてリセラーアカウントに販売超過を許可することが推奨されています。リセラーアカウントに販売超過を許可する場合、このアカウントに利用超過も許可することが推奨されています。

注: 利用超過ポリシーは、メールボックスのサイズに設定された制限値（メールボックスクォータ）には適用されません。従って、利用超過を有効にした場合も、必ずメールボックスに十分なディスク容量を割り当ててください。

- **ドメイン。** リセラーがサーバでホスティングできるドメイン名（ウェブサイト）の合計数を指定します。これにはサーバでホスティングされるウェブサイトと、他のサーバでホスティングされるウェブサイトを示すドメインフォワードが含まれます。ドメインエイリアス（このサーバでホスティングされるサイトの追加ドメイン名）とサブドメインは別にカウントされ、このリソースタイプにより制限されません。
- **サブドメイン。** リセラーがホスティングできるサブドメインの合計数を指定します。
- **ドメインエイリアス。** リセラーが自分のウェブサイトで使用可能な代替ドメイン名の追加の総数を指定します。
- **ディスク容量。** リセラーに割り当てられるディスク容量の合計をメガバイトで指定します。すべてのユーザアカウントおよびサイトに関連する全てのファイルが占有するディスク容量が含まれます。ウェブサイトコンテンツ、データベース、アプリケーション、メールボックス、ログファイル、そしてバックアップファイルです。
- **トラフィック** 1 か月の間に、リセラーのウェブサイトから転送できるデータの総量をメガバイトで指定します。

- **ウェブユーザ。** リセラーが自分のドメイン内の他のユーザ用にホスティングできる、個人用ウェブページの合計数を指定します。このサービスはおもに、学生やスタッフの非営利的なパーソナルページをホストする教育機関に使用されています。そういったページのウェブアドレスは通常<http://your-domain.com/~username>となります。詳細については「個人用ウェブページのホスティング」（290 ページ）のセクションをご参照ください。
- **データベース。** リセラーがサーバでホスティングできるデータベースの合計数を指定します。
- **メールボックス。** リセラーがサーバでホスティングできるメールボックスの合計数を指定します。
- **メールボックスクォータ。** メールメッセージおよび自動応答の添付ファイルをドメイン内の各メールボックスに格納するために割り当てるディスク容量をキロバイトで指定します。
- **メール転送。** リセラーが設定できるメールフォワーダの合計数を指定します。
- **自動応答。** リセラーが設定できるメール自動応答の合計数を指定します。
- **メールグループ。** リセラーが設定できるメールグループの合計数を指定します。
- **メーリングリスト。** リセラーがサーバでホスティングできるメーリングリストの合計数を指定します。
- **総メールボックスクォータ**（Windows ホスティングに限り使用可能）。顧客のすべてのドメイン上のすべてのメールボックスに割り当てられるディスク容量の合計をメガバイトで指定します。
- **データベース**（Linux ホスティングに限り使用可能）。顧客がサーバでホスティングできるデータベースの合計数を指定します。
- **MySQL データベースクォータおよび Microsoft SQL データベースクォータ**（Windows ホスティングに限り使用可能）。MySQL および Microsoft SQL サーバデータベースがそれぞれ、リセラーのドメインに供給できる総ディスク容量の最大数をメガバイトで指定します。
- **MySQL データベースおよび Microsoft SQL サーバデータベース**（Windows ホスティングに限り使用可能）。リセラーが自分のドメインで作成可能な MySQL および Microsoft SQL サーバデータベースの最大数をそれぞれ指定します。
- **FrontPage アカウント**（Windows ホスティングに限り使用可能）。リセラーが自分のドメインに作成できる Microsoft FrontPage アカウントの最大数を指定します。
- **FTP アカウント**（Windows ベースのホスティングに限り使用可能）。リセラーが自分のドメインに作成できる FTP アカウントの最大数を指定します。
- **Java アプリケーション。** サーバでホスト可能な Java アプリケーションまたはアプレットの総数を指定します。
- **IIS アプリケーションプール**（Windows ホスティングに限り使用可能）。リセラーがドメイン間で割り当てることができる専用 IIS アプリケーションプールの総数を指定します。
- **共有 SSL リンク**（Windows ホスティングに限り使用可能）。リセラーがドメインで利用できる共有 SSL リンクの総数を指定します。

- **ODBC 接続**（Windows ホスティングに限り使用可能）。リセラーがドメインで使用できる ODBC 接続の数の総数を指定します。
- **ColdFusion DSN 接続**（Windows ホスティングに限り使用可能）。リセラーがドメインで使用できる ColdFusion DSN 接続の総数を指定します。
- **有効期限**。ホスティングアカウントの期間を指定します。この期間が終了すれば、リセラーのサイトおよびリセラーの顧客のサイトはすべて中断され、そのウェブ、FTP、メールサービスはインターネットユーザにアクセスできなくなります。また、ユーザはコントロールパネルにログインできなくなります。アカウントは自動では更新できません。そこで、ホストされたドメイン名（ウェブサイト）を元の操作に戻すために、手動でユーザアカウントを更新しなければなりません。[リセラー] > **リセラー名** > [リソース使用量] に進み、[有効期限] ボックスで別の期間を選択し、[OK] をクリックしてから、[中断解除] をクリックします。
- **IP アドレス**。リセラーに割り当てる共有 IP アドレスを指定します。自動的に専用 IP アドレスを供給するには [リセラーに専用 IP アドレスを割り当てる] チェックボックスを選択して、自分の IP 範囲から取得する IP アドレスの番号を指定してリセラーに割り当てます。
- **Sitebuilder サポート**。リセラーが Sitebuilder を用いてウェブサイトを作成および管理できるようにするには、[Sitebuilder にて関連するユーザアカウントを作成する] チェックボックスを選択します。

3. [OK] をクリックして、テンプレートの作成を終了します。

新規リセラーアカウントのセットアップ中に必要なテンプレートを選択するとアカウントが作成され、定義したリソースが割り当てられます。

➤ **クライアントアカウントテンプレートを作成するには、以下を実行してください。**

1. [クライアント] > [クライアントアカウントテンプレート] > [クライアントアカウントテンプレートの作成] に進みます。
2. 以下の設定を指定します。
 - **テンプレート名**。このテンプレートの名前を指定します。新規ユーザアカウントの設定の間に、必要なテンプレートを名前で選択するように要求されます。したがって、ホスティングプランのいずれかに対応する、または割り当てられたリソース量を記述する意味のある名前を選択することが推奨されています。例えば、**Shared hosting user account, 5GB disk space, 10 domains** などです。
 - **その他のユーザでも利用できるようにこのテンプレートを変更する**。顧客がこのテンプレートを利用できるようにするには、このオプションを選択します。
 - **コントロールパネルへのアクセス**。顧客が自分のアカウントとサイトを管理する場合、コントロールパネルにアクセスできるかどうかを指定します。
 - **ドメイン作成**。顧客が新規サイトにホスティングアカウントを設定できるかどうかを指定します。

- **物理ホスティング管理。** 顧客がホスティングアカウントの設定、ホスティングアカウント機能の変更、およびプログラミング言語とスクリプト言語のサポートのオン/オフ切り替えを実行できるかどうかを指定します。
- **ホスティングパフォーマンス管理。** 顧客が帯域幅使用量およびウェブサイトへの接続数を制限できるかどうかを指定します。
- **SSHを介したサーバへのアクセス管理**（Linux ホスティングに限り使用可能） または **リモートデスクトップを介したサーバへのアクセス管理**（Windows ホスティングに限り使用可能）。 顧客がセキュアシェルまたはリモートデスクトッププロトコル経由でサーバにアクセスできるかどうかを指定します。サーバへのアクセスを許可すると、サーバセキュリティを脅かすことになる場合もあることにご注意ください。
- **ハードディスククォータ割り当て。** 顧客が自分のウェブサイト用に、および顧客自身の顧客のウェブサイト用にディスク空き容量でハードクォータを割り当てられるかどうかを指定します。
- **サブドメイン管理。** 顧客が自分のドメイン内で追加サイトを設定し、顧客自身の顧客にも追加サイトの設定を許可できるかどうかを指定します。
- **ドメインエイリアスの管理。** 顧客が自分のドメイン内で代替ドメイン名を追加設定し、顧客のユーザにも代替ドメイン名の追加設定を許可できるかどうかを指定します。
- **ログローテーション管理。** 顧客が自分のサイトで処理されたログファイルのクリーンアップと再利用を調整できるかどうかを指定します。
- **Anonymous FTP の管理。** 顧客が自分のすべてのユーザがログインとパスワードを入力せずに、ファイルをダウンロードおよびアップロードできる FTP ディレクトリを設定できるかどうかを指定します。匿名 FTP サービスを使用するためには、ウェブサイトが専用 IP アドレスに常駐している必要があります。匿名 FTP サービスを使用するためには、ウェブサイトが専用 IP アドレスに常駐している必要があります。
- **FTP アカウント管理**（Windows ベースのホスティングに限り使用可能）。 顧客が追加 FTP アカウントを作成および管理できるかどうかを指定します。
- **スケジューラ管理。** 顧客がシステム内のタスクをスケジューリングできるかどうかを指定します。スケジューリングされたタスクは、スクリプトまたはユーティリティの予定に沿った実行に使用できます。
- **制限の調整。** 顧客が自分のアカウントおよびサイトに割り当てられたリソースを変更できるかどうかを指定します。顧客が新規ウェブサイトをセットアップできるようにするには、このオプションを選択する必要があります。
- **DNS ゾーン管理**（Linux ホスティングに限り使用可能）。 顧客が自分のドメインの DNS ゾーンを管理できるかどうかを指定します。
- **Java アプリケーション管理。** 顧客がコントロールパネルを使用して、ウェブサイトに Java アプリケーションおよびアプレットをインストールできるかどうかを指定します。
- **メーリングリスト管理。** 顧客が GNU Mailman ソフトウェア提供のメーリングリストを使用できるかどうかを指定します。
- **スパムフィルタ管理。** 顧客が SpamAssassin スパムフィルタ使用でき、フィルタリングの設定をカスタマイズできるかどうかを指定します。

- **アンチウイルス管理。** 顧客が送受信メールのフィルタ処理のためのサーバ側のアンチウイルス保護を使用できるかどうかを指定します。
- **リモートXMLインターフェースの使用機能。** 顧客が自分のウェブサイトを、カスタムアプリケーションを使用してリモートで管理できるかどうかを指定します。ウェブサイトに統合されるカスタムアプリケーションの開発にXMLインターフェースを使用できます。このカスタムアプリケーションは、ホスティングアカウントの設定の自動化、および顧客がサイトからホスティングサービスを購入するためのサービス設定の自動化などに使用できます。Parallels Plesk PanelのXMLインターフェース（Parallels Plesk Panel API RPC と呼ばれています）の使用法について詳細は、API RPC の説明書（<http://www.parallels.com/ptn/documentation/ppp/>）を参照してください。
- **Sitebuilder を使用可能。** 顧客が自分のウェブサイトの作成および編集に Sitebuilder を使用できるかどうかを指定します。
- **IIS アプリケーションプール管理**（Windows ホスティングに限り使用可能）。顧客が自分の IIS アプリケーションプールを管理できるかどうかを指定します。
- **ウェブ統計管理。** 顧客がウェブサイトに割り当てられたウェブ統計を管理できるかどうかを指定します。
- **拡張書込/編集の権限管理**（Windows ホスティングに限り使用可能）。顧客がドメインの追加の書き込み/変更の権限を管理できるかどうかを指定します。これらの権限は、顧客のウェブアプリケーションが `httpdocs` または `httpsdocs` フォルダの root にあるファイルベースのデータベースを使用している場合に必要です。このオプションを選択すると、ウェブサイトセキュリティが著しく侵害される場合があることにご注意ください。
- **共有 SSL 管理**（Windows ホスティングに限り使用可能）。顧客がドメインの共有 SSL を管理できるかどうかを指定します。
- **ホームページ管理。** 顧客が自分のホームページをカスタマイズできるかどうかを指定します。
- **データベースサーバを選択可能。** 顧客が、デフォルトのデータベースサーバを使用するだけでなく、自分のデータベースを作成できるように各タイプのデータベースサーバを選択可能かどうかを指定します。
- **データのバックアップおよび復元の許可および使用。** 顧客がコントロールパネルの機能を使用して、顧客のサイトをバックアップおよび復元できるかどうかを指定します。バックアップファイルをサーバに保存するのを許可するには、**【サーバリポジトリ】** チェックボックスを選択します。顧客が任意の FTP サーバを使用してバックアップを保存できるようにするには、**【パーソナル FTP リポジトリ】** チェックボックスを選択します。
- **利用超過ポリシー。** ディスク容量およびトラフィックの制限を超えた場合に、クライアントアカウントおよびアカウント所有者のウェブサイトに対して何を実行するかを指定します。クライアントアカウントを中断してウェブサイトをブロックするには、**【利用超過が許可されていません】** オプションを選択します。ウェブサイトの操作を許可するには、**【利用超過が許可されています】** オプションを選択します。

注: 利用超過ポリシーは、メールボックスのサイズに設定された制限値（メールボックスクォータ）には適用されません。従って、利用超過を有効にした場合も、必ずメールボックスに十分なディスク容量を割り当ててください。

- **ドメイン。** 顧客がサーバでホスティングできるドメイン名（ウェブサイト）の合計数を指定します。これにはサーバでホスティングされるウェブサイトと、他のサーバでホスティングされるウェブサイトを示すドメインフォワードが含まれます。ドメインエイリアス（このサーバでホスティングされるサイトの追加ドメイン名）とサブドメインは別にカウントされ、このリソースタイプにより制限されません。
- **サブドメイン。** 顧客がホスティングできるサブドメインの合計数を指定します。
- **ドメインエイリアス。** 顧客が自分のウェブサイトで使用可能な代替ドメイン名の追加の総数を指定します。
- **ディスク容量。** 顧客に割り当てられるディスク容量の合計をメガバイトで指定します。ユーザのドメイン（ウェブサイト）に関連するすべてのファイルが占有するディスク容量が含まれます。ウェブサイトコンテンツ、データベース、アプリケーション、メールボックス、ログファイル、そしてバックアップファイルです。
- **トラフィック** 1 か月の間に、顧客のウェブサイトから転送できるデータの量をメガバイトで指定します。
- **ウェブユーザ。** 顧客が自分のドメイン内の他のユーザ用にホスティングできる、個人用ウェブページの合計数を指定します。このサービスはおもに、学生やスタッフの非営利的なパーソナルページをホストする教育機関に使用されています。そういったページのウェブアドレスは通常<http://your-domain.com/~username>となります。詳細については「個人用ウェブページのホスティング」（290 ページ）のセクションをご参照ください。
- **データベース**（Linux ホスティングに限り使用可能）。顧客がサーバでホスティングできるデータベースの合計数を指定します。
- **MySQL データベース**（Windows ホスティングに限り使用可能）。顧客が自分のドメインに作成できる MySQL データベースの最大数をそれぞれ指定します。
- **メールボックス。** 顧客がサーバでホスティングできるメールボックスの合計数を指定します。
- **メールボックスクォータ。** メールメッセージおよび自動応答の添付ファイルをドメイン内の各メールボックスに格納するために割り当てるディスク容量をキロバイトで指定します。
- **メール転送。** 顧客が設定できるメールフォワードの合計数を指定します。
- **自動応答。** 顧客が設定できるメール自動応答の合計数を指定します。
- **メールグループ。** 顧客が設定できるメールグループの合計数を指定します。
- **メーリングリスト。** 顧客がサーバでホスティングできるメーリングリストの合計数を指定します。ユーザにメーリングリストを提供するには、GNU Mailman ソフトウェアをインストールする必要があります。
- **Java アプリケーション。** サーバでホスト可能な Java アプリケーションまたはアプレットの総数を指定します。
- **MySQL データベースクォータおよび Microsoft SQL データベースクォータ**（Windows ホスティングに限り使用可能）。MySQL および Microsoft SQL サーバデータベースがそれぞれ、顧客のドメインに供給できる総ディスク容量の最大数をメガバイトで指定します。

- **FrontPage アカウント** (Windows ホスティングに限り使用可能)。顧客が自分のドメインに作成できる Microsoft FrontPage アカウントの最大数を指定します。
- **FTP アカウント** (Windows ベースのホスティングに限り使用可能)。顧客が自分のドメインに作成できる FTP アカウントの最大数を指定します。
- **Microsoft SQL サーバデータベース** (Windows ホスティングに限り使用可能)。顧客が自分のドメインに作成できる Microsoft SQL サーバデータベースの最大数を指定します。
- **総メールボックスクォータ** (Windows ホスティングに限り使用可能)。顧客のすべてのドメイン上のすべてのメールボックスに割り当てられるディスク容量の合計をメガバイトで指定します。
- **IIS アプリケーションクォータ** (Windows ホスティングに限り使用可能)。顧客がドメイン間で割り当てることができる専用 IIS アプリケーションプールの総数を指定します。
- **共有 SSL リンク** (Windows ホスティングに限り使用可能)。顧客がドメインで使用できる共有 SSL リンクの総数を指定します。
- **ODBC 接続** (Windows ホスティングに限り使用可能)。顧客がドメインで使用できる ODBC 接続の総数を指定します。
- **ColdFusion DSN 接続** (Windows ホスティングに限り使用可能)。顧客がドメインで使用できる ColdFusion DSN 接続の数の総数を指定します。
- **有効期限**。ホスティングアカウントの期間を指定します。この期間が終了すれば、顧客のドメイン (ウェブサイト) はすべて停止され、そのウェブ、FTP、メールサービスはインターネットユーザにアクセスできなくなります。また、ユーザはコントロールパネルにログインできなくなります。アカウントは自動では更新できません。そこで、ホストされたドメイン名 (ウェブサイト) を元の操作に戻すために、手動でユーザアカウントを更新しなければならなくなります。ナビゲーションペインで **[クライアント]** ショートカットをクリックし、クライアント名をクリックし、**[リソース使用量]** アイコンをクリックし、他の期間を指定し、**[OK]** をクリックしてから、**[中断解除]** アイコンをクリックします。
- **IP アドレス**。顧客に割り当てる共有 IP アドレスを指定します。自動的に専用 IP アドレスを供給するには、**[クライアントに専用 IP アドレスを割り当てる]** チェックボックスを選択して、自分の IP 範囲から取得する IP アドレスの番号を指定して顧客に割り当てます。
- **Sitebuilder サポート**。顧客が Sitebuilder を用いてウェブサイトを作成および管理できるようにするには、**[Sitebuilder にて関連するユーザアカウントを作成する]** チェックボックスを選択します。

3. **[OK]** をクリックして、テンプレートの作成を終了します。

新規ユーザアカウントのセットアップ中に必要なテンプレートを選択するとアカウントが作成され、定義したリソースが割り当てられます。

➤ **テンプレートを変更するには以下を実行してください。**

1. [リセラー] > [リセラーアカウントテンプレート] または [クライアント] > [クライアントアカウントテンプレート] に進みます。
2. 必要なテンプレート名をクリックします。
3. 必要に応じて設定を修正し [OK] をクリックします。
テンプレートを変更してもそのテンプレートで作成した既存のユーザアカウントは変更されません。

➤ **不要になったテンプレートを削除するには、以下を実行してください。**

1. [リセラー] > [リセラーアカウントテンプレート] または [クライアント] > [クライアントアカウントテンプレート] に進みます。
2. 不要になったテンプレート名に対応するチェックボックスを選択します。
3. [削除] をクリックします。 削除を確認して [OK] をクリックします。

ドメインおよびウェブサイトの設定の簡略化

ウェブサイトのホスティングを開始する前に、ドメインテンプレートと呼ばれるホスティング設定のプリセットを作成する必要があります。テンプレートはすべてのリソース使用量割り当てや、ホスティングアカウントの権限およびリソース制限の定義や、メール転送およびウェブ統計の保存の設定を網羅します。コントロールパネルから使用可能な、事前定義済みのドメインテンプレートがあります。それを好きなように変更して使用することも、独自のテンプレートを作成することもできます。デフォルトテンプレートは削除できません。

➤ **ドメインテンプレートを作成するには、以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > [ドメインテンプレート] > [ドメインテンプレートの作成] に進みます。

2. 以下の設定を指定します。

- **テンプレート名。** このテンプレートの名前を指定します。新規ユーザアカウントの設定の間に、必要なテンプレートを名前で選択するように要求されます。したがって、ホスティングプランのいずれかに対応する、または割り当てられたリソース量を記述する意味のある名前を選択することが推奨されています。例えば、Mail hosting, 5GB disk space, 500 mailboxes などです。
- **他のユーザの可用性。** 顧客がこのテンプレートを使用可能にするには、[その他のユーザでも利用できるようにこのテンプレートを変更する] チェックボックスを選択します。
- **存在しないユーザへのメール。** ドメイン全体のメール返信オプションを指定します。誰かがドメインに存在しないメールアドレスに対してメールメッセージを送信した場合、デフォルトでは、メールサーバはメールを受信し、処理して、このような受信者がドメイン内に存在しないと認識した後、"this address no longer accepts mail (このアドレスはメールを受け取ることができません)" という通知をつけて送信者にメールを返します。この場合、次の選択が可能です。
 - 気にいなければデフォルトの通知を変更します（[拒否] または [メッセージつきで拒否します] オプションを選択したままで、別のメッセージを入力ボックスに入力します）。
 - 不達メールを他のメールアドレスに転送します（[アドレスに転送] オプションを選択し、必要なメールアドレスを指定します）。または、
 - そのメールを承認せずに拒否します（[拒否] オプションを選択します）。この設定により、多くの場合ランダムに生成されたユーザ名宛ての大量のスパムにより生じたメールサーバの負荷を減らすことができます。ただし、スパマーの側からすれば、この設定によりメールサーバのスキャンで有効なメールアドレスを検出する時間を多少短縮できます。
 - 外部メールサーバへの転送（Windows ホスティングに限り使用可能）。これが設定されていると、存在しないユーザ宛てのメールはすべて指定した外部メールサーバへ転送されます。

- **ウェブメール。** このドメイン内のメールボックスのユーザはウェブメールアプリケーションをベースにしたブラウザを通じて自身のメールを読めるようにするべきかどうかを指定して、使用するアプリケーションを選択します。
- **利用超過ポリシー。** ディスク容量およびトラフィックの制限を超えた場合に、何が実行するかを指定します。サイトをブロックするには、[利用超過が許可されていません] オプションを選択します。サイトの操作を許可するには、[利用超過が許可されています] オプションを選択します。[リソース制限値に達したドメイン所有者に通知します] チェックボックスを選択します。[ホーム] > [通知] ([ログ&統計] グループ内) > [ドメインにて超過したリソース使用量制限] にリソース制限値が指定されている場合、それに達すると、Parallels Plesk Panel は適切なクライアントアカウントのメールアドレス（デフォルト）またはドメイン管理者のアカウントに通知を送信します。

注: 利用超過ポリシーは、メールボックスのサイズに設定された制限値（メールボックスクォータ）には適用されません。従って、利用超過を有効にした場合も、必ずメールボックスに十分なディスク容量を割り当ててください。

- **サブドメイン。** このドメインの下にホストできるサブドメインの数を指定します。
- **ドメインエイリアス。** サイト所有者が自分のウェブサイトで使用可能な代替ドメイン名の追加の総数を指定します。
- **ディスク容量。** ドメインに関連しているホスティングアカウントに割り当てられるディスク空き容量の総量を指定します。この量はメガバイトで計測されます。すべてのドメインおよびウェブサイトに関連するすべてのファイルが占有するディスクの空き容量が含まれます。ウェブサイトコンテンツ、データベース、アプリケーション、メールボックス、ログファイル、そしてバックアップファイルです。
- **トラフィック** 1ヶ月間にウェブサイトから転送できるデータ量をメガバイトで指定します。
- **ウェブユーザ。** ドメイン所有者が自身のドメインの下に他のユーザのためにホストできる個人ウェブページ数を指定します。このサービスはおもに、学生やスタッフの非営利的なパーソナルページをホストする教育機関に使用されています。そういったページのウェブアドレスは通常<http://your-domain.com/~username>となります。詳細については「個人用ウェブページのホスティング」（290 ページ）のセクションをご参照ください。
- **データベース**（Linux ホスティングに限り使用可能）。1つのドメイン内でホストできるデータベースの数を指定します。
- **MySQL データベース**（Windows ホスティングに限り使用可能）。1つのドメイン内でホストできるデータベースの数を指定します。
- **メールボックス。** 1つのドメイン内でホストできるメールボックスの数を指定します。
- **メールボックスクォータ。** メールメッセージおよび自動応答の添付ファイルをドメイン内の各メールボックスに格納するために割り当てるディスク容量をキロバイトで指定します。
- **メール転送。** 1つのドメイン内で使用できるメール転送の数を指定します。
- **メールグループ。** 1つのドメイン内でホストできるメールグループの数を指定します。

- **自動応答。** 1つのドメイン内で設定できるメール自動応答の数を指定します。
- **メーリングリスト。** ドメイン所有者が1つのドメイン内で実行可能なメーリングリストの数を指定します。メーリングリストは、オプションでサーバにインストールされた GNU Mailman ソフトウェアにより提供されます。顧客が使用したいにもかかわらずインストールされていない場合には貴方がインストールすることができます。メーリングリストを使用できるようにするには、[プリファレンス] グループの下の [メーリングリスト] チェックボックス内にチェックマークを入れることも必要です。
- **Java アプリケーション。** ドメイン所有者が1つのドメインにインストールできる Java アプリケーションまたはアプレットの上限数を指定します。
- **MySQL データベースクォータおよび Microsoft SQL データベースクォータ** (Windows ホスティングに限り使用可能)。MySQL および Microsoft SQL サーバデータベースがそれぞれドメインで占有できる総ディスク容量の上限をメガバイトで指定します。
- **FrontPage アカウント** (Windows ホスティングに限り使用可能)。ドメインに作成可能な追加の Microsoft FrontPage アカウントの上限数を指定します。
- **FTP アカウント** (Windows ベースのホスティングに限り使用可能)。ドメインに作成可能な追加の FTP アカウントの上限数を指定します。
- **Microsoft SQL サーバデータベース** (Windows ホスティングに限り使用可能)。ドメインでホスティングできる Microsoft SQL サーバデータベースの上限数を指定します。
- **総メールボックスクォータ** (Windows ホスティングに限り使用可能)。顧客のすべてのドメイン上のすべてのメールボックスに割り当てられるディスク容量の合計をメガバイトで指定します。
- **共有 SSL リンク** (Windows ホスティングに限り使用可能)。ドメインで使用できる共有 SSL リンクの総数を指定します。
- **ODBC 接続** (Windows ホスティングに限り使用可能)。ドメインで使用できる ODBC 接続の総数を指定します。
- **ColdFusion DSN 接続** (Windows ホスティングに限り使用可能)。ドメインで使用できる ColdFusion DSN 接続の総数を指定します。
- **有効期限。** ホスティングアカウントの期間を指定します。この期間が終了すれば、ドメイン (ウェブサイト) は停止されます。そのウェブ、FTP、メールサービスはインターネットユーザにはアクセスできなくなります。また、ドメイン所有者はコントロールパネルにログインできなくなります。アカウントのホスティングは自動では更新できません。そこで、ホストされたドメイン名やウェブサイトを元の操作に戻すために、手動でホスティングアカウントを更新しなければなりません。ナビゲーションペインで [ドメイン] ショートカットをクリックし、必要なドメイン名をクリックし、[リソース使用量] アイコンをクリックし、他の期間を [有効期限] ボックスに指定し、[OK] をクリックしてから、[中断解除] アイコンをクリックします。

- **ログローテーション。** ウェブサーバへの全ての接続とサーバに見つからないファイルの要求は、ログファイルに登録されます。これらのログファイルはサーバ上で実行される統計ユーティリティで分析され、オンデマンドでグラフィカルレポートで表示されます。ホームページ上でデバッグするためにこういった生ログファイルのコンテンツを表示する必要がある場合は、**【ドメイン】 > ドメイン名 > 【ログマネージャ】**に進んで、必要なログファイル名をクリックします。これらのログファイルが増大するのを防ぐために、ログファイルの自動クリーンアップと再利用を有効にする必要があります。
 - **【ログローテーションをスイッチオンする】** チェックボックスを選択します。
 - ログファイルを再利用する時期を指定し、
 - サーバに格納する、Parallels Plesk Panel の統計ユーティリティが処理した各ログファイルのインスタンス数を指定し、
 - 圧縮する必要があるかどうかを指定します。
 - そして処理の後にメールアドレスに送信するかを指定します。
- **ウェブ・トラフィック統計の保持設定。** ウェブおよび帯域幅使用量の統計がサーバに保管される期間を月で指定します。
- **DNS。** ウェブホスト上の DNS サーバがドメイン名ゾーンのためのマスター（プライマリ）ネームサーバとして動作するか、スレーブ（セカンダリ）ネームサーバとして動作するかを指定します。セカンダリサーバがプライマリからこのゾーンファイルのコピーを取得するだけである一方で、プライマリネームサーバはローカルで提供するゾーンファイルを格納します。通常**【マスター】**オプションが選択されたままにします。
- **物理ホスティングアカウント。** ドメイン名（DNS ゾーン設定）だけではなく、ウェブサイトもホストする場合、**【物理ホスティング】** チェックボックスを選択しホスティング機能を指定します。
 - **ハードディスククォータ。** ソフトクォータに加えて、制限に達した場合にさらに多くのファイルをウェブスペースに書き込めないようにするいわゆるハードクォータを指定できます。ファイルを書き込もうとすると、ユーザには「ディスクの空き容量不足」エラーが発生します。
 - **SSL 対応。** SSL（Secure Sockets Layer）暗号化は一般に専用 IP アドレス上で実行される e-コマースウェブサイトでのオンライントランザクションの間の機密データの転送を保護するために使用されます。暗号化プロセスに参加する SSL 認証は、通常単一の IP アドレス上の単一のドメイン名に適用されます。そこで、SSL プロテクションを必要とする各サイトは専用 IP アドレス上でホストされる必要があります。例外はサブドメインで、ここではワイルドカード認証で保護することができます。単一のアドレス（共有またはネームベースホスティング）上で異なるドメイン名を持ついくつかのウェブサイトをホストするウェブサーバ上に SSL 認証をインストールすることは技術的に可能ですが、この方法はお奨めしません。暗号化は行われますが、セキュアサイトに接続しようとする、ユーザに警告メッセージが表示されます。ウェブサイト用の SSL 暗号化を許可するには、**【SSL 対応】** チェックボックスを選択してください。

- **SSL 認証を受けないコンテンツと同じディレクトリに、SSL 認証を受けるコンテンツを設置する**（Linux ホスティングでのみ使用可能）。デフォルトでは、ユーザが FTP アカウントを通じてサイトを公開する場合、httpsdocs ディレクトリへのセキュアな接続を経由してアクセスできるようにしなければならないウェブコンテンツおよびプレーン HTTP を経由して httpdocs ディレクトリにアクセスできるようにしなければならないウェブコンテンツをアップロードする必要があります。単一の場所（httpdocs ディレクトリ）を通じてすべてのコンテンツを公開するのに便利のように、[SSL 認証を受けないコンテンツと同じディレクトリに、SSL 認証を受けるコンテンツを設置する] チェックボックスを選択してください。
- **Sitebuilder を用いてウェブサイトを作成する**。これにより、サイト所有者は Sitebuilder を用いてウェブサイトを作成および管理できるようになります。
- **Microsoft FrontPage サポート**（Windows ホスティングに限り使用可能）。Microsoft FrontPage は人気のあるウェブサイト開発ツールです。ユーザが Microsoft FrontPage を通じてサイトを公開したり、修正したりできるように、[FrontPage 対応] および [SSL 上の FrontPage 対応] チェックボックスを選択し、[Microsoft FrontPage 認証] オプションを [有効] に設定します。
- **動的ウェブサイトおよびサーバサイドのウェブアプリケーションの開発に幅広く使用される言語のプログラミングおよびスクリプトへの対応**。以下のどのプログラミング言語またはスクリプト言語がウェブサーバにより割り込み、実行または処理されるのかを指定します。Active Server Pages (ASP)、Server Side Includes (SSI)、PHP hypertext preprocessor (PHP)、Common Gateway Interface (CGI)、Fast Common Gateway Interface (FastCGI)、Perl、Python、ColdFusion および Miva e-コマースソリューションに必要な Miva スクリプト。
- **ウェブ統計**。ドメイン（ウェブサイト）所有者がサイトや表示したサイトのページの訪問者の人数に関する情報を表示できるようにするために、[ウェブ統計] メニューから統計パッケージを選択して、[パスワードで保護されたディレクトリ /plesk-stat/webstat 経由でアクセス可能] チェックボックスを選択します。これにより Webalizer 統計ソフトウェアがインストールされますが、このソフトウェアによりレポートが生成され、そのレポートをパスワードで保護されたディレクトリに配置されます。ドメインやウェブサイトの所有者は自分の FTP アカウントのログインとパスワードを使用して、以下の URL よりウェブ統計にアクセスできます。
<https://your-domain.com/plesk-stat/webstat>
- **カスタムエラードキュメント**。サイトを訪れているビジターがウェブサーバが見つけれられないページを要求する場合、ウェブサーバによりエラーメッセージを伴った標準の HTML ページが生成され、表示されます。ご自身のエラーページを作成し、ご自身のサーバ上でそのページを使用したり、顧客が使用できるようにしたりする場合は、[カスタムエラードキュメント] チェックボックスを選択します。
- **FTP ユーザの 信用情報でのサーバへ Shell アクセスする**（Linux ホスティングに限り使用可能）。これによってサイト所有者は Secure Socket Shell またはリモートデスクトップ接続を通じて信頼性を持ってウェブコンテンツをサーバにアップロードできるようになりますが、サーバへのアクセス許可はサーバセキュリティへの潜在的な脅威にもなるため、[拒否] オプションを選択したままにすることが推奨されています。

- **拡張書込/編集権限**（Windows ホスティングに限り使用可能）。このオプションは、顧客のウェブアプリケーションが `httpdocs` または `httpsdocs` フォルダの `root` にあるファイルベースのデータベースを使用している場合に必要です。このオプションを選択すると、ウェブサイトセキュリティが著しく侵害される場合があります。ことにご注意ください。
- **専用プールを利用**（Windows ホスティングに限り使用可能）。このオプションはドメイン上のウェブアプリケーションの専用 IIS アプリケーションプールを有効にします。専用 IIS アプリケーションプールを使用すると作業者のプロセスアイソレーションモード次第でドメインウェブアプリケーションの安定性が劇的に向上します。このモードはサーバでホスティングされている各ウェブサイトがそのウェブアプリケーションを実行するために別々のプロセスプールを割り当てることができます。そのため、あるアプリケーションに異常が発生しても他のアプリケーションが停止することはありません。これは特に共有ホスティングパッケージを使用している場合に便利です。
- **最大 CPU 利用率**（Windows ホスティングに限り使用可能）。ドメインの IIS アプリケーションプールが使用できる CPU リソースの量を制限するには、**【無制限】** チェックボックスを外してパーセント単位の数を入力します。
- **パフォーマンス**。ドメインに様々なパフォーマンス制限を設定して、リソース超過をもたらす帯域幅の過剰な使用を防ぐことができます。
 - **最大帯域幅使用率**。ドメインがその接続間で共有できるスピード（キロバイト/秒）を制限するには、**【無制限】** チェックボックスを外してキロバイト単位の数を入力します。
 - **接続の制限**。ドメインへの同時接続の数を制限するには、**【無制限】** チェックボックスを外して数を入力します。

3. **【OK】** をクリックして、テンプレートの作成を終了します。

新規ドメイン（ウェブサイト）のホスティングアカウントの設定中に、要求されたテンプレートを選択します。そうすれば、ホスティングアカウントが作成され、定義したリソースとホスティングサービスが割り当てられます。

➤ **新規に作成したウェブサイトホスティングアカウントに適応されるドメインテンプレートについての変更を反映させるには以下を実行します。**

1. **【ドメイン】 > 【ドメインテンプレート】** に進みます。
2. 更新するドメインテンプレートに対応するテンプレート名をクリックします。
3. 必要に応じて設定を修正し **【OK】** をクリックします。

テンプレートの修正は既存のドメインおよびウェブサイトには影響を及ぼさないという点に注意してください。

➤ **不要になったテンプレートを削除するには、以下を実行してください。**

1. **【ドメイン】 > 【ドメインテンプレート】** に進みます。

2. 不要になったテンプレート名に対応するチェックボックスを選択します。
3. **〔削除〕** をクリックします。 削除を確認して **〔OK〕** をクリックします。

顧客が使用できるパッケージ済みアプリケーション

アプリケーションをサーバにインストールして、お客様が自分のサイトで使用できるようにすることが可能です。新しいアプリケーションを、ローカルストレージまたはアプリケーションカタログから Parallels Plesk Panel サーバにアップロードして、アプリケーションヴォルトに追加することができます。アプリケーションカタログは、個々のソフトウェアベンダーがアプリケーションをAPSスタンダードに従ってパッケージして公開することができる公的にアクセス可能な Web サイトであり、Parallels Plesk Panel からそこへ接続して公開されたアプリケーションをダウンロードできます。



ヴォルトに追加した Web アプリケーションの使用ルールを設定できます。アプリケーションをすべてのユーザに対して使用可能に、あるいは選択したユーザに対してのみ使用可能にできます。

➤ ヴォルト内のアプリケーションパッケージの情報を表示するには、以下を実行してください。



1. [ホーム] > [アプリケーションヴォルト]（[アプリケーション & サービス] グループ内）に進みます。

ヴォルトに保存されているすべてのアプリケーションパッケージは [Web アプリケーションパッケージ] グループで一覧表示されています。

アプリケーション名の隣にアイコンが2つあります。左のアイコンは以下を表します。

-  - そのアプリケーションがインストール可能なアプリケーション一覧に表示されます。
-  - そのアプリケーションがインストール可能なアプリケーション一覧に表示されません。

右のアイコンは、指定した Web アプリケーション使用ルールを表します。

-  - すべてのユーザが使用可能。アプリケーションが自動的に全ユーザのアプリケーションプールに追加されます。
-  - 選択したユーザだけが使用可能。アプリケーションをユーザのアプリケーションプールに追加できるのは貴方だけです。

[ユーザ] 列は Web アプリケーションを使用するユーザの数を表示します。

2. アプリケーションをカテゴリでソートするには、検索ボックスの隣のメニューからカテゴリを選択します。

➤ 新しいアプリケーションをローカルストレージからアップロードしてアプリケーションヴォルトに追加するには、以下を実行してください。


1. [ホーム] > [アプリケーションヴォルト]（[アプリケーション & サービス]グループ内）に進みます。
2. [ローカルストレージよりアプリケーションを追加する] をクリックします。
3. [参照] をクリックして .rpm、.sh、または .app.zip フォーマットのRPMパッケージのアプリケーションパッケージの位置を指定し、[OK] をクリックします。
4. アプリケーションを、インストールの制限なしにすべての代理店およびクライアントに自動的に配信するには、[アプリケーションをすべてのユーザが利用可能にする] チェックボックスを選択します。

➤ **新しいアプリケーション、アプリケーションカタログからダウンロードしてアプリケーションヴォルトに追加するには、以下を実行してください。**


1. [ホーム] > [アプリケーションヴォルト]（[アプリケーション & サービス]グループ内）に進みます。
2. 以下のいずれかを実行します。
 - 最も一般的なアプリケーション 50 個をダウンロードするには、[最も使われている 50] ショートカットをクリックします。
 - それ以外の、一般的と思われるアプリケーション 50 個をダウンロードするには、[次に最も使われている 50] ショートカットをクリックします。
 - APS カタログから使用可能なアプリケーションをすべてダウンロードするには、[すべて] ショートカットをクリックします。
 - アプリケーションを検索してダウンロードするアプリケーションを手作業で選択するには、[APS カタログよりアプリケーションを追加する] または [アプリケーションを探す] をクリックして、カテゴリを選択するかアプリケーションを検索して選択し、[追加対象の選択] をクリックします。
3. 選択したアプリケーションを、インストールの制限なしにすべての代理店およびクライアントに自動的に配信するには、[アプリケーションをすべてのユーザが利用可能にする] チェックボックスを選択します。
4. [ヴォルトに追加する] をクリックします。

アプリケーションの追加手順の情報が表示されている [アプリケーションヴォルト] のページに戻ります。

➤ **アプリケーションの使用を制限して、それを選択した顧客のアプリケーションプールに追加するには、以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [アプリケーションヴォルト]（[アプリケーション & サービス]グループ内）に進みます。
2. アプリケーション名の隣の  アイコンをクリックします。
これでアプリケーションは全ユーザのアプリケーションプールから削除されました。そして以下に記載した手順でこのアプリケーションを選択したユーザのプールに手動で追加することができます。
3. [代理店] > 代理店名 > [アプリケーションプール] または [クライアント] > クライアント名 > [アプリケーションプール] に進みます。
4. [アプリケーションパッケージをクライアントのプールに追加する] をクリックします。
5. 必要なアプリケーションのチェックボックスを選択して [OK] をクリックします。

➤ **全ユーザがアプリケーションを使用できるようにして、それを全顧客のアプリケーションプールに追加するには、以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [アプリケーションヴォルト]（[アプリケーション & サービス]グループ内）に進みます。
2. 全顧客が使用できるようにしたいアプリケーションのチェックボックスを選択して、 [選択対象をすべてのユーザが利用可能にする] をクリックします。
これで、アプリケーションがすべての代理店およびクライアントのアプリケーションプールに追加されました。

➤ **アプリケーションパッケージを更新するには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [アプリケーションヴォルト]（[アプリケーション & サービス]グループ内）に進みます。
2. [アップデートチェック] をクリックします。
3. 使用可能なアップデートを表示するには、そのアプリケーションを検索するか、全アプリケーションから検索します。それには、[Webアプリケーション]グループで [検索を表示する] ショートカットをクリックして検索エリアを開き、[アップデートのみ表示する] チェックボックスを選択して、[検索] をクリックします。
4. アップデートするアプリケーションの [利用可能なアップデートを表示する] リンクをクリックします。
パッチおよび新しいバージョンが表示されます。
5. 希望のバージョン番号をクリックします。

選択したバージョンの詳細のポップアップウィンドウが表示されます。

6. **【ヴォルトに追加する】** をクリックします。

【アプリケーションヴォルト】のページに戻り、そこにアプリケーションのスケジューリングに関する情報メッセージおよびアプリケーションの追加進行状況を表す進行状況メッセージが表示されます。

7. **【ドメイン】 > ドメイン名 > 【Webアプリケーション】** に進みます。
8. **【U】** 列で該当のショートカットをクリックします。
9. アップグレードするアプリケーションのバージョンを選択して、ライセンス契約の条項を読んでから **【アップグレード】** をクリックします。
10. サーバ上でホスティングしている各ドメイン/Webサイトについてステップ3から6を繰り返すか、このアプリケーションを使用している顧客（サイト所有者）にこのアプリケーションを新しいバージョンにアップグレードできることを知らせます。それにはParallels Plesk Panelでホームページ上の**【Webアプリケーション】** アイコンをクリックして、**【U】** 列の該当ショートカットをクリックする必要があります。

➤ **顧客に提供したくないアプリケーションをアプリケーションヴォルトから削除するには、以下を実行してください。**

1. **【ホーム】 > 【アプリケーションヴォルト】**（**【アプリケーション & サービス】** グループ内）に進みます。
2. 削除するアプリケーションに対応するチェックボックスを選択し、**【削除】** をクリックします。
3. 削除を確認して **【OK】** をクリックします。

アプリケーションディストリビューションパッケージがサーバアプリケーションヴォルトから削除されました。ユーザのサイトに既にインストール済みのアプリケーションは削除されないことにご注意ください。

➤ **他のアプリケーションカタログに切り替えるには以下を実行してください。**

1. **【ホーム】 > 【アプリケーションヴォルト】**（**【アプリケーション & サービス】** グループ内）に進みます。
2. **【プリファレンス】** をクリックします。
3. **【カタログアドレス】** フィールドにカタログのURLを指定します。

4. カタログに実際のバージョンをすべて表示するには、[カタログから取得した各アプリケーションのバージョンの全リストを表示する] チェックボックスを選択します。
5. [OK] をクリックします。

サイトにアプリケーションをインストールする必要がある場合は、「アプリケーションのインストール」(238 ページ)のセクションをご参照ください。

注： 以下の内容は Windows ホスティングだけに適用されます。

特定のアプリケーション（例えば Counter-Strike ゲームサーバ）は個々のサイトにインストールすることができないので、代わりにサーバレベルで作業します。


➤ **サーバ全体で有効なアプリケーションのリストを表示するには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [アプリケーションヴォルト]（[アプリケーション & サービス] グループ内）> [サーバアプリケーション] に進みます。
2. [新しいサーバアプリケーションの追加] をクリックします。

または

1. [ホーム] > [アプリケーションヴォルト]（[アプリケーション & サービス] グループ内）> [サーバアプリケーションリポジトリ] タブに進みます。

➤ **サーバ全体のアプリケーションをインストールするには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [アプリケーションヴォルト]（[アプリケーション & サービス] グループ内）> [サーバアプリケーション] タブに進みます。
2. インストールするアプリケーションを指定するには、アプリケーションに対応するラジオボタンを選択します。
3.  [インストール] をクリックします。
4. アプリケーションが要求するインストールのプリファレンスや他の情報を指定します（必要な条件はアプリケーションによって異なります）。終了したら [インストール] をクリックします。

➤ **サーバ全体のアプリケーションを削除するには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [アプリケーションヴォルト]（[アプリケーション & サービス]グループ内）> [サーバアプリケーション] タブに進みます。
2. 該当するチェックボックスを選択し、[削除] をクリックします。
3. 削除を確認して [OK] をクリックします。

新規 Web サイトのコンテンツの事前定義

特定のファイルとディレクトリを新規にホストされる Web サイト用に作成された Web スペースに自動的に含めるようにコントロールパネルを設定できます。これは、役に立つスクリプトのセットであり、カスタムエラーメッセージであり、プレースホルダ index.html ページであり、その他ご希望のファイルである可能性があります。こういったファイルはサイトベースごとに取り替え、編集、削除できます。

➤ **Web コンテンツが自動的に Web スペースに含まれるようにするためにコントロールパネルを設定するには以下の操作を実行します。**

1. ローカルファイルシステム上で、必要なディレクトリを作成します。
httpdocs、httpsdocs、cgi-bin、anon_ftp、error_docsなどです。
2. 必要なファイルを作成したディレクトリに配置します。 Web ページを httpdocs および httpsdocs ディレクトリに、スクリプトを cgi-bin ディレクトリに、カスタムエラーメッセージを error_docs ディレクトリに配置します。
3. ディレクトリおよびファイルを tgz、tar、tar.gz または zip フォーマット内のアーカイブファイルにパックします。
ディレクトリはサブディレクトリではなく、必ずアーカイブファイルの root に配置してください。
4. Parallels Plesk Panel にログインします。
5. [ホーム] > [仮想ホストテンプレート]（[ドメイン] グループ内）に進みます。
6. アーカイブファイルをローカルコンピュータに配置するために [参照] ボタンをクリックしてファイルを選択し、[ファイル送信] ボタンをクリックします。

➤ **Web サーバディレクトリおよびファイルの元の構造に戻すには、以下の操作を実行します。**

1. [ホーム] > [仮想ホストテンプレート]（[ドメイン] グループ内）に進みます。
2. [デフォルト] ボタンをクリックします。

顧客のデフォルトホームページ設定の事前定義

顧客のホームページにデフォルトで表示される制御を指定できます。顧客は、[ホームページ管理] 権限を持っている場合に限り、これらの事前定義済みホームページをカスタマイズできます。

➤ **顧客向けのデフォルトホームページを事前設定するには、以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [インターフェース] グループタイトルメニュー > [ホームページプリセット] に進みます。
2. ホームページ設定を事前定義するユーザのタイプに対応するホームページプリセット名をクリックします。
 - デフォルト管理者ホームページで、ホームページをカスタマイズします。
 - デフォルトクライアントホームページで、Parallels Plesk Panel クライアント向けのデフォルトホームページをカスタマイズします。
 - デフォルトドメイン管理者ホームページで、Parallels Plesk Panel ドメイン管理者向けのデフォルトホームページをカスタマイズします。
 - デフォルト代理店ホームページで、Parallels Plesk Panel 代理店向けのデフォルトホームページをカスタマイズします。
3. 該当項目のチェックボックスを選択して、ホームページに表示されるアカウント情報および統計を指定します。
4. ホームページに表示するアクションを指定します。 [選択したアクション] リストはどのショートカットが既にホームページに配置されているを示します。 [利用可能なアクション] リストはホームページにまだショートカットが配置されていないタスクを示します。
 - ホームページにショートカットを追加するには、[利用可能なアクション] リストで必要なタスクを選択し [追加>>] をクリックします。
 - ホームページからショートカットを削除するには、[選択したアクション] リストから必要のないタスクを選択し [<<削除] をクリックします。
5. 該当のチェックボックスを選択して、ホームページのドロップダウンメニューに表示されるアクションを指定します。
6. [OK] をクリックします。

ユーザアカウントの管理

以下のタイプのユーザアカウントを、Parallels Plesk Panel でユーザに対して作成できます。

- 代理店アカウント これらのアカウントは、ホスティングサービスを再販して自分の Web サイトをホスティングする必要のある顧客向けに作成されました。
- クライアントアカウント。 これらのアカウントは、ホスティングサービスを再販する必要はないけれども、Web サイトをホスティングする必要のある顧客向けに作成されました。
- ドメイン管理者アカウント。 これらのアカウントは、サイト管理者がコントロールパネルにアクセスできるように作成されました。 1つのサイトごとに1つのドメイン管理者アカウントになります。
- メールユーザアカウント。 これらのアカウントは、メールユーザがコントロールパネルにアクセスできるように作成されました。

このセクションの内容:

ユーザアカウントの追加.....	179
ユーザアカウントの変更.....	190
代理店アカウントをクライアントアカウントに変換	196
クライアントアカウントを代理店アカウントに変換	197
ドメイン管理者アカウントをクライアントアカウントに変換	197
請求システムの勘定残高レポートの表示	197
ユーザアカウントの中断および中断解除.....	198
ユーザアカウントの削除.....	199

ユーザアカウントの追加

このセクションでは、Web ホスティングサービスにおいて、代理店用に作成する *代理店アカウント* とエンドユーザ用に作成する *クライアントアカウント* について記載しています。

ドメイン管理者のアカウントを作成する必要がある場合は、「Web サイトのホスティングアカウントの設定」 (201 ページ)のセクションをご覧ください。

メールユーザのアカウントを作成する必要がある場合は「メールボックスの作成」 (314 ページ)のセクションをご参照ください。

このセクションの内容:

ホスティングリセラーのリセラーアカウントの追加.....	180
ホスティングサービスのエンドユーザ用クライアントアカウントの追加	185

ホスティングリセラーのリセラーアカウントの追加

➤ **新しいリセラーを追加するには、以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [アカウント] グループタイトルメニュー > [リセラーアカウントの作成] に進みます。
2. 連絡先および請求先の情報を指定します。 担当者名、ログイン名、パスワードは必須項目です。
3. ユーザアカウントのテンプレートをあらかじめ定義してある場合、[適用テンプレート] メニューから必要なテンプレートを選択します。
4. Sitebuilderのウェブサイト作成および管理サービスがサーバにインストールされている場合は、[Sitebuilderにて関連するユーザアカウントを作成する] チェックボックスを選択したままにします。
5. [次へ >>] をクリックします。
6. 以下の設定を指定します。
 - **利用超過および販売超過。** リセラーが、ホスティングプランが実際に提供しているよりも多くのリソースを顧客に販売できるかどうかを指定します。販売超過はマーケティング戦略であり、例えば 10 ギガバイトのディスク容量を割り当てられているリセラーが、割り当てられたディスク容量を実際にすべて使用する顧客はいないだろうと考えて顧客それぞれにディスク容量を 5 ギガバイトずつ提供する、といった基本構想に基づいています。リセラーの顧客が使用するディスクスペースの量が、リセラーのディスクスペースの割り当て量（この例では 10 ギガバイト）を超えた場合、このリセラーアカウント用に選択した利用超過ポリシーによって 2 つのことが発生する可能性があります。このリセラーに利用超過が許可されている場合は、リセラーは過剰分の料金を支払い、顧客に必要な増加分を確保できるようにホスティングアカウントをアップグレードします。このリセラーに利用超過が許可されていない場合は、このリセラーの顧客のウェブサイトとユーザアカウントはすべて中断されます。実際には顧客は自分の制限値は超えていないため、それは顧客に不満をもたらします。そのため、原則としてリセラーアカウントに販売超過を許可することが推奨されています。リセラーアカウントに販売超過を許可する場合、このアカウントに利用超過も許可することが推奨されています。

注: 利用超過ポリシーは、メールボックスのサイズに設定された制限値（メールボックスクォータ）には適用されません。従って、利用超過を有効にした場合も、必ずメールボックスに十分なディスク容量を割り当ててください。

- **ディスク容量。** リセラーに割り当てられるディスク容量の合計をメガバイトで指定します。すべてのユーザアカウントおよびサイトに関連する全てのファイルが占有するディスク容量が含まれます。ウェブサイトコンテンツ、データベース、アプリケーション、メールボックス、ログファイル、そしてバックアップファイルです。
- **トラフィック** 1 か月の間に、リセラーのウェブサイトから転送できるデータの総量をメガバイトで指定します。

- **クライアント。** リセラーが自分の顧客に作成できるユーザアカウントの総数を指定します。
- **ドメイン。** リセラーがサーバでホスティングできるドメイン名（ウェブサイト）の合計数を指定します。これにはサーバでホスティングされるウェブサイトと、他のサーバでホスティングされるウェブサイトを示すドメインフォワーダが含まれます。ドメインエイリアス（このサーバでホスティングされるサイトの追加ドメイン名）とサブドメインは別にカウントされ、このリソースタイプにより制限されません。
- **サブドメイン。** リセラーがホスティングできるサブドメインの合計数を指定します。
- **ドメインエイリアス。** リセラーが自分のウェブサイトで使用可能な代替ドメイン名の追加の総数を指定します。
- **ウェブユーザ。** リセラーが自分のドメイン内の他のユーザ用にホスティングできる、個人用ウェブページの合計数を指定します。このサービスはおもに、学生やスタッフの非営利的なパーソナルページをホストする教育機関に使用されています。そういったページのウェブアドレスは通常<http://your-domain.com/~username>となります。詳細については「個人用ウェブページのホスティング」のセクションをご参照ください。
- **FrontPage アカウント**（Windows ホスティングに限り使用可能）。リセラーが自分のドメインに作成できる Microsoft FrontPage アカウントの最大数を指定します。
- **FTP アカウント**（Windows ベースのホスティングに限り使用可能）。リセラーが自分のドメインに作成できる FTP アカウントの最大数を指定します。
- **メールボックス。** リセラーがサーバでホスティングできるメールボックスの合計数を指定します。
- **メールボックスクォータ。** メールメッセージおよび自動応答の添付ファイルをドメイン内の各メールボックスに格納するために割り当てるディスク容量をキロバイトで指定します。
- **メール転送。** リセラーが設定できるメールフォワーダの合計数を指定します。
- **メールグループ。** リセラーが設定できるメールグループの合計数を指定します。
- **自動応答。** リセラーが設定できるメール自動応答の合計数を指定します。
- **メーリングリスト。** リセラーがサーバでホスティングできメーリングリストの合計数を指定します。
- **総メールボックスクォータ**（Windows ホスティングに限り使用可能）。顧客のすべてのドメイン上のすべてのメールボックスに割り当てられるディスク容量の合計をメガバイトで指定します。
- **データベース**（Linux ホスティングに限り使用可能）。顧客がサーバでホスティングできるデータベースの合計数を指定します。
- **MySQL データベースクォータおよび Microsoft SQL データベースクォータ**（Windows ホスティングに限り使用可能）。MySQL および Microsoft SQL サーバデータベースがそれぞれ、リセラーのドメインに供給できる総ディスク容量の最大数をメガバイトで指定します。
- **MySQL データベースおよび Microsoft SQL サーバデータベース**（Windows ホスティングに限り使用可能）。リセラーが自分のドメインで作成可能な MySQL および Microsoft SQL サーバデータベースの最大数をそれぞれ指定します。

- **ODBC 接続**（Windows ホスティングに限り使用可能）。リセラーがドメインで利用できる ODBC 接続の数の総数を指定します。
- **ColdFusion DSN 接続**（Windows ホスティングに限り使用可能）。リセラーがドメインで利用できる ColdFusion DSN 接続の総数を指定します。
- **Java アプリケーション**。サーバでホスト可能な Java アプリケーションまたはアプレットの総数を指定します。
- **IIS アプリケーションプール**（Windows ホスティングに限り使用可能）。リセラーがドメイン間で割り当てることができる専用 IIS アプリケーションプールの総数を指定します。
- **共有 SSL リンク**（Windows ホスティングに限り使用可能）。リセラーがドメインで利用できる共有 SSL リンクの総数を指定します。
- **有効期限**。ホスティングアカウントの期間を指定します。この期間が終了すれば、リセラーのサイトおよびリセラーの顧客のサイトはすべて中断され、そのウェブ、FTP、メールサービスはインターネットユーザにアクセスできなくなります。また、ユーザはコントロールパネルにログインできなくなります。アカウントは自動では更新できません。そこで、ホストされたドメイン名（ウェブサイト）を元の操作に戻すために、手動でユーザアカウントを更新しなければなりません。それには、**[リセラー]** > **リセラーの名前** > **[リソース使用量]**（**[統計]** > グループ内）に進んで、別の期間を**[有効期限]**ボックスに指定し、**[OK]**をクリックしてから、**[ツール]**グループ（**[リセラー]** > **リセラーの名前**）で**[スイッチオン]**アイコンをクリックします。

7. **[次へ >>]** をクリックします。

8. リクエストされた権限をリセラーに与えます（リセラーアカウントテンプレートを使用せずにこのユーザアカウントを作成した場合）。

- **コントロールパネルへのアクセス**。これを選択すると、リセラーがコントロールパネルにアクセスして自分のアカウント、ユーザアカウント、およびサイトを管理できるようになります。
- **クライアントアカウントの作成**。これを選択すると、リセラーはユーザアカウントを作成できます。
- **ドメイン作成および物理ホスティング管理**。これら2つのオプションを選択すると、リセラーは新規サイト用のホスティングアカウントのセットアップ、ホスティングアカウント機能の変更、およびプログラミングとスクリプト言語のサポートの切り替えができます。
- **ホスティングパフォーマンス管理**。リセラーが帯域幅使用量およびウェブサイトへの接続数を制限できるかどうかを指定します。

- **PHP セーフモード管理**（Linux ホスティングに限り使用可能）。リセラーが自分のサイトで PHP セーフモードをオフに切り替えることが出来るかどうかを指定します。デフォルトでは PHP は機能上の制限からセーフモードで操作するように設定されています。PHP セーフモードについて詳細は <http://php.net/features.safe-mode> をご参照ください。ウェブアプリケーションによってはセーフモードが有効になっていると正常に動作しないことがあります。サイトのアプリケーションがセーフモードのために失敗した場合はホスティングアカウントプロパティで [PHP の 'safe_mode' を有効(On)にする] チェックボックスの選択を外してセーフモードをオフに切り替えてください（[ドメイン] > ドメイン名 > [ウェブホスティング設定]）。
- **SSH を介したサーバへのアクセス管理**（Linux ホスティングに限り使用可能）または **リモートデスクトップを介したサーバへのアクセス管理**（Windows ホスティングに限り使用可能）。リセラーがセキュアシェルまたはリモートデスクトッププロトコル経由でサーバにアクセスできるかどうかを指定します。サーバへのアクセスを許可すると、サーバセキュリティを脅かすことになる場合もあることにご注意ください。
- **ハードディスククォータ割り当て**。リセラーが自分のウェブサイト用に、および顧客自身の顧客のウェブサイト用にディスク空き容量でハードクォータを割り当てられるかどうかを指定します。
- **サブドメイン管理**。リセラーが自分のドメイン内で追加サイトを設定し、顧客自身の顧客にも追加サイトの設定を許可できるかどうかを指定します。
- **ドメインエイリアスの管理**。リセラーが自分のドメイン内で代替ドメイン名を追加設定し、顧客のユーザにも代替ドメイン名の追加設定を許可できるかどうかを指定します。
- **ログローテーション管理**。リセラーが自分のサイトで処理されたログファイルのクリーンアップと再利用を調整できるかどうかを指定します。
- **Anonymous FTP の管理**。リセラーが自分のすべてのユーザがログインとパスワードを入力せずに、ファイルをダウンロードおよびアップロードできる FTP ディレクトリを設定できるかどうかを指定します。匿名 FTP サービスを使用するためには、ウェブサイトが専用 IP アドレスに常駐している必要があります。匿名 FTP サービスを使用するためには、ウェブサイトが専用 IP アドレスに常駐している必要があります。
- **FTP アカウント管理**（Windows ベースのホスティングに限り使用可能）。リセラーがウェブサイトの追加 FTP アカウントを管理できるかどうかを指定します。
- **スケジューラ管理**。リセラーがシステム内のタスクをスケジューリングできるかどうかを指定します。スケジューリングされたタスクは、スクリプトまたはユーティリティの予定に沿った実行に使用できます。
- **制限の調整**。制限の調整。リセラーがウェブサイトおよびユーザアカウントに割り当てられたリソースを変更できるかどうかを指定します。このオプションは必ず選択してください。選択しない場合、リセラーはサーバ管理者が予め定義したユーザアカウントおよびドメインテンプレートを使用しないと、新しいユーザアカウントおよびウェブサイトをセットアップできなくなります。
- **DNS ゾーン管理**。リセラーが自分のドメインの DNS ゾーンを管理できるかどうかを指定します。

- **Java アプリケーション管理。** リセラーがコントロールパネルを使用して、ウェブサイトに Java アプリケーションおよびアプレットをインストールできるかどうかを指定します。
- **メーリングリスト管理。** 顧客が GNU Mailman ソフトウェア提供のメーリングリストを使用できるかどうかを指定します。
- **スパムフィルタ管理。** リセラーが SpamAssassin スパムフィルタ使用でき、フィルタリングの設定をカスタマイズできるかどうかを指定します。
- **アンチウイルス管理。** リセラーが送受信メールのフィルタ処理のためのサーバ側のアンチウイルス保護を使用できるかどうかを指定します。
- **リモート XML インターフェースの使用機能。** リセラーが自分のウェブサイトを、カスタムアプリケーションを使用してリモートで管理できるかどうかを指定します。ウェブサイトに統合されるカスタムアプリケーションの開発に XML インターフェースを使用できます。このカスタムアプリケーションは、ホスティングアカウントの設定の自動化、および顧客がサイトからホスティングサービスを購入するためのサービス設定の自動化などに使用できます。Parallels Plesk Panel の XML インターフェース（Parallels Plesk Panel API RPC とも呼ばれています）の使用法について詳細は、API RPC の説明書（<http://www.parallels.com/ptn/documentation/ppp/>）を参照してください。
- **Sitebuilder を使用可能。** リセラーが自分のウェブサイトの作成および編集に Sitebuilder を使用できるかどうかを指定します。
- **IIS アプリケーションプール管理**（Windows ホスティングに限り使用可能）。リセラーが自分の IIS アプリケーションプールを管理できるかどうかを指定します。
- **ウェブ統計管理。** リセラーがウェブサイトに割り当てられた Web 統計を管理できるかどうかを指定します。
- **拡張書込/編集の権限管理**（Windows ホスティングに限り使用可能）。リセラーがドメインの追加の書き込み/変更の権限を管理できるかどうかを指定します。これらの権限は、顧客のウェブアプリケーションが `httpdocs` または `httpsdocs` フォルダの `root` にあるファイルベースのデータベースを使用している場合に必要です。このオプションを選択すると、ウェブサイトセキュリティが著しく侵害される場合があることにご注意ください。
- **共有 SSL 管理**（Windows ホスティングに限り使用可能）。リセラーがウェブサイトの共有 SSL を管理できるかどうかを指定します。
- **ホームページ管理。** リセラーが自分のホームページをカスタマイズできるかどうかを指定します。
- **データベースサーバを選択可能。** リセラーが、デフォルトのデータベースサーバを使用するだけでなく、自分のデータベースを作成できるように各タイプのデータベースサーバを選択可能かどうかを指定します。

- **データのバックアップおよび復元の許可および使用。** リセラーがコントロールパネルの機能を使用して、顧客のサイトをバックアップおよび復元できるかどうかを指定します。バックアップファイルをサーバに保存するのを許可するには、**【サーバリポジトリ】** チェックボックスを選択します。リセラーが任意の FTP サーバを使用してバックアップを保存するのを許可するには、**【パーソナル FTP リポジトリ】** チェックボックスを選択します。

9. **【次へ >>】** をクリックします。

10. ユーザに IP アドレスを割り当てます。IP アドレスを選択して **【追加 >>】** をクリックします。

11. **【終了】** をクリックします。

これでリセラーにコントロールパネルへの URL とログイン認証を送信することができます。

ホスティングサービスのエンドユーザ用クライアントアカウントの追加

➤ **ウェブホスティングサービスの新規顧客に対応するには、以下を実行してください。**

1. 自分の顧客を登録するには、**【ホーム】 > 【アカウント】 グループタイトルメニュー > 【クライアントアカウントの作成】** に進みます。リセラーの顧客を登録するには、**【リセラー】 > リセラー名 > 【クライアント】 グループタイトルメニュー > 【クライアントアカウントの作成】** に進みます。
2. 連絡先および請求先の情報を指定します。担当者名、ログイン名、パスワードは必須項目です。
3. ユーザアカウントのテンプレートをあらかじめ定義してある場合、**【適用テンプレート】** メニューから必要なテンプレートを選択します。
4. Sitebuilderのウェブサイト作成および管理サービスがサーバにインストールされている場合は、**【Sitebuilderにて関連するユーザアカウントを作成する】** チェックボックスを選択したままにします。
5. **【次へ >>】** をクリックします。
6. 以下の設定を指定します。
 - **利用超過ポリシー。** ディスクスペースおよび毎月の帯域幅（トラフィック）の割り当てを超えたときに何を実行するかを指定します。このオプションは**【利用超過が許可されています】** に設定することが推奨されています。そうしないと、リソース制限を超えた場合にユーザアカウントおよびユーザのサイトがブロックされます。

注: 利用超過ポリシーは、メールボックスのサイズに設定された制限値（メールボックスクォータ）には適用されません。従って、利用超過を有効にした場合も、必ずメールボックスに十分なディスク容量を割り当ててください。

- **ディスク容量。** 顧客に割り当てられるディスク容量の合計をメガバイトで指定します。ユーザのドメイン（ウェブサイト）に関連するすべてのファイルが占有するディスク容量が含まれます。ウェブサイトコンテンツ、データベース、アプリケーション、メールボックス、ログファイル、そしてバックアップファイルです。
- **トラフィック** 1か月の間に、顧客のウェブサイトから転送できるデータの量をメガバイトで指定します。
- **ドメイン。** 顧客がサーバでホスティングできるドメイン名（ウェブサイト）の合計数を指定します。これにはサーバでホスティングされるウェブサイトと、他のサーバでホスティングされるウェブサイトを示すドメインフォワードが含まれます。ドメインエイリアス（このサーバでホスティングされるサイトの追加ドメイン名）とサブドメインは別にカウントされ、このリソースタイプにより制限されません。
- **サブドメイン。** 顧客がホスティングできるサブドメインの合計数を指定します。
- **ドメインエイリアス。** 顧客が自分のウェブサイトで使用可能な代替ドメイン名の追加の総数を指定します。
- **ウェブユーザ。** 顧客が自分のドメイン内の他のユーザ用にホスティングできる、個人用ウェブページの合計数を指定します。このサービスはおもに、学生やスタッフの非営利的なパーソナルページをホストする教育機関に使用されています。そういったページのウェブアドレスは通常<http://your-domain.com/~username>となります。詳細については「個人用ウェブページのホスティング」のセクションをご参照ください。
- **FrontPage アカウント**（Windows ホスティングに限り使用可能）。顧客が自分のドメインに作成できる Microsoft FrontPage アカウントの最大数を指定します。
- **FTP アカウント**（Windows ベースのホスティングに限り使用可能）。顧客が自分のドメインに作成できる FTP アカウントの最大数を指定します。
- **メールボックス。** 顧客がサーバでホスティングできるメールボックスの合計数を指定します。
- **メールボックスクォータ。** メールメッセージおよび自動応答の添付ファイルをドメイン内の各メールボックスに格納するために割り当てるディスク容量をキロバイトで指定します。
- **メール転送。** 1つの宛先に対して顧客が設定できるメールフォワードの合計数を指定します。
- **メールグループ。** 1つの宛先に対して顧客が設定できるメールフォワードの合計数を指定します。
- **自動応答。** 顧客が設定できるメール自動応答の合計数を指定します。
- **メーリングリスト。** 顧客がサーバでホスティングできるメーリングリストの合計数を指定します。ユーザにメーリングリストを提供するには、GNU Mailman ソフトウェアをインストールする必要があります。
- **総メールボックスクォータ**（Windows ホスティングに限り使用可能）。顧客のすべてのドメイン上のすべてのメールボックスに割り当てられるディスク容量の合計をメガバイトで指定します。
- **データベース**（Linux ホスティングに限り使用可能）。顧客がサーバでホスティングできるデータベースの合計数を指定します。

- **MySQL データベースおよび Microsoft SQL サーバデータベース**（Windows ホスティングに限り使用可能）。顧客が自分のドメインでホスティング可能な MySQL および Microsoft SQL サーバデータベースの最大数をそれぞれ指定します。
- **MySQL データベースクォータおよび Microsoft SQL データベースクォータ**（Windows ホスティングに限り使用可能）。MySQL および Microsoft SQL サーバデータベースがそれぞれ、顧客のドメインに供給できる総ディスク容量の最大数をメガバイトで指定します。
- **ODBC 接続**（Windows ホスティングに限り使用可能）。顧客がドメインで利用できる ODBC 接続の総数を指定します。
- **ColdFusion DSN 接続**（Windows ホスティングに限り使用可能）。顧客がドメインで利用できる ColdFusion DSN 接続のクの総数を指定します。
- **Java アプリケーション**。サーバでホスト可能な Java アプリケーションまたはアプレットの総数を指定します。
- **IIS アプリケーションプール**（Windows ホスティングに限り使用可能）。顧客がドメイン間で割り当てることができる専用 IIS アプリケーションプールの総数を指定します。
- **共有 SSL リンク**（Windows ホスティングに限り使用可能）。顧客がドメインで利用できる共有 SSL リンクの総数を指定します。
- **有効期限**。ホスティングアカウントの期間を指定します。この期間が終了すれば、ユーザのドメイン（ウェブサイト）はすべて停止され、そのウェブ、FTP、メールサービスはインターネットユーザにアクセスできなくなります。また、ユーザはコントロールパネルにログインできなくなります。アカウントは自動では更新できません。そこで、ホストされたドメイン名（ウェブサイト）を元の操作に戻すために、手動でユーザアカウントを更新しなければなりません。【クライアント】> クライアント名 > [リソース使用量]（【統計】グループ内）に進み、【有効期限】ボックスで別の期間を選択し、【OK】をクリックしてから、【中断解除】ショートカットをクリックします。

7. 【次へ >>】をクリックします。

8. リクエストされた権限を顧客に与えます（アカウントテンプレートを使用せずにこのユーザアカウントを作成した場合）。

- **コントロールパネルへのアクセス**。顧客が自分のアカウントとサイトを管理する場合、コントロールパネルにアクセスできるかどうかを指定します。
- **ドメイン作成**。顧客が新規サイトにホスティングアカウントを設定できるかどうかを指定します。
- **物理ホスティング管理**。顧客がホスティングアカウントの設定、ホスティングアカウント機能の変更、およびプログラミング言語とスクリプト言語のサポートのオン/オフ切り替えを実行できるかどうかを指定します。
- **ホスティングパフォーマンス管理**。顧客が帯域幅使用量およびウェブサイトへの接続数を制限できるかどうかを指定します。

- **PHP セーフモード管理**（Linux ホスティングに限り使用可能）。顧客が自分のサイトで PHP セーフモードをオフに切り替えることができるかどうかを指定します。デフォルトでは PHP は機能上の制限からセーフモードで操作するように設定されています。PHP セーフモードについて詳細は <http://php.net/features.safe-mode> をご参照ください。ウェブアプリケーションによってはセーフモードが有効になっていると正常に動作しないことがあります。サイトのアプリケーションがセーフモードのために失敗した場合はホスティングアカウントプロパティで[PHP の 'safe_mode' を有効(On)にする]チェックボックスの選択を外してセーフモードをオフに切り替えてください（[ドメイン] > ドメイン名 > [ウェブホスティング設定]）。
- **SSH を介したサーバへのアクセス管理**（Linux ホスティングに限り使用可能）または **リモートデスクトップを介したサーバへのアクセス管理**（Windows ホスティングに限り使用可能）。リセラーがセキュアシェルまたはリモートデスクトッププロトコル経由でサーバにアクセスできるかどうかを指定します。サーバへのアクセスを許可すると、サーバセキュリティを脅かすことになる場合もあることにご注意ください。
- **ハードディスククォータ割り当て**。顧客が自分のウェブサイト用にディスク領域にハードクォータを割り当てることができるかどうかを指定します。
- **サブドメイン管理**。顧客が自分のドメインに追加のサイトをセットアップできるかどうかを指定します。
- **ドメインエイリアスの管理**。顧客が自分のウェブサイト追加の代替ドメイン名をセットアップできるかどうかを指定します。
- **ログローテーション管理**。顧客が自分のサイトで処理されたログファイルのクリーンアップと再利用を調整できるかどうかを指定します。
- **Anonymous FTP の管理**。顧客が自分のすべてのユーザがログインとパスワードを入力せずに、ファイルをダウンロードおよびアップロードできる FTP ディレクトリを設定できるかどうかを指定します。匿名 FTP サービスを使用するためには、ウェブサイトが専用 IP アドレスに常駐している必要があります。匿名 FTP サービスを使用するためには、ウェブサイトが専用 IP アドレスに常駐している必要があります。
- **FTP アカウント管理**（Windows ベースのホスティングに限り使用可能）。顧客が追加 FTP アカウントを作成および管理できるかどうかを指定します。
- **スケジューラ管理**。顧客がシステム内のタスクをスケジューリングできるかどうかを指定します。スケジューリングされたタスクは、スクリプトまたはユーティリティの予定に沿った実行に使用できます。
- **制限の調整**。顧客が自分のアカウントおよびサイトに割り当てられたリソースを変更できるかどうかを指定します。
- **DNS ゾーン管理**。顧客が自分のドメインの DNS ゾーンを管理できるかどうかを指定します。
- **Java アプリケーション管理**。顧客がコントロールパネルを使用して、ウェブサイト Java アプリケーションおよびアプレットをインストールできるかどうかを指定します。
- **メーリングリスト管理**。顧客がメーリングリストを使用できるかどうかを指定します。
- **スパムフィルタ管理**。顧客が SpamAssassin ソフトウェア提供の SpamAssassin スパムフィルタ使用できるかどうかを指定します。

- **アンチウイルス管理。**顧客が送受信メールのフィルタ処理のためのサーバ側のアンチウイルス保護を使用できるかどうかを指定します。
- **データのバックアップと復元機能。**顧客がコントロールパネルの機能を使用して、顧客のサイトをバックアップおよび復元できるかどうかを指定します。Linux ホスティングアカウントには、以下のチェックボックスも選択する必要があります。サーバへのバックアップファイルの保存を許可するには【ローカルリポジトリ】チェックボックスを選択し、顧客がバックアップを保存するのに任意の FTP サーバを使用するのを許可するには【リモート(FTP)リポジトリ】チェックボックスを選択します。
- **リモート XML インターフェースの使用機能。**顧客が自分のウェブサイトを、カスタムアプリケーションを使用してリモートで管理できるかどうかを指定します。ウェブサイトに統合されるカスタムアプリケーションの開発に XML インターフェースを使用できます。このカスタムアプリケーションは、ホスティングアカウントの設定の自動化、および顧客がサイトからホスティングサービスを購入するためのサービス設定の自動化などに使用できます。Parallels Plesk Panel の XML インターフェース (Parallels Plesk Panel API RPC と呼ばれています) の用法について詳細は、API RPC の説明書 (<http://www.parallels.com/ptn/documentation/ppp/>) を参照してください。
- **Sitebuilder を使用可能。**顧客が自分のウェブサイトの作成および編集に Sitebuilder を使用できるかどうかを指定します。
- **IIS アプリケーションプール管理** (Windows ホスティングに限り使用可能)。顧客が自分の IIS アプリケーションプールを管理できるかどうかを指定します。
- **ウェブ統計管理。**顧客が自分のドメインのウェブ統計を管理できるかどうかを指定します。
- **拡張書込/編集の権限管理** (Windows ホスティングに限り使用可能)。顧客が自分のドメインの追加の書き込み/変更の権限を管理できるかどうかを指定します。これらの権限は、顧客のウェブアプリケーションが httpdocs または httpsdocs フォルダの root にあるファイルベースのデータベースを使用している場合に必要です。このオプションを選択すると、ウェブサイトセキュリティが著しく侵害される場合があることにご注意ください。
- **共有 SSL 管理** (Windows ホスティングに限り使用可能)。顧客が自分のドメインの共有 SSL を管理できるかどうかを指定します。
- **ホームページ管理。**顧客が自分のホームページをカスタマイズできるかどうかを指定します。
- **データベースサーバを選択可能。**顧客が、デフォルトのデータベースサーバを使用するだけでなく、自分のデータベースを作成できるように各タイプのデータベースサーバを選択可能かどうかを指定します。

9. [次へ >>] をクリックします。


10. ユーザに IP アドレスを割り当てます。IP アドレスを選択して [追加 >>] をクリックします。

11. [終了] をクリックします。

これで顧客にコントロールパネルへの URL とログイン認証を送信することができます。

ユーザアカウントの変更

➤ ユーザの IP プールから IP アドレスを追加または削除するには、以下を実行してください。

1. 代理店アカウントに対しては、[代理店] > 代理店名に進みます。ホスティングユーザアカウントに対しては、[クライアント] > クライアント名に進みます。
2. [拡張ツール] グループで [IPアドレス] を選択します。
 - IP アドレスを割り当てるには、[IPアドレスの追加] をクリックして [利用可能な IP] ボックスでアドレスを選択し（キーボードの [Ctrl] ボタンを押したまま必要なアドレスを左クリックすると複数の IP アドレスを選択できます）、[OK] をクリックします。
 - IP アドレスを削除するには、該当するチェックボックスをチェックして、[削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。
 - IP アドレスに SSL 証明書を割り当てるには、必要な IP アドレスをクリックし [SSL 証明書] メニューで証明書を選択して [OK] をクリックします。
 - ユーザが IP アドレスを使用してサーバの Web リソースを参照した際に（同じ IP アドレスを共有するサイトのみ）開く Web サイトを指定するには、[ホスティング] 列の数字をクリックし、ドメイン名を選択して  [デフォルトとして選択] をクリックします。

➤ 連絡先情報を更新したりコントロールパネルへのアクセス用のパスワードを変更するには、以下を実行してください。

1. 代理店アカウントに対しては、[代理店] > 代理店名に進みます。ホスティングユーザアカウントに対しては、[クライアント] > クライアント名に進みます。
2. [個人データ]（[アカウント] グループ内）をクリックします。
3. 必要に応じて情報を入力し、[OK] をクリックします。

➤ ユーザの FTP パスワードを変更するには、以下を実行してください。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [Webホスティング設定]（[Webサイト] グループ内）に進みます。
2. [新しいFTPパスワード] ボックスおよび [パスワードの確認] ボックスで新規パスワードの入力と確認を行います。
3. [OK] をクリックします。

➤ **ユーザがコントロールパネルを通じて実行できる操作の権限を変更するには、以下を実行してください。**

1. 代理店アカウントに対しては、[代理店] > 代理店名に進みます。ホスティングユーザアカウントに対しては、[クライアント] > クライアント名に進みます。
2. [権限]（[アカウント] グループ内）をクリックします。
3. 必要な権限を入力し、[OK] をクリックします。

➤ **ユーザアカウントのリソース使用量制限を変更するには、以下を実行してください。**

1. 代理店アカウントに対しては、[代理店] > 代理店名に進みます。ホスティングユーザアカウントに対しては、[クライアント] > クライアント名に進みます。
2. [リソース使用量]（[統計] グループ内）をクリックします。
3. リソース割り当てを入力して、[OK] をクリックします。

➤ **ユーザのコントロールパネルインターフェース言語およびスキンを変更するには、以下を実行してください。**

1. 代理店アカウントに対しては、[代理店] > 代理店名に進みます。ホスティングユーザアカウントに対しては、[クライアント] > クライアント名に進みます。
2. [インターフェースプリファレンス]（[アカウント] グループ内）をクリックします。
3. インターフェース言語、スキン、インターフェースのカスタマイズテンプレートを指定して [OK] をクリックします。

このセクションの内容:

多数のユーザアカウントへの類似の変更の実行	192
ドメイン管理者向けアカウントの変更	194

多数のユーザアカウントへの類似の変更の実行

➤ 多数のユーザアカウントに対して同時にホスティングオプションを変更するには、以下を実行します。

1. 必要なユーザアカウントを選択します。

- 複数の代理店アカウントを一度に変更するには、ナビゲーションペインの【代理店】ショートカットをクリックして該当するアカウントのチェックボックスを選択します。

または

- 複数のクライアントアカウントを一度に変更するには、ナビゲーションペインの【クライアント】ショートカットをクリックして該当するアカウントのチェックボックスを選択します。

2. 【修正】をクリックします。

3. 【パーミッション】セクション（ユーザアカウントの変更時にのみ有効です）にすべてのクライアント権限のリストが表示されます。クライアントのアクションの可用性を変更するには、【スイッチオン】または【スイッチオフ】するために適切なラジオボタンを選択します。【変更しない】を選択すると変更されません。

4. 【制限】セクションにはすべてのホスティングアカウントの制限が表示されます。制限を変更するには、リストの左側で適切なドロップダウンボックスを選択します。必要に応じて、設定を調整してください。

- 制限を削除するには【無制限】を選択します。
- 具体的な値で制限を設定するには【値】を選択して指定の値を数字で入力します。
- 【増加(+)] を選択し、値の種類具体的な単位またはパーセント）を選択して数値を入力し、指定の値（具体的な単位またはパーセントで）だけ対応する限度を増加させます。
- 【減少(-)] を選択し、値の種類具体的な単位またはパーセント）を選択して数値を入力し、指定の値（具体的な単位またはパーセントで）だけ対応する限度を減少させます。
- 変更しない場合には【変更しません】値が選択されたままにします。

5. 【ホスティング】セクション（ドメイン管理者アカウントの編集時にのみ有効です）にすべてのホスティングパラメータのリストが表示されます。ドメインの特定の機能を変更するには、適切なオプションボタンを選択します。【スイッチオン】、【スイッチオン】、あるいはそのままにしておくなら【変更しません】を選択してください。

6. [プリファレンス] セクションにはすべてのホスティングアカウントのプリファレンスが表示されます。クライアントまたはドメインに特定のプリファレンスを設定するには、適切なオプションボタンを選択します。 [スイッチオン]、[スイッチオン]、あるいはそのままにしておくなら [変更しません] を選択してください。
7. [サービス] セクション (ドメイン管理者アカウントの変更時にのみ有効です) で様々なドメインサービスの可用性を定義することができます。 それには適切なオプションボタンを選択します。 [スイッチオン]、[スイッチオン]、あるいはそのままにしておくなら [変更しません] を選択してください。
8. [OK] をクリックします。

ドメイン管理者向けアカウントの変更

➤ **ドメイン管理者がコントロールパネルにアクセスできるようにするには、以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [ドメイン管理者アクセス]（[ドメイン管理] グループ内）に進みます。
2. [ドメイン管理者のアクセスを許可する] チェックボックスを選択し、コントロールパネルへのアクセスの為のパスワード（ドメイン管理者のログイン名が常にその人物自身のドメイン名となります）を入力し、連絡情報を入力してユーザがコントロールパネルを通じて実行できるようにする操作を指定します。
3. [OK] をクリックします。

➤ **連絡先情報を更新したりコントロールパネルへのアクセス用のパスワードを変更するには、以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [個人データ]（[ドメイン管理] グループ内）に進みます。
2. 必要な変更を行い、[OK] をクリックします。

➤ **ユーザのFTPパスワードを変更するには、以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [Webホスティング設定]（[Webサイト] グループ内）に進みます。
2. [新しいFTPパスワード] ボックスおよび[パスワードの確認] ボックスで新規パスワードの入力と確認を行います。
3. [OK] をクリックします。

➤ **ドメイン管理者がコントロールパネルを通じて実行できる操作の権限を変更するには、以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [ドメイン管理者アクセス]（[ドメイン管理] グループ内）に進みます。
2. 必要な変更を行い、[OK] をクリックします。

➤ **ドメイン管理者(サイト所有者)に追加でリソースを割り当てるには、以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [リソース使用量]（[統計] グループ内）に進みます。
2. リソース割り当てを入力して、[OK] をクリックします。

➤ ユーザのコントロールパネルインターフェース言語およびスキンを変更するには、以下を実行してください。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [ドメイン管理者アクセス]（[ドメイン管理] グループ内）に進みます。
2. インターフェース言語、スキン、インターフェースのカスタマイズテンプレートを指定して [OK] をクリックします。

代理店アカウントをクライアントアカウントに変換

代理店のアカウントをクライアントアカウント（代理店機能がないWebホスティングユーザアカウント）に変換する前に、その代理店の顧客に属するすべてのユーザアカウント（クライアントアカウント）を他の代理店に転送する必要があります。それからでないと、代理店のアカウントをクライアントアカウントに変換できません。

➤ **クライアントアカウントを他の代理店に転送するには、以下を実行してください。**

1. [代理店] > *代理店の名前* > [クライアント] グループタイトルメニュー > [クライアントアカウントに新しい所有者を割り当てる] に進みます。
2. すべてのユーザアカウントを選択するには、左列見出しのチェックボックスを選択して [次へ >>] をクリックします。
3. 新しく所有者になる名前のオプションボタンを選択して [次へ >>] をクリックします。
4. ユーザアカウント設定の変更内容を確認して [OK] をクリックします。

➤ **代理店のアカウントをクライアントアカウントに変換するには、以下を実行してください。**

1. [代理店] に進みます。
2. クライアントアカウントに変換する代理店のアカウントのチェックボックスを選択します。
3. [クライアントに変換する] をクリックします。
4. [OK] をクリックします。

クライアントアカウントを代理店アカウントに変換

- クライアントのアカウントを代理店アカウントに変換するには、以下を実行してください。
- 1. [クライアント] に進みます。
- 2. 代理店アカウントに変換するユーザアカウントのチェックボックスを選択します。
- 3. [代理店に変換する] をクリックします。

ドメイン管理者アカウントをクライアントアカウントに変換

- ドメイン管理者のアカウントをクライアントアカウントに変換するには、以下を実行してください。
- 1. [ドメイン] に進みます。
- 2. 管理者アカウントをクライアントアカウントに変換するドメインのチェックボックスを選択します。
- 3. [クライアントに変換する] をクリックします。
- 4. ユーザアカウントへの変更内容を確認して [OK] をクリックします。

請求システムの勘定残高レポートの表示

Parallels Plesk Panel Billing システムをインストールして設定した場合、資料（<http://modernbill.com/support/manual/>）に記載されているように、顧客の勘定残高レポートを見ることができます。

- ユーザの勘定残高レポートを表示するには、以下を実行してください。
- 1. [クライアント] をクリックします。
- 2. ユーザアカウントを探して、[残高] 列で該当のショートカットをクリックします。

ユーザアカウントの中断および中断解除

➤ ユーザアカウントおよびユーザサイトを中断するには、以下を実行してください。

1. 代理店アカウントに対しては、[代理店] > 代理店名に進みます。ホスティングユーザアカウントに対しては、[クライアント] > クライアント名に進みます

2. [中断] をクリックします。

ユーザおよびその顧客（サイト所有者）によるコントロールパネルへのアクセスが拒否されます。ユーザのドメイン（Web サイト）は中断され、インターネットユーザは、そのユーザの Web、FTP、メールサービスにアクセスできなくなります。

➤ ユーザアカウントおよびユーザサイトの中断を解除するには、以下を実行してください。

1. 代理店アカウントに対しては、[代理店] > 代理店名に進みます。ホスティングユーザアカウントに対しては、[クライアント] > クライアント名に進みます

2. [中断解除] をクリックします。

➤ ドメイン管理者アカウントのドメイン（Web サイト）を中断するには、以下を実行してください。

1. [ドメイン] > ドメイン名に進みます。

2. [中断] をクリックします。

ドメイン（Web サイト）は中断されます。その Web、FTP、メールサービスはインターネットユーザにはアクセスできなくなります。また、ドメイン所有者はコントロールパネルにログインできなくなります。

➤ ドメイン管理者アカウントのドメイン（Web サイト）の中断を解除するには、以下を実行してください。

1. [ドメイン] > ドメイン名に進みます。

2. [中断解除] をクリックします。

ユーザアカウントの削除

➤ **サイトを持つユーザアカウントを削除するには、以下を実行してください。**

1. 代理店アカウントに対しては、[代理店]に進みます。ホスティングユーザアカウントに対しては、[クライアント]に進みます
2. 削除するユーザアカウントに対応するチェックボックスを選択し、[削除]をクリックします。
3. 削除を確認して [OK] をクリックします。
すべてのユーザサイトを持つユーザアカウントがサーバから削除されます。

➤ **ドメイン管理者アカウントをサイトと一緒に削除するには、以下を実行してください。**

1. ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
2. 削除するドメイン (Web サイト) に該当するチェックボックスを選択し、[削除] をクリックします。
3. 削除を確認して [OK] をクリックします。
ドメイン管理者のアカウントとドメイン (Web サイト) に関連するすべてのデータがサーバから削除されます。

Web サイトのホスティング

このセクションの内容:

ドメイン名の取得.....	201
ウェブサイトのホスティングアカウントの設定.....	201
サイトの作成および公開.....	210
サイトのプレビュー.....	221
ASP.NET の設定 (Windows ホスティング)	221
ドメインの PHP バージョンの設定 (Windows ホスティング)	229
データベースの配置.....	230
外部データベース (Windows ホスティング) からデータにアクセス.....	233
Adobe ColdFusion のデータソース名の設定 (Windows ホスティング)	235
アプリケーションのインストール.....	238
Google ウェブサイト サービスの使用法.....	244
IIS アプリケーションプールの使用 (Windows ホスティング)	246
Web サイトの保護.....	250
サブドメインを含むサイト構造の編成.....	270
サイトの追加ドメイン名の設定 (ドメインエイリアス)	275
仮想ディレクトリの使用 (Windows ホスティング)	278
Web サーバでの個人用 Web ページのホスティング.....	290
サーバへの anonymous FTP アクセスの設定.....	292
ウェブサーバのエラーメッセージのカスタマイズ (Linux ホスティング)	294
Web サーバのエラーメッセージのカスタマイズ (Windows ホスティング) ..	296
ドメインの DNS ゾーン設定のカスタマイズ.....	298
外部ドメインネームサーバを持つサイトの供給.....	304
Web ホスティングタイプを物理的から転送へ変更.....	305
他のサーバにホストされているサイトのドメイン名の使用 (ドメイン転送) ..	307
ユーザアカウント間のドメイン転送.....	308
Web サイトホスティングアカウントのアップグレード.....	309
Web サイトの中断および中断解除.....	311
Web サイトの削除.....	311
メールサービスの使用.....	312

ドメイン名の取得

インターネットで Web サイトを公開する前に、ドメイン名登録機関に一意のドメイン名を登録する必要があります。

ウェブサイトのホスティングアカウントの設定

➤ サーバ上でウェブサイトをホストするには、以下を実行します。

1. [ホーム] > [ドメイン] グループタイトルメニュー > [ドメインの作成] に進みます。
2. サイトが属するユーザアカウントを選択します（ユーザ名の左のオプションボタンをクリックします）。
3. [次へ >>] をクリックします。

4. 登録したドメイン名と同じものを指定します。www.your-domain.comのような一般的なURLでユーザがウェブサイトのアクセスできるよう許可するには、[www] チェックボックスは選択したままにします。

ドメイン名の前に www エイリアスをつけたるのは無料でできますが、この場合はブラウザに入力した文字に関係なくユーザにウェブサイトへのアクセスを許可することになります。www.your-domain.comと your-domain.com、どちらも同じサイトをポイントします。

5. 選択先のIPアドレスが複数ある場合、[IPアドレスの割り当て] メニューから必要なアドレスを選択します。

SSL(Secure Sockets Layer)データ暗号化を実行するために、E-コマースサイトはIPアドレス（他のサイトと共有でない）が必要であることを忘れないでください。

ウェブサイトの設定を行うと、必要に応じてそれに別のIPアドレスを割り当てることができます。サイトのIPアドレスを変更すると、新しいIPアドレスの情報がDNSシステムに伝わるまでドメイン/サイトにアクセスできなくなり、ドメイン下のメールボックスに送信されたメールメッセージは届かなくなることにご注意ください。それには1日か2日かかる場合があります。

6. このクライアント向けにすでにドメインテンプレートを作成しすべてのホスティング機能とリソース利用割り当てを定義している場合（「ドメインおよびウェブサイトの設定の単純化」（164 ページ）の章で説明されています）、[ドメインテンプレート設定を利用する] ボックスで必要なテンプレートを選択します。
7. [メール] および [DNS] チェックボックスを選択します。
8. 自分のマシンでウェブサイトをホスティングするには、[ウェブサイトホスティング] オプションを選択します。

この操作が完了すると、コントロールパネルがこのマシンの新しいドメイン名となるドメイン名サーバを設定し、新しいウェブサイトサーバを準備するウェブサーバを準備します。適切なリソースレコードを持つ新しいゾーンファイルがドメイン名サーバの設定ファイルとして追加され、ウェブスペースがウェブサーバのディレクトリ内に作成され、必要なユーザアカウントがサーバ上に作成されます。

注: サイトが他のマシンでホストされる場合、コントロールパネルの DNS サーバをサイトの DNS ゾーンのサーバの為にだけ使用するには、**【フレーム転送】**または**【標準転送】**オプションのいずれかを選択します。標準転送では、ユーザはそのサイトに転送され、実際のサイト URL がユーザのブラウザに示されます。従って、ユーザは別の URL へ転送されていることが常に分かります。フレーム転送では、ユーザはそのサイトが実際は別の場所にあることを知らずに転送されます。例えば、以下ようになります。顧客が無料の個人ウェブサイトをインターネットサービスプロバイダまたは無料のウェブホストを利用して持っていて、そのウェブサイトのアドレスが <http://www.geocities.com/~myhomepage> の場合に、顧客はセカンドレベルドメイン名 www.myname.com を購入し、そのウェブサイトへのドメインの転送を希望したとします。このような場合では、通常**【フレーム転送】**サービスを選択します。詳細については「他のサーバにホストされているサイトのドメイン名を使用する（ドメイン転送）」（307 ページ）の章をご参照ください。

9. FTPおよびMicrosoft FrontPage経由でウェブサイトコンテンツをアップロードする際に使用するユーザ名とパスワードを入力します（Windowsホスティングでのみ使用可能）。
10. **【次へ >>】** をクリックします。
11. 以下の設定を指定します。
 - **SSL 対応。** SSL（Secure Sockets Layer）暗号化は一般に専用 IP アドレス上で実行される e-コマースウェブサイトでのオンライントランザクションの間の機密データの転送を保護するために使用されます。暗号化プロセスに参加する SSL 認証は、通常単一の IP アドレス上の単一のドメイン名に適用されます。そこで、SSL プロテクションを必要とする各サイトは専用 IP アドレス上でホストされる必要があります。例外はサブドメインで、ここではワイルドカード認証で保護することができます。単一のアドレス（共有またはネームベースホスティング）上で異なるドメイン名を持ついくつかのウェブサイトをホストするウェブサーバ上に SSL 認証をインストールすることは技術的に可能ですが、この方法はお奨めしません。暗号化は行われますが、セキュアサイトに接続しようとする、ユーザに警告メッセージが表示されます。ウェブサイト用の SSL 暗号化を許可するには、**【SSL 対応】** チェックボックスを選択してください。
 - **SSL 認証を受けないコンテンツと同じディレクトリに、SSL 認証を受けるコンテンツを設置する**（Linux ホスティングでのみ使用可能）。デフォルトでは、ユーザが FTP アカウントを通じてサイトを公開する場合、httpsdocs ディレクトリへのセキュアな接続を経由してアクセスできるようにしなければならないウェブコンテンツおよびプレーン HTTP を経由して httpdocs ディレクトリにアクセスできるようにしなければならないウェブコンテンツをアップロードする必要があります。単一の場所（httpdocs ディレクトリ）を通じてすべてのコンテンツを公開するのに便利のように、**【SSL 認証を受けないコンテンツと同じディレクトリに、SSL 認証を受けるコンテンツを設置する】** チェックボックスを選択してください。

- **[FTP ログイン名] および [FTP パスワード]** (Linux ホスティングに限り使用可能)、または **[FTP/Microsoft FrontPage ログイン名] および [FTP/Microsoft FrontPage パスワード]** (Windows ホスティングに限り使用可能)。FTP または Microsoft FrontPage 経由のサーバへのサイトを発行するのに使用するユーザ名およびパスワードを指定します。 **[パスワードの確認]** ボックスでパスワードを再入力してください。
- **ハードディスククォータ** (Linux ホスティングでのみ使用可能)。このサイトのウェブスペースに割り当てるディスク容量をメガバイト単位で指定します。これは、制限に達した場合にさらに多くのファイルをウェブスペースに書き込めないようにする、いわゆるハードクォータです。ファイルを書き込もうとすると、ユーザには「Out of disk space (ディスクの空き容量不足)」エラーが発生します。ハードクォータはサーバのオペレーティングシステムで有効化されます。 **[ハードディスククォータ]** フィールドで「ハードディスククォータ対応なし」という旨のコメントが表示されていて、ハードクォータを使用したい場合は、サーバシェルにログインしてコマンド `quotaon -a` を実行します。
- **SSH を介したサーバへのアクセス** (Linux ホスティングに限り使用可能) または **リモートデスクトップを介したサーバへのアクセス** (Windows ホスティングに限り使用可能)。これによってサイト所有者は Secure Socket Shell またはリモートデスクトップ接続を通じて信頼性を持ってウェブコンテンツをサーバにアップロードできるようになりますが、サーバへのアクセス許可はサーバセキュリティへの潜在的な脅威にもなるため、このオプションを **[拒否]** に設定することが推奨されています。
- **Sitebuilder を用いてウェブサイトを作成し公開する**。これにより、サイト所有者はサーバにインストールされた Sitebuilder プログラムを用いて、ウェブサイトを作成および管理できます。
- **Microsoft FrontPage 対応**。Microsoft FrontPage は人気のあるウェブサイト開発ツールです。ユーザが Microsoft FrontPage 経由でサイトを公開および変更できるようにするには、**[Microsoft FrontPage 対応]**、**[Microsoft FrontPage over SSL 対応]**、および **[リモート FrontPage 認証許可]** オプションを選択します。
- **サービス**。ウェブサーバで対応するプログラミング言語およびスクリプト言語を次から指定します。Active Server Pages (ASP)、Server Side Includes (SSI)、PHP hypertext preprocessor (PHP)、Common Gateway Interface (CGI)、Fast Common Gateway Interface (FastCGI)、Perl、Python、ColdFusion および Miva e-コマースソリューションに必要な Miva スクリプト。デフォルトでは PHP は機能上の制限からセーフモードで操作するよう設定されています。PHP セーフモードについて詳細は <http://php.net/features.safe-mode> をご参照ください。ウェブアプリケーションによってはセーフモードが有効になっていると正常に動作しないことがあります。サイトのアプリケーションがセーフモードのために失敗した場合はホスティングアカウントプロパティで **[PHP の 'safe_mode' を有効(On)にする]** チェックボックスの選択を外してセーフモードをオフに切り替えてください (**[ドメイン] > ドメイン名 > [ウェブホスティング設定]**) 。

- **ウェブ統計。** ウェブサイト所有者がサイトや表示したサイトのページの訪問者の人数に関する情報を表示できるようにするために、**【ウェブ統計】** メニューから統計プログラムを選択して、**【パスワードで保護されたディレクトリ /plesk-stat/webstat 経由でアクセス可能】** チェックボックスを選択します。これにより Webalizer 統計ソフトウェアがインストールされますが、このソフトウェアによりレポートが生成され、そのレポートをパスワードで保護されたディレクトリに配置されます。ドメインやウェブサイトの所有者は自分の FTP アカウントのログインとパスワードを使用して、URL <https://your-domain.com/plesk-stat/webstat>

注:統計プログラムを切り替えた場合、前に使用していた統計プログラムで作成したレポートはすべて削除され、新しいレポートがログファイルから情報を読み取ることで作成されサーバに保存されます。つまり、1ヶ月間しかログファイルを保存しないようにシステムを構成（**【ドメイン】 > ドメイン名 > 【ログマネージャ】 > 【ログローテーション】**）すると、ウェブ統計は最後の1ヶ月間しか有効ではありません。

- **カスタムエラードキュメント。** サイトを訪れているビジターがウェブサーバが見つけれられないページを要求する場合、ウェブサーバによりエラーメッセージを伴った標準の HTML ページが生成、表示されます。ご自身のエラーページを作成し、ご自身のサーバ上でそのページを使用したり、顧客が使用できるようにしたりする場合は、**【カスタムエラードキュメント】** チェックボックスを選択します。
- **拡張書込/編集権限**（Windows ホスティングに限り使用可能）。このオプションは、ドメインのウェブアプリケーションが `httpdocs` または `httpsdocs` フォルダの root にあるファイルベースのデータベースを使用している場合に必要です。このオプションを選択すると、ウェブサイトセキュリティが著しく侵害される場合があることにご注意ください。
- **専用 IIS アプリケーションプールを利用**（Windows ホスティングに限り使用可能）。このオプションはドメイン上のウェブアプリケーションの専用 IIS アプリケーションプールを有効にします。専用 IIS アプリケーションプールを使用すると作業者のプロセスアイソレーションモード次第でドメインウェブアプリケーションの安定性が劇的に向上します。このモードはサーバでホスティングされている各ウェブサイトがそのウェブアプリケーションを実行するために別々のプロセスプールを割り当てることができます。そのため、あるアプリケーションに異常が発生しても他のアプリケーションが停止することはありません。これは特に共有ホスティングパッケージを使用している場合に便利です。

12. **【次へ >>】** をクリックします。

13. 以下の設定を指定します。

- **利用超過ポリシー。** ディスク容量およびトラフィックの制限を超えた場合に、何が実行するかを指定します。サイトをブロックするには、**【利用超過が許可されていません】** オプションを選択します。サイトの操作を許可するには、**【利用超過が許可されています】** オプションを選択します。**【リソース制限値に達したドメイン所有者に通知します】** チェックボックスを選択します。**【ホーム】 > 【通知】**（**【ログ&統計】** グループ内） > **【ドメインにて超過したリソース使用量制限】** にリソース制限値が指定されている場合、それに達すると、Parallels Plesk Panel は適切なクライアントアカウントのメールアドレス（デフォルト）またはドメイン管理者のアカウントに通知を送信します。

注: 利用超過ポリシーは、メールボックスのサイズに設定された制限値（メールボックスクォータ）には適用されません。従って、利用超過を有効にした場合も、必ずメールボックスに十分なディスク容量を割り当ててください。

- **ディスク容量。** ドメインに関連しているホスティングアカウントに割り当てられるディスク空き容量の総量を指定します。この量はメガバイトで計測されます。すべてのドメインおよびウェブサイトに関連するすべてのファイルが占有するディスクの空き容量が含まれます。ウェブサイトコンテンツ、データベース、アプリケーション、メールボックス、ログファイル、そしてバックアップファイルです。
- **トラフィック** 1ヶ月間にウェブサイトから転送できるデータ量をメガバイトで指定します。
- **サブドメイン。** このドメインの下にホストできるサブドメインの数を指定します。
- **ドメインエイリアス。** サイト所有者が自分のウェブサイトで使用可能な代替ドメイン名の追加の総数を指定します。
- **ウェブユーザ。** ドメイン所有者が自身のドメインの下に他のユーザのためにホストできる個人ウェブページ数を指定します。このサービスはおもに、学生やスタッフの非営利的なパーソナルページをホストする教育機関に使用されています。そういったページのウェブアドレスは通常<http://your-domain.com/~username>となります。個人ウェブページに埋め込まれたスクリプトが実行できるようにする場合は、**[ウェブユーザーへのスクリプトの使用の許可]** チェックボックスも選択してください。詳細については「個人用ウェブページのホスティング」のセクションをご参照ください。
- **FrontPage アカウント**（Windows ホスティングに限り使用可能）。ドメインに作成可能な追加の Microsoft FrontPage アカウントの上限数を指定します。
- **FTP アカウント**（Windows ベースのホスティングに限り使用可能）。ドメインに作成可能な追加の FTP アカウントの上限数を指定します。
- **メールボックス。** 1つのドメイン内でホストできるメールボックスの数を指定します。
- **メールボックスクォータ。** メールメッセージおよび自動応答の添付ファイルをドメイン内の各メールボックスに格納するために割り当てるディスク容量をキロバイトで指定します。
- **メール転送。** 1つのドメイン内で使用できるメール転送の数を指定します。
- **メールグループ。** 1つのドメイン内でホストできるメールグループの数を指定します。
- **自動応答。** 1つのドメイン内で設定できるメール自動応答の数を指定します。
- **メーリングリスト。** ドメイン所有者が1つのドメイン内で実行可能なメーリングリストの数を指定します。メーリングリストは、オプションでサーバにインストールされた GNU Mailman ソフトウェアにより提供されます。顧客が使用したいにもかかわらずインストールされていない場合には貴方がインストールすることができます。メーリングリストを使用できるようにするには、**[プリファレンス]** グループの下に**[メーリングリスト]** チェックボックス内にチェックマークを入れることも必要です。
- **総メールボックスクォータ**（Windows ホスティングに限り使用可能）。顧客のすべてのドメイン上のすべてのメールボックスに割り当てられるディスク容量の合計をメガバイトで指定します。

- **データベース**（Linux ホスティングに限り使用可能）。このサイトにホスティングできるデータベースの数を指定します。
- **MySQL データベース**。1つのドメイン内でホストできるデータベースの数を指定します。
- **MySQL データベースクォータおよび Microsoft SQL データベースクォータ**。MySQL および Microsoft SQL サーバデータベースがそれぞれドメインで占有できる総ディスク容量の上限をメガバイトで指定します。
- **Microsoft SQL サーバデータベース**。ドメインでホスティングできる Microsoft SQL サーバデータベースの上限数を指定します。
- **ODBC 接続**（Windows ホスティングに限り使用可能）。ドメインで使用できる ODBC 接続の総数を指定します。
- **ColdFusion DSN 接続**（Windows ホスティングに限り使用可能）。ドメインで使用できる ColdFusion DSN 接続の総数を指定します。
- **Java アプリケーション**。ドメイン所有者が1つのドメインにインストールできる Java アプリケーションまたはアプレットの上限数を指定します。
- **共有 SSL リンク**（Windows ホスティングに限り使用可能）。ドメインで使用できる共有 SSL リンクの総数を指定します。
- **有効期限**。ホスティングアカウントの期間を指定します。この期間が終了すれば、ドメイン（ウェブサイト）は停止されます。そのウェブ、FTP、メールサービスはインターネットユーザにはアクセスできなくなります。また、ドメイン所有者はコントロールパネルにログインできなくなります。アカウントのホスティングは自動では更新できません。そこで、ホストされたドメイン名やウェブサイトを元の操作に戻すために、手動でホスティングアカウントを更新しなければなりません。ナビゲーションペインで【ドメイン】ショートカットをクリックし、必要なドメイン名をクリックし、【リソース使用量】アイコンをクリックし、他の期間を【有効期限】ボックスに指定し、【OK】をクリックしてから、【中断解除】アイコン（【ドメイン】>ドメイン名>【中断解除】）をクリックします。

14. 【終了】をクリックします。

これで、サーバが新しいウェブサイトを格納する準備が整いました。サイトの所有者はこのサーバ上でサイトを公開できます。ウェブサイトの公開方法については、このガイドの「サイトの作成と公開」セクションをご参照ください。

注: このドメイン名を他のウェブホストから転送する場合、ドメイン名レジストラとともにホスト DNS アドレスを更新し、自分のネームサーバにポイントされるようにする必要があります。レジストラのウェブサイトにログインし、ドメインのホストのポインタを管理するのに使用するフォームを配置し、現在の DNS ホスト設定を自分のネームサーバのホスト名で書き換えます。新しいネームサーバの情報は、48 時間以内に DNS システム全体に行き渡ります。

このサーバでホストされるサイトのポイント先として複数のドメイン名を登録している場合、ドメインエイリアスを設定する必要があります。詳しくは、「サイトの追加のドメイン名（ドメインエイリアス）の設定」（275 ページ）セクションをご参照ください。

ご自分のマシンで他のサーバ上でホストされているサイトへのポイント先として複数のドメインをホストする必要がある場合、ドメイン転送を設定する必要があります。詳しくは、「他のサーバにホストされているサイトのドメイン名を使用する（ドメイン転送）」（307 ページ）の章をご参照ください。

このセクションの内容:

サイト所有者にコントロールパネルへのログインを許可 208

サイト所有者にコントロールパネルへのログインを許可

➤ **サイトの所有者が自分のウェブを管理する目的でコントロールパネルへログインするのを許可するには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [ドメイン管理者アクセス]（[ドメイン管理] グループ内）に進みます。
2. [ドメイン管理者にアクセスを許可する] チェックボックスを選択します。
3. サイトの所有者がコントロールパネルへのアクセスに使用するパスワードを入力します。
セキュリティ上の理由から、パスワードは9文字以上とし、アルファベット、数字、記号の組み合わせにする必要があります。辞書に載っていないような言葉や固有名詞は避けてください。
4. ユーザのコントロールパネル外観に関連する設定を指定します。インターフェース言語、テーマ（スキン）、サイトの所有者によりコントロールパネル内のカスタムボタンに表示される文字数の制限などです。
5. サイトの所有者がコントロールパネルで複数のセッションを同時に実行できるようにするには、[複数セッションを許可する] チェックボックスを選択したままにします。
6. [インターフェース画面が完全にロードされるまでコントロールパネルでユーザが操作するのを禁止する] チェックボックスを選択したままにしてください。
そうすると、ユーザはコントロールパネルの準備ができるまでデータを送信したり操作を実行することができないようになります。
7. サイトの所有者が自分のコントロールパネルで実行できる操作を指定します。
 - **物理ホスティング管理**。ホスティングアカウントおよびウェブスペースの完全な制御を許可または禁止します。
 - **ホスティングパフォーマンス設定管理**（Windows ホスティングに限り使用可能）。ユーザが帯域幅使用量およびウェブサイトへの接続数を制限できるかどうかを指定します。
 - **FTP パスワード管理**（Linux ホスティングに限り使用可能）。ユーザが FTP パスワードを管理できるかどうかを指定します。
 - **SSH を介したサーバへのアクセス管理**（Linux ホスティングに限り使用可能）または **リモートデスクトップを介したサーバへのアクセス管理**（Windows ホスティングに限り使用可能）。ユーザがセキュアシェルまたはリモートデスクトッププロトコルを介してサーバにアクセスできるかどうかを指定します。サーバへのアクセスを許可すると、サーバセキュリティを脅かすことになる場合もあることにご注意ください。
 - **ハードディスククォータ割り当て**。ユーザがこのウェブサイト用にディスク領域にハードクォータを割り当てることができるかどうかを指定します。

- **サブドメイン管理。** ユーザがこのドメインに追加のサイトをセットアップできるかどうかを 定します。
- **ドメインエイリアスの管理。** ユーザがこのサイトに追加の代替ドメイン名をセットアップできるかどうかを指定します。
- **ログローテーション管理。** ユーザがこのサイトで処理されたログファイルのクリーンアップと再利用を調整できるかどうかを指定します。
- **Anonymous FTP の管理。** ユーザが、ログインとパスワードを入力せずにファイルをダウンロードおよびアップロードできるFTPディレクトリを設定できるかどうかを指定します。匿名 FTP サービスを使用するためには、ウェブサイトが専用 IP アドレスに常駐している必要があります。匿名 FTP サービスを使用するためには、ウェブサイトが専用 IP アドレスに常駐している必要があります。
- **FTP アカウント管理**（Windows ベースのホスティングに限り使用可能）。 ユーザが追加 FTP アカウントを作成および管理できるかどうかを指定します。
- **スケジューラ管理。** ユーザがシステム内のタスクをスケジューリングできるかどうかを指定します。スケジューリングされたタスクは、スクリプトまたはユーティリティの予定に沿った実行に使用できます。
- **DNS ゾーン管理。** ユーザがこのサイトの DNS ゾーンを管理できるかどうかを指定します。
- **Java アプリケーション管理。** ユーザがこのサイトで Java アプリケーションおよびアプレットを使用できるかどうかを指定します。
- **ウェブ統計管理。** ユーザがこのサイトのウェブ統計を管理できるかどうかを指定します。
- **メーリングリスト管理。** ユーザがメーリングリストを使用できるかどうかを指定します。
- **スパムフィルタ管理。** ユーザがスパムフィルタを使用できるかどうかを指定します。
- **アンチウイルス管理。** ユーザが送受信メールのフィルタ処理のためのサーバ側のアンチウイルス保護を使用できるかどうかを指定します。
- **データのバックアップおよび復元の許可。** ユーザがコントロールパネルの機能を使用して、顧客のサイトをバックアップおよび復元できるかどうかを指定します。
- **Sitebuilder を使用可能。** ユーザが自分のウェブサイトの作成および編集に Sitebuilder を使用できるかどうかを指定します。
- **IIS アプリケーションプール管理**（Windows ホスティングに限り使用可能）。 ユーザが自分の IIS アプリケーションプールを管理できるかどうかを指定します。
- **拡張書込/編集の権限管理**（Windows ホスティングに限り使用可能）。 ユーザがこのサイトの追加の書き込み/変更の権限を管理できるかどうかを指定します。これらの権限は、ユーザのウェブアプリケーションが `httpdocs` または `httpsdocs` フォルダの root にあるファイルベースのデータベースを使用している場合に必要です。このオプションを選択すると、ウェブサイトセキュリティが著しく侵害される場合があることにご注意ください。
- **ホームページ管理。** 顧客が自分のホームページをカスタマイズできるかどうかを指定します。

- **データベースサーバを選択可能。** 顧客が、デフォルトのデータベースサーバを使用するだけでなく、自分のデータベースを作成できるように各タイプのデータベースサーバを選択可能かどうかを指定します。

8. サイト所有者の連絡情報を指定します。

9. [OK] をクリックします。

これでコントロールパネルの URL、ログイン名、およびパスワード サイト所有者に送信できます。 URL はhttps://user's_domain_name:8443 となり、user's_domain_name の部分は www エイリアスなしのドメイン名です。 サイト所有者は、コントロールパネルへのログインに必要なログイン名として自分のドメイン名を指定する必要があります（例：your-domain.com）。

サイトの作成および公開

Sitebuilder およびそのライセンスキーをサーバにインストールしたら、Sitebuilder を使用して Web サイトの作成および公開ができます。あるいは、ホームまたはオフィスコンピュータにサイトコンテンツ（サイトを構成する Web ページ、スクリプト、およびグラフィックファイル）を作成して、それからそれを以下の方法のどれを使用してもサーバに公開できます。

- FTP 接続経由（最も一般的かつ簡単な方法）
- コントロールパネルのファイルマネージャ経由
- セキュアシェル接続経由（Linux および FreeBSD オペレーティングシステムのユーザのみ利用可）
- Adobe Dreamweaver または Microsoft FrontPage ソフトウェア経由（Microsoft Windows オペレーティングシステムのユーザのみ利用可）

このセクションの内容:

Sitebuilder を使用した Web サイトの作成と公開	211
FTP 経由でのサイトの公開	211
Parallels Plesk Panel ファイルマネージャ経由でのサイトの公開	215
SSH 接続によるサイトの公開	217
Microsoft FrontPage によるサイトの公開	217
Adobe Dreamweaver によるサイトの公開	220

Sitebuilder を使用した Web サイトの作成と公開

➤ **Sitebuilder を使用して Web サイトの作成を開始するには、以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [Sitebuilderにて編集する]（[Webサイト] グループ内）に進みます。 Sitebuilderウィザードが開きます。
2. [サイトの作成] オプションを選択して、画面下端の [次へ] をクリックします。

サイトを作成または編集する方法の詳細については、

http://download1.parallels.com/SiteBuilder/4.5.0/doc/user/ja_JP/html/index.htm からオンラインで Sitebuilder ウィザード ユーザガイドを参照してください。

FTP 経由でのサイトの公開

➤ **FTP 経由でサイトを公開するには、以下の操作を実行します。**

1. FTPクライアントプログラムでサーバに接続します。この際、ホスティングアカウントの設定時に指定した、またはプロバイダから取得したFTPアカウントの信用情報を使用します。FTPアドレスは<ftp://your-domain-name.com>である必要があります。ここでyour-domain-name.comはサイトのインターネットアドレスです。

ファイアウォールを設定している場合は、パッシブモードを有効にします。

2. HTTPプロトコル経由でアクセスするファイルとディレクトリをhttpdocsディレクトリにアップロードし、SSLプロトコル経由でセキュアに転送すべきファイルおよびディレクトリをhttpsdocsディレクトリにアップロードします。
3. CGIスクリプトをcgi-binディレクトリに配置します。
4. FTPセッションを終了します。

このセクションの内容:

追加の FTP アカウントの使用（Windows ホスティング） 212

追加の FTP アカウントの使用 (Windows ホスティング)


自分のウェブサイト上で他の誰かと、または他のユーザのサブドメインで作業している場合、FTP アカウントを作成すると便利です。

このセクションの内容:

追加 FTP アカウントの作成 (Windows ホスティング)	213
追加 FTP アカウント設定の変更	214
追加 FTP アカウントの削除	214

追加 FTP アカウントの作成 (Windows ホスティング)

➤ **追加の FTP アカウントを作成するには以下を実行してください。**

1. ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックして必要なドメイン名をクリックします。
2. [FTPアカウント] ([ファイル] グループ内) をクリックします。
3. [FTPアカウント] タブで [FTPアカウントの作成] をクリックします。
4. FTPアカウント名を入力します。
5.  をクリックして [ホームディレクトリ] を指定し、ディレクトリを選択します。 その代わりに入力フィールドにパスを指定することもできます。
6. [新しいパスワード] ボックスおよび [パスワードの確認] ボックスで新しいパスワードの入力と確認を行います。
7. FTPユーザのファイルとフォルダに対する権限と、使用可能なディスク容量を指定します。
 - ディスク容量を制限するには、[ハードディスククォータ] ボックスの隣の [無制限] チェックボックスの選択を外して、ディスク容量をメガバイトで入力します。
 - ホームディレクトリのコンテンツを見てそこからファイルをダウンロードする権限を FTP ユーザに与えるには、[読み取り権限] チェックボックスを選択します。
 - ホームディレクトリ内でディレクトリを作成・表示・名前変更・削除する権限を FTP ユーザに与えるには、[書き込み権限] チェックボックスを選択します。何も権限を供与しなければ、FTP アカウントへの接続は作成されるものの、ユーザに対してホームディレクトリのコンテンツは表示されません。
8. [OK] をクリックします。 新規FTPアカウントが追加されます。

追加 FTP アカウント設定の変更

➤ **追加 FTP アカウントのプロパティを変更するには、以下を実行します。**

1. ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
2. ドメイン名をクリックします。
3. [FTPアカウント]（[ファイル] グループ内）をクリックします。
4. [FTPアカウント] タブでリストからFTPアカウント名をクリックします。
5. 必要に応じて変更を行い [OK] をクリックします。

追加 FTP アカウントの削除

➤ **追加 FTP アカウントを削除するには以下を実行してください。**

1. ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
2. ドメイン名をクリックします。
3. [FTPアカウント]（[ファイル] グループ内）をクリックします。
4. [FTPアカウント] タブで削除するFTPアカウント名に該当するチェックボックスを選択し、[削除] をクリックします。
5. 削除を確認して [OK] をクリックします。 FTPアカウントが削除されます。

Parallels Plesk Panel ファイルマネージャ経由でのサイトの公開

➤ **Parallels Plesk Panel ファイルマネージャ経由でファイルをアップロードするには、以下を実行します。**


1. Parallels Plesk Panelにログインします。
2. [ドメイン] > **ドメイン名** > [ファイルマネージャ]（[ファイル]グループ内）に進みます。
3. ファイルとディレクトリを作成し、アップロードします。


HTTP プロトコル経由でアクセスするファイルとディレクトリを `httpdocs` ディレクトリに配置し、SSL プロトコル経由でセキュアに転送すべきファイルおよびディレクトリを `httpsdocs` ディレクトリに配置します。 CGIスクリプトを `cgi-bin` ディレクトリに配置します。


- 現在のディレクトリ内に新しいディレクトリを作成するには、**[新しいディレクトリを追加]** ボタンをクリックします。
- 必要なディレクトリに新しいファイルを作成するには、**[新しいファイルを追加]** を追加します。**[ファイル作成]** セクションでファイル名を指定します。さらに、ファイルマネージャで新しいファイルに `html` タグを挿入できるようにするには、**[html テンプレートを使用]** チェックボックスを選択して **[OK]** をクリックします。新しいページが開くので、ここで新しいファイルのコンテンツ、つまり HTML 形式にフォーマットされたソースを入力します。完了したら、**[OK]** をクリックします。
- ローカルマシンからファイルをアップロードするには、**[新しいファイルを追加]** をクリックし、**[ファイルソース]** ボックス（または**[参照]** ボタンでファイルの場所を指定します）でそのファイルの保存場所へのパスを指定して **[OK]** をクリックします。


Web コンテンツをファイルマネージャまたはFTP経由でアップロードすると、コントロールパネルはファイルやディレクトリへの適切なアクセス権限を自動的に設定します。権限は「`rwX rwx r--`」などの文字の組み合わせの3セットで表現されます。最初のセットはそのファイルまたはディレクトリの所有者がどのような権限を持つかを示しており、2番目のセットはそのファイルまたはディレクトリが属するユーザグループとそのグループがファイルまたはディレクトリに対して持つ権限、3番目のセットは他のユーザ（その際とを訪れたインターネットユーザなどのその他大勢）がファイルまたはディレクトリに対して持つ権限を現しています。Rはファイルまたはディレクトリを読み取る権限、Wは書き込む権限、Xはディレクトリ内のファイルまたは内観を決定する権限をそれぞれ意味します。

ファイルまたはディレクトリに対する許可を変更するには、**[権限]** の列でそのセットの許可を示すそれぞれのハイパーリンクをクリックします。必要に応じて権限を修正し **[OK]** をクリックします。

ファイルのソースコードを編集するには、 をクリックします。

ビルトインの Visual Editor 内の Web ページを編集するには (Microsoft Internet Explorer ユーザのみ利用可能)、 をクリックします。HTML ファイルを編集するときはデフォルトで Parallels Plesk Panel は内部 WYSIWYG エディタを開きます。HTML ファイルのソースコードを編集するには [HTML] をクリックします。WYSIWYG モードに戻るには [デザイン] をクリックします。

ファイルを表示するには  をクリックします。

ディレクトリまたはファイルの名前を変更するには  をクリックします。ここで新しい名前を入力して [OK] をクリックします。

ディレクトリやファイルを新しい位置にコピーまたは移動するには、チェックボックスを使って適切なディレクトリやファイルを選択して [コピー] または [移動] アイコンをクリックします。ディレクトリやファイルがコピーされる先またはその名前を指定し、コピーをする場合は [コピー] を、移動する場合は [移動] をクリックします。

ディレクトリまたはファイルの作成日を更新するには、[タイムスタンプの変更] をクリックします。タイムスタンプが現在のローカルタイムで更新されます。

ファイルまたはディレクトリを削除するには、対応するチェックボックスを選択し、[削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

SSH 接続によるサイトの公開

ローカルコンピュータ上で Linux または FreeBSD の OS を使用しサーバシェルにアクセスするには「scp」コマンドを使用してファイルやディレクトリをサーバにコピーします。 ファイルをコピーするには `scp your_file_name login@remoteserver.com:path` を、ディレクトリ全体をコピーするには `scp -r your_directory_name login@remoteserver.com:path` を指定します。

すると、Parallels Plesk Panel に搭載されている SSH ターミナル Web アプリケーションを使用して、アカウント上のファイルやディレクトリで作業ができるようになります（[ドメイン] > [ドメイン名] > [SSH ターミナル]（[ファイル] グループ内））。

Microsoft FrontPage によるサイトの公開

Microsoft FrontPage は次の 2 つの Web サイトに対応しています。 ディスクベースの Web サイトとサーバーベースの Web サイトです。 ディスクベースのサイトとは、ローカルハードディスク上で作成した後に Web サーバに公開する FrontPage Web サイトのことです。 サーバーベースのサイトとは、Web サーバ上で直接作成および作業する Web サイトで、別途の公開手続きが必要ありません。 ここでは、ディスクベースの Web サイトの公開方法についてのみ説明します。

ディスクベースの Web サイトは、FTP または HTTP を通じて公開できます。 サーバが FrontPage Server Extensions を実行していれば、サイトを HTTP の場所に公開することになります。例えば、以下ようになります。 <http://your-domain.com/MyWebSite> サーバが FTP をサポートしていれば、FTP の場所に公開することになります。例えば、以下ようになります。 <ftp://ftp.your-domain.com/myFolder>

公開後、FrontPage Server Extensions によりサイトを管理できます。

➤ **FrontPage Server Extensions 管理インターフェースにアクセスするには、以下の操作を実行します。**

1. Parallels Plesk Panel にログインします。
2. ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
3. 一覧から必要なドメイン名をクリックします。
4. SSLによって保護されていないサイトを管理するには、[Webサイト] グループタイトルメニューを開いて [Frontpage Webadmin] をクリックします。 SSLが使用できるサイトを管理するには、[Webサイト] グループタイトルメニューを開いて [Frontpage SSL Webadmin] をクリックします。
5. FrontPage管理者のログイン名とパスワードを入力し、[OK] をクリックします。

FrontPage server extensions の使用方法については、オンラインヘルプ（ [Frontpage WebAdmin] > [ヘルプ] ） または Microsoft の Web サイトをご参照ください。

このセクションの内容:

Microsoft FrontPage を使用して FTP 経由で公開.....	218
Microsoft FrontPage を使用して HTTP 経由で公開	219

Microsoft FrontPage を使用して FTP 経由で公開

➤ **FTP 経由でファイルを公開するには、以下の操作を実行します。**

1. FrontPage プログラムを開きます。
2. FrontPage の Web サイトを開きます。 [ファイル] メニューを開いて [サイトを開く] の項目を選択します。
3. [リモート Web サイト] ビューに行きます。 [Web サイト] タブをクリックした後、ウィンドウの下部にある [リモート Web サイト] ボタンをクリックします。
4. [リモート Web サイトのプロパティ] を設定します。
 - ウィンドウの右上隅にある [リモート Web サイトのプロパティ] ボタンをクリックします。
 - リモート Web サーバとして [FTP] を選択します。
 - [リモート Web サイトの位置] ボックスに、ホスト名（例：<http://ftp.your-domain.com>）を入力します。
 - [FTP ディレクトリ] ボックスで、ホスティング会社から提供されたものがあれば FTP ディレクトリに入力します。 特定できるものがない場合は、空欄のままにしておいて下さい。
 - コンピュータまたはネットワークがファイアウォールによって保護されているときは、[パッシブ FTP を使用] チェックボックスを選択してください。
5. [OK] をクリックして、リモートサイトに接続します。

[リモート Web サイト] ビューには、ローカルおよびリモートサイトにあるファイルが表示されます。
6. ウィンドウの右下隅にある [Web サイトの公開] ボタンをクリックします。

Microsoft FrontPage を使用して HTTP 経由で公開

➤ **FrontPage Server Extensions をサポートするサーバ上に HTTP 経由でファイルを公開するには、以下の操作を実行します。**

1. FrontPage プログラムを開きます。
2. FrontPage の Web サイトを開きます。 [ファイル] メニューを開いて [サイトを開く] の項目を選択します。
3. [リモート Web サイト] ビューに行きます。 [Web サイト] タブをクリックした後、ウィンドウの下部にある [リモート Web サイト] ボタンをクリックします。
4. ウィンドウの右上隅にある [リモート Web サイトのプロパティ] ボタンをクリックします。
5. [リモート Web サーバタイプ] にある [リモート Web サイト] タブで、[FrontPage または SharePoint Services] をクリックします。
6. [リモート Web サイトロケーション] ボックスで、フォルダやファイルを公開したいリモート Web サイトのインターネットアドレスをプロトコルを含めて（例えば、<http://www.your-domain.com>）入力するか、[参照] をクリックしてサイトの位置を決めます。
7. 以下のいずれかを実行します。
 - 重要な情報を妨害から守る安全な通信チャネルを確立するため、Secure Sockets Layer (SSL) を使用するには、[暗号化接続の要求(SSL)] をクリックします。 Web サーバ上で SSL 接続を行うには、公認認証局から機密保護証明を受けてサーバを設定しなければなりません。 サーバが SSL をサポートしていないときは、このチェックボックスのチェックを外します。 そうしないと、フォルダやファイルをリモート Web サイトに公開できません。
 - Web ページを公開する際に特定のタイプのコードを削除するには、[HTML の最適化] タブ上で希望のオプションを選択します。
 - 公開のためのデフォルト選択を変更するには、[公開] タブ上で希望のオプションを選択します。
8. [OK] をクリックして、リモートサイトに接続します。
[リモート Web サイト] ビューには、ローカルおよびリモートサイトにあるファイルが表示されます。
9. ウィンドウの右下隅にある [Web サイトの公開] ボタンをクリックします。

Adobe Dreamweaver によるサイトの公開

Dreamweaver からサイトを公開する前に、サイトプロパティを定義する必要があります。つまり、Dreamweaver にサイトファイルがコンピュータのどこにあるかを知らせ、サイトを公開したいサーバを指定する必要があります。

➤ **Dreamweaver でサイトを定義するには以下を実行してください。**

1. [サイト] メニューから [新規サイト] をクリックします。 サイト定義画面が開きます。
2. [高度] タブをクリックします。
3. [ロケール情報] カテゴリで以下を指定します。
 - [サイト名]。これが Web ブラウザのタイトルバーに表示されます。
 - [ローカルルートフォルダ]。すべてのサイトファイルが保存されているコンピュータのフォルダです。例えば、c:\¥My Site となります。
 - [デフォルト画像フォルダ]。サイトのグラフィックファイルが保存されているフォルダを指定します。例えば、c:\My Site\images となります。
 - [HTTP アドレス]。ドメイン名を指定します。例えば、<http://your-domain.com> となります。
4. [カテゴリ] メニューから [リモート情報] 項目を選択します。
5. [アクセス] メニューから [FTP] オプションを選択します。恐らく、貴社のサーバはFTP (ファイル転送プロトコル。通常、ファイルをインターネット上で転送するのに使用されます) 経由の公開をサポートしています。
6. 以下の設定を指定します。
 - [FTP ホスト]。先頭に ftp:// を付けずに FTP ホスト名を入力します。例えば、your-domain.com となります。
 - [ホストディレクトリ]。サイトを置くサーバ上のディレクトリを指定します。ほとんどの場合、httpdocs です。
 - [ログイン名およびパスワード]。FTP アカウントにアクセスするログイン名とパスワードを指定します。
 - [受動FTPの使用]。コンピュータがファイアウォール内であればこのオプションを選択します。
7. 正しいログイン名およびパスワードが指定され、Dreamweaverがサーバに接続できることを確認するために、[テスト] ボタンをクリックします。
8. [OK] をクリックして設定を保存します。

➤ **サイトを公開するには以下を実行してください。**

1. Dreamweaverでサイトを開きます。
2. [サイト] メニューで [置く] オプションを選択します（またはCtrl+Shift+Uを同時に押します）。

サイトのプレビュー

サーバ上にサイトを公開したら、実際のホスティング環境で正しく機能しているか確認したいと思うかも知れません。たとえドメイン名に関する情報がドメインネームシステムに広がっていなくても、お好みの Web ブラウザを通じてプレビューできます。ただし、プレビューにおいては Adobe Flash と CGI スクリプトは動作しません。また、他のファイルへの絶対パス（<a href="<http://domain.tld/image.gif>"> など）を含む Web サイトや Web ページにおいては、サイトプレビューは動作しません。

➤ **サイトをプレビューするには、以下の操作を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名に進みます。
2. [サイトプレビュー]（[Webサイト] グループ内）をクリックします。

ASP.NET の設定（Windows ホスティング）

ASP.NET は柔軟なツールセットであり、ASP.NET フレームワークに基づいた多数のアプリケーションの採用が可能になる Web 開発テクノロジーです。Parallels Plesk Panel はその .NET フレームワークのバージョン 1.1.x および 2.0.x の両方をサポートしており、その構成のほとんどを設定することができます。

このセクションの内容:

ドメインの ASP.NET 設定	222
仮想ディレクトリの ASP.NET 設定	225
デフォルト ASP.NET 設定の復元	227
ドメインの .NET フレームワークのバージョン変更	228
仮想ディレクトリの .NET フレームワークのバージョン変更	229





ドメインの ASP.NET 設定

ASP.NET アプリケーションに望みどおりの機能を持たせるために ASP.NET の設定をカスタマイズする必要がある場合、そのほとんどは Parallels Plesk Panel 経由で編集することが可能です。

➤ ドメインの ASP.NET を設定するには以下を実行してください。

1. ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
2. 一覧から必要なドメイン名をクリックします。
3. [ASP.NET設定]（[拡張ツール] グループ内）をクリックします。
4. データベースを使用する ASP.NET アプリケーションのデータベース接続データを決定するストリングをセットアップします。このオプションは ASP.NET 2.0.x でのみ有効です。

初めて ASP.NET の構成ページを開くと共通構成を持つ接続パラメータのサンプルが表示されます。サンプルは削除して自分のストリングを指定することができます。

- ストリングを追加するには、[名前] および [接続パラメータ] 入力フィールドに必要なデータを入力してその隣の  をクリックします。
 - ストリングを削除するには、その隣の  をクリックします。
5. [カスタムエラー設定] フィールドで、ASP.NET アプリケーションが返すカスタムエラーメッセージをセットアップします。
 - カスタムエラーメッセージモードを設定するには [カスタムエラーモード] メニューから適切なオプションを選択します。
 - [オン] - カスタムエラーメッセージは有効です。
 - [オフ] - カスタムエラーメッセージは無効であるエラーの詳細が表示されます。
 - [リモートのみ] - カスタムエラーメッセージはリモートクライアントにのみ表示され、ASP.NET エラーはローカルホストに表示されます。
 - 新規カスタムエラーメッセージ（[オフ] モードが選択されていない限り適用されず）を追加するには [ステータスコード] および [転送 URL] フィールドに値を入力して  をクリックします。
 - [ステータスコード] は HTTP ステータスコードを定義し、エラーページへ転送します。
 - [転送 URL] はクライアントのエラーについて情報を提供するエラーページの Web アドレスを定義します。
- 競合を避けるため、既存のエラーコードで新規カスタムエラーメッセージを追加することはできませんが、既存のコードで URL を再定義することはできます。
- リストからカスタムエラーメッセージを削除するには、その隣の  をクリックします。

6. [編集およびデバッグ] フィールドで編集の構成を設定します。

- プログラミング言語を動的編集ファイルのデフォルトに使用するには、[ページデフォルト言語] 一覧からエントリを選択します。
- リテールバイナリのコンパイルを有効にするには、[デバッグの有効化] チェックボックスを外したままにします。
- デバッグバイナリのコンパイルを有効にするには、[デバッグの有効化] チェックボックスを選択します。この場合、ソースコードにエラーがあるとそれが診断ページメッセージに表示されます。

注：アプリケーションをデバッグモードで実行すると、メモリやパフォーマンスのオーバーヘッドが発生します。デバッグはアプリケーションのテストに使用し、そのアプリケーションの実動段階ではデバッグは無効にすることをお勧め致します。

7. [グローバル設定] セクションで以下を実行してASP.NETアプリケーションのエンコード構成を設定します。

- すべてのリクエストに対して適応されるエンコードを設定するには、エンコード値を[リクエストのエンコード] フィールドに入力します（デフォルトは utf-8 です）。
- すべての返答に対して適応されるエンコードを設定するには、エンコード値を[返答のエンコード] フィールドに入力します（デフォルトは utf-8 です）。
- デフォルトで .aspx や .asmx や .asax ファイルの解析に使用されるエンコードを設定するには、エンコード値を[ファイルのエンコード] フィールドに入力します（デフォルトは Windows-1252 です）。
- 着信する Web リクエストに対してデフォルトで使用される国別環境を設定するには、[国別環境] リストから適切な項目を選択します。
- 地域依存のリソース検索においてデフォルトで使用される国別環境を設定するには、[UI 国別環境] リストから適切な項目を選択します。

8. ASP.NETアプリケーションのCAS（コードアクセスセキュリティ）信用レベルを[コードアクセスセキュリティ] フィールドで設定します。

CAS 信用レベルはアプリケーション実行が割り当てられるセキュリティゾーンであり、アプリケーションがアクセスするサーバーリソースを定義します。

重要：アセンブリが低すぎる信用レベルを割り当てた場合は正しく機能しません。許可レベルの詳細については

http://msdn.microsoft.com/library/jp-jp/dnnetsec/html/THCMCh09.asp?frame=true#c09618429_010をご参照ください。

9. [スクリプトライブラリ設定] フィールドで補助スクリプトの使用を有効にします。Webサイトで検証Webコントロールが使用されている場合はスクリプトライブラリ設定を必要と指定します。このオプションはASP.NET 1.1.xでのみ有効です。

- 補助スクリプト（具体的には、入力データ検証用オブジェクトを実行するスクリプト）を使用する必要がある場合は、.NET フレームワークスクリプトライブラリの設定を提供してください。それには、ドメインのルートディレクトリで始まるパスをスラッシュの後に **[Microsoft スクリプトライブラリへのパス]** フィールドに入力するか、**[Microsoft スクリプトライブラリへのパス]** フィールドの隣のフォルダアイコンをクリックして必要なロケーションを検索します。
- スクリプトを含むファイルを特定のロケーションへ自動インストールするには、**[インストール]** チェックボックスを選択します。ファイルが既にそこにある場合は上書きされます。

10. クライアントセッションパラメータを **[セッション設定]** フィールドで設定します。

- アプリケーションのデフォルト認証モードをセットアップするには、**[認証モード]** 一覧から適切な項目を選択します。IIS 認証のフォームを使用している場合は **[Windows]** 認証モードを選択してください。
- セッションが停止せずにアイドル状態でいられる時間をセットアップするには、適切な分数を **[セッションタイムアウト]** フィールドに入力します。

11. **[OK]** をクリックすると、変更した内容がすべて適用されます。

注： Parallels Plesk Panel は .NET フレームワークの異なるバージョン（1.1.x および 2.0.x）の設定を別々にサポートしています。




仮想ディレクトリの ASP.NET 設定

ASP.NET ベースの Web アプリケーションのパフォーマンスを向上させるため、Parallels Plesk Panel では仮想ディレクトリごとに .NET フレームワークの個別の設定を使用することができます。


➤ **仮想ディレクトリの ASP.NET を設定するには以下を実行してください。**

1. ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
2. 一覧から必要なドメイン名をクリックします。
3. [ファイル] グループタイトルメニューで [Webディレクトリ] を選択します。
4. 必要なディレクトリを参照して入力します。
5. [ASP.NET設定] をクリックします。
6. データベースを使用する ASP.NET アプリケーションのデータベース接続データを決定するストリングをセットアップします。このオプションは ASP.NET 2.0.x でのみ有効です。

初めて ASP.NET の構成ページを開くと共通構成を持つ接続パラメータのサンプルが表示されます。サンプルは削除して自分のストリングを指定することができます。

- ストリングを追加するには、[名前] および [接続パラメータ] 入力フィールドに必要なデータを入力してその隣の  をクリックします。
 - ストリングを削除するには、その隣の  をクリックします。
7. [カスタムエラー設定] フィールドで、ASP.NET アプリケーションが返すカスタムエラーメッセージをセットアップします。
 - カスタムエラーメッセージモードを設定するには [カスタムエラーモード] メニューから適切なオプションを選択します。
 - [オン] - カスタムエラーメッセージは有効です。
 - [オフ] - カスタムエラーメッセージは無効であるエラーの詳細が表示されます。
 - [リモートのみ] - カスタムエラーメッセージはリモートクライアントにのみ表示され、ASP.NET エラーはローカルホストに表示されます。
 - 新規カスタムエラーメッセージ（[オフ] モードが選択されていない限り適用されず）を追加するには [ステータスコード] および [転送 URL] フィールドに値を入力して  をクリックします。
 - [ステータスコード] は HTTP ステータスコードを定義し、エラーページへ転送します。
 - [転送 URL] はクライアントのエラーについて情報を提供するエラーページの Web アドレスを定義します。

競合を避けるため、既存のエラーコードで新規カスタムエラーメッセージを追加することはできませんが、既存のコードで URL を再定義することはできます。

- リストからカスタムエラーメッセージを削除するには、その隣の  をクリックします。

8. [編集およびデバッグ] フィールドで編集の構成を設定します。

- プログラミング言語を動的編集ファイルのデフォルトに使用するには、[ページデフォルト言語] 一覧からエントリを選択します。
- リテールバイナリのコンパイルを有効にするには、[デバッグの有効化] チェックボックスを外したままにします。
- デバッグバイナリのコンパイルを有効にするには、[デバッグの有効化] チェックボックスを選択します。この場合、ソースコードにエラーがあるとそれが診断ページメッセージに表示されます。

注：アプリケーションをデバッグモードで実行すると、メモリやパフォーマンスのオーバーヘッドが発生します。デバッグはアプリケーションのテストに使用し、そのアプリケーションの実動段階ではデバッグは無効にすることをお勧め致します。

9. [グローバル設定] セクションで以下を実行して ASP.NET アプリケーションのエンコード構成を設定します。

- すべてのリクエストに対して適応されるエンコードを設定するには、エンコード値を [リクエストのエンコード] フィールドに入力します（デフォルトは utf-8 です）。
- すべての返答に対して適応されるエンコードを設定するには、エンコード値を [返答のエンコード] フィールドに入力します（デフォルトは utf-8 です）。
- デフォルトで .aspx や .asmx や .asax ファイルの解析に使用されるエンコードを設定するには、エンコード値を [ファイルのエンコード] フィールドに入力します（デフォルトは Windows-1252 です）。
- 着信する Web リクエストに対してデフォルトで使用される国別環境を設定するには、[国別環境] リストから適切な項目を選択します。
- 地域依存のリソース検索においてデフォルトで使用される国別環境を設定するには、[UI 国別環境] リストから適切な項目を選択します。

10. ASP.NET アプリケーションの CAS（コードアクセスセキュリティ）信用レベルを [コードアクセスセキュリティ] フィールドで設定します。

CAS 信用レベルはアプリケーション実行が割り当てられるセキュリティゾーンであり、アプリケーションがアクセスするサーバーリソースを定義します。

重要：アセンブリが低すぎる信用レベルを割り当てた場合は正しく機能しません。許可レベルの詳細については

http://msdn.microsoft.com/library/jp-jp/dnnetsec/html/THCMCh09.asp?frame=true#c09618429_010をご参照ください。

11. [スクリプトライブラリ設定] フィールドで補助スクリプトの使用を有効にします。Webサイトで検証Webコントロールが使用されている場合はスクリプトライブラリ設定を必要と指定します。このオプションはASP.NET 1.1.xでのみ有効です。

- 補助スクリプト（具体的には、入力データ検証用オブジェクトを実行するスクリプト）を使用する必要がある場合は、.NET フレームワークスクリプトライブラリの設定を提供してください。それには、ドメインのルートディレクトリで始まるパスをスラッシュの後に [Microsoft スクリプトライブラリへのパス] フィールドに入力するか、[Microsoft スクリプトライブラリへのパス] フィールドの隣のフォルダアイコンをクリックして必要なロケーションを検索します。
- スクリプトを含むファイルを特定のロケーションへ自動インストールするには、[インストール] チェックボックスを選択します。ファイルが既にそこにある場合は上書きされます。

12. クライアントセッションパラメータを [セッション設定] フィールドで設定します。

- アプリケーションのデフォルト認証モードをセットアップするには、[認証モード] 一覧から適切な項目を選択します。IIS 認証のフォームを使用している場合は [Windows] 認証モードを選択してください。
- セッションが停止せずにアイドル状態でいられる時間をセットアップするには、適切な分数を [セッションタイムアウト] フィールドに入力します。

13. [OK] をクリックすると、変更した内容がすべて適用されます。

注：Parallels Plesk Panel は .NET フレームワークの異なるバージョン（1.1.x および 2.0.x）の設定を別々にサポートしています。

デフォルト ASP.NET 設定の復元

➤ **デフォルト ASP.NET 設定を復元するには以下を実行してください。**

1. ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
2. 一覧から必要なドメイン名をクリックします。
3. [ASP.NET設定]（[拡張ツール] グループ内）をクリックします。
4. [リセット] をクリックします。
5. 復元を確認して [OK] をクリックします。

ドメインの .NET フレームワークのバージョン変更

Parallels Plesk Panel は .NET フレームワークのバージョン 1.1.x および 2.0.x の両方をサポートしているため、ドメインベースごとにドメインが使用するバージョンを選択することが可能です。

➤ ドメインの .NET フレームワークのバージョンを変更するには以下を実行してください。

1. ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
2. 一覧から必要なドメイン名をクリックします。
3. [ASP.NET設定] （ [拡張ツール] グループ内）をクリックします。
4. [ツール] グループの [バージョンの変更] をクリックします。このボタンがない場合は、.NETフレームワークの有効なバージョンは1つだけです。 [フレームワークバージョン] フィールドにバージョン番号が表示されます。
5. 必要なバージョン番号を選択し [OK] をクリックします。
6. [OK] をクリックして変更を保存します。

そのかわりに、ホームページで必要なドメイン名をクリックして [Web ホスティング設定] をクリックし、 [Microsoft ASP.NET サポート] ドロップダウンメニューで .NET フレームワークバージョンを選択します。

仮想ディレクトリの .NET フレームワークのバージョン変更

1つのドメイン名で異なるバージョンの .NET フレームワークを使用する ASP.NET アプリケーションを実行するため、Parallels Plesk Panel はアプリケーションが配置されている仮想 (Web) ディレクトリごとにフレームワークバージョンを設定することが可能です。

➤ **仮想 (Web) ディレクトリの .NET フレームワークのバージョンを選択するには以下を実行してください。**

1. ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
2. 一覧から必要なドメイン名をクリックします。
3. [ファイル] メニューで [Webディレクトリ] を選択します。
4. Webディレクトリを入力して [ツール] グループの [ASP.NET設定] をクリックします。
5. .NETフレームワークバージョンを選択し、必要に応じて他の設定を変更します。
6. [OK] をクリックします。

ドメインの PHP バージョンの設定 (Windows ホスティング)

➤ **ドメインの PHP バージョンを設定するには以下を実行してください。**

1. ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
2. 一覧から必要なドメイン名をクリックします。
3. [PHP設定] ([拡張ツール] グループ内) をクリックします。
4. PHPのバージョンを選択し [OK] をクリックします。

データベースの配置

Web サーバにデータ処理アプリケーションを組み込むか、Web ページをダイナミックに生成させたい場合には、データを格納し検索するためのデータベースが必要になることでしょう。その場合、サイト用に新しいデータベースを作成するか、または以前に MySQL、PostgreSQL、または Microsoft SQL データベースにバックアップしたデータを取り込むことが可能です。

このセクションの内容:

データベースの作成またはインポート	231
データベースユーザアカウントの作成	232
データベースユーザパスワードの変更	232
データベースユーザアカウントの削除	233
データベースの削除	233

データベースの作成またはインポート

➤ **ホスティングアカウントに新しいデータベースを作成するには、以下の操作を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [データベース]（[アプリケーション & サービス]グループ内）に進み、[新しいデータベースの追加] をクリックします。
2. データベースの名前を入力します。
名前は、欧文アルファベットで始まり英数字とアンダースコアだけ使用したものにする
ことをお奨めします（64 文字まで）。
3. 使用するデータベースタイプを選択します。MySQL、PostgreSQL、または
Microsoft SQLサーバです。 [OK] をクリックします。
4. データベース管理者の信用情報を設定するには、[新しいデータベースユーザ
の追加] をクリックします。
5. データベースのコンテンツにアクセスするために使用するユーザ名とパスワ
ードを入力します。
6. [OK] をクリックします。

➤ **既存のデータベースを取り込むには、以下の操作を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [データベース]（[アプリケーション & サービス]グループ内）に進み、[新しいデータベースの追加] をクリックします。
2. データベースの名前を入力します。名前は、欧文アルファベットで始まり英
数字とアンダースコアだけ使用したものにするをお奨めします（64文字
まで）。
3. 使用するデータベースタイプを選択します。MySQL、PostgreSQL、または
Microsoft SQLサーバです。 [OK] をクリックします。
4. データベース管理者の信用情報を設定するには、[新しいデータベースユーザ
の追加] をクリックします。
5. データベースのコンテンツにアクセスするために使用するユーザ名とパスワ
ードを入力します。 [OK] をクリックします。
6. [ツール] グループの [DB WebAdmin] アイコンをクリックします。
phpMyAdmin、phpPgAdmin、またはASPEnterpriseManagerデータベース管
理ツールのインターフェースが別のブラウザウィンドウに開きます。

MySQL データベースがある場合は、以下を実行してください。

- a. 左フレームの【クエリウィンドウ】をクリックして、【ファイルのインポート】タブをクリックします。
- b. データが含まれているテキストファイルを選択し、【Go!】をクリックします。
- c. 【テキストファイルよりデータを挿入する】リンクをクリックします。

MS SQL データベースがある場合は、以下を実行してください。

- a. 左フレームでデータベース名をクリックします。
- b. 【クエリ】（虫メガネのボタン）をクリックします。
- c. テキストエリアにスクリプトのテキストをコピーして【クエリの実行】をクリックします。

データベースおよびそのコンテンツを管理するには、MySQL、PostgreSQL、Microsoft SQL サーバや Parallels Plesk Panel からアクセスできる Web ベースのデータベース管理ツール（【ドメイン】> *ドメイン名* > 【データベース】> *データベース名* > 【DB WebAdmin】）を使用してください。

データベースユーザアカウントの作成

Web サイトの管理を他の人たちと協力して行い、皆がデータベースにアクセスできるようにするには、別々のユーザアカウントを作成する必要があります。

➤ **データベースユーザアカウントを作成するには、以下を実行します。**

1. 【ドメイン】> *ドメイン名* > 【データベース】（【アプリケーション & サービス】グループ内）> *データベース名* に進み、【新規データベースユーザの追加】をクリックします。
2. データベースのコンテンツにアクセスするために使用するユーザ名とパスワードを入力します。【OK】をクリックします。

データベースユーザパスワードの変更

➤ **データベースユーザのパスワードを変更するには、以下を実行してください。**

1. 【ドメイン】> *ドメイン名* > 【データベース】（【アプリケーション & サービス】グループ内）> *データベース名* > *データベースユーザ名* に進みます。
2. 新しいパスワードを入力し【OK】をクリックします。

データベースユーザアカウントの削除

- データベースユーザアカウントを削除するには、以下を実行します。
- 1. [ドメイン] > ドメイン名 > [データベース]（[アプリケーション & サービス]グループ内）> データベース名に進みます。
- 2. 削除するユーザアカウントのチェックボックスを選択します。
- 3. [削除] をクリックします。 削除を確認して [OK] をクリックします。

データベースの削除

- データベースとそのコンテンツを削除するには、以下を実行します。
- 1. [ドメイン] > ドメイン名 > [データベース]（[アプリケーション & サービス]グループ内）に進みます。
- 2. 削除するデータベースのチェックボックスを選択します。
チェックボックスが灰色に表示された場合、これはこのデータベースが Web アプリケーションによって使用され、それぞれのアプリケーションを削除することによってのみ削除できることを意味します。
- 3. [削除] をクリックします。
- 4. 削除を確認して [OK] をクリックします。

外部データベース（Windows ホスティング）からデータにアクセス

外部データベース管理システムからのデータにアクセスしたい場合は、ODBC（オープンデータベースコネクティビティ）ドライバを使用する必要があります。例えば、サーバに Microsoft Access ODBC ドライバをインストールして、Parallels Plesk Panel を介して外部 Microsoft Access データベースへの接続を作成し、Web アプリケーションがこのデータベースにデータを格納するようにします。

このセクションの内容:

外部データベースへの ODBC 接続の作成	234
既存の ODBC 接続設定の変更	234
外部データベースへの接続の削除	235

外部データベースへの ODBC 接続の作成

Web アプリケーションがデータの格納に外部データベースを使用できるようにするには、外部データベースへの接続を作成する必要があります。

➤ **外部データベースへの接続を作成するには、以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [ODBCデータソース]（[アプリケーション & サービス] グループ内）に進みます。
2. [新しいODBC DSNの追加] をクリックします。
3. ODBC接続名およびその説明を該当するフィールドに指定します。
4. [ドライバ] フィールドに必要なドライバを指定します。
5. [OK] をクリックします。
6. ドライバ設定画面で適切なオプションを選択します。通常、データベースへのパスと、ユーザ認証と、選択したドライバによって他の接続オプションを指定します。
7. [テスト] をクリックしてその設定で接続できるかどうかを確認します。[終了] をクリックして作成を完了します。

既存の ODBC 接続設定の変更

➤ **既存の ODBC 接続設定を変更するには以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [ODBCデータソース]（[アプリケーション & サービス] グループ内）に進みます。
2. 一覧から必要な接続名をクリックします。
3. 必要に応じて設定を変更します。
4. [テスト] をクリックして新規設定で接続できるかどうかを確認します。[終了] をクリックして変更を保存します。

外部データベースへの接続の削除

➤ ODBC 接続を削除するには、以下を実行してください。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [ODBCデータソース]（[アプリケーション & サービス] グループ内）に進みます。
2. 削除する接続に対応するチェックボックスを選びます。
3. [削除] をクリックして、削除を確認し [OK] をクリックします。

Adobe ColdFusion のデータソース名の設定（Windows ホスティング）

Adobe ColdFusion をご利用の場合は、ColdFusion のデータソース名 (DSN) を Parallels Plesk Panel で設定できます。データソース名によって ColdFusion Web アプリケーションは、アプリケーションデータを処理して保存するためのローカルおよびリモートデータベースを使用できます。

このセクションの内容:

新規データソース名の作成	236
データソース名の設定の変更	236
データソース名の削除.....	237

新規データソース名の作成

- **ドメインの Adobe ColdFusion の新規データソース名を作成するには以下を実行してください。**
1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [ColdFusion DSN]（[アプリケーション & サービス] グループ内）に進み、[新しいColdFusion DSNの追加] をクリックします。
 2. データソース名を指定し、[ドライバ] メニューからこのデータソースに必要なドライバを選択します。 [次へ>>] をクリックします。
 3. ドライバ設定画面で適切なオプションを選択します。 通常、データベースへのパスと、ユーザ認証と、選択したドライバによって他の接続オプションを指定します。ドライバの設定オプションの詳細はAdobe ColdFusion文書をご参照ください。
 4. [OK] をクリックして終了します。

データソース名の設定の変更

- **ドメインの Adobe ColdFusion のデータソース名の設定を変更するには以下を実行してください。**
1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [ColdFusion DSN]（[アプリケーション & サービス] グループ内）に進み、リストから変更するデータソース名をクリックします。
 2. データソース名を指定し、ドライバメニューからこのデータソースに必要なドライバを選択します。 [次へ >>] をクリックします。
 3. ドライバ設定画面で適切なオプションを選択します。 通常、データベースへのパスと、ユーザ認証と、選択したドライバによって他の接続オプションを指定します。ドライバの設定オプションの詳細はAdobe ColdFusion文書をご参照ください。
 4. [OK] をクリックします。


データソース名の削除

- 不要な ColdFusion DSN 接続を削除するには以下を実行してください。
1. [ドメイン] > ドメイン名 > [ColdFusion DSN] （[アプリケーション & サービス] グループ内）に進みます。
 2. 削除したいDNS接続に対応するチェックボックスを選びます。
 3. [削除] をクリックして、削除を確認し [OK] をクリックします。

アプリケーションのインストール


Web サイトをゲストブック、フォーラム、カウンター、フォトギャラリー、E コマースソリューションなどの価値ある機能を持ったものとするために、コントロールパネルのアプリケーションヴォルト（[ドメイン] > **ドメイン名** > [Web アプリケーション]）から各アプリケーションをインストールできます。

➤ **サイトにアプリケーションをインストールするには、以下の操作を実行します。**


1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [Web アプリケーション]（[アプリケーション & サービス] グループ内）に進み、[新しいアプリケーションのインストール] をクリックします。
2. 左メニューで、アプリケーションが属するカテゴリを選択します。
3. 一覧からアプリケーションを選択して  [インストール] をクリックします。
4. 一部のアプリケーションはライセンス契約を表示します。ライセンス契約を熟読し、同意した場合は[承認します] チェックボックスを選択して[次へ >>] をクリックします。
5. アプリケーションにハイパーリンクを作成し、コントロールパネルに設置するかどうかを指定します。
6. アプリケーションが要求するインストールのプリファレンスや他の情報を指定します（必要な条件はアプリケーションによって異なります）。終了したら[インストール] をクリックします。

アプリケーションがインストールされると、サイトの Web ページ（例えばホームページ）にこのアプリケーションへのリンクを挿入できます。ここでリンクを挿入しないと、このアプリケーションを利用するためにはいつも、長すぎて覚えられない URL を入力しなければなりません。

➤ **アプリケーションの Web インターフェースにアクセスするには、以下のいずれかを実行します。**

- ブラウザに URL を入力します。例えば、以下のようになります。
<http://your-domain.com/forum/>
- [ドメイン] > **ドメイン名** > [Web アプリケーション]（[アプリケーション & サービス] グループ内）に進み、必要なアプリケーションに対応するアイコン  をクリックします。
- アプリケーションをインストールするとき、Parallels Plesk Panel にハイパーリンクボタンを追加するには、ドメイン管理画面（[ドメイン] > **ドメイン名**）またはナビゲーションペインにある各ボタンをクリックします。

- **アプリケーションを再構成したりアプリケーション管理者のパスワードを変更するには、以下を実行してください。**


[ドメイン] > ドメイン名 > [Web アプリケーション]（[アプリケーション & サービス] グループ内）に進み、再設定するアプリケーションに対応するアイコン  をクリックします。

- **アプリケーションをアンインストールするには、以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [Web アプリケーション]（[アプリケーション & サービス] グループ内）に進み、必要のないアプリケーションに対応するチェックボックスを選択します。
2. [削除] をクリックして、削除を確認し [OK] をクリックします。アプリケーションは削除され、そのデータベースもサーバから削除されます。

誰かがサイトを訪れたときに特定の Web アプリケーションが起動するように設定するには、デフォルトドメインアプリケーションを作成します。

- **アプリケーションをドメインのデフォルトに設定するには、以下を実行してください（Windows ホスティングに対してのみ有効です）。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [Web アプリケーション]（[アプリケーション & サービス] グループ内）に進みます。
2. デフォルトに設定するアプリケーションに対応するチェックボックスを選択して  [デフォルト] をクリックします。確認のため [OK] をクリックします。

これで、ユーザがブラウザのアドレスフィールド内の URL（例：<http://example.com>）に入るとデフォルト Web アプリケーションが起動します。

このセクションの内容:

Java Web アプリケーションのインストール	240
Ruby Web アプリケーションのインストール（Linux ホスティング）	241
ASP.NET Web アプリケーションのインストール（Windows ホスティング）	243

Java Web アプリケーションのインストール

Java Web アプリケーションパッケージを Web アーカイブ形式 (WAR) でインストールできます。これらの Java アプリケーションは Parallels Plesk Panel には同梱されておりませんので、別途入手する必要があります。

➤ Java Web アプリケーションをインストールするには以下を実行してください。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [Javaアプリケーション]（[アプリケーション & サービス] グループ内）に進み、[スイッチオン] をクリックします。

すると、Web サーバと連動する Java コードに環境を提供する Tomcat サービスが開始します。




2. [新しいアプリケーションをインストール] をクリックします。
3. インストールしたいアプリケーションパッケージへのパスを指定するか（コンピュータのハードドライブに保存している WAR 形式のアプリケーションパッケージでも構いません）、[参照] をクリックして検索し、[OK] をクリックします。

これで Java アプリケーションはインストールされ、そのアプリケーションのリストにそれぞれの項目が追加されます（[ドメイン] > ドメイン名 > [Java アプリケーション]）。

➤ Java Web アプリケーションの Web インターフェースにアクセスするには、以下のいずれかを実行します。

- [ドメイン] > ドメイン名 > [Java アプリケーション]（[アプリケーション & サービス] グループ内）に進み、[パス] の列でそれぞれのハイパーリンクをクリックします。
- ブラウザに URL を入力します。例えば、以下ようになります。
<http://your-domain.com:9080/storefront/>

➤ Java Web アプリケーションを停止、開始、再開するには、以下を実行してください。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [Javaアプリケーション]（[アプリケーション & サービス] グループ内）に進みます。インストールされたアプリケーションのリストが開きます。
2. リストでアプリケーションを検索し、リストの右側にあるアイコンを使用して必要な操作を行ってください。
 - アプリケーションを起動するには、アイコン  をクリックします。
 - アプリケーションを停止するには、アイコン  をクリックします。
 - アプリケーションを再起動するには、アイコン  をクリックします。

➤ **Java Web アプリケーションを削除するには以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [Javaアプリケーション]（[アプリケーション & サービス] グループ内）に進みます。
2. 不要になったアプリケーションに対応するチェックボックスを選択します。
[削除] をクリックして、削除を確認し [OK] をクリックします。

アプリケーションは削除され、そのデータベースもサーバから削除されます。

Ruby Web アプリケーションのインストール（Linux ホスティング）

Ruby プログラミング言語で開発されたカスタム Web アプリケーションをサイトにインストールすることができます。

➤ **Ruby で記述されたアプリケーションをサイトにインストールするには以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [Webホスティング設定]（[Webサイト] グループ内）に進みます。
2. [CGI] および [FastCGI] チェックボックスを選択して [OK] をクリックします。
3. FTPアカウントに接続して /httpdocsディレクトリに変更し、アプリケーションファイルを置くサブディレクトリを作成します。ここではそのディレクトリを分かりやすいように <your_application> とします。
4. アプリケーションファイルをhttpdocs/<your_application> ディレクトリにアップロードします。
5. アプリケーションディレクトリでreadmeファイルを検索します。このファイルの指示に従って、アプリケーションをインストールします。追加のRubyモジュールまたはOSコンポーネントのインストールが必要な場合があることにご注意ください。そのような場合は、ホスティングサービスプロバイダまたはサーバ管理者にご連絡ください。
6. SSH経由でサーバシェルにログインして、コマンド
`cd /<path_to_virtual_hosts>/<your_domain_name>/httpdocs; mv <your_application> <your_application>.real; ln -s <your_application>.real/public <your_application>` を実行します。

ここで、<path_to_virtual_hosts> は仮想ホストの構成ファイルがあるディレクトリへのパス、<your_domain_name> はドメインの名前、そして <your_application> は Ruby アプリケーションがあるディレクトリです。

サーバシェルへのアクセス権限がない場合は、サーバ管理者またはホスティングサービスプロバイダに依頼してこのステップを実行してもらってください。

7. ディレクトリ `<your_domain_name>/httpdocs/<your_application>/public` にファイルを `.htaccess` という名前で作成し、お好きなテキストエディタで開き以下の行を追加します。

```
AddHandler fcgid-script .fcgi
Options +FollowSymLinks +ExecCGI
RewriteEngine On
RewriteBase /<your_application>
RewriteRule ^$ index.html [QSA]
RewriteRule ^([^.]+)$ $1.html [QSA]
RewriteCond %{REQUEST_FILENAME} !-f
RewriteRule ^(.*)$ dispatch.fcgi [QSA,L]
ErrorDocument 500 "<h2>Application error</h2>Rails application
failed to start properly"
```

8. ファイルを保存します。
9. ファイル `public/dispatch.fcgi` に、Rubyインタプリタへの正しいパスが指定されていることを確認します。 コマンド `head -n1 dispatch.fcgi` および `which ruby` を実行します。 このコマンドは両方とも同じ値を返す筈です。

これで Web アプリケーションが以下の URL からアクセスできるようになります。

http://your-domain.com/your_application

ASP.NET Web アプリケーションのインストール（Windows ホスティング）


アプリケーションヴォルトからのアプリケーションおよび Java Web アプリケーションに加え、Parallels Plesk Panel に搭載されている ASP.NET Web アプリケーションのインストール Web アプリケーションパッケージをインストールできます。

➤ **サイトにアプリケーションをインストールするには、以下の操作を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [Web アプリケーション]（[アプリケーション & サービス] グループ内）> [ASP.NET 1.1 アプリケーション] に進みます。

サイトにインストールされている ASP.NET 1.1 Web アプリケーションのリストが表示されます。


2. [ツール] グループの [新しいアプリケーションのインストール] をクリックします。インストール可能な Web アプリケーションの一覧が表示されます。インストールするアプリケーションを指定するには、アプリケーションに対応するラジオボタンを選択します。

3.  [インストール] をクリックします。


4. アプリケーションがインストールされるドメインフォルダーとアプリケーションのデータベース名を指定して、[インストール] をクリックします。

以上でアプリケーションがインストールされ、サイトの Web ページ（例えばホームページ）にこのアプリケーションへのリンクを挿入できます。ここでリンクを挿入しないと、このアプリケーションを利用するためにはいつも、長すぎて覚えられない URL を入力しなければなりません。

➤ **アプリケーションの Web インターフェースにアクセスするには、以下のいずれかを実行します。**

- ブラウザに URL を入力します。例えば、以下のようになります。
<http://your-domain.com/forum/>
- [ドメイン] > ドメイン名 > [Web アプリケーション]（[アプリケーション & サービス] グループ内）> [ASP.NET 1.1 アプリケーション] に進み、アプリケーションに対応するアイコン  をクリックします。

➤ **アプリケーションを再構成したりアプリケーション管理者のパスワードを変更するには、以下を実行してください。**

[ドメイン] > ドメイン名 > [Web アプリケーション]（[アプリケーション & サービス] グループ内）> [ASP.NET 1.1 アプリケーション] に進み、アプリケーションに対応するアイコン  をクリックします。

➤ アプリケーションを削除するには、以下を実行してください。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [Webアプリケーション]（[アプリケーション & サービス] グループ内）> [ASP.NET 1.1アプリケーション] に進み、必要のないアプリケーションに対応するチェックボックスを選択します。
2. [削除] をクリックします。アプリケーションは削除され、そのデータベースもサーバから削除されます。

誰かがサイトを訪れたときに特定の Web アプリケーションが起動するように設定するには、デフォルトドメインアプリケーションを作成します。

➤ アプリケーションをドメインのデフォルトに設定するには以下を実行してください。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [Webアプリケーション]（[アプリケーション & サービス] グループ内）> [ASP.NET 1.1アプリケーション] に進みます。
サイトにインストールされているアプリケーションパッケージのリストが表示されます。
2. デフォルトに設定するアプリケーションパッケージに対応するチェックボックスを選択して [デフォルト] をクリックします。デフォルト Web アプリケーションの作成を確認して [OK] をクリックします。

これで、ユーザがブラウザのアドレスフィールド内の URL（例：<http://example.com>）に入るとデフォルト Web アプリケーションが起動します。

Google ウェブサイト サービスの使用法

Panel 内のリンクから、サイトに Google カスタム検索エンジンを挿入するコードを生成し、ウェブマスターツールでウェブサイトを Google に送信して、AdSense プログラムに登録することができます。

Google カスタム検索とは、Google が提供する検索エンジンです。サイトに検索機能を追加して、ウェブサイトを検索結果ページに表示します。個人および非営利団体のウェブサイトが無料で利用できます。営利団体がカスタム検索を使用する場合は、Google の広告が掲載されたカスタム検索エンジンを使用するか、あるいは Google Site Search サービスを契約します（1 年あたり \$100 より）。Google Site Search の詳細や価格については、<http://www.google.com/sitesearch> を参照してください。

Google ウェブマスター ツールでは、ウェブマスターがウェブサイトを Google に送信して、検索統計を表示します。ウェブマスターツールの詳細については、<http://www.google.com/support/webmasters/?hl=en> を参照してください。

Google AdSense では、指定した Google の広告をウェブサイトに表示することで収益を得ることができます。AdSense の詳細については、<https://www.google.com/adsense/login/en/> を参照してください。

Google サービスを使用する前に、Google のご利用条件に同意し、サイトの所有権を確認する必要があります。

➤ **Google のご利用条件に同意し、サイトの所有権を確認するには、以下を実行してください。**

1. ナビゲーションペインの [Googleウェブサイト サービス] リンクをクリックします。
2. Panelでご利用条件のリンクをクリックします。
3. チェックボックスを選択して同意します。

これで、以下を実行できます。

- [Google ウェブマスター ツール] をクリックするとサイトが Google に送信され、サイトの認知度が向上します。
- [新しいカスタム検索エンジンの追加] をクリックして、サイトに検索機能を追加します。
- [Google AdSense] をクリックして、AdSense プログラムに登録します。

➤ **Google にサイトを送信するには、以下を実行してください。**

1. ナビゲーションペインで [Googleウェブサイト サービス] リンクをクリックするか、[ホーム] > [Googleウェブサイト サービス] をクリックします。
2. [Googleウェブマスター ツール] をクリックします。
[Google ウェブマスター ツール] エリアが別のブラウザウィンドウまたはタブに表示されます。
3. <http://www.google.com/support/webmasters/bin/answer.py?hl=en&answer=156184> の指示に従って サイトマップを作成し、それを Google に送信します。

➤ **サイトのカスタム検索エンジンを追加するには、以下を実行してください。**

1. ナビゲーションペインで [Googleウェブサイト サービス] リンクをクリックするか、[ホーム] > [Googleウェブサイト サービス] をクリックします。
2. [カスタムサイト検索] をクリックします。
3. [新しいカスタム検索エンジンの追加] をクリックします。
4. 検索エンジン名を入力して、ウェブサイトを選択します。
5. ご利用条件に同意して [OK] をクリックします。
新しい検索エンジンに関する記録が Panel に追加されます。
6. [コードの取得] リンクをクリックして、生成したコードをクリップボードにコピーして、それをウェブサイトページのソースコードに貼り付けます。

カスタム検索エンジンの他のリンクは、以下を実行します。

- **収益を得る。** カスタム検索エンジンを Google AdSense アカウントに接続します。ユーザが広告をクリックして表示すると収益が得られます。カスタム検索エンジンが複数ある場合は、検索エンジンはすべて自動的に同じ AdSense アカウントに関連付けられます。
- **管理する。** カスタム検索エンジンを管理します。
- **デザインを変更する。** 検索ボックスと検索結果ページのデザインを変更します。
- **アップグレードする。** カスタム検索エンジンを無料広告の Google Site Search にアップグレードします。
- **統計。** サイト検索レポートのレビューを行います。
- **削除する。** カスタム検索エンジンを削除します。

➤ **Google AdSense プログラムに参加するには、以下を実行してください。**

1. ナビゲーションペインで [Googleウェブサイト サービス] リンクをクリックするか、[ホーム] > [Googleウェブサイト サービス] をクリックします。
2. [Google AdSense] をクリックします。
3. [Google AdSense] アカウントをクリックします。
4. 必要事項を入力して新しいAdSenseアカウントを作成するか、既存のアカウントを選択して、[OK] をクリックします。

詳細を記載した確認メールが送信されます。

IIS アプリケーションプールの使用（Windows ホスティング）

IIS アプリケーションプールにはサーバでホスティングするドメインのすべてのアプリケーションがあります。専用 IIS アプリケーションプールによってクライアントは自分のドメインが使用する Web アプリケーション間の独立性の基準を持つことができます。各専用 アプリケーションプールは個別に動作しているため、あるクライアントのあるアプリケーションプールで発生したエラーは他のクライアントの他のアプリケーションプールで動作しているアプリケーションには影響を及ぼしません。

デフォルトでは Parallels Plesk Panel は貴社のすべてのクライアントおよびその顧客に共有アプリケーションプールを提供しています。しかしながら、管理者およびクライアントポリシーの許可があればクライアントおよびドメインは専用アプリケーションプールを使用することができます。

➤ **ドメインのアプリケーションプールで動作するすべてのアプリケーションを停止するには以下を実行してください。**

1. ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックして必要なドメイン名をクリックします。
2. [IISアプリケーションプール] ([拡張ツール] グループ内) をクリックします。
3. [停止] をクリックします。

➤ **ドメインのアプリケーションプールで動作するすべてのアプリケーションを開始するには以下を実行してください。**

1. ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックして必要なドメイン名をクリックします。
2. [IISアプリケーションプール] ([拡張ツール] グループ内) をクリックします。
3. [開始] をクリックします。

➤ **ドメインのアプリケーションプールで動作するすべてのアプリケーションを再開するには以下を実行してください。**

1. ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックして必要なドメイン名をクリックします。
2. [IISアプリケーションプール] ([拡張ツール] グループ内) をクリックします。
3. [リサイクル] をクリックします。これは、アプリケーションにメモリリークがあったり長時間動作すると不安定になったりする場合などに便利です。

このセクションの内容:

IIS アプリケーションプールの設定	248
IIS アプリケーションプールの無効化	249

IIS アプリケーションプールの設定

➤ **ドメインのIIS アプリケーションプールを有効にするには以下を実行してください。**

1. ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
2. 一覧から必要なドメイン名をクリックします。
3. [IISアプリケーションプール] ([拡張ツール] グループ内) をクリックします。
4. [スイッチオン] をクリックします。
5. ドメインのアプリケーションプールが使用できるCPUリソースの量を制限するには、[CPUモニタリングの有効化] チェックボックスを選択して [最大CPU使用率 (%)] フィールドにパーセントで数を指定します。
6. [OK] をクリックします。

➤ **IIS アプリケーションプールを特定のクライアントのすべてのドメインで有効にするには以下を実行してください。**

1. ナビゲーションペインの [クライアント] ショートカットをクリックします。
2. リストから必要なクライアント名をクリックします。
3. [IISアプリケーションプール] ([拡張ツール] グループ内) をクリックします。
4. [スイッチオン] をクリックします。
5. すべてのドメインのアプリケーションプールが使用できるCPUリソースの量を制限するには、[CPUモニタリングをスイッチオンする] チェックボックスを選択して [最大CPU使用率 (%)] フィールドにパーセントで数を指定します。
6. [OK] をクリックします。

IIS アプリケーションプールの無効化

➤ **ドメインの IIS アプリケーションプールを無効にするには以下を実行してください。**

1. ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
2. 一覧から必要なドメイン名をクリックします。
3. [IISアプリケーションプール] ([拡張ツール] グループ内) をクリックします。
4. [スイッチオフ] をクリックします。
5. [OK] をクリックします。

➤ **IIS アプリケーションプールを特定のクライアントのすべてのドメインで無効にするには以下を実行してください。**

1. ナビゲーションペインの [クライアント] ショートカットをクリックします。
2. リストから必要なクライアント名をクリックします。
3. [IISアプリケーションプール] ([拡張ツール] グループ内) をクリックします。
4. [スイッチオフ] をクリックします。
5. [OK] をクリックします。

Web サイトの保護

この章では、ホスティングしている Web サイトの保護対策について説明します。

このセクションの内容:

SSL (セキュアソケットレイヤー) 暗号化による E-コマーストランザクションの保護	251
サイトの帯域幅使用量の制限	259
サイトへの同時接続の制限	259
サイトを帯域幅流用から保護 (Windows ホスティング)	260
パスワード保護による Web サイトのリソースへのアクセス制限	260
ファイルおよびディレクトリのアクセス権限の設定 (Linux ホスティング) ..	263
ファイルおよびディレクトリのアクセス権限の設定 (Windows ホスティング)	264

SSL (セキュアソケットレイヤー) 暗号化による E-コマーストランザクションの保護

クライアントが E-コマースビジネスを運営している場合、クライアントのサイトと顧客間でのトランザクションを安全に行うことが必要です。クレジットカード番号やその他の個人情報など価値の高いデータが盗まれないようにするためには、セキュアソケットレイヤープロトコルを使用してください。これはデータをすべて暗号化し、SSL 接続により安全に転送します。また、たとえ誰かが悪意でデータを傍受しても、そのデータを解読し使用することはできないでしょう。

Web サーバにセキュアソケットレイヤープロトコルを実装するには、信頼できる認証ベンダー（このようなベンダーを認証局という）から SSL 証明書を購入し、サイトにこの証明書をインストールしてください。SSL 保護を有効にするには、他の Web サイトと共有しない専用の IP アドレス上にサイトを設置する必要があります。

認証局は多くありますので、その中から選んでください。選択時には認証局の評判や信用性を考慮します。認証局の運営年数や顧客数などについて調べておくと、選択時に役立つことでしょう。

Parallels Plesk Panel では、Comodo、GeoTrust, Inc.、および GoDaddy から SSL 証明書を購入できるようになっています。

このセクションの内容:

SSL 証明書を GeoTrust, Inc. または GoDaddy から入手してインストール	252
SSL 証明書を他の認証局から入手してインストール	254
無料の自己署名 SSL 証明書の作成およびインストール	256
サイトから証明書を削除	257
他のドメインと共有の SSL 証明書の使用（Windows ホスティング）	258

SSL 証明書を GeoTrust, Inc. または GoDaddy から入手してインストール

➤ **MyPleskCom オンラインストアを通じて SSL 証明書を購入し、サイトを保護するには、以下の操作を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [SSL証明書]（[拡張ツール] グループ内）に進みます。リポジトリ内にある SSL 証明書のリストが表示されます。
2. [SSL証明書の追加] をクリックします。
3. 証明書のプロパティを指定します。
 - 証明書の名前。リポジトリ内で証明書を識別するのに役立ちます。
 - 暗号化レベル。SSL 証明書の暗号化レベルを選択します。1024 ビット以上を選択するようお勧めします。
 - 場所と組織名の指定。入力できるのは 64 文字までです。
 - SSL 証明書を購入するドメインの名前の指定。省略形でないものにしてください。例：
: www.your-domain.com
 - ドメイン管理者のメールアドレスの入。
4. この情報をもとに秘密鍵が生成されるため、間違いがないかよく確認してください。
5. [SSL証明書の購入] をクリックします。秘密鍵と証明書署名リクエストが生成されますので、これは削除しないでください。MyPlesk.com ログインページが新しいブラウザウィンドウで開きます。
6. 既存の MyPlesk.com アカウントへ登録またはログインし、ステップバイステップの手順に従って証明書を購入します。
7. 購入したい証明書の種類を選択します。
8. [購入に進む] をクリックし、証明書を注文します。[承認者メールアドレス] ドロップダウンボックスで、正しい承認者メールアドレスを選択します。
9. 承認者メールアドレスは、特定のドメイン名の証明書が権限を持つユーザによりリクエストされたことを確認するためのメールアドレスです。
10. 証明書リクエストが処理されると確認のメールが送信されます。承認すると SSL 証明書がメールで送信されます。
11. 受信した SSL 証明書はローカルマシンかネットワークに保存してください。
12. SSL 証明書リポジトリへ戻ります（[ドメイン] > ドメイン名 > [SSL証明書]）。

13. ページの中央にある**【参照】**をクリックし、保存された証明書のある場所へ行きます。 証明書ををクリックし、**【ファイル送信】**をクリックします。 対応する秘密鍵に対する証明書がアップロードされインストールされます。
14. ドメイン管理者画面に戻り（**【ドメイン】** > ドメイン名）、**【Webホスティング設定】**をクリック ます。
15. **【証明書】** メニューからインストールするSSL証明書を選択します。
ご自身が共有ホスティングアカウントだった場合は**【証明書】**メニューが画面に表示されません。その場合、ホスティングパッケージをアップグレードしてホスティングプロバイダから専用 IP アドレスを購入する必要があります。
16. **【SSL対応】** チェックボックスを選択し、**【OK】** をクリックします。

SSL 証明書を他の認証局から入手してインストール

➤ **他の認証局からの SSL 証明書を使用してサイトを保護するには、以下の操作を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [SSL証明書]（[拡張ツール] グループ内）に進みます。リポジトリ内にあるSSL証明書のリストが表示されます。
2. [SSL証明書の追加] をクリックします。
3. 証明書のプロパティを指定します。
 - 証明書の名前。リポジトリ内で証明書を識別するのに役立ちます。
 - 暗号化レベル。SSL 証明書の暗号化レベルを選択します。1024 ビット以上を選択するようお勧めします。
 - 場所と組織名の指定。入力できるのは 64 文字までです。
 - SSL 証明書を購入するドメインの名前の指定。省略形でないものにしてください。例：
: www.your-domain.com
 - ドメイン管理者のメールアドレスを入力します。
4. この情報をもとに秘密鍵が生成されるため、間違いがないかよく確認してください。
5. [リクエスト] をクリックします。秘密鍵と証明書署名リクエストが生成され、リポジトリに格納されます。
6. 証明書一覧で、必要な証明書の名前をクリックします。証明書のプロパティを表示したページが開きます。
7. ページ内でCSRセクションを検索し、テキストを -----BEGIN CERTIFICATE REQUEST----- から -----END CERTIFICATE REQUEST----- までクリップボードにコピーします。
8. SSL証明書を購入する証明書認証機関のWebサイトを開き、リンクを辿って証明書の注文処理を開始します。CSRテキストの入力を指示されたら、データをクリップボードからオンラインフォームに貼り付けて、[続行] をクリックします。入力した情報に基づいて、証明書認証機関がSSL証明書を作成します。
9. 受信したSSL証明書はローカルマシンかネットワークに保存してください。
10. SSL証明書リポジトリへ戻ります（[ドメイン] > ドメイン名 > [SSL証明書]）。
11. ページの中央にある [参照] をクリックし、保存された証明書のある場所へ行きます。証明書をクリックし、[ファイル送信] をクリックします。対応する秘密鍵に対する証明書がアップロードされインストールされます。

12. ドメイン管理者画面に戻り（[ドメイン] > ドメイン名）、[Webホスティング設定] をクリック ます。
13. [証明書] メニューからインストールするSSL証明書を選択します。
ご自身が共有ホスティングアカウントだった場合は[証明書] メニューが画面に表示されません。その場合、ホスティングパッケージをアップグレードしてプロバイダから専用 IP アドレスを購入する必要があります。
14. [SSL対応] チェックボックスを選択し、[OK] をクリックします。

無料の自己署名 SSL 証明書の作成およびインストール

SSL 証明書を購入したくないけれどもサイトをセキュアに保ちたい場合は、自己署名証明書を作成して Web サーバにインストールできます。この機能によりデータを暗号化できますが、顧客のブラウザには、認証された機関により証明書が発行されていないことを伝える警告メッセージが表示されます。このように、自己署名証明書の使用は顧客から信用を得られず、クライアントのオンライン販売に悪影響を及ぼす可能性があるため、推奨されません。

➤ **サイトを自己署名 SSL 証明書で保護するには、以下の操作を実行します。**

1. **【ドメイン】 > ドメイン名 > 【SSL証明書】**（**【拡張ツール】**グループ内）に進んで、**【SSL証明書の追加】**をクリックします。
2. 証明書のプロパティを指定します。
 - 証明書の名前。リポジトリ内で証明書を識別するのに役立ちます。
 - 暗号化レベル。SSL 証明書の暗号化レベルを選択します。1024 ビット以上を選択するようお勧めします。
 - 場所と組織名の指定。入力できるのは 64 文字までです。
 - SSL 証明書を購入するドメイン名を指定します 例えば、以下ようになります。
www.your-domain.com
 - ドメイン所有者のメールアドレスを入力します。
3. **【自己署名】**をクリックします。証明書が生成され、リポジトリに格納されます。
4. ドメイン管理者画面に戻り（**【ドメイン】 > ドメイン名**）、**【Webホスティング設定】**をクリックします。
5. **【証明書】**メニューから、自己署名SSL証明書を選択します。
ご自身が共有ホスティングアカウントだった場合は**【証明書】**メニューが画面に表示されません。その場合、ホスティングパッケージをアップグレードしてホスティングプロバイダから専用 IP アドレスを購入する必要があります。
6. **【SSL対応】**チェックボックスを選択し、**【OK】**をクリックします。

サイトから証明書を削除

➤ **証明書をサイトから削除し、SSL 保護を無効にするには、以下の操作を実行します。**

1. 削除する必要がある証明書が使用中でないことを確認します。
2. [ドメイン] > **ドメイン名** > [Webホスティング設定]（[Webサイト] グループ内）に進みます。 [証明書] メニューに、現在使用中のSSL証明書が表示されます。
3. 削除が必要な証明書が現在使用中の場合は、まずこの証明書をリリースしてください。 [証明書] メニューで別の証明書を選択し [OK] をクリックします。
4. リポジトリから証明書を削除します。
5. 証明書をリポジトリから完全に削除するには、[ドメイン] > **ドメイン名** > [証明書] に進み、必要のなくなった証明書に対応するチェックボックスを選択して、[削除] をクリックします。 削除を確認して [OK] をクリックします。
6. SSL対応が不要になった場合は、無効にします。
7. [ドメイン] > **ドメイン名** > [Webホスティング設定] に進みます。
8. [SSL対応] チェックボックスを解除し、[OK] をクリックします。

他のドメインと共有の SSL 証明書の使用 (Windows ホスティング)

共有 SSL は、SSL 証明書を購入しなくても SSL (セキュアソケットレイヤー) でサイトへのアクセスを保護するための手段です。共有 SSL を採用している SSL は、実際には他のドメインと共有している認証を使用しています。SSL 認証を共有しているドメインはマスター SSL ドメインと呼ばれています。

注：顧客が共有 SSL を使用できるようにするためには、マスター SSL ドメインを設定する必要があります。詳細については「共有 SSL のマスター SSL ドメインの設定」(119 ページ)のセクションをご参照ください。

➤ **共有 SSL リンクを作成してマスター SSL ドメインの証明書を使用するには、以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [共有 SSL] ([拡張ツール] グループ内) に進みます。
2. [共有 SSL をスイッチオンする] チェックボックスを選択します。
3. 対応する入力フィールドに仮想ディレクトリ名を指定します。指定した名前の仮想ディレクトリはマスター SSL ドメインに作成されます。このディレクトリは SSL 経由で貴社のサイトにアクセスするのに使用されます。

例えば、貴社が「mydomain.com」という名前のドメインを持っていて、マスター SSL ドメインが「master_ssl_domain.com」と定義されていて、貴社が提供する仮想ディレクトリの名前が「my_virtual_dir」だとします。この場合、SSL 経由で貴社のサイトにアクセスするには以下のアドレスを使用します。

https://master_ssl_domain.com/my_virtual_dir

注：貴社が共有 SSL を使用している場合、貴社のドメイン名（例：mydomain.com）を使用して SSL 経由で貴社のサイトにアクセスすることはできません。

4. 保護されたコンテンツが置かれているドメインのディレクトリを指定してください。指定したディレクトリ内のドキュメントは SSL 経由でのみアクセス可能です。ターゲットディレクトリには httpdocs または httpsdocs のいずれかしか選択することはできません。
5. ドメインを SSL 経由でのみアクセス可能にするには、[SSL を必要とする] チェックボックスを選択します。
6. [OK] をクリックします。

➤ **共有 SSL を無効化してマスター SSL ドメインの証明書の使用をやめるには以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > *ドメイン名* > [共有SSL]（[拡張ツール] グループ内）に進みます。
2. [共有SSLをスイッチオンする] チェックボックスの選択を外します。
3. [OK] をクリックします。

サイトの帯域幅使用量の制限

サイトの帯域幅使用量を制限して、リソース超過をもたらす帯域幅の過使用を防ぐことができます。

➤ **サイトの帯域幅使用量を制限するには以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > *ドメイン名* > [帯域幅制限]（[拡張ツール] グループ内）に進みます。
2. [帯域幅制限のスイッチオン] チェックボックスを選択します。
3. ドメインがそのすべての接続を共有できる最高速（1秒あたりのKBで測定します）を[最大帯域幅使用率 (KB/S)] フィールドに入力します。
4. [OK] をクリックします。

サイトへの同時接続の制限

サービス妨害を防ぎ帯域幅の使用超過を防ぐため、サイトへの同時 Web 接続の上限数を設定することができます。

➤ **Web サイトへの同時接続の上限数を制限するには以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > *ドメイン名* > [帯域幅制限]（[拡張ツール] グループ内）に進みます。
2. [接続数制限をスイッチオンする] チェックボックスを選択します。
3. [コネクション制限数] フィールドに同時接続の上限数を入力します。
4. [OK] をクリックします。

サイトを帯域幅流用から保護（Windows ホスティング）

ホットリンク（ファイルリーチング、リモートリンキング、ダイレクトリンキング、帯域幅スチーリング、帯域幅流用などとも呼ばれます）とは、あるドメイン所有者の Web ページが、通常 タグを使用して他のドメイン所有者の Web ページ上の画像（もしくはその他のマルチメディアファイル）に直接リンクしていることを示す用語です。ドメインがホットリンクされていると、帯域幅使用量の超過という問題が起こります。

➤ **ドメインをホットリンクから保護するには以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [ホットリンク保護]（[拡張ツール] グループ内）に進みます。
2. [スイッチオン] をクリックしてホットリンクからの保護を有効にします。
3. [保護を行うファイル拡張子] フィールドに、ホットリンクから保護するファイルの拡張子（例：jpg、bmpなど）を指定します。複数のファイル拡張子を指定する場合はスペースで区切ります。
4. [OK] をクリックします。

パスワード保護による Web サイトのリソースへのアクセス制限

許可されたユーザにのみ表示されるディレクトリをサイトに作成する場合、これらのディレクトリへのアクセスをパスワード保護で制限します。

このセクションの内容:

リソースの保護	261
許可されたユーザの指定	262
リソースの保護解除	263

リソースの保護

➤ **サイト内のディレクトリをパスワード保護し、許可されたユーザを指定するには、以下の操作を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [パスワード保護されたディレクトリ]（[ファイル]グループ内）に進みます。

2. [新しいディレクトリの追加] をクリックします。

3. パスワード保護の必要なディレクトリのパスを [ディレクトリ名] ボックスに指定します。

これは、例えば `/private` のように、サイト内に存在するディレクトリになります。保護の必要なディレクトリが作成されていない場合、パスとディレクトリ名を指定すると、Parallels Plesk Panel が自動的に作成します。

4. パスワードで保護されたディレクトリの現在または今後の配置先（別名ドキュメントroot）を指定します。例えば、以下のようになります。

- `httpdocs/private` ディレクトリを保護する場合、[ディレクトリ名] ボックスに「`/private`」と入力し [非 SSL] チェックボックスを選択します。
- `httpdocs/private` ディレクトリを保護する場合、[ディレクトリ名] ボックスに「`/private`」と入力し [SSL] チェックボックスを選択します。
- `cgi-bin` ディレクトリに保存された CGI スクリプトを保護する場合、[ディレクトリ名] ボックスの「`/`」をそのままにして [cgi-bin] チェックボックスを選択します。スラッシュ記号の後に空白は入っていないか確認してください。空白が入っている場合、空白を含む名前保護付きディレクトリが作成されます。

5. [ヘッダーテキスト] ボックスに、リソースの詳細または管理者の顧客が保護付き領域を訪問したときに表示されるウェルカムメッセージを入力します。

6. [OK] をクリックします。指定したディレクトリは保護されます。

7. 許可されたユーザを追加するには、[新規のユーザを追加] をクリックします。

8. 保護された領域へのアクセスに使用するログイン名とパスワードを指定します。パスワードには5～14個の記号を使用します。[OK] をクリックします。

9. この保護されたリソースに対して、許可されたユーザを追加するには、ステップ7と8を繰り返します。

許可されたユーザの指定

➤ **保護されたディレクトリに認証ユーザを追加するには、以下の操作を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [パスワード保護されたディレクトリ]（[ファイル]グループ内）に進みます。
2. 必要なディレクトリ名をクリックします。
3. [新規ユーザの追加] アイコンをクリックします。
4. 保護された領域へのアクセスに使用するログイン名とパスワードを指定します。パスワードには5～14個の記号を使用します。
5. [OK] をクリックします。

➤ **保護されたディレクトリに許可されたユーザのパスワードを変更するには、以下の操作を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [パスワード保護されたディレクトリ]（[ファイル]グループ内）に進みます。
2. 必要なディレクトリ名をクリックします。許可されたユーザのリストが開きます。
3. ユーザ名をクリックします。
4. 新しいパスワードを指定し、確認のために再入力します。
5. [OK] をクリックします。

➤ **ユーザが保護されたディレクトリにアクセスするための権限を無効にするには、以下の操作を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [パスワード保護されたディレクトリ]（[ファイル]グループ内）に進みます。
2. 必要なディレクトリ名をクリックします。許可されたユーザのリストが開きます。
3. ユーザ名に対応するチェックボックスを選択します。
4. [削除] をクリックします。内容を確認して [OK] をクリックします。

リソースの保護解除

- パスワード保護を解除し、リソースを一般ユーザが利用できるようにするには、以下の操作を実行します。
- 1. [ドメイン] > ドメイン名 > [パスワード保護されたディレクトリ]（[ファイル] グループ内）に進みます。パスワードで保護されたディレクトリのリストが開きます。
- 2. 保護を削除するディレクトリ名に対応するチェックボックスを選択します。
- 3. [削除] をクリックします。保護が削除され、ディレクトリの内容は無制限に一般に公開されます。

ファイルおよびディレクトリのアクセス権限の設定（Linux ホスティング）

- ファイルおよびディレクトリの権限セットを確認または変更するには、以下を実行してください。
- 1. ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
- 2. 一覧から必要なドメイン名をクリックします。
- 3. [ファイルマネージャ]（[ファイル] グループ内）をクリックします。

権限は「rwx rwx r--」などの文字の組み合わせの3セットで表現されます。最初のセットはそのファイルまたはディレクトリの所有者がどのような権限を持つかを示しており、2番目のセットはそのファイルまたはディレクトリが属するユーザグループとそのグループがファイルまたはディレクトリに対して持つ権限、3番目のセットは他のユーザ（その際とを訪れたインターネットユーザなどのその他大勢）がファイルまたはディレクトリに対して持つ権限を現しています。Rはファイルまたはディレクトリを読み取る権限、Wは書き込む権限、Xはディレクトリ内のファイルまたは内観を決定する権限をそれぞれ意味します。

ファイルまたはディレクトリに対する許可を変更するには、[権限]の列でそのセットの許可を示すそれぞれのハイパーリンクをクリックします。必要に応じて権限を修正し[OK]をクリックします。

ファイルおよびディレクトリのアクセス権限の設定 (Windows ホスティング)

Parallels Plesk Panel は特別な権限や権限継承を含むファイルおよびフォルダのアクセス権限の設定ファイルを提供しており、それは Windows インターフェースで提供される方法とよく似ています。



注：セキュリティ上の観点から、管理者、SYSTEM、および Parallels Plesk Panel ドメイン管理者の権限は変更または削除することができません。

このセクションの内容:

グループおよびユーザのアクセス権限の設定および変更	265
グループおよびユーザのアクセス権限の削除	266
ファイルおよびフォルダへのアクセス権限継承の設定	267
特別なアクセス権限の設定、変更、削除	268
仮想ディレクトリのアクセス権限の設定	269
アクセス権限の修復	269

グループおよびユーザのアクセス権限の設定および変更

➤ **グループまたはユーザのアクセス権限を設定または変更するには以下を実行してください。**



1. ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
2. 一覧から必要なドメイン名をクリックします。
3. [ファイルマネージャ]（[ファイル] グループ内）をクリックします。
4. 必要なファイルまたはフォルダに対応する  をクリックします。
 - グループまたはユーザの権限を変更または削除するには、その名前を [グループまたはユーザ名] 一覧からクリックします。
 - [グループまたはユーザ名] 一覧にないグループまたはユーザの権限を設定するには、上側のドロップダウンボックスから必要なグループまたはユーザの名前を選択して  をクリック します。すると一覧にユーザ/グループ表示されます。それを選択します。
5. 選択したユーザ/グループの権限を許可または拒否するには、[ユーザ/グループ名の権限] に一覧表示された権限に対応する [許可] または [拒否] チェックボックスを選択します。


注：[許可] や [拒否] カラムのチェックボックスがグレー表示されていたら、その権限は親フォルダから継承されたものであることを意味します。


- 親フォルダから継承された権限を拒否するには、[拒否] から必要なチェックボックスを選択します。するとこのファイル/フォルダに関する継承された権限は上書きされます。
 - 親フォルダから「拒否」として継承された権限を許可するには、[親からこのオブジェクトおよびすべての子オブジェクトへの継承権限を許可する。ここで明確に定義したエントリも含む] チェックボックスを選択します。すると継承された権限が消去されます。それから [許可] および [拒否] で必要なチェックボックスを選択します。
6. [OK] をクリックします。

グループおよびユーザのアクセス権限の削除

➤ **グループおよびユーザのアクセス権限を削除するには以下を実行してください。**


1. ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
2. 一覧から必要なドメイン名をクリックします。
3. [ファイルマネージャ]（[ファイル] グループ内）をクリックします。
4. 必要なファイルまたはフォルダに対応する  をクリックします。
5. [グループまたはユーザ名] 一覧から必要な名前を選択して、その隣の  をクリックします。

注:  アイコンは、親オブジェクトから継承された権限を持つ使用できないエントリに対して表示されます。

6. 必要なエントリを選択します。
7. [親からこのオブジェクトおよびすべての子オブジェクトへの継承権限を許可する。ここで明確に定義したエントリも含む] チェックボックスを選択します。
8. エントリをもう一度選択して  をクリックします。
9. [OK] をクリックします。

ファイルおよびフォルダへのアクセス権限継承の設定

➤ **ファイルおよびフォルダへのアクセス権限継承を設定するには以下を実行してください。**




1. ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
2. 一覧から必要なドメイン名をクリックします。
3. [ファイルマネージャ]（[ファイル] グループ内）をクリックします。
4. 必要なファイルまたはフォルダに対応するアイコン  をクリックします。
5. 親フォルダからのファイル/フォルダー継承権限がない場合は、**「親からこのオブジェクトおよびすべての子オブジェクトへの継承権限を許可する。ここで明確に定義したエントリも含む」** チェックボックスを選択します。
6. このフォルダに含まれるファイルおよびフォルダが、ここで定義したフォルダ権限を継承するようにするには、**「子オブジェクトに適用されるすべての子オブジェクトに対する権限エントリを置き換える」** チェックボックスを選択します。
7. [OK] をクリックします。

特別なアクセス権限の設定、変更、削除

フォルダ権限継承の高度な管理などの特別な権限を設定、変更、削除することもできます。

【拡張】権限管理モードでは、各々異なる権限セットを持つ複数の権限エントリを1つのグループまたはユーザに結び付けることができます。また、【拡張】モードの権限リストはより詳細でファイル/フォルダのメンテナンスに大変役立ちます。Microsoft Windows インターフェイスにない権限も含まれていますが、ネイティブ Microsoft Windows 権限は維持しています。読み取りコントロール、書き出しコントロール、実行コントロールです。

➤ ファイル/フォルダの特別な権限を設定、変更、削除するには以下を実行してください。

1. ナビゲーションペインの【ドメイン】ショートカットをクリックします。
2. 一覧から必要なドメイン名をクリックします。
3. 【ファイルマネージャ】（【ファイル】グループ内）をクリックします。
4. 必要なファイルまたはフォルダに対応するアイコン  をクリックします。
5. 【拡張】をクリックします。
 - グループまたはユーザの権限エントリを作成するには、その名前を【グループまたはユーザ名】一覧から選択して  をクリックします。
 - グループまたはユーザのファイル/フォルダ権限を設定または変更するには、その名前を【グループまたはユーザ名】一覧から選択して【[グループ/ユーザ名]の権限】の権限一覧に対応する【許可】または【拒否】チェックボックスを選択します。
 - グループまたはユーザの権限エントリを削除するには、その名前を【グループまたはユーザ名】一覧から選択して  をクリックします。
 - フォルダの子オブジェクトが【[グループ/ユーザ名]の権限】で定義した権限を継承するようにするには、【子オブジェクトに適用されるここに示すエントリを持つすべての子オブジェクトの権限エントリを置き換える】チェックボックスを選択して【適用】のチェックボックスを選択します。
6. 【OK】をクリックします。

仮想ディレクトリのアクセス権限の設定

アクセス権限は仮想（Web）ディレクトリにも適用されます。


➤ **仮想ディレクトリのアクセス権限を設定するには以下を実行してください。**

1. ナビゲーションペインの【ドメイン】ショートカットをクリックします。
2. 一覧から必要なドメイン名をクリックします。
3. 【仮想ディレクトリ】（【ファイル】グループ内）をクリックします。
4. Webサイト構造を参照して必要なディレクトリをクリックします。
5. 【ツール】グループの【権限】をクリックして、前のセクションで説明した仮想ディレクトリのアクセス権限を設定します。

アクセス権限の修復

サイト上のスクリプトが停止した場合は、定義に間違いがあったか、もしくはファイルおよびフォルダアクセス権限が壊れたせいかもしれません。まず正しいアクセス権限の確認および修復プロセスを実行してからスクリプトを復元することをお勧め致します。

➤ **正しいアクセス権限の確認および修復プロセスを実行しスクリプトを復元するには以下を実行してください。**

1. ナビゲーションペインの【ドメイン】ショートカットをクリックします。
2. 権限を確認したいドメイン名に対応するチェックボックスを選択します。
3.  【パーミッションチェック】をクリックします。
4. 必要に応じて、設定を調整してください。
 - アクセス権限を確認して修復するには【チェックのみ】チェックボックスの選択を外します。【チェックのみ】を選択したままにすると Read Only モードでチェックが行われてエラーレポートが作成されますが、修復はされません。
 - 確認および修復のレポートをメールで受け取るには、【通知をメールで送信】チェックボックスの選択を残したままにして必要なメールアドレスをフィールドに指定します。
5. 【OK】をクリックします。必要なオプションが設定されていれば、Parallels Plesk Panelは権限の確認および修復を開始します。このプロセスは、ドメインのファイルおよびフォルダ構造の複雑さによって長時間かかることがあります。

サブドメインを含むサイト構造の編成

サブドメインは以下の作業を可能にする、補足的なドメイン名です。

- サイトの構造の論理的な編成
- 同じサーバ上の追加 Web サイトまたは Web サイトの一部をホストし、追加ドメイン名の登録に要する支払いを節減できます。

サブドメインを使用した例を以下に示します。

Web サイト `your-product.com` を、ソフトウェア製品の販売促進専用のサイトに設定しているとします。ユーザーズガイド、チュートリアル、よくある質問のリストを公開する場合、管理者のユーザがドメイン名 `userdocs.your-product.com` に直接アクセスしてオンラインドキュメントにアクセスできるように、サブドメイン「`userdocs`」を編成することができます。

このセクションの内容:

サブドメインの設定 (Linux ホスティング)	271
サブドメインの設定 (Windows ホスティング)	272
サブドメインの削除	274

サブドメインの設定 (Linux ホスティング)

➤ サブドメインを設定するには、以下を実行してください。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [サブドメイン] ([Webサイト] グループ内) に進みます。
2. [サブドメインの作成] をクリックします。
3. 任意のサブドメイン名を入力します。サイトのトピック、組織の部署、またはその他の文字、数字、ハイフンの組み合わせなどを入力できます（最長63文字）。

サブドメイン名の先頭文字はアルファベット文字です。サブドメイン名は大文字と小文字を区別します。

4. このサブドメインが管理者が独自に管理している管理者用のWebサイトを部分的に保有している場合、[親ドメインのFTPユーザアカウントを利用する] オプションを選択したままにしておきます。このサブドメインが、別の人物に属する、または別の人物により管理される別のWebサイトを保持している場合、[このサブドメイン用に異なるユーザアカウントを作成する] オプションを選択し、FTPを通じてWebスペースにアクセスし、Webサイトのコンテンツを公開する場合に使用するログイン名とパスワードを指定します。
5. このサブドメインがセキュアなトランザクションを要求する場合、[SSL対応] チェックボックスを選択します。これにより、親ドメインの下でインストールされたSSL証明書が、暗号化トランザクションに使用されます。

デフォルトでは、ユーザがサイトを公開する場合、`httpsdocs` ディレクトリへのセキュアな接続を経由してアクセスできるようにしなければならないWebコンテンツおよびプレーンHTTPを経由して`httpdocs` ディレクトリにアクセスできるようにしなければならないWebコンテンツをアップロードする必要があります。便宜上、単一の場所すなわち`httpdocs` ディレクトリを通じてすべてのコンテンツを公開する方法を選択できます。このために、[SSL 認証を受けないコンテンツと同じディレクトリに、SSL 認証を受けるコンテンツを設置する] チェックボックスを選択します。

6. Webサイトを作成する際に使用するプログラミング言語を指定します。これを指定しない場合、Webサイトが正しく機能しない場合があります。

例えば、Webサイトが主にASPで作成され、アプリケーションヴォルトのアプリケーションなど([ドメイン] > ドメイン名 > [アプリケーションヴォルト])、PHPで作成された複数のアプリケーションを使用している場合、[ASPサポート] チェックボックスと[PHPサポート] チェックボックスを選択します。

7. このサブドメイン内のWebコンテンツが使用できるディスク容量を制限する場合、[ハードディスククォータ] ボックスに必要な値をメガバイトで入力します。

指定された制限を超えた場合、Webスペースにファイルを追加できなくなり、既存のファイルの編集にファイルが破損する場合があります。

8. [OK] をクリックして設定を完了します。新しいサブドメインに関する情報がドメイン名システム（DNS）内に伝わり、インターネットユーザが利用できるようになるまで、最大48時間を要します。

サブドメインの Web スペースに Web コンテンツを公開するには、「サイトの公開」のセクション内の手順に従ってください。

サブドメインの設定（Windows ホスティング）

➤ サブドメインを設定するには、以下を実行してください。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [サブドメイン]（[ウェブサイト] グループ内）に進みます。
2. [新しいサブドメインの追加] をクリックします。
3. 必要な [ホスティングタイプ] を選択して [OK] をクリックします。
 - ドメインの仮想ホストを作成するには [物理ホスティング] を選択します。
 - 仮想サブドメインを作成するには [サブフォルダ上のサブドメイン] を選択します。
[サブフォルダ上のサブドメイン] はドメインの物理構造を使用します。別の FTP ユーザアカウントを作成することはできません。ドメインの FTP ユーザアカウントが使用されます。
4. 必要に応じてサブドメイン名を入力します。サイトのトピック、組織の部署、またはその他の文字、数字、ハイフンの組み合わせなどを入力できます（最長63文字）。冒頭にWWWを追加するには、適切なチェックボックスを選択します。

サブドメイン名の先頭文字はアルファベット文字です。サブドメイン名は大文字と小文字を区別します。

5. サブフォルダにサブドメインを作成している場合は、[サイトホームディレクトリ] フィールドにサブドメインファイルの物理ロケーションを指定します。
 - [サブドメイン用に物理ディレクトリを作成] チェックボックスの選択を外して [httpdocs] フィールドの右側に既存のディレクトリを指定します。📁 をクリックすれば必要なディレクトリの場所を参照できますので、選択して [OK] をクリックします。
 - 対応する物理ディレクトリをサブドメインと同じ名前で作成する場合は [サブドメイン用に物理ディレクトリを作成] チェックボックスを選択したままにします。
6. 物理ホスティングのサブドメインを作成する場合は、そのFTPユーザアカウントを指定します。
 - このサブドメインが管理者が独自に管理している管理者用のウェブサイトを部分的に保有している場合、[メインドメインのFTPユーザアカウントを利用する] オプションを選択したままにしておきます。

- このサブドメインが、別の人物に属する、または別の人物により管理される別のウェブサイトを保持している場合、**【このサブドメイン用に異なるユーザアカウントを作成する】** オプションを選択し、FTP を通じてウェブスペースにアクセスし、ウェブサイトのコンテンツを公開する場合に使用するログイン名とパスワードを指定します。適切なフィールドにハードディスククォータをメガバイトで指定するか、**【無制限】** チェックボックスを選択したままにします。指定された制限を超えた場合、ウェブスペースにファイルを追加できなくなり、既存のファイルの編集中にファイルが破損する場合があります。
7. **【Sitebuilderにてサイトを公開する】** チェックボックスを選択したままにすると、SitebuilderにアクセスしてParallels Plesk Panelインターフェース経由でウェブサイトを構築することができます。 **【Sitebuilderにてサイトを公開する】** オプションを選択すると、サイトはSitebuilderで作成されます。
- すべての公開パラメータは以下の定義済みパスに設定されます。 **物理ホスティングのサブドメイン** - /subdomains/SUBDOMAINNAME/httpdocs/sitebuilder、**サブフォルダのサブドメインのサブドメイン** - /httpdocs/SUBDOMAINNAME/。
8. **Microsoft FrontPageサポート**を有効にする場合は、該当するチェックボックスを選択します。適切なオプションを選択して **【Microsoft FrontPage認証】** を有効化または無効化します。
9. サポート対象のプログラム言語を **【サービス】** グループに指定します。使用可能な言語すべてを選択または選択解除するには **【すべて選択する】** または **【すべてクリアする】** を選択します。
- サブドメインを作成しているドメイン上で ASP.NET が無効になっている場合は、**【サブフォルダ上のサブドメイン】** でも使用することはできません。ドメイン上で ASP.NET が有効になっている場合は、ASP.NET はサブフォルダー上で作成されたサブドメインで使用することができます。
10. サイトや表示したサイトのページの訪問者の人数に関する情報を表示できるようにするために、**【ウェブ統計】** ドロップダウンメニューでモジュールを選択して **【パスワード保護ディレクトリ /plesk-stat/webstat経由でアクセス可能】** チェックボックスを選択します。これにより統計ソフトウェアモジュールがインストールされ、このソフトウェアによりレポートが生成され、そのレポートをパスワードで保護されたディレクトリに配置されます。するとサブドメイン管理者は以下のURLでウェブ統計にアクセスできるようになります。 <https://subdomain.domain.com/plesk-stat/webstat> にFTPアカウントログイン名およびパスワードでアクセスできます。

注： サブドメイン管理者がFTP証明書を変更しても、ウェブ統計アクセス証明書は変更されません。パスワード保護されたウェブ統計ディレクトリへアクセスするには、サブドメイン作成時に指定した最初のログイン名およびパスワードを常に使用します。

11. このサブドメインのウェブアプリケーションがhttpdocsまたはhttpsdocsフォルダのrootにあるファイルベースのデータベース（Jetなど）を使用する場合は、**【追加の書き込み/修正の権限】** オプションを選択します。このオプションを選択すると、ウェブサイトセキュリティが著しく侵害される場合があることにご注意ください。
12. **【OK】** をクリックして設定を完了します。新しいサブドメインに関する情報がドメイン名システム（DNS）内に伝わり、インターネットユーザが利用できるようになるまで、最大48時間を要します。

サブドメインのウェブスペースにウェブコンテンツを公開するには、「サイトの公開」のセクション内の手順に従ってください。

サブドメインの削除

- **サブドメインとそのWeb コンテンツを削除するには、以下の操作を実行します。**
1. **【ドメイン】 > ドメイン名 > 【サブドメイン】**（**【Webサイト】** グループ内）に進みます。
 2. 削除するサブドメイン名に対応するチェックボックスを選択し、**【削除】** をクリックします。
 3. 削除を確認して **【OK】** をクリックします。サブドメインのコンフィグレーションとそのWebコンテンツがサーバから削除されます。

サイトの追加ドメイン名の設定（ドメインエイリアス）

ドメイン名レジストラに、サーバでホストしている同一の Web サイトを示す複数のドメイン名を登録している場合、ドメインエイリアスを設定する必要があります。

別のサーバでホストされる Web サイトを示す複数のドメイン名を提供する必要がある場合、ドメイン転送を設定する必要があります。手順については、「他のサーバにホストされているサイトのドメイン名を使用する（ドメイン転送）」（307 ページ）のセクションをご参照ください。

このセクションの内容:

ドメインエイリアスの設定	276
ドメインエイリアスのプロパティの変更	277
ドメインエイリアスの削除	277

ドメインエイリアスの設定

➤ **ドメインエイリアスを設定するには、以下の操作を実行します。**

1. **【ドメイン】 > ドメイン名 > 【ドメインエイリアス】**（**【Webサイト】**グループ内）に進みます。
2. **【ドメインエイリアスの追加】** をクリックします。
3. 希望するドメインエイリアス名を入力します(例：alias.com)。
ドメインエイリアスには、文字、数字、ハイフンを使用できます。ドメインエイリアスのドット間の各部分には、63 個以下の記号を使用します。
4. ドメインエイリアスでプライマリドメインと同じDNSゾーンリソースレコードを使用したい場合は、**【DNSゾーンをプライマリドメインと同期化】** チェックボックスを選択します。この設定により、今後プライマリドメインゾーンのリソースレコードに変更があった場合、それがこのドメインエイリアスのDNSゾーンに適用されます。
5. ドメインエイリアスの下のメールアドレスで送信されたメールを、オリジナルドメイン名の下のメールアドレスに転送する場合、**【メール】** チェックボックスを選択します。
例：mail@yourdomain.com というメールアドレスを保有し、ドメイン名に alias.com などのエイリアスを設定しているとします。この場合、mail@alias.com に送信された、メールボックス mail@yourdomain.com へのメールを受け取るには、**【メール】** チェックボックスを選択します。
6. **【Web】** チェックボックスを選択します。このチェックボックスを選択しない場合、ブラウザにドメインエイリアスを入力して管理者のサイトを訪問したユーザに、Webコンテンツを表示しません。
7. Linuxプラットフォームに基づいたホスティングサービスを使用しており、ドメインエイリアスを介してアクセス可能にしたいサイトにJavaアプリケーションがインストールされている場合は、**【Java Webアプリケーション】** チェックボックスを選択します。
8. **【OK】** をクリックします。

ドメインエイリアスのプロパティの変更

➤ **エイリアスのプロパティを変更するには、以下の操作を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [ドメインエイリアス]（[Webサイト] グループ内）に進みます。
2. 必要なエイリアス名をクリックします。
3. [プリファレンス] をクリックします。

➤ **ドメインエイリアスのDNS ゾーンのリソースレコードを変更するには、以下の操作を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [ドメインエイリアス]（[Webサイト] グループ内）に進みます。
2. 必要なエイリアス名をクリックします。
3. [DNS設定] をクリックします。
4. 必要に応じてリソースレコードを追加、編集、削除します。
 - ゾーンにリソースレコードを追加するには、[新しいレコードの追加] をクリックします。必要な値を指定し、[OK] をクリックしてゾーンに値を書き込みます。
 - リソースレコードを変更するには、[ホスト] の列で必要なレコードに対応するハイパーリンクをクリックします。
 - レコードを削除するには、削除するレコードに対応するチェックボックスを選択して[削除] をクリックします。

ドメインエイリアスの削除

➤ **ドメインからエイリアスを削除するには、以下の操作を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [ドメインエイリアス]（[Webサイト] グループ内）に進みます。
2. 削除するドメインエイリアスのチェックボックスを選択します。
3. [削除] をクリックします。
4. 削除を確認して [OK] をクリックします。


仮想ディレクトリの使用（Windows ホスティング）

Parallels Plesk Panel の仮想ディレクトリとは、サーバのハードディスクに存在している既存の物理ディレクトリへのリンクです。仮想ディレクトリには、カスタム ASP.NET 設定やアクセス権限や URL パスワード保護といった様々な特定の設定があります。

どの仮想ディレクトリもカスタマイズ ASP.NET 設定などの独自の設定を持つことができるため、仮想ディレクトリは、特に ASP.NET で書かれた Web アプリケーションの設定に大変有効です。例えば、ASP.NET バージョン 1.1 を使用している Web アプリケーションが 3 つあったとして、ASP.NET バージョン 2.0 を使用している Web アプリケーションを 1 つインストールする必要があった場合、ASP.NET 2.0 アプリケーション用に仮想ディレクトリを作成してそのディレクトリの ASP.NET 構成を設定し、このディレクトリに対してのみバージョン 2.0 を有効にして、必要なアプリケーションをインストールすることができます。

仮想ディレクトリはエイリアスとしてもご利用いただけます。例えば、物理フォルダ「/my_data/web_apps/forum」のドメイン「example.com」に Web アプリケーションがインストールされているとします。この Web アプリケーションにアクセスするには、ユーザは「example.com/my_data/web_apps/forum」と入力しなければなりませんが、これは長すぎて覚えるのも入力するのも大変です。そこで仮想ディレクトリ「forum」を仮想ホストのルートに作成し、この仮想ディレクトリを「/my_data/web_apps/forum」にリンクします。すると Web アプリケーションにアクセスしたいユーザは「example.com/forum」と入力するだけで済みます。これならずと短くて覚えるのも簡単です。

➤ 仮想ディレクトリをブラウザに開くには以下を実行してください。

1. ナビゲーションペインの【ドメイン】ショートカットをクリックします。
2. 一覧から必要なドメイン名をクリックします。
3. 【仮想ディレクトリ】（【ファイル】グループ内）をクリックします。
4. 開くディレクトリに対応する  アイコンをクリックします。

このセクションの内容:

仮想ディレクトリの作成	279
仮想ディレクトリ設定の変更	282
MIME タイプの追加および削除	285
仮想ディレクトリの PHP バージョンの設定	288
仮想ディレクトリの削除	289

仮想ディレクトリの作成

➤ **ドメインに新規仮想ディレクトリを作成するには以下を実行してください。**

1. ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
2. 一覧から必要なドメイン名をクリックします。
3. [仮想ディレクトリ]（[ファイル] グループ内）をクリックします。そこが Web サイトのルートになります。
4. 新規仮想ディレクトリを作成したいディレクトリに進みます。
5. [仮想ディレクトリの作成] をクリックします。


注：仮想ディレクトリの変わりに物理ディレクトリを作成する場合は、[ディレクトリの作成] をクリックしてディレクトリ名を指定し、[OK] をクリックします。

6. 以下の必要パラメータを指定します。
 - **名前** - 仮想ディレクトリ名を指定します。
 - **パス** - 仮想ディレクトリパスを指定します。
 - [仮想ディレクトリと同じ名前の物理ディレクトリを作成] チェックボックスを選択すると、作成している仮想ディレクトリと同じ名前の物理ディレクトリが自動的に作成されます。
 - 既存の物理ディレクトリを選択するには、[仮想ディレクトリと同じ名前の物理ディレクトリを作成] チェックボックスの選択を外してフィールドにパスを指定します。
 - **スクリプトソースへのアクセス** - このチェックボックスを選択すると、ユーザは設定されている権限（読み込みまたは書き込み）でソースコードにアクセスすることができます。ソースコードには ASP アプリケーションのスクリプトも含まれます。
 - **読み込み権限** - このチェックボックスを選択すると、ユーザはファイルまたはディレクトリおよびユーザ関連のプロパティを読み取ることができます。
 - **書き込み権限** - このチェックボックスを選択すると、ユーザはファイルおよびユーザ関連のプロパティを仮想ディレクトリにアップロードしたり書き込み可のファイルのコンテンツを変更することができます。書き込み権限はブラウザが HTTP 1.1 プロトコルの PUT 機能をサポートしている場合にのみ有効です。
 - **ディレクトリ ブラウジング権限** - このチェックボックスを選択すると、ユーザは仮想ディレクトリのファイルおよびサブディレクトリのハイパーテキストリストを見ることができます。
 - **訪問をログに保存する** - このチェックボックスを選択すると、仮想ディレクトリの訪問に関する情報が保存されます。

- **アプリケーションの作成** - このチェックボックスを選択すると、Web ディレクトリを IIS アプリケーションにします。そのディレクトリは残りの Web サイトから論理的に独立します。
 - **実行権限** - 仮想ディレクトリで許可するプログラムの適切な実行レベルを選択します。
 - なし - HTML や画像ファイルなどの静的ファイルにのみアクセスを許可します。
 - スクリプトのみ - スクリプトの実行のみを許可します。その他の実行ファイルは実行できません。
 - スクリプトと実行ファイル - すべての制限がなくなり、すべてのファイルタイプを実行できます。
 - **ASP 設定** - ASP ベースの Web アプリケーション特有の設定を行います。
 - IIS で設定しているデータ転送制限において正常に動作しない ASP ベースの Web アプリケーションを使用している場合は、変更するフィールドの【親ディレクトリにて定義する】チェックボックスの選択を解除して、必要な番号を入力します。
 - サーバ側で ASP アプリケーションのデバッグを有効にするには、【親ディレクトリにて定義する】チェックボックスの選択を解除して【ASP サーバサイドのスクリプトデバッグを有効にする】チェックボックスを選択します。
 - クライアント側で ASP アプリケーションのデバッグを有効にするには、【親ディレクトリにて定義する】チェックボックスの選択を解除して【ASP クライアントサイドスクリプトデバッグを有効にする】チェックボックスを選択します。
- root Web ディレクトリの ASP 設定を変更する場合は、デフォルトチェックボックス名は【親ディレクトリにて定義する】ではなく【IIS により定義する】であることにご注意ください。

7. 作成を完了したら【OK】をクリックします。

➤ **仮想ディレクトリのアクセス権限を設定するには以下を実行してください。**

1. ナビゲーションペインの【ドメイン】ショートカットをクリックします。
2. 一覧から必要なドメイン名をクリックします。
3. 【仮想ディレクトリ】（【ファイル】グループ内）をクリックします。
4. 開くディレクトリに対応する  アイコンをクリックして、このディレクトリおよびそのすべてのファイルへのアクセス権限を設定します。

アクセス権限の設定についての詳細は「ファイルとフォルダのアクセス権限の設定」(264 ページ)のセクションをご参照ください。


➤ **仮想ディレクトリの ASP.NET を設定するには以下を実行してください。**

1. ナビゲーションペインの【ドメイン】ショートカットをクリックします。
2. 一覧から必要なドメイン名をクリックします。
3. 【仮想ディレクトリ】（【ファイル】グループ内）をクリックします。
4. 必要なディレクトリを参照して入力します。
5. 【ASP.NET設定】をクリックしてオプションを設定します。

ASP.NET の設定についての詳細は「仮想ディレクトリの ASP.NET の設定」（225 ページ）のセクションをご参照ください。

仮想ディレクトリ設定の変更

➤ **ドメイン上に既存の仮想ディレクトリのプリファレンスを変更するには、以下を実行してください。**


1. ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
2. 一覧から必要なドメイン名をクリックします。
3. [仮想ディレクトリ]（[ファイル] グループ内）をクリックします。
4. 変更するプリファレンスのディレクトリを探して  をクリックするか、変更するディレクトリで [ディレクトリのアクセス権限] をクリックします。
5. 仮想ディレクトリのプリファレンスを変更します。
 - **名前** - 仮想ディレクトリ名を指定します。
 - **パス** - 仮想ディレクトリがリンクしている物理ディレクトリのパスを指定します。
 - **スクリプトソースへのアクセス** - このチェックボックスを選択すると、ユーザは設定されている権限（読み込みまたは書き込み）でソースコードにアクセスすることができます。ソースコードには ASP アプリケーションのスクリプトも含まれます。
 - **読み込み権限** - このチェックボックスを選択すると、ユーザはファイルまたはディレクトリおよびユーザ関連のプロパティを読み取ることができます。
 - **書き込み権限** - このチェックボックスを選択すると、ユーザはファイルおよびユーザ関連のプロパティを仮想ディレクトリにアップロードしたり書き込み可のファイルのコンテンツを変更することができます。書き込み権限はブラウザが HTTP 1.1 プロトコルの PUT 機能をサポートしている場合にのみ有効です。
 - **ディレクトリ ブラウジング権限** - このチェックボックスを選択すると、ユーザは仮想ディレクトリのファイルおよびサブディレクトリのハイパーテキストリストを見ることができます。
 - **訪問をログに保存する** - このチェックボックスを選択すると、仮想ディレクトリの訪問に関する情報が保存されます。
 - **アプリケーションの作成** - このチェックボックスを選択すると、Web ディレクトリを IIS アプリケーションにします。そのディレクトリは残りの Web サイトから論理的に独立します。
 - **実行権限** - 仮想ディレクトリで許可するプログラムの適切な実行レベルを選択します。
 - なし - HTML や画像ファイルなどの静的ファイルにのみアクセスを許可します。
 - スクリプトのみ - スクリプトの実行のみを許可します。その他の実行ファイルは実行できません。
 - スクリプトと実行ファイル - すべての制限がなくなり、すべてのファイルタイプを実行できます。

- **親パスの利用を許可する** - このチェックボックスを選択すると、現行 Web ディレクトリ上のフォルダを参照する際にパス名にダブルピリオドを使用できます。それによってユーザは、そのフォルダ名や全体の階層構造を知らなくてもフォルダの上位へ移動できます。このオプションが選択されている場合、親パスディレクトリはそのブリファレンスの【**実行権限**】チェックボックスを選択できません。アプリケーションは親パスのプログラムを承認がなければ実行できないからです。
- **MTA (マルチスレッド アpartment) モードでのアプリケーションの実行を許可する** - このチェックボックスを選択すると、MTA (マルチスレッド Apartment) モードでアプリケーションを実行できます。選択を外している、アプリケーションは STA (シングルスレッド Apartment) モードで実行されます。STA を使用すると、各アプリケーションは専用プロセスで実行されます。MTA では 1 つのスレッドで複数の並列アプリケーションプールが実行されるので、場合によってはパフォーマンスが向上します。
- **デフォルトドキュメントを利用する** - このチェックボックスを選択すると、現行 Web ディレクトリのデフォルト文書を使用できます。ユーザがファイル名を指定せずに Web のディレクトリにアクセスするとデフォルト文書が提供されます (例えば、「<http://www.parallels.com>」にアクセスすると「<http://www.parallels.com/index.html>」が提供されます)。このチェックボックスの選択が外されていて、【**ディレクトリ ブラウジング権限**】チェックボックスが選択されていると、Web サーバはフォルダーリストを返します。このチェックボックスの選択が外されていて、【**ディレクトリ ブラウジング権限**】チェックボックスの選択も外されていると、Web サーバは「アクセス禁止」のエラーメッセージを返します。
- **デフォルトのドキュメント検索の順番** - IIS がデフォルト文書を検索する順序を指定し、最初に検索されたファイルがユーザに提供されます。一致するものがないと、IIS はデフォルトコンテンツページが無効であった場合と同じ結果を返します。
- **Anonymous アクセスを許可する** - このチェックボックスを選択すると、Web ユーザが認証なしでディレクトリにアクセスできます。
- **SSL を要求** - このチェックボックスを選択すると SSL が有効になり、フォルダへのアクセスだけとなります。
- **ASP 設定** - ASP ベースの Web アプリケーション特有の設定を行います。
 - IIS で設定しているデータ転送制限において正常に動作しない ASP ベースの Web アプリケーションを使用している場合は、変更するフィールドの【**親ディレクトリにて定義する**】チェックボックスの選択を解除して、必要な番号を入力します。
 - サーバ側で ASP アプリケーションのデバッグを有効にするには、【**親ディレクトリにて定義する**】チェックボックスの選択を解除して【**ASP サーバサイドのスクリプトデバッグを有効にする**】チェックボックスを選択します。
 - クライアント側で ASP アプリケーションのデバッグを有効にするには、【**親ディレクトリにて定義する**】チェックボックスの選択を解除して【**ASP クライアントサイドスクリプトデバッグを有効にする**】チェックボックスを選択します。

root Web ディレクトリの ASP 設定を変更する場合は、デフォルトチェックボックス名は【**親ディレクトリにて定義する**】ではなく【**IIS により定義する**】であることにご注意ください。

6. [OK] をクリックして変更を保存します。

➤ **仮想ディレクトリのアクセス権限を変更するには、以下を実行してください。**

1. ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
2. 一覧から必要なドメイン名をクリックします。
3. [仮想ディレクトリ] ([ファイル] グループ内) をクリックします。
4. 開くディレクトリに対応する  アイコンをクリックして、このディレクトリおよびそのすべてのファイルへのアクセス権限を変更します。

アクセス権限の設定についての詳細は「ファイルとフォルダのアクセス権限の設定」のセクションをご参照ください。

➤ **仮想ディレクトリの ASP.NET を再設定するには以下を実行してください。**

1. ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
2. 一覧から必要なドメイン名をクリックします。
3. [仮想ディレクトリ] ([ファイル] グループ内) をクリックします。
4. 必要なディレクトリを参照して入力します。
5. [ASP.NET設定] をクリックしてオプションを変更します。

ASP.NET の設定についての詳細は「仮想ディレクトリの ASP.NET の設定」のセクションをご参照ください。

MIME タイプの追加および削除

MIME（多目的インターネットメールエクスチェンジ）タイプは Web ブラウザまたはメールアプリケーションがサーバから受信するファイルの取り扱い方法を示します。例えば Web ブラウザがサーバ上のアイテムをリクエストすると、そのオブジェクトの MIME タイプもリクエストすることになります。グラフィックなどの MIME タイプはブラウザ内で表示することができます。その他のワープロ文書などを表示するには、外部のヘルプアプリケーションが必要です。

Web サーバがクライアント Web ブラウザに Web ページを提供している場合、同時にデータの MIME タイプも提供しています。特定のフォーマットのファイルが添付されている場合、IIS はクライアントアプリケーションにその添付ファイルについても MIME タイプを提供します。それによってクライアントアプリケーションは IIS から受信したデータをどうやって処理または表示すればよいのかが分かります。

IIS は登録した MIME タイプのファイルのオペレーションしかできません。MIME タイプはグローバル IIS レベル上でもドメインまたは仮想ディレクトリレベル上でも定義することができます。ドメインまたは仮想ディレクトリレベル上で定義した MIME タイプは定義したエリアでのみ使用されますが、グローバル定義された MIME タイプはすべてのドメインおよび仮想ディレクトリに継承されます。そうしないと、Web サーバは登録していない MIME タイプを持つファイルのリクエストを受信した際に 404.3 (Not Found) エラーを返すことになってしまいます。

このセクションの内容:

MIME タイプの追加.....	286
MIME タイプの変更.....	287
MIME タイプの削除.....	288

MIME タイプの追加

➤ **ドメイン上の仮想ディレクトリに新規 MIME タイプを追加するには以下を実行してください。**

1. ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
2. 一覧から必要なドメイン名をクリックします。
3. [仮想ディレクトリ] ([ファイル] グループ内) をクリックします。
4. 必要なディレクトリを参照して入力します。
5. [MIMEタイプ] タブを選択します。
6. [MIMEタイプの追加] をクリックします。
 - ファイル名の拡張子を [拡張子] フィールドに入力します。 ファイル拡張子はドット (.) で始まらなければなりません。また、ワイルドカード (*) を使用すればファイル拡張子に関係なくすべてのファイルが対象となります。
 - [コンテンツ] フィールドにファイルコンテンツのタイプを指定します。
 - 一覧から適切な値を選ぶこともできますし、新規コンテンツタイプを定義することもできます。 それには [カスタム...] を選択し、入力ボックスにコンテンツタイプを入力してください。
7. 作成を完了したら [OK] をクリックします。

MIME タイプの変更

➤ **ドメイン上の仮想ディレクトリの既存 MIME タイプを編集するには以下を実行してください。**

1. ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
2. 一覧から必要なドメイン名をクリックします。
3. [仮想ディレクトリ] ([ファイル] グループ内) をクリックします。
4. 必要なディレクトリを参照して入力します。
5. [MIMEタイプ] タブを選択します。
6. 一覧から MIME タイプを選択します。
 - ファイル名の拡張子を [拡張子] フィールドに入力します。 ファイル拡張子はドット (.) で始まらなければなりません。また、ワイルドカード (*) を使用すればファイル拡張子に関係なくすべてのファイルが対象となります。
 - [コンテンツ] フィールドにファイルコンテンツのタイプを指定します。
 - 一覧から適切な値を選ぶこともできますし、新規コンテンツタイプを定義することもできます。 それには [カスタム...] を選択し、入力ボックスにコンテンツタイプを入力してください。
7. [OK] をクリックして変更を保存します。

MIME タイプの削除

➤ **ドメイン上の仮想ディレクトリから MIME タイプを削除するには以下を実行してください。**

1. ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
2. 一覧から必要なドメイン名をクリックします。
3. [仮想ディレクトリ]（[ファイル] グループ内）をクリックします。
4. 必要なディレクトリを参照して入力します。
5. [MIMEタイプ] タブを選択します。
6. 削除したいMIMEタイプに該当するチェックボックスを選択します。
7. [削除] をクリックします。
8. 削除を確認して [OK] をクリックします。

仮想ディレクトリの PHP バージョンの設定

各ドメインで使用する PHP バージョンを選択できるだけでなく、ドメインの仮想ディレクトリの PHP バージョンも指定できます。それによって、PHP5 同様に PHP4 を必要とする Web アプリケーションも使用することができます。

➤ **仮想ディレクトリの PHP バージョンを設定するには以下を実行してください。**

1. ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
2. 一覧から必要なドメイン名をクリックします。
3. [仮想ディレクトリ]（[ファイル] グループ内）をクリックします。
4. [PHP設定] をクリックします。
5. PHPのバージョンを選択し [OK] をクリックします。

仮想ディレクトリの削除

➤ **既存の仮想ディレクトリを削除するには以下を実行してください。**

1. ナビゲーションペインの【ドメイン】ショートカットをクリックします。
2. 一覧から必要なドメイン名をクリックします。
3. 【仮想ディレクトリ】（【ファイル】グループ内）をクリックします。
4. 削除するディレクトリに対応するチェックボックスを選択します。
5. 【削除】をクリックします。
6. 削除を確認して【OK】をクリックします。

Web サーバでの個人用 Web ページのホスティング

専用のドメイン名を必要としない個人の個人用 Web ページは、管理者 Web サーバでホスティングできます。このサービスはおもに、学生やスタッフの非営利的なパーソナルページをホストする教育機関で使用されています。

そういったページの Web アドレスは通常<http://your-domain.com/~username>となります。

➤ サーバで個人用 Web ページを追加するには、別の Web スペースを割り当て、公開用の FTP アカウントを設定します。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [Webユーザ]（[Webサイト] グループ内）に進みます。
2. [プリファレンス] をクリックします。
3. 個人 Web ページに埋め込まれたスクリプトが実行できるようにする場合は、[Webユーザーへのスクリプトの使用の許可] チェックボックスを選択します。
4. [OK] をクリックします。

ステップ 3 で定義した設定は、管理者の Web サーバでホストするすべての個人用 Web ページに共有です。従って、次に個人用 Web ページの Web スペースを設定する場合は、ステップ 4 から 6 を実行する必要はありません。

5. [新しいWebユーザの追加] をクリックします。
6. FTPを使用してWebスペースにアクセスし、Webページを公開する場合に使用するユーザ名とパスワードを指定します。
ユーザ名には小文字の英数字、ハイフン、アンダースコア記号のみ使用できます。ユーザ名の先頭文字はアルファベット文字です。空白を含めることはできません。パスワードにはクォーテーションマーク、空白、ユーザのログイン名を使用できません。長さは5～14文字とします。
7. Webページでサポートされるプログラミング言語を指定します。
例えば、Web ページが PHP で作成されている場合、[PHP 対応] チェックボックスを選択します。
8. このWebページに使用できるディスク容量を制限する場合、[ハードディスククォータ] ボックスに必要な値をメガバイトで入力します。
指定した制限値を超えると、Web ページ所有者は Web スペースにファイルを追加することができなくなります。
9. [OK] をクリックします。

これで、FTP アカウントの信用情報がユーザに伝えられ、ユーザが自分の Web ページを公開できるようになります。

このセクションの内容:

Web ページ所有者の FTP パスワードの変更.....	291
Web ページ所有者へのディスク容量の割り当ての増加	291
Web ページ所有者のアカウントの削除.....	291

Web ページ所有者の FTP パスワードの変更

➤ Web ページ所有者の FTP パスワードを変更するには、以下の操作を実行します。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [Webユーザ]（[Webサイト] グループ内）> ユーザ名に進みます。
2. [新しいパスワード] ボックスおよび [パスワードの確認] ボックスで新しいパスワードの入力と確認を行い、[OK] をクリックします。

Web ページ所有者へのディスク容量の割り当ての増加

➤ Web ページ所有者へのディスク容量割り当てを増やすには、以下を実行してください。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [Webユーザ]（[Webサイト] グループ内）に進み、処理するWebユーザ名をクリックします。
2. [ハードディスククォータ] ボックスにディスク容量をメガバイトで入力し、[OK] をクリックします。

Web ページ所有者のアカウントの削除

➤ Web ページ所有者のアカウントをその Web ページとともに削除するには、以下の操作を実行します。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [Webユーザ]（[Webサイト] グループ内）に進みます。
2. 削除するユーザアカウントに対応するチェックボックスを選択し、[削除] をクリックします。
3. 削除を確認して [OK] をクリックします。

サーバへの anonymous FTP アクセスの設定

専用の IP アドレス上のサイトをホストしている場合、他のユーザが FTP を使用して匿名でファイルをダウンロードまたはアップロードできるディレクトリを、サイト内に設定できます。anonymous FTP が有効になると、ユーザは「anonymous」ログイン名と任意のパスワードを使用して<ftp://ftp.your-domain.com>にログインできるようになります。

➤ **anonymous FTP アクセスを許可するには、以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [Anonymous FTP]（[ファイル] グループ内）に進みます。
2. anonymous FTPサービスを有効にするには、[スイッチオン] をクリックします。
3. ユーザがFTPサイトにログインしたときに表示されるウェルカムメッセージを設定するには、[ログインメッセージを表示します] チェックボックスを選択し、入力フィールドに任意にメッセージテキストを入力します。
すべての FTP クライアントがウェルカムメッセージを表示するとは限りません。
4. ビジターに /incomingディレクトリへのファイルのアップロードを許可するには、[受信ディレクトリへのアップロードを許可する] チェックボックスを選択します。
5. ユーザに /incomingディレクトリでのサブディレクトリの作成を許可するには、[受信ディレクトリでのディレクトリ作成を許可する] チェックボックスを選択します。
6. /incomingディレクトリからのファイルのダウンロードを許可するには、[受信ディレクトリからのダウンロードを許可する] チェックボックスを選択します。
7. アップロードされたファイルが使用できるディスク容量を制限するには、[受信ディレクトリにてディスク容量を制限する] オプションに対応する [無制限] チェックボックスをクリアし、容量をキロバイトで指定します。
これがハードクォータです。この制限に達したとき、ユーザはディレクトリにファイルを追加できなくなります。
8. anonymous FTPサーバへの同時接続数を制限するには、[同時接続の制限数] オプションに対応する [無制限] チェックボックスの選択を外し、許可される接続数を指定します。
9. anonymous FTP接続の帯域幅を制限するには、[このバーチャルFTPドメインのダウンロード帯域幅を制限する] オプションに対応する [無制限] チェックボックスの選択を外し、最大帯域幅を1秒当たりのキロバイト数で入力します。
10. [OK] をクリックします。

➤ **anonymous FTP サーバの設定を変更する、または anonymous FTP サーバを無効にするには、以下を実行してください。**

1. **〔ドメイン〕 > ドメイン名 > [Anonymous FTP]（〔ファイル〕グループ内）に進みます。**
2. **必要に応じて設定を調整し [OK] をクリックします。 anonymous FTPサービスを無効にするには、〔スイッチオフ〕 をクリックします。**

ウェブサーバのエラーメッセージのカスタマイズ (Linux ホスティング)

サイトを訪れているビジターがウェブサーバが見つけれられないページを要求する場合、ウェブサーバによりエラーメッセージを伴った標準のHTML ページが生成され、表示されます。標準のエラーメッセージにより問題が伝えられる場合がありますが、通常は問題の解決方法または問題の発生したビジターが通常の作業に戻る方法は述べられず、明確になりません。

個人用のエラーページを作成し、個人のウェブサーバで使うことができます。Parallels Plesk Panel では、以下のエラーメッセージをカスタマイズできます。

- **400 Bad File Request.** 通常は URL で使用される構文の間違い（大文字は小文字にする、句点の間違いなど）を意味します。
- **401 Unauthorized.** サーバはクライアントからの暗号化キーを要求していますが取得できません。また、入力したパスワードが間違っている場合があります。
- **403 Forbidden/Access denied.** 401 に類似したエラーです。サイトにアクセスするために特別な許可（登録の場合にはパスワードおよび/またはユーザ名）が必要になります。
- **404 Not Found.** サーバは要求されたファイルを検索できません。ファイルは移動または削除されています。あるいは入力された URL またはドキュメント名が間違っています。これは最も一般的なエラーです。
- **405 Method Not Allowed.** リクエスト-ラインで指定した方法が、リクエスト-URI が同定するリソースに許可されていません。
- **406 Not Acceptable.** リクエストが同定するリソースは、リクエストで送信されたヘッダに許可されていないコンテンツ特性を持つ応答エンティティの生成にのみ有効です。
- **407 Proxy Authentication Required.** このコードは 401 (Unauthorized) に似ていますが、クライアントはまず自分をプロキシで認証しなければならないことを表しています。
- **412 Precondition Failed.** 1 つ以上の [リクエスト-ヘッダ] フィールドに指定された前提条件をサーバでテストしたところ、誤っていると判 断されました。この応答コードによってクライアントは現行のリソースメタ情報（[ヘッダ] フィールドのデータ）の前提条件を調整し、リクエストした方法が意図したリソース以外に適用されることを防ぎます。
- **414 Request-URI Too Long.** サーバが解釈可能である長さよりもリクエスト-URI のほうが長い場合、サーバはリクエストへのサービスを拒否します。これは稀なケースであり、クライアントが POST リクエストを GET リクエストに長いクエリ情報と一緒に不適切に変換した場合、あるいはクライアントが転送の URI 「ブラックホール」に陥った（例えば転送された URI プレフィックスがそれ自身のサフィックスを指している）場合、あるいはサーバが、リクエスト-URI を読み取るまたは操作するための固定長のバッファを使用しているサーバが提供するセキュリティホールを突破しようとしているクライアントによって攻撃されている場合に限り発生することがあります。
- **415 Unsupported Media Type.** リクエストのエンティティが、リクエストした方法のリソースがサポートしていない形式であるため、サーバはリクエストへのサービスを拒否します。
- **500 Internal Server Error** サーバコンフィグレーション上の問題により、HTML ドキュメントを取得できませんでした。

- **501 Not Implemented.** サーバはリクエストを遂行するのに必要な機能をサポートしていません。これは、サーバがリクエスト方法を認識せず、あらゆるリソースに対してそれに対応する機能がない場合の応答コードです。
- **502 Bad Gateway.** ゲートウェアまたはプロキシとして動作しているサーバが、リクエストを遂行しようとしてアクセスしたアップストリームサーバから無効な応答を受け取りました。

➤ **カスタムエラーページを表示するように Parallels Plesk Panel のウェブサーバを設定するには、以下を実行してください。**

1. Parallels Plesk Panelでカスタムエラー文書のサポートをオンにします。[ドメイン] > ドメイン名 > [ウェブホスティング設定]（[ウェブサイト]グループ内）に進みます。[カスタムエラードキュメント]チェックボックスを選択し、[OK]をクリックします。
2. Parallels Plesk Panelサーバ上のFTPアカウントに接続してerror_docsディレクトリに移動します。
3. 各ファイルを編集または置き換えます。正しいファイル名が維持されていることを確認します。
 - 400 Bad File Request - bad_request.html
 - 401 Unauthorized - unauthorized.html
 - 403 Forbidden/Access denied - forbidden.html
 - 404 Not Found - not_found.html
 - 405 Method Not Allowed - method_not_allowed.html
 - 406 Not Acceptable - not_acceptable.html
 - 407 Proxy Authentication Required - proxy_authentication_required.html
 - 412 Precondition Failed - precondition_failed.html
 - 414 Request-URI Too Long - request-uri_too_long.html
 - 415 Unsupported Media Type - unsupported_media_type.html
 - 500 Internal Server Error - internal_server_error.html
 - 501 Not Implemented - not_implemented.html
 - 502 Bad Gateway - bad_gateway.html
4. ウェブサーバが再起動するまで数時間待機します。その後、ウェブサーバはエラードキュメントを使用して起動します。

Web サーバのエラーメッセージのカスタマイズ (Windows ホスティング)

サイトを訪れているビジターが Web サーバが見つけれられないページを要求する場合、Web サーバによりエラーメッセージを伴った標準の HTML ページが生成、表示されます。標準のエラーメッセージにより問題が伝えられる場合がありますが、通常は問題の解決方法または問題の発生したビジターが通常の作業に戻る方法は述べられず、明確になりません。

個人用のエラーページを作成し、個人の Web サーバで 사용할 ことができます。以下のエラーメッセージは最も頻繁にカスタマイズされるものです。

- 400 Bad File Request. 通常は URL で使用される構文の間違い（大文字は小文字にする、句点の間違いなど）を意味します。
- 401 Unauthorized. サーバはクライアントからの暗号化キーを要求していますが取得できません。また、入力したパスワードが間違っている場合があります。
- 403 Forbidden/Access denied. 401 に類似したエラーです。サイトにアクセスするために特別な許可（登録の場合にはパスワードおよび/またはユーザ名）が必要になります。
- 404 Not Found. サーバは要求されたファイルを検索できません。ファイルは移動または削除されています。あるいは入力された URL またはドキュメント名が間違っています。これは最も一般的なエラーです。
- 500 Internal Server Error サーバコンフィグレーション上の問題により、HTML 文書を取得できませんでした。

➤ **ドメインのカスタムエラーページを表示するように Parallels Plesk Panel の Web サーバを設定するには、以下を実行してください。**

1. Parallels Plesk Panel でカスタムエラー文書のサポートをオンにします。
 - a. [ドメイン] > **ドメイン名** > [Webホスティング設定]（[Webサイト] グループ内）に進みます。
 - b. [カスタムエラードキュメント] チェックボックスを選択します。
 - c. [OK] をクリックします。
2. [ドメイン] > **ドメイン名** > [仮想ディレクトリ]（[ファイル] グループ内）に進み、ルート Web ディレクトリのエラー文書一覧を表示します（ここに置いてあるエラー文書はすべてのドメイン Web ページに使用されています）。ある Web ディレクトリのエラーページをカスタマイズするにはそのディレクトリに進んでください。
3. [エラー文書] タブをクリックしてリストから必要なエラー文書をクリックします。
 - このエラーページについて IIS が提供するデフォルト文書を使用するには、[タイプ] メニューから [デフォルト] を選択します。

- ドメイン上の `error_docs` ディレクトリに既に存在するカスタム HTML 文書を使用するには、[タイプ] メニューから [ファイル] を選択して [ロケーション] フィールドにファイル名を指定します。
- ドメイン上の `error_docs` 以外のディレクトリにあるカスタム HTML 文書を使用するには、[タイプ] メニューから [URL] を選択して [ロケーション] フィールドに文書へのパスを入力します。パスは仮想ホストルート（`<vhosts>\<domain>\httpdocs`）と関連している必要があります。

例えば、`forbidden_403_1.html` というファイルを作成して、それを `httpdocs` にある `my_errors` ディレクトリに保存したとします。このファイルをエラー文書として使用するには、以下のパスを [ロケーション] フィールドに入力する必要があります。
`/my_errors/forbidden_403_1.html`

注：カスタムエラー文書をサーバにアップロードするには、FTP およびファイルマネージャーの両方をご利用いただけます。デフォルトでは、すべてのエラー文書は `/vhosts/your-domain.com/error_docs/` ディレクトリ（デフォルトでは `C:\¥InetPub` に置かれています）に保存されています。

4. Webサーバが再起動すると、貴社のエラー文書を使用し始めます。

ドメインの DNS ゾーン設定のカスタマイズ

新しいドメイン名ごとに、コントロールパネルにより、定義した設定事前設定に従って自動的に DNS ゾーンが作成されます。ドメイン名は自動設定に適合する必要がありますが、ドメイン名ゾーンのカスタム変更を実行する必要がある場合、これをコントロールパネルを使用して行うことができます。

注：ここから、DNS レコードに複数の変更を行って DNS ゾーンを一度に更新し、**【適用】** ボタンを押して変更を承認します。承認しなかった変更は保存されません。

➤ **ドメインの DNS ゾーンのリソースレコードを表示するには、以下の操作を実行します。**

[ドメイン] > **ドメイン名** > [DNS 設定]（[Web サイト] グループ内）に進みます。画面に所定のドメインの全てのリソースレコードが表示されます。

ドメインエイリアスの DNS ゾーンのリソースレコードを修正する方法については、「サイトの追加ドメイン名の設定（ドメインエイリアス）」（275 ページ）のセクションを参照してください。

このセクションの内容:

リソースレコードの追加	299
リソースレコードの変更	300
リソースレコードの削除	302
元のゾーン設定の復元	303

リソースレコードの追加

➤ ゾーンに新しいリソースレコードを追加するには、以下の操作を実行します。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [DNS設定]（[Webサイト] グループ内）に進みます。
2. [新しいレコードの追加] をクリックします。
3. リソースレコードのタイプを選択し、適切なデータを指定します。
 - A レコードでは A レコードを作成するドメイン名を入力する必要があります。メインドメインのために A レコードを設定する場合は、入力フィールドは空欄にしてください。A レコードをネームサーバのために設定する場合は、ネームサーバのための適切な入力(例：ns1)をする必要があります。次に適切なドメイン名と関連づける IP アドレスを入力します。
 - A レコードでは A レコードを作成するドメイン名を入力する必要があります。メインドメインのために NS レコードを設定する場合は、入力フィールドを空欄にしてください。次に適切なネームサーバの名前を入力フィールドに入力します。この名前はフルネームである必要があります（例：ns1.mynameserver.com）。
 - MX レコードでは MX レコード作成するドメイン名を入力する必要があります。メインドメインのために MX レコードを設定する場合は、入力フィールドを空欄にしてください。次にメールエクスチェンジャを入力します。これはあなたのメールサーバの名前です。リモートで'mail.myhostname.com'という名前のメールサーバを稼働させている場合は、'mail.myhostname.com'と入力フィールドに入力します。次にメールエクスチェンジャの優先度を設定する必要があります。ドロップダウンボックスを使用して、優先度を選択します。0 が最高の優先度、50 が最低の優先度となります。リモートのメール交換サーバを使用する場合は、適切な A レコードおよび/または CNAME レコードを追加する必要があります。
 - CNAME レコードでは、まず CNAME レコードを作成するエイリアスドメイン名を入力します。次にエイリアスをつけるドメイン名を入力します。どのようなドメイン名を入力することも可能です。これは同じサーバ上である必要はありません。
 - PTR レコードでは、まずポインタを設定する IP アドレス/マスクを入力します。次にこの IP を移送する適切なドメイン名を入力します。
 - TXT レコードでは、SPF レコードの説明など、任意のテキスト文字列を入力できます。
 - SRV レコードについては、サービス名、プロトコル名、ポート番号、ターゲットホストを入力する必要があります。サーバおよびプロトコル名はアンダースコア記号で始める必要があります。ターゲットホストの優先順位を指定して、優先度が同じ場合は該当のフィールドに相対的な優先度を指定することもできます。
4. [OK] をクリックしてデータを適用します。

注：DNS ゾーンの DNS レコードを変更し終わったら、DNS ゾーン画面（[DNS]）の[適用] ボタンをクリックして変更を承認します。承認しなかった変更は保存されません。

リソースレコードの変更

➤ リソースレコードのプロパティを修正するには、以下の操作を実行します。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [DNS設定]（[Webサイト] グループ内）に進みます。
2. 修正したいリソースレコードに対応する[ホスト]列内のハイパーリンクをクリックします。
3. 必要に応じてレコードを修正し [OK] をクリックします。

➤ ドメインの SOA レコード内のエントリを修正するには、以下を実行します。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [DNS設定]（[Webサイト] グループ内）に進みます。
2. [SOAプリファレンス] をクリックします。
3. 希望する値を指定します。
 - [TTL] 他の DNS サーバがそのレコードをキャッシュに保存するまでの時間です。Parallels Plesk Panel のデフォルト値は 1 日です。
 - [更新] セカンダリネームサーバがプライマリネームサーバに対して、ドメインゾーンのファイルへ何か変更が加えられたかどうかを確認する頻度です。Parallels Plesk Panel のデフォルト値は 3 時間です。
 - [再試行] セカンダリサーバが失敗したゾーン転送を再試行するまで待つ時間です。この時間は更新インターバルよりは短いのが普通です。Parallels Plesk Panel のデフォルト値は 1 時間です。
 - [期限切れ] そのゾーンが変更または更新されなかった場合、更新インターバルが経過した後、セカンダリサーバが問い合わせに回答するのを止めるまでの時間です。Parallels Plesk Panel のデフォルト値は 1 週間です。
 - [最小値] セカンダリサーバが負の応答をキャッシュするまでの時間です。Parallels Plesk Panel のデフォルト値は 3 時間です。
4. [OK] をクリックします。

IETF および RIPE 推奨のシリアル番号フォーマットを使用することが、一部のハイレベル DNS ゾーンで登録されたほとんどのドメイン（ほとんどはヨーロッパ）で必須となっています。ご使用のドメインがこれらのゾーンで登録されており、レジストラに SOA シリアル番号を拒否された場合、IETF および RIPE 推奨のシリアル番号フォーマットを使用すれば問題が解決します。

Parallels Plesk Panel サーバは UNIX タイムスタンプ構文を使用して DNS ゾーンを設定します。UNIX タイムスタンプは、1970 年 1 月 1 日（Unix エポック）以降の秒数です。32 ビットのタイムスタンプは、2038 年 6 月 8 日にオーバーフローしてしまいます。

RIPE は YYYYMMDDNN フォーマットの使用を推奨しています。YYYY が年（4 桁）、MM が月（2 桁）、DD が日（2 桁）で NN がその日のバージョンです（2 桁）。YYYYMMDDNN フォーマットは 4294 年までオーバーフローしません。

➤ **ドメインの Start of Authority (SOA) シリアル番号フォーマットを YYYYMMDDNN に変更するには、以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [DNS設定] （[Webサイト] グループ内）に進みます。
2. [SOAプリファレンス] をクリックします。
3. [IETFとRIPEが推奨するシリアル番号フォーマットを利用する] チェックボックスを選択します。

注：選択したフォーマットで生成した SOA シリアル番号のサンプルをご覧ください。生成した番号が現在のゾーン番号よりも小さい場合、変更によってこのドメイン用の DNS が一時的に誤動作する場合があります。ゾーンの更新がインターネットユーザから見えない場合があります。

4. [OK] をクリックします。

リソースレコードの削除

➤ ゾーンからリソースレコードを削除するには、以下を実行します。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [DNS設定]（[Webサイト] グループ内）に進みます。
2. 削除したいレコードに対応するチェックボックスを選びます。
3. [削除] をクリックします。
4. 削除を確認して [OK] をクリックします。

注：DNS ゾーンの DNS レコードを変更し終わったら、DNS ゾーン画面（[DNS 設定]）の [適用] ボタンをクリックして変更を承認します。承認しなかった変更は保存されません。

元のゾーン設定の復元

- **サーバ規模の DNS 設定に従って、元のゾーン設定を復元するには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [DNS設定]（[Webサイト] グループ内）に進みます。
2. [IPアドレス] ドロップダウンボックスで、そのゾーンを復元するために使う IP アドレスを選択して、www エイリアスがそのドメインに必要なかどうかを指定して [デフォルト] ボタンをクリックします。ゾーン設定が再作成されます。

- **ドメインの Start of Authority (SOA) シリアル番号フォーマットをデフォルト (UNIX タイムスタンプ) に戻すには、以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [DNS設定]（[Webサイト] グループ内）に進みます。
2. [SOAプリファレンス] をクリックします。
3. [IETFとRIPEが推奨するシリアル番号フォーマットを利用する] チェックボックスの選択を外します。

注：選択したフォーマットで生成した SOA シリアル番号のサンプルをご覧ください。生成した番号が現在のゾーン番号よりも小さい場合、変更によってこのドメイン用の DNS が一時的に誤動作する場合があります。ゾーンの更新がインターネットユーザから見えない場合があります。

4. [OK] をクリックします。

外部ドメインネームサーバを持つサイトの供給

このサーバ上で Web サイトをホスティングし、そのサイトのプライマリ（マスター）ネームサーバとして機能するスタンドアロン DNS サーバがある場合は、コントロールパネルの DNS サーバが、セカンダリ（スレーブ）ネームサーバとして機能するように設定する必要があることもあります。

➤ **コントロールパネルの DNS サーバをセカンダリネームサーバとして機能させるには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [DNS設定]（[Webサイト] グループ内）に進みます。
2. [DNSサービスモードを切り替える] をクリックします。
3. プライマリ（マスター）DNSサーバのIPアドレスを指定します。
4. [追加] をクリックします。
5. サーバ上でセカンダリネームサーバを持つ必要があるWebサイトごとに、1から5のステップを繰り返します。

➤ **コントロールパネルの DNS サーバをゾーンのプライマリとして機能させるには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [DNS設定]（[Webサイト] グループ内）に進みます。
2. [DNSサービスモードを切り替える] をクリックします。そのゾーンの元のリソースレコードが復元されます。

Web サイトの中に外部ネームサーバ権限を持つものがある場合、外部ネームサーバによって使用されるサイトごとのコントロールパネル DNS サービスをオフにします。

➤ **外部ネームサーバが提供するサイトに対するコントロールパネルの DNS サービスをオフに切り替えるには、以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [DNS設定]（[Webサイト] グループ内）に進みます。
2. [ツール] グループの [DNSサービスの無効化] をクリックします。ゾーンの DNS サービスを無効にすると、画面が更新されるので、ネームサーバのリストだけが残ります。

注：リストにあるネームサーバのレコードは、システムに何の影響も与えません。ネームサーバのレコードは画面上に表示され、それらをクリックすると、外部権限を持つネームサーバ上にゾーンの設定が維持されていることを確認することができます。

3. 外部ネームサーバによって使用されているサイトごとに、1から3のステップを繰り返し、ローカルドメインネームサービスを無効にします。

➤ **権限のあるネームサーバ上に維持されているゾーンの設定を確認したい場合は、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [DNS設定]（[Webサイト]グループ内）に進みます。
2. そのゾーンに対して権限のある適切なネームサーバをポイントするエントリをリストに追加します。[追加]をクリックしてネームサーバを指定し[OK]をクリックします。

テストしたいネームサーバごとにこれを繰り返します。レコードがリスト内に表示されます。

3. 作成したレコードをクリックします。

Parallels Plesk Panel は、リモートネームサーバからゾーンファイルを検索し、リソースレコードをチェックして、ドメインのリソースが正しく解決されるようにします。結果が解釈され、画面上に表示されます。

Web ホスティングタイプを物理的から転送へ変更

サーバ上のサイトを仮想（または物理的）ホスティングアカウントでホストしていて、それが他のサーバへ移動したためそのサイトについてはドメイン転送のみが必要になった場合は、そのホスティングアカウントを再構成する必要があります。

ホスティングタイプが変更されるとそのサイトに関連する全てのファイルおよびディレクトリもサーバから移動するので、サイト所有者は物理的ホスティングアカウントにあったサイトのホスティング構成を変更する前に、そのサイトがローカルにコピーしてあることを確認してください。

➤ **ホスティング構成の再構成には以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [Webサイト] グループタイトルメニュー > [ホスティングタイプの変更] に進みます。
2. [転送] オプションを選択してから、転送のタイプ（フレーム転送または標準転送）を選択します。

標準転送では、ユーザはそのサイトに転送され、実際のサイト URL がユーザのブラウザに示されます。従って、ユーザは別の URL へ転送されていることが常に分かります。フレーム転送では、ユーザはそのサイトが実際は別の場所にあることを知らずに転送されます。従って**フレーム転送**が望ましいのです。

3. 転送先のURLを指定します。このドメインがポイントしてほしい現在のWebサイトのアドレスです。
4. [OK] をクリックします。

他のサーバにホストされているサイトのドメイン名の使用（ドメイン転送）

➤ **他のサーバにホストされている Web サイトをポイントするドメイン名（複数の場合も含めて）を使用する必要がある場合は、以下を実行します。**

1. [ホーム] > [ドメイン] グループタイトルメニュー > [ドメインの作成] に進みます。
2. 新規ドメインの所有者となるユーザアカウントを選択します。
3. ドメイン名を指定します。

ユーザが例えばwww.your-domain.comのような共通・常用の URL によってサイトへアクセスすることを許可するには、[www] チェックボックスを選択したままにします。ドメイン名の前に www エイリアスをつけると、ユーザがブラウザに何を入力しても、そのサイトへ行くことができます。www.your-domain.comと your-domain.com、どちらもそのサイトをポイントします。

4. 選択先の IP アドレスが複数ある場合、[IP アドレスの割り当て] メニューから必要なアドレスを選択します。

SSL(Secure Sockets Layer)データ暗号化を実行するために、E-コマースサイトは IP アドレス（他のサイトと共有でない）が必要であることを忘れないでください。

5. [ドメインテンプレート設定を利用する] メニューの [テンプレートを使わずにドメインを作成する] オプションを選択したままにします。
6. [メール] および [DNS] チェックボックスを選択します。
7. [ホスティングタイプ] で [転送] を選択します。
8. 転送先の URL を指定します。このドメインがポイントしてほしい現在の Web サイトのアドレスです。


9. 転送のタイプを選択します。 [フレーム転送] または [標準転送] です。

標準転送では、ユーザはそのサイトに転送され、実際のサイト URL がユーザのブラウザに示されます。従って、ユーザは別の URL へ転送されていることが常に分かります。フレーム転送では、ユーザはそのサイトが実際は別の場所にあることを知らずに転送されます。従って**フレーム転送**が望ましいのです。

10. [終了] をクリックします。

ユーザアカウント間のドメイン転送

➤ あるユーザアカウントから別のユーザアカウントへドメインを転送するには、以下を実行します。

1. ナビゲーションペインの【ドメイン】ショートカットを選択します。
2. 転送したいドメインに対応するチェックボックスを選択して 【新しいドメイン所有者を割り当てる】をクリックします。
3. 選択したドメインを転送したい宛先アカウントを選択し【次へ >>】をクリックします。

Parallels Plesk Panel は、宛先のクライアントアカウントが転送されたドメインを正しく機能させるための適切なリソース量を提供できるかどうかを確認します。 クライアントアカウントに新規ドメインを収容するだけのリソースがない場合、リソース不足がハイライトされます。 宛先クライアントアカウントに必要な量のリソースを割り当てるには、【クライアント】>【クライアント名】>【リソース使用量】に進んでユーザが使用可能なリソース量を調節してからドメイン転送プロセスをもう一度行います。

必要なドメインの【新規 IP アドレス】メニューから宛先 IP アドレスを選択してドメインの転送に IP アドレスを使用することもできます。

4. この手順を終了するには【終了】をクリックします。

Web サイトホスティングアカウントのアップグレード

➤ **Web サイトの設定を変更するには、以下を実行してください。**


1. **【ドメイン】 > ドメイン名**に進みます。
2. より多くのディスク容量、帯域幅、その他のリソースを割り当てるには、**【リソース使用量】**（**【統計】**グループ内）をクリックします。
3. プログラミング言語およびスクリプトのサポートなどのホスティング機能を追加するには、**【Webホスティング設定】**（**【Webサイト】**グループ内）をクリックします。
4. 期限の切れたWebサイトホスティングアカウントを更新（延長）するには、**【リソース使用量】**（**【統計】**グループ内）をクリックして、他の期間を**【有効期限】**に指定し、**【OK】**をクリックします。それから**【中断解除】**をクリックします。

このセクションの内容:

多数の Web ホスティングアカウントへの類似の変更の実行.....310

多数の Web ホスティングアカウントへの類似の変更の実行

➤ 多数のホスティングアカウントに対して同時にホスティングオプションを変更するには、以下を実行します。

1. ナビゲーションペインの [ドメイン] ショートカットをクリックします。
2. 一括操作を実行したいドメイン名に該当するチェックボックスを選択します。
3.  [修正] をクリックします。
4. [制限] セクションにはすべてのドメイン特有の制限が表示されます。制限を変更するには、リストの左側で適切なメニューを選択します。必要に応じて、設定を調整してください。
 - 制限を削除するには [無制限] を選択します。
 - 具体的な値で制限を設定するには [値] を選択して指定の値を数字で入力します。
 - [増加(+)] を選択し、値の種類具体的な単位またはパーセント) を選択して数値を入力し、指定の値 (具体的な単位またはパーセントで) だけ対応する限度を増加させます。
 - [減少(-)] を選択し、値の種類具体的な単位またはパーセント) を選択して数値を入力し、指定の値 (具体的な単位またはパーセントで) だけ対応する限度を減少させます。
 - 変更しない場合には [変更しません] 値が選択されたままにします。
5. [ホスティング] セクションにはホスティングパラメータのリストが表示されます。ドメインの機能の可用性を変更するには、[有効] または [無効] にするための適切なオプションボタンを選択します。[変更しません] を選択すると変更されません。
6. [プリファレンス] セクションにはドメインプリファレンスのリストが表示されます。ドメインの機能の設定を変更するには、[有効] または [無効] にするための適切なオプションボタンを選択します。[変更しません] を選択すると変更されません。
7. [サービス] セクションでは様々なドメインサービスの可用性を定義することができます。それには、[有効] または [無効] にするための適切なオプションボタンを選択します。[変更しません] を選択すると変更されません。
8. [OK] をクリックします。

Web サイトの中断および中断解除

➤ **ドメイン (Web サイト) を中断するには、以下を実行します。**

1. **【ドメイン】** ドメイン名に進みます。
2. **【中断】** をクリックします。

ドメインは中断されます。その Web、FTP、メールサービスはインターネットユーザにはアクセスできなくなります。また、ドメイン所有者はコントロールパネルにログインできなくなります。

➤ **ドメイン (Web サイト) の中断を解除するには、以下を実行します。**

1. **【ドメイン】** ドメイン名に進みます。
2. **【中断解除】** をクリックします。

Web サイトの削除

➤ **ドメイン (Web サイト) をその Web コンテンツごと削除するには、以下を実行します。**

1. **【ドメイン】** に進みます。
2. 削除するドメイン名のチェックボックスを選択します。
3. **【削除】** をクリックして、削除を確認し **【OK】** をクリックします。

➤ **サブドメインとその Web コンテンツを削除するには、以下の操作を実行します。**

1. **【ドメイン】 > ドメイン名 > 【サブドメイン】** (**【Webサイト】** グループ内) に進みます。
2. 削除したいサブドメインに対応するチェックボックスを選びます。
3. **【削除】** をクリックして、削除を確認し **【OK】** をクリックします。

メールサービスの使用

1つのメールアカウントで様々なメールサービスを利用できます。例えば、標準的なメールボックスとしてメールを受け取ったり、多数の宛先へ転送したり、送信者へ自動的に応答するようなメールアドレスを持つことができます。

外部メールサーバを持つ特定のドメイン下のメールボックスを提供するには以下を実行してください。

1. **【ドメイン】 > ドメイン名 > 【DNS設定】**（**【Webサイト】**グループ内）に進みます。
2. **【レコードタイプ】**の列でMXレコードを指定し、左側の**【ホスト】**の列でそれぞれのリンクをクリックします。
3. **【メールエクスチェンジャを入力】**ボックスに外部メールサーバのホスト名（例えばmailserver.example.com）を入力します。
4. **【OK】**をクリックします。
5. **【上位レベルへ】**をクリックしてドメイン管理画面に戻ります。
6. **【メールアカウント】**（**【メール】**グループ内）> **【メール設定】**をクリックします。
7. **【ドメイン上でメールサービスを有効化する】**チェックボックスの選択を外して、**【OK】**をクリックします。

このセクションの内容:

メールボックスの作成.....	314
メールにアクセス.....	315
スパムからのメールボックスの保護	333
ウイルスからのメールボックスの保護.....	338
メールボックスの中断および中断解除.....	340
メールボックスの削除.....	341
アカウントのメールボックスフォワーダへの変更を決定した場合のメールボックスサービスの無効化.....	341
単一メールアドレスへのメール転送の設定	342
複数メールアドレスへのメール転送の設定	343
メールフォワーダの削除	345
自動応答の設定	346
自動応答の無効化.....	348
存在しないユーザ宛メールの処理に対するサイト単位のプリファレンスの設定（メール転送）	349
複数のメールアカウントへの類似変更の同時処理の導入.....	350
複数の顧客に対するメール一括送付	351
メールリングリストの保守	356

メールボックスの作成

➤ **メールボックスを作成するには、以下を実行します。**

1. **【ドメイン】 > ドメイン名 > 【メールアカウントの作成】**（**【メール】グループ**内）に進みます。
2. ドメイン名が @ 記号の右側に表示され、あとはメールボックスに必要な名前を指定するだけです。
ドットで区切った名字と名前、部署名、その他のラテン記号のテキストなどを指定できます。名前は覚えられる長さにする必要があります。英数字、ダッシュ、ドット、アンダースコアの記号を使用できます。
3. メールボックスへのアクセスに使用するパスワードを指定します。
4. **【メールボックス】** チェックボックスが選択されていることを確認して、**[OK]** をクリックします。

これでプロバイダのサーバにメールボックスが作成されました。新しいメールボックスを通じてメールを送受信できるようにお気に入りのメールプログラムを設定できます。他のユーザのメールボックスを作成するには、以下を実行します。

➤ **他のユーザのメールボックスを作成するには、以下を実行します。**

1. **【ドメイン】 > ドメイン名 > 【メールアカウントの作成】**（**【メール】グループ**内）に進みます。
2. ドメイン名が @ 記号の右側に表示され、あとはメールボックスに必要な名前を指定するだけです。
ドットで区切ったユーザの名字と名前、部署名、その他のラテン記号のテキストなどを指定できます。名前は覚えられる長さにする必要があります。英数字、ダッシュ、ドット、アンダースコアの記号を使用できます。
3. メールボックスの所有者がメールボックスへのアクセスに使用するパスワードを指定します。
4. メールボックス所有者がメールボックス管理パネルを使用して自分のメールボックスを管理するのを許可する場合は、**【コントロールパネルアクセス】** チェックボックスを選択し、ユーザのコントロールパネルの言語を指定します。
5. チェックマークが **【メールボックス】** チェックボックスに表示されることを確認してください。必要に応じて、このメールボックスおよび自動応答の添付ファイルで使用するディスク容量を制限します。この場合、**【メールボックスクォータ】** で **【サイズ入力】** オプションを選択し、指定する値をキロバイトで入力します。 **[OK]** をクリックします。

6. メールボックス所有者がスパムフィルタとアンチウイルスを設定し使用するのを許可する場合は、**【権限】**をクリックしてそれぞれのチェックボックスを選択し、**【OK】**をクリックします。

これでメールボックスが作成され、Parallels Plesk Panel に専用のメール管理パネルが設定されました。管理パネルに入力する場合、メールボックス所有者は URL <https://your-domain.com:8443> を閲覧し、**【ログイン】** ボックスにメールアドレスを入力し、**【パスワード】** ボックスにメールボックスのパスワードを入力してから、**【ログイン】** をクリックします。

メールにアクセス

メールを送受信するためにメールボックスにアクセスするには、以下の2つの方法があります。

- ユーザのコンピュータ上にメールクライアントプログラムをセットアップして使用。
- ウェブブラウザを使用してウェブメールインターフェースに接続。

➤ **ウェブメールインターフェースにアクセスするには、以下を実行してください。**

1. **【ドメイン】 > ドメイン名 > 【メール】 グループタイトルメニュー > 【メール設定】**に進みます。
2. **【ウェブメール】** メールから、必要なウェブメールアプリケーションを選択します。
3. **【OK】** をクリックします。

注: ドメインに対するウェブメールの有効化と無効化には、DNS ゾーンでの変更が伴うため、実際には、DNS 登録メカニズムの速度によりウェブメールを有効化および無効化する場合は一定の遅延が発生します。

➤ **ウェブメールにアクセスするには、以下を実行してください。**

ウェブブラウザで URL webmail.example.com を訪問します。ここで、example.com は貴社ウェブサイトのインターネットアドレスです。指示されたら、ユーザ名にメールアドレス全体を入力して（例えば mail@example.com）、Panel へのログインに使用するパスワードを入力します。

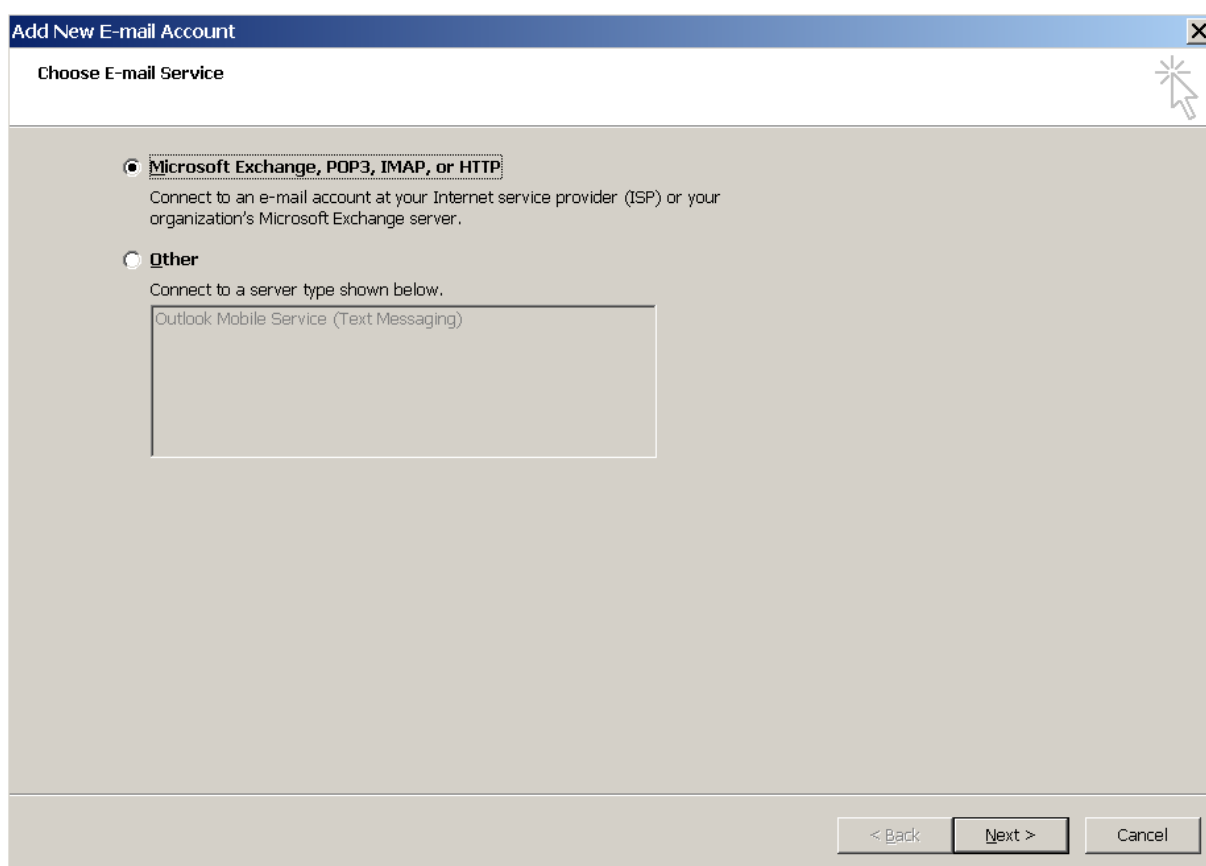
このセクションの内容:

Microsoft Office Outlook 2007 の設定	316
Microsoft Outlook Express 6 の設定	319
Mozilla Thunderbird の設定	323
Apple Mail の設定	328

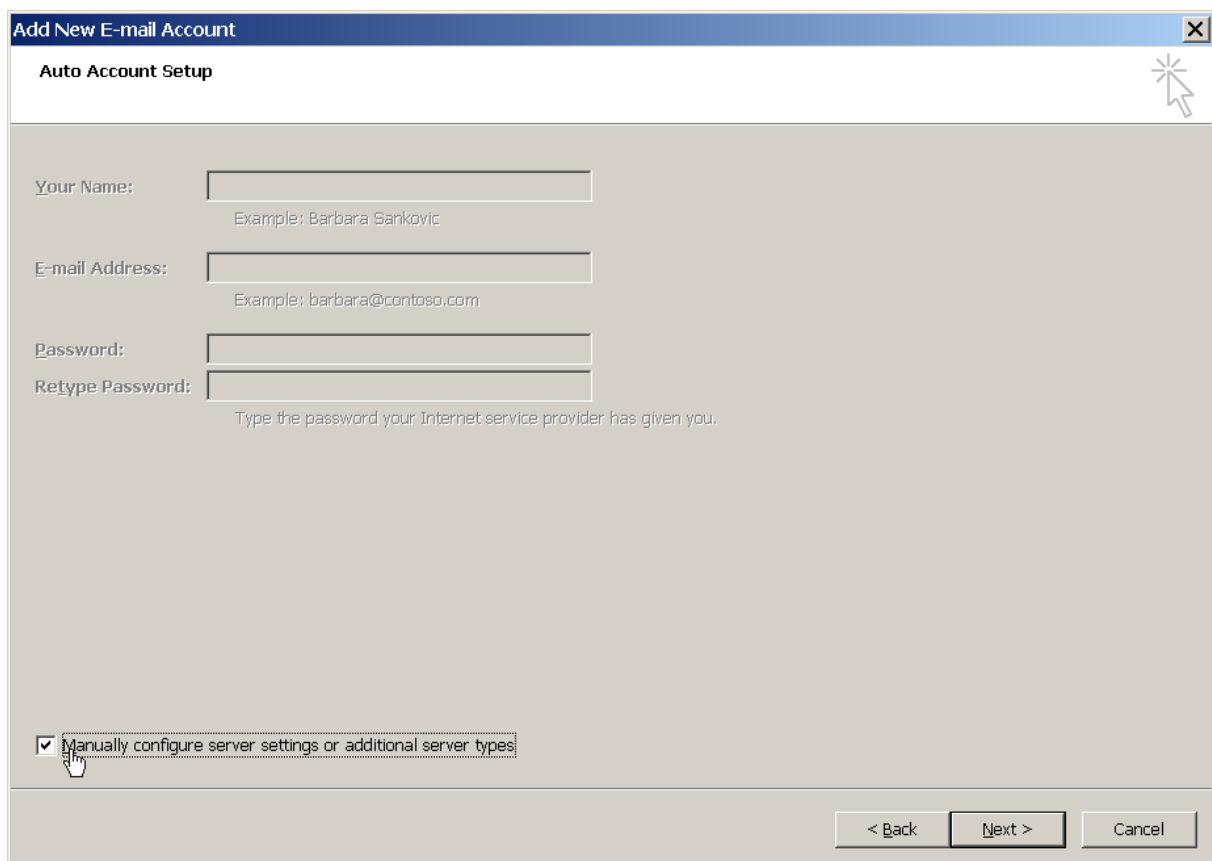
Microsoft Office Outlook 2007 の設定

➤ **Microsoft Office Outlook 2007 を設定するには、以下を実行します。**

1. Microsoft Office Outlookを開きます。
2. [ツール] > [アカウント設定] に進みます。
3. [メール] タブで [新規] をクリックします。
4. [Microsoft Exchange、POP3、IMAP、またはHTTP] オプションを選択したままにします。 [次へ] をクリックします。



5. [サーバ設定または追加サーバタイプを手動で設定します] チェックボックスを選択します。 [次へ] をクリックします。



Add New E-mail Account

Auto Account Setup

Your Name:
Example: Barbara Sankovic

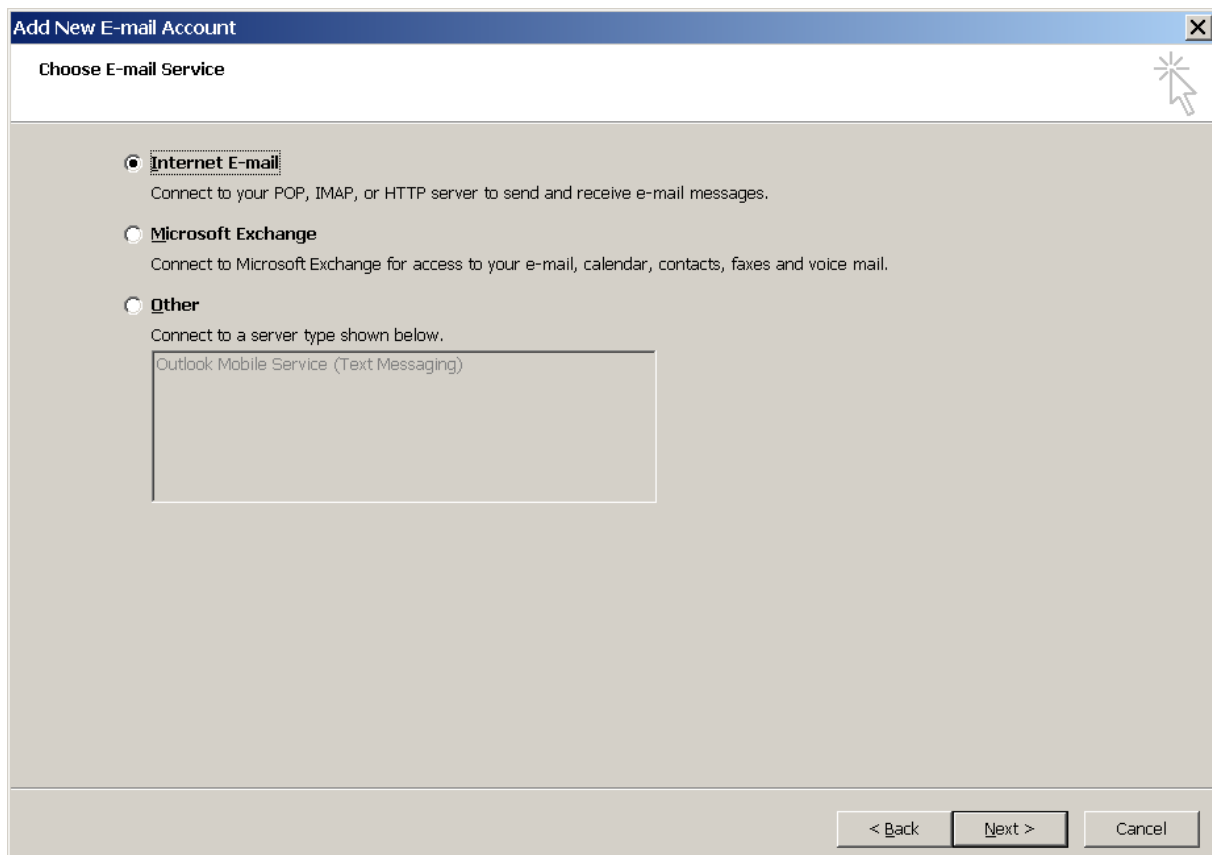
E-mail Address:
Example: barbara@contoso.com

Password:
Retype Password:
Type the password your Internet service provider has given you.

☒ Manually configure server settings or additional server types

< Back Next > Cancel

6. [インターネットメール] オプションを選択して [次へ] をクリックします。



Add New E-mail Account

Choose E-mail Service

☒ **Internet E-mail**
Connect to your POP, IMAP, or HTTP server to send and receive e-mail messages.

☐ **Microsoft Exchange**
Connect to Microsoft Exchange for access to your e-mail, calendar, contacts, faxes and voice mail.

☐ **Other**
Connect to a server type shown below.
Outlook Mobile Service (Text Messaging)

< Back Next > Cancel

7. 以下を指定します。

- 名前。
- メールアドレス。
- アカウントタイプ。メッセージのコピーをサーバに残したい場合は、IMAP オプションを選択します。サーバにメッセージを一切残したくない場合は、POP3 オプションを選択します。
- 受信メールサーバ。ドメイン名を入力します。例えば、example.com になります。
- 送信メールサーバ。ドメイン名を入力します。例えば、example.com になります。
- メールボックスにログインするユーザ名。メールアドレス全体を入力します。
- メールボックスにログインするパスワード。通常、このパスワードは Panel にログインするときに使用するパスワードと同じです。

Add New E-mail Account

Internet E-mail Settings
Each of these settings are required to get your e-mail account working.

User Information

Your Name: John Doe

E-mail Address: mail@example.com

Server Information

Account Type: POP3

Incoming mail server: example.com

Outgoing mail server (SMTP): example.com

Logon Information

User Name: mail@example.com

Password: *****

☒ Remember password

☐ Require logon using Secure Password Authentication (SPA)

Test Account Settings

After filling out the information on this screen, we recommend you test your account by clicking the button below. (Requires network connection)

Test Account Settings ...

More Settings ...

< Back Next > Cancel

8. [次へ] をクリックします。

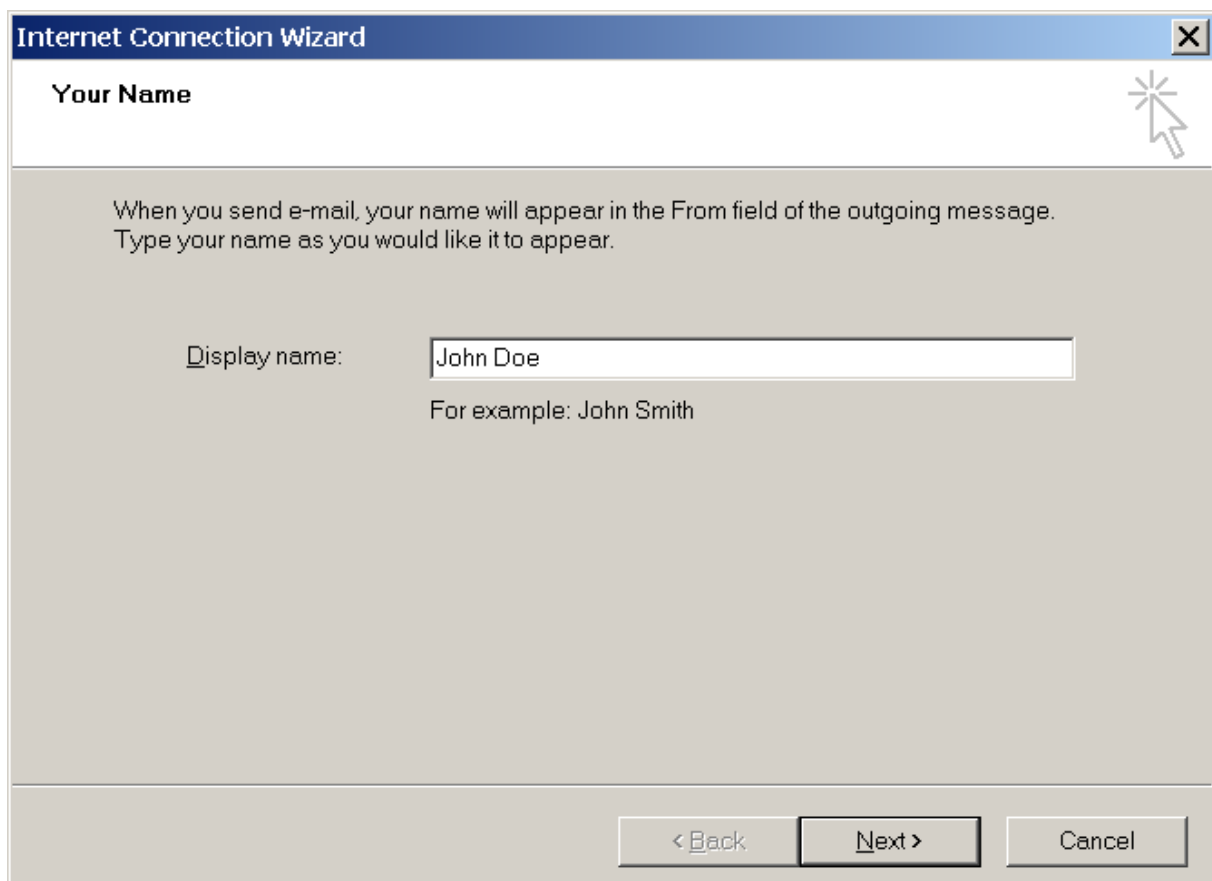
9. [終了] をクリックします。

Microsoft Outlook Express 6 の設定

このセクションの内容は、Microsoft Outlook Express 6 に対して検証済みです。それより前または後のバージョンの Microsoft Outlook Express においては当てはまらない場合があります。

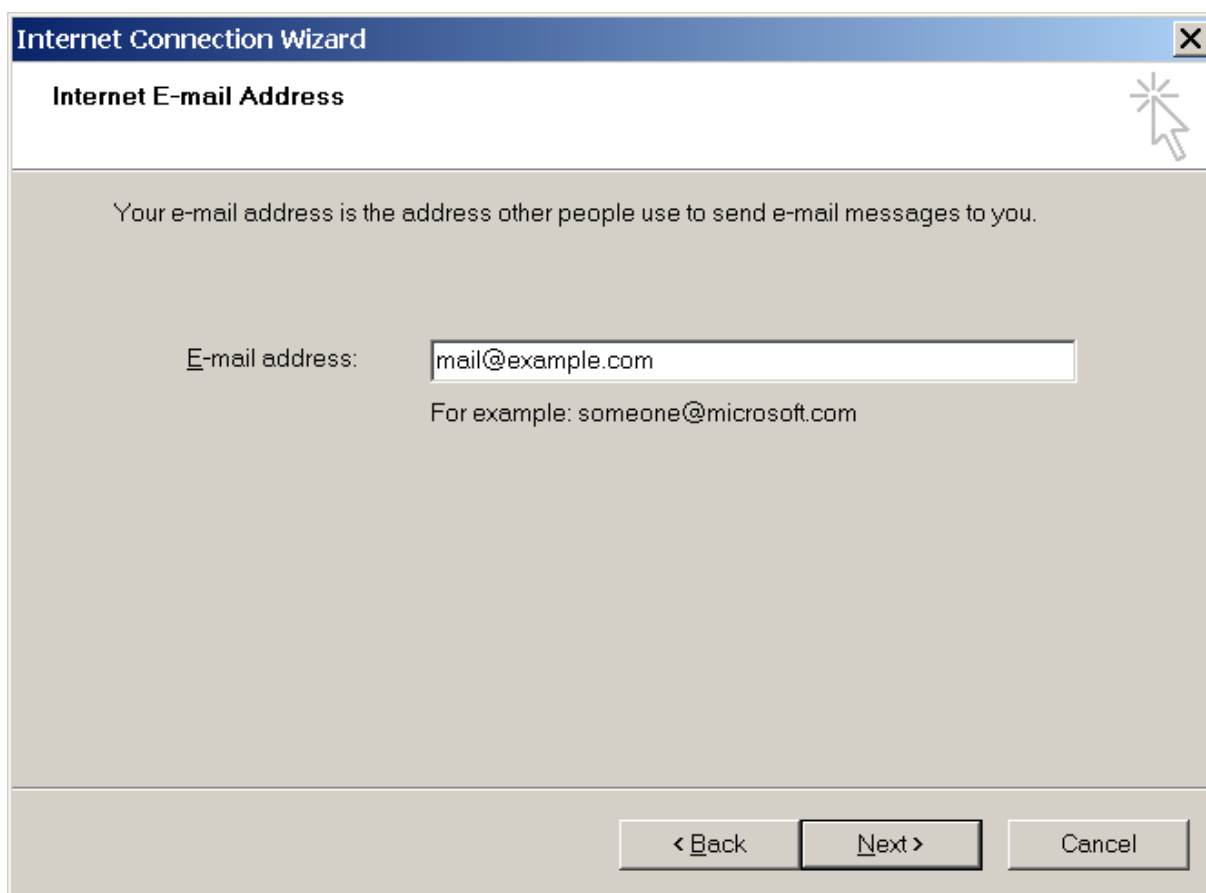
➤ **Microsoft Outlook Express を設定するには、以下を実行します。**

1. Microsoft Outlook Expressを開きます。
2. [ツール] > [アカウント] に進みます。
3. [追加] ボタンをクリックし、[メール] 項目を選択します。
4. 送信する全てのメッセージに表示される名前を入力し、[次へ] をクリックします。



The screenshot shows the 'Internet Connection Wizard' dialog box with the title bar 'Internet Connection Wizard' and a close button (X). The main heading is 'Your Name'. Below the heading, there is a text box for 'Display name:' containing 'John Doe'. To the right of the text box is a mouse cursor icon. Below the text box, there is a note: 'When you send e-mail, your name will appear in the From field of the outgoing message. Type your name as you would like it to appear.' and an example: 'For example: John Smith'. At the bottom of the dialog box, there are three buttons: '< Back', 'Next >', and 'Cancel'.

5. メールアドレスを入力して [次へ] をクリックします。



The image shows a screenshot of the 'Internet Connection Wizard' window, specifically the 'Internet E-mail Address' step. The window has a blue title bar with the text 'Internet Connection Wizard' and a close button (X). Below the title bar, the text 'Internet E-mail Address' is displayed. A mouse cursor is pointing at a question mark icon in the top right corner. The main area of the window contains the text: 'Your e-mail address is the address other people use to send e-mail messages to you.' Below this, there is a label 'E-mail address:' followed by a text input field containing 'mail@example.com'. Underneath the input field, it says 'For example: someone@microsoft.com'. At the bottom of the window, there are three buttons: '< Back', 'Next >', and 'Cancel'.

6. 以下の設定を指定します。

- 受信メールサーバのプロトコル。

メッセージのコピーをサーバに残したい場合は、**IMAP** オプションを選択します。サーバにメッセージを一切残したくない場合は、**POP3** オプションを選択します。

- 受信メールサーバ。ウェブサイトのインターネットアドレスを指定します。
- 送信メールサーバ。ウェブサイトのインターネットアドレスを指定します。

Internet Connection Wizard

E-mail Server Names

My incoming mail server is a server.

Incoming mail (POP3, IMAP or HTTP) server:

An SMTP server is the server that is used for your outgoing e-mail.

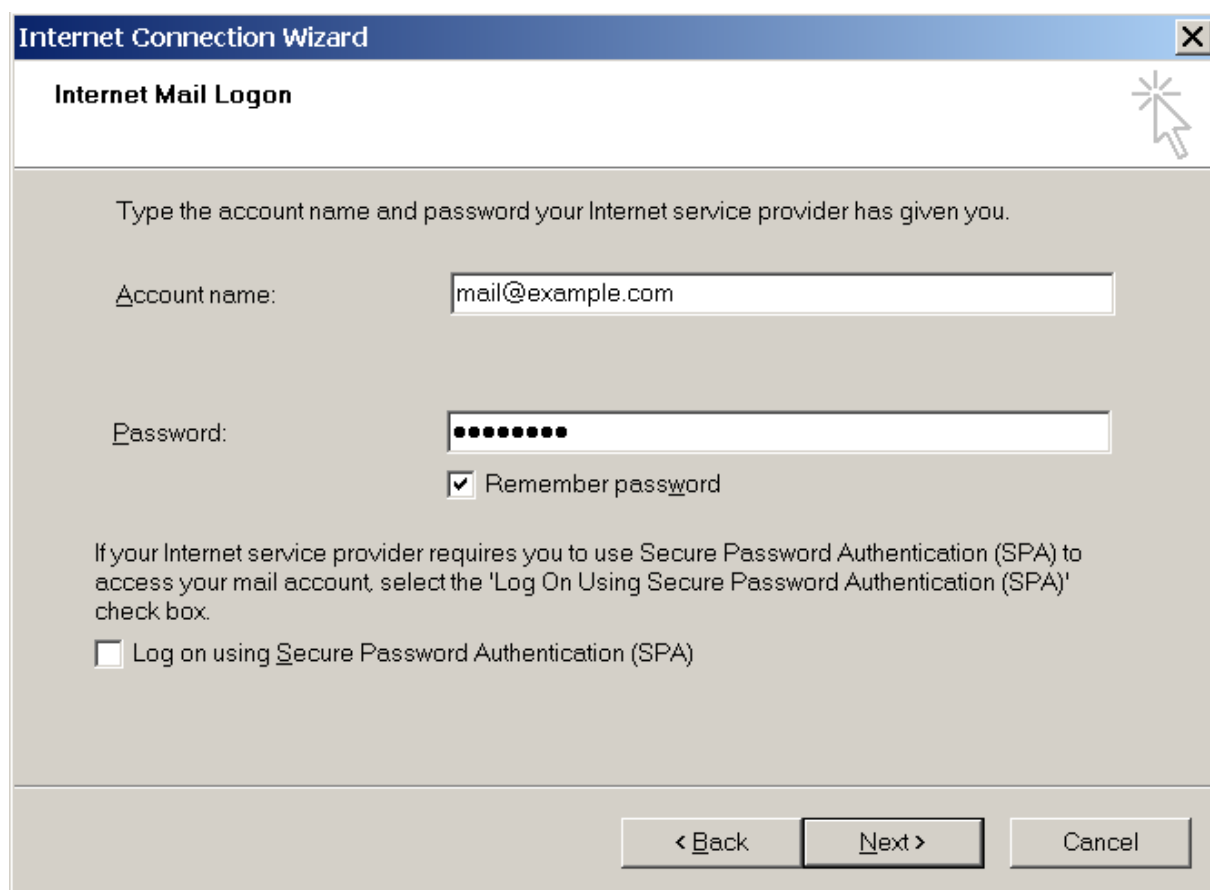
Outgoing mail (SMTP) server:

< Back Next > Cancel

7. **【次へ】** をクリックします。

8. 以下を指定します。

- アカウント名。 **【アカウント名】** ボックスにメールアドレスを入力します。」
- パスワード。通常、このパスワードは Panel にログインするときに使用するパスワードと同じです。
- **【パスワードを記憶する】** チェックボックス。 メールプログラムがメールサーバに接続し新規メールをチェックするたびに、パスワードの入力が要求されないようにする場合はそのボックスを選択したままにして、 **【次へ】** をクリックします。



The image shows a Windows-style dialog box titled "Internet Connection Wizard" with a sub-header "Internet Mail Logon". The main area contains instructions to enter account details. The "Account name" field is filled with "mail@example.com". The "Password" field is masked with dots. The "Remember password" checkbox is checked. Below, a note explains the "Log On Using Secure Password Authentication (SPA)" option, which is currently unchecked. At the bottom, there are three buttons: "< Back", "Next >", and "Cancel".

Internet Connection Wizard

Internet Mail Logon

Type the account name and password your Internet service provider has given you.

Account name: mail@example.com

Password:

☒ Remember password

If your Internet service provider requires you to use Secure Password Authentication (SPA) to access your mail account, select the 'Log On Using Secure Password Authentication (SPA)' check box.

☐ Log on using Secure Password Authentication (SPA)

< Back Next > Cancel

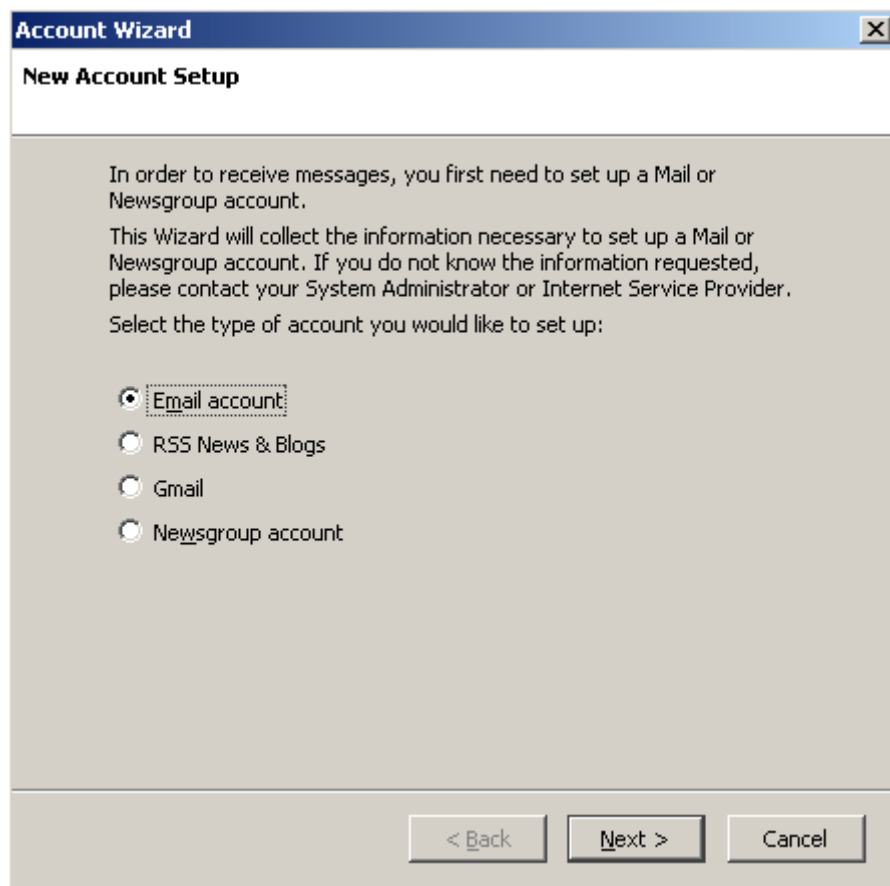
9. メールプログラムの設定を終了する場合は、[完了] をクリックします。

Mozilla Thunderbird の設定

このセクションの内容は、Mozilla Thunderbird 2 に対して検証済みです。それより前または後のバージョンの Mozilla Thunderbird においては当てはまらない場合があります。

➤ **Mozilla Thunderbird を設定するには、以下を実行します。**

1. Mozilla Thunderbirdを開きます。
2. [ツール] > [アカウント設定] に進みます。
3. [アカウントを追加] をクリックします。
アカウントウィザードが開きます。
4. [メールアカウント] オプションを選択したまま、[次へ] をクリックします。



5. 以下を指定します。
 - 名前（送信するすべてのメッセージに表示する場合）。
 - メールアドレス。

Account Wizard

Identity

Each account has an identity, which is the information that identifies you to others when they receive your messages.

Enter the name you would like to appear in the "From" field of your outgoing messages (for example, "John Smith").

Your Name:

Enter your email address. This is the address others will use to send email to you (for example, "user@example.net").

Email Address:

< Back Next > Cancel

6. [次へ] をクリックします。

7. 以下を指定します。

- 受信メールサーバのプロトコル。

メッセージのコピーをサーバに残したい場合は、**IMAP** オプションを選択します。サーバにメッセージを一切残したくない場合は、**POP3** オプションを選択します。

- 受信サーバアドレス。ウェブサイトのインターネットアドレスを指定します。
- 送信サーバアドレス。ウェブサイトのインターネットアドレスを指定します。

Account Wizard

Server Information

Select the type of incoming server you are using.

☒ POP ☐ IMAP

Enter the name of your incoming server (for example, "mail.example.net").

Incoming Server:

Uncheck this checkbox to store mail for this account in its own directory. That will make this account appear as a top-level account. Otherwise, it will be part of the Local Folders Global Inbox account.

☒ Use Global Inbox (store mail in Local Folders)

Enter the name of your outgoing server (SMTP) (for example, "smtp.example.net").

Outgoing Server:

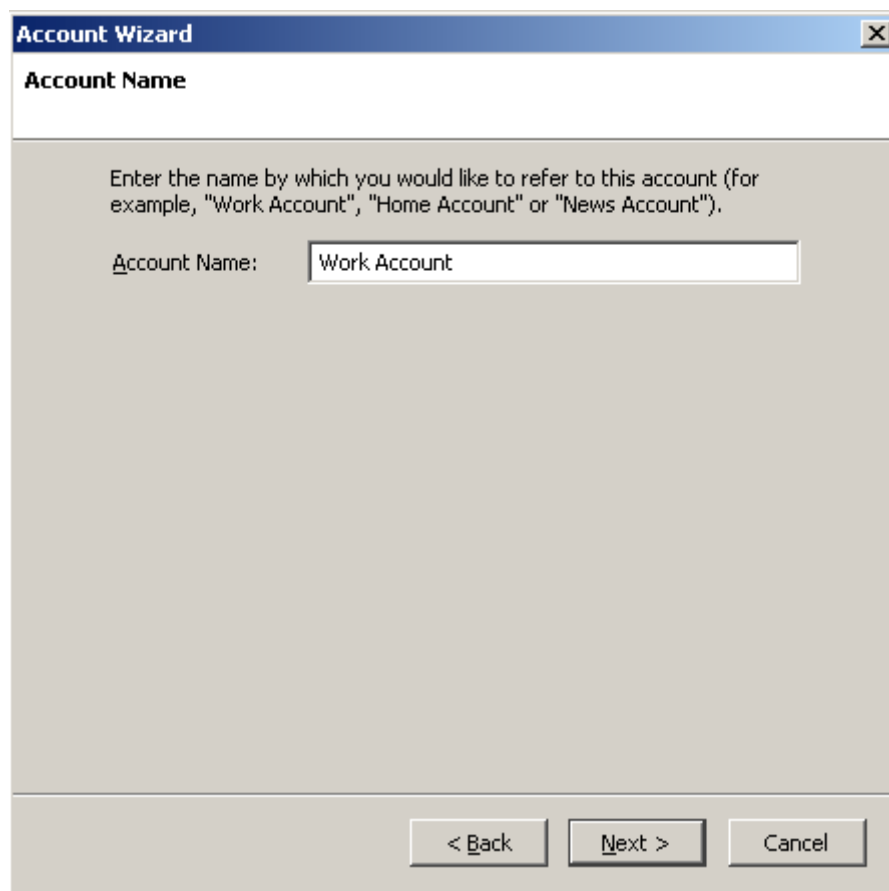
< Back Next > Cancel

8. [次へ] をクリックします。
9. [受信サーバアドレス] ボックスに、メールアドレス全体を入力します。

The screenshot shows a window titled 'Account Wizard' with a close button in the top right corner. Below the title bar is a section header 'User Names'. The main area contains the following text: 'Enter the incoming user name given to you by your email provider (for example, "jsmith").' Below this is a label 'Incoming User Name:' followed by a text input field containing 'mail@example.com'. Further down, there is explanatory text: 'Your outgoing (SMTP) server, "example.com", is identical to your incoming server, your incoming user name will be used to access it. You can modify outgoing server settings by choosing Account Settings from the Tools menu.' At the bottom of the window are three buttons: '< Back', 'Next >', and 'Cancel'.

10. [次へ] をクリックします。

11. このアカウントを参照する際の名前（例：Work Account）を入力し、[次へ] をクリックします。



Account Wizard

Account Name

Enter the name by which you would like to refer to this account (for example, "Work Account", "Home Account" or "News Account").

Account Name:

< Back Next > Cancel

12. 入力した情報が正しいことを確認し、**【完了】**をクリックします。

13. **【OK】** をクリックして、アカウント設定ウィザードを閉じます。

Apple Mail の設定

このセクションでは、Apple Mail 3.6 (Leopard) について説明します。他のバージョンの Apple Mail には当てはまらない場合があります。

➤ **Apple Mail を設定するには、以下を実行してください。**

1. Apple Mail を実行します。

初めての実行であり、メールアカウントを設定していない場合は、次のステップは省略してください。Apple Mail が直接、新規メールアカウントの作成画面を表示します。

2. 以下を実行して、メールアカウントの追加ウィザードを開きます。

a. [メール] > [プリファレンス....] をクリックします。

b. [アカウント] タブを選択します。

c. 左下隅の [+] ボタンをクリックします。

3. 以下のアカウント情報を入力します。

- フルネーム
- メールアドレス
- Panel にログインするときのパスワード

Add Account

You'll be guided through the necessary steps to set up an additional mail account.

To get started, fill out the following information:

Full Name:

Email Address:

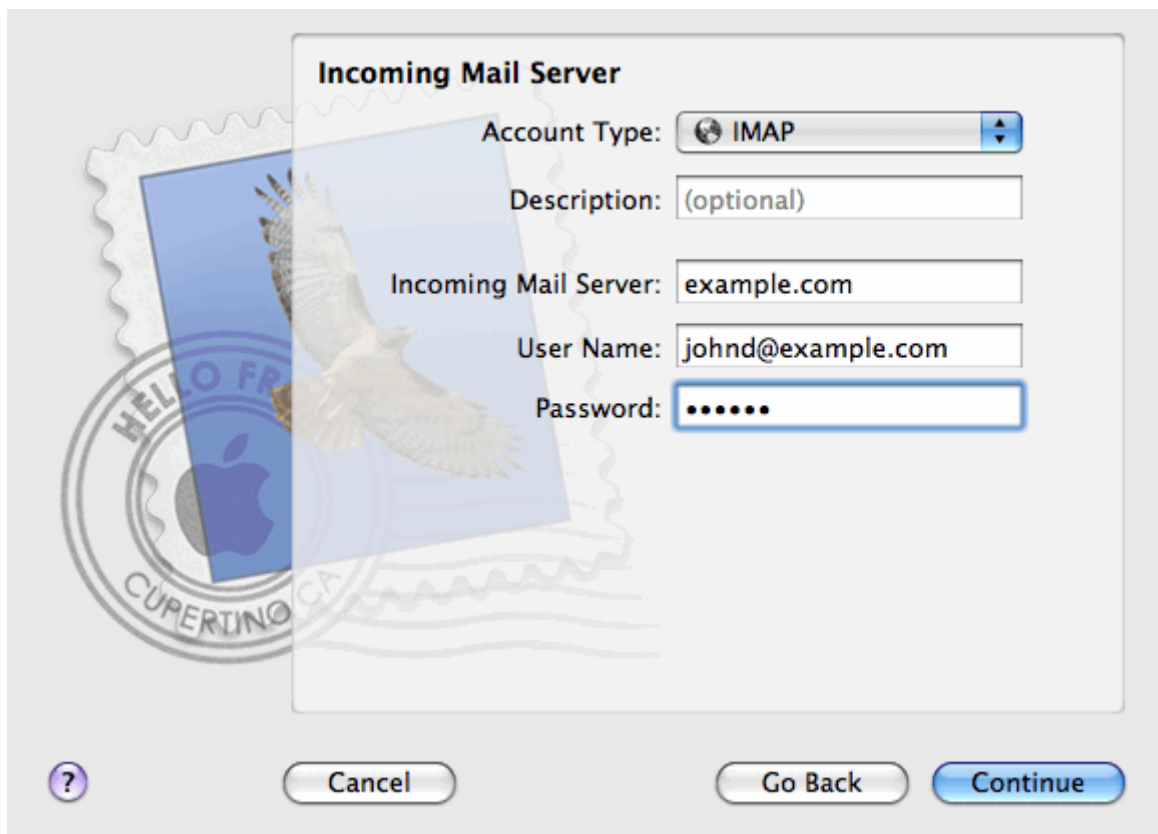
Password:

? Cancel Go Back Continue

4. **〔続行〕** をクリックします。

5. 以下の受信メールサーバ情報を入力します。

- **アカウントタイプ:** 使用するプロトコルを選択します (IMAP または POP)。IMAP を選択すると、メッセージがサーバに保存されます。
- **受信メールサーバ:** メールサービスを提供するドメインの名前を入力します (メールアドレスの @ 記号の後ろです)。
- **ユーザ名:** メールアドレス全体を入力します。
- **パスワード:** そのままにします (Apple Mail が前のステップから取得します)。

The image shows a screenshot of the 'Incoming Mail Server' dialog box in Apple Mail. The dialog box is titled 'Incoming Mail Server' and contains several input fields. The 'Account Type' is set to 'IMAP'. The 'Description' field is empty and contains the text '(optional)'. The 'Incoming Mail Server' field contains 'example.com'. The 'User Name' field contains 'johnd@example.com'. The 'Password' field is masked with dots. At the bottom of the dialog box, there are three buttons: a question mark icon, 'Cancel', and 'Go Back'. To the right of these buttons is a 'Continue' button. In the background, there is a faint image of a postage stamp featuring an eagle and the text 'HELLO FROM CUPERTINO CA'.

6. **〔続行〕** をクリックします。

7. (オプション) 受信メールセキュリティオプションを指定します。

- a. **〔Use Secure Sockets Layer (SSL)〕** チェックボックスを選択します。
- b. 認証方法を選択します。

何を選択すればよいかわからない場合は、デフォルトのままにしてください。

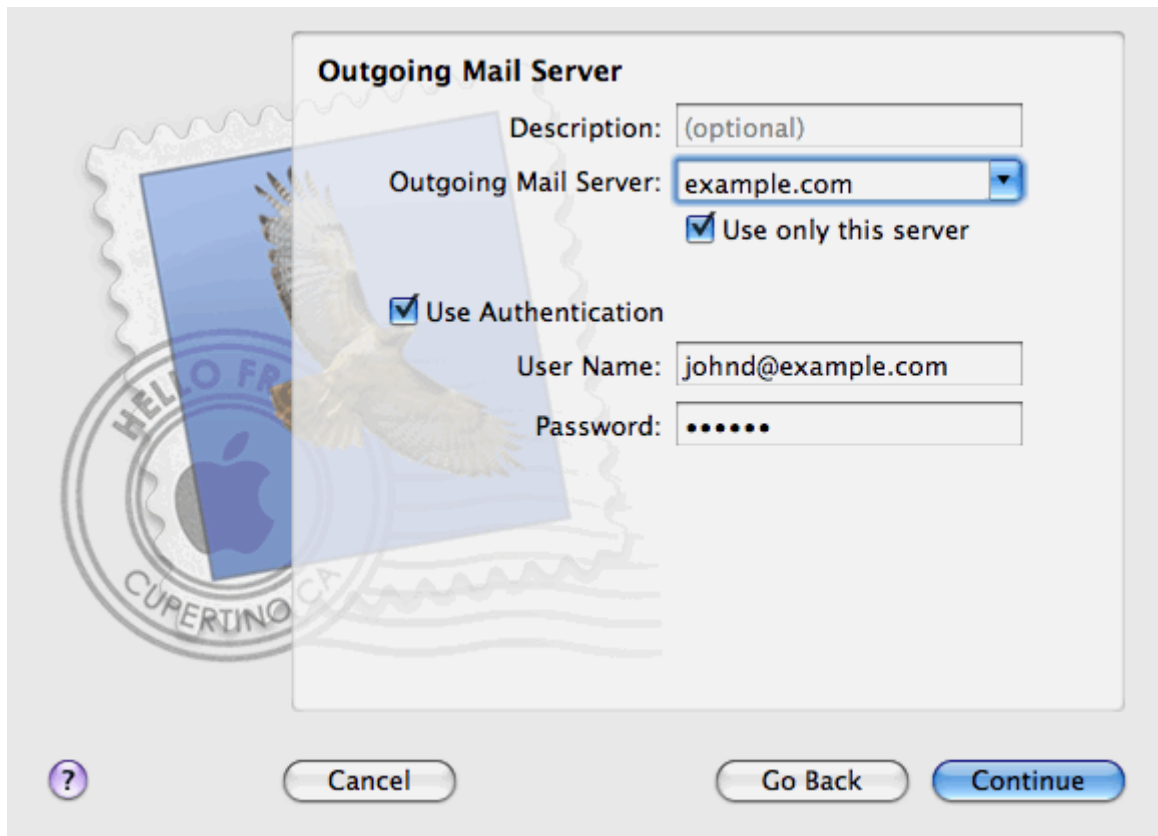
Apple Mail は、Panel に組み込まれているメールサーバが、選択したアカウントタイプ (POP または IMAP) 用の SSL をサポートする場合にのみ、この設定画面を表示します。



8. [続行] をクリックします。

9. 以下の送信メールサーバ情報を入力します。

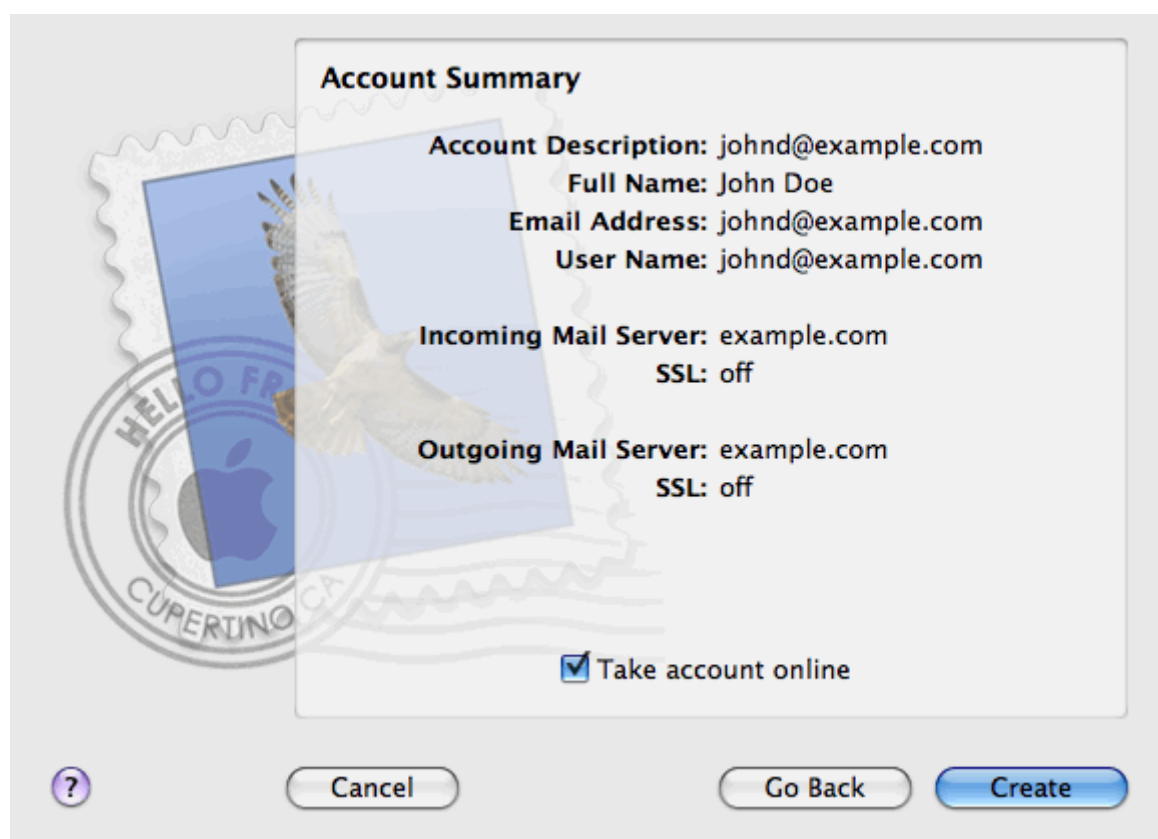
- **送信メールサーバ:** メールサービスを提供するドメインの名前を入力します（メールアドレスの @ 記号の後ろです）。
- **Use only this server:** 選択済み。
- **Use Authentication:** 選択済み。
- **ユーザ名:** メールアドレス全体を入力します。
- **パスワード:** そのままにします（Apple Mail が前のステップから取得します）。



10. **【続行】** をクリックします。

Apple Mail が、作成されるメールアカウントの概要を表示します。

11. **【Take account online】** チェックボックスを選択して、**【Create】** をクリックします。



スパムからのメールボックスの保護

不要な通信からメールボックスを保護するには、インターネットフォーラムにメールアドレスを発行せずに、SpamAssassin ソフトウェア内のサーバ側スパムフィルタを有効にします。

メールアドレスを発行する必要がある場合、プライマリメールアドレスにディスポーザブルメールアドレス、すなわちメールエイリアスを作成し、これを代わりに発行します。メールエイリアスに送信されたメッセージはすべて、メールボックスに到着します。スパムが到着し始めたら、そのエイリアスを削除し別のエイリアスを作成します。別のドメインまたは別のメールサーバにメールボックスを保有している場合、ディスポーザブルメールフォワードを設定できます。

スパムやフィッシング詐欺のメールの量を減らすことができるもう 1 つの有効な方法は、DomainKeys です。DomainKeys に基づくスパム防止のセットアップについて詳細は、「DomainKeys に基づくスパム防止の設定」(83 ページ)のセクションをご覧ください。


このセクションの内容:

補足的ディスポーザブルメールアドレス（メールエイリアス）の設定.....	333
SpamAssassin スパムフィルタの設定	334

補足的ディスポーザブルメールアドレス（メールエイリアス）の設定

➤ **メールボックスにメールエイリアスを設定するには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メールアカウント]（[メール] グループ内）> メールアドレス > [新しいメールエイリアスの追加] に進みます。
2. エイリアスに追加する名前を入力し、[OK] をクリックします。

追加したメールアドレス（メールエイリアス）宛てのメッセージは、メールボックスに到着します。現在使用しているメールエイリアスのリストはドメインのメールアカウント一覧を表示するページで  [エイリアスの表示] をクリックすると表示されます。

➤ **メールボックスからメールエイリアスを削除するには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メールアカウント]（[メール] グループ内）> メールアドレスに進みます。
2. 削除するエイリアスに対応するチェックボックスを選択し、[削除] をクリックします。

SpamAssassin スпамフィルタの設定

削除できない、または削除する必要のないメールに宛てた不要な通信を受け取る場合、メールボックスにスパムフィルタを設定することを検討してください。このためには、以下を実行します。

- サーバに SpamAssassin およびグレイリストコンポーネントをインストールしている場合は、Parallels Plesk Panel サーバで SpamAssassin フィルタおよびグレイリストスパム保護を有効にします。
- メールプログラムの操作を自宅とオフィスのどちらのコンピュータで行うかを選択して、スパムフィルタリングソフトウェアをインストールします。

グレイリストに追加の設定は必要ありません。サーバにグレイリストコンポーネントを一度インストールすれば、グレイリストに基づいたスパム保護がデフォルトでオンになります。従って、このセクションでは SpamAssassin スпамフィルタのセットアップについてのみ説明します。

このセクションの内容:

スパムフィルタの有効化	335
スパム検出の精度の向上	337
スパムフィルタのデータベースの消去	338
スパムフィルタの無効化	338

スパムフィルタの有効化

➤ **メールボックスのスパムフィルタを有効にするには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [メールアカウント]（[メール] グループ内）> **メールアドレス** > [スパムフィルタリング] に進みます。
2. 以下の設定を行います。
 - **SpamAssassin スパムフィルタを有効にします。** スパム防止を有効にするには、このオプションを選択します。
 - **メッセージを SPAM として判断するスコア値。** この設定はスパムフィルタの感度を調整します。 SpamAssassin は、各メッセージのコンテンツおよび件名行に対して複数の異なるテストを実行します。 その結果、各メッセージに複数のポイントが記録されます。 ポイントが高くなるほど、メッセージがスパムである可能性が高くなります。例えば、件名行および本文にテキスト文字列「BUY VIAGRA AT LOW PRICE!!!」を含むメッセージの特定は 8.3 ポイントになります。 デフォルトでは、スコアが 7 ポイント以上のメッセージがすべてスパムと分類されるようにフィルタ感度が設定されます。
 - 現在の設定で多くのスパムメッセージを受け取る場合、[**スパムとしてみなすのに必要なスコアの数**] ボックスの値を 6 などに下げてください。
 - スパムフィルタでジャンクとみなされたためにメールを受信できない場合、[**スパムとしてみなすのに必要なスコアの数**] ボックスの値を高くし、フィルタ感度を下げてください。

注： スパムフィルタの精度をさらに高めるために、受信するメールメッセージでスパムフィルタをトレーニングできます（次のセクションの、「スパム検出の精度を高めるための指示」を参照してください）。

- **スパムメッセージの処理方法。** スパムフィルタの精度を確実なものにする場合、スパムと認識されたすべての受信メッセージを自動的に削除するようにフィルタを設定できます。 この場合、[**削除**] オプションを選択します。 ローカルコンピュータのソフトウェアでメールをフィルタリングする場合は、[**スパムとしてマークしてメールボックスに残す**] オプションを選択し、スパムとして認識されたメッセージをスパムフィルタでマークする方法を指定します。「X-Spam-Flag: YES」および「X-Spam-Status: Yes」ヘッダーがデフォルトではメッセージソースに付加され、またスパムフィルタにより件名行の先頭に特定のテキスト文字列が追加されます。 希望の記号や文字の組み合わせをメッセージの件名に含めるには、[**スパムと認識された各メッセージの件名の最初に以下のテキストを追加**] ボックスに入力してください。 スパムフィルタにメッセージの件名を変更させたくない場合は、このボックスを空白のままにしてください。 件名にメッセージのスコアを含めたい場合は、このボックスに **SCORE** と入力してください。
- **スパム検出警告文。** スパムフィルタがメールメッセージにスパムであると表示された文章を含めるようにするには、このボックスに文章を入力してください。

- **信頼する言語。** 定義済み文字セットが定義済みの、指定した言語で書かれたメールメッセージはスパムフィルタを通過し、スパムの表示はされません。
3. **[OK]** をクリックして設定を保存してください。
 4. 特定のドメインや送信者からのメールを受信したくない場合は、**[ブラックリスト]** タブをクリックしてスパムフィルタのブラックリストにそれぞれの項目を追加します。
 - ブラックリストに項目を追加するには、**[アドレスを追加]** をクリックします。ファイルにエントリのリストがある場合は、それを**[参照]** で指定し **[OK]** をクリックします。もしくは、**[リストから]** オプションを選択し **[メールアドレス]** ボックスにメールアドレスを入力します。その際、アドレスごとに改行するか、もしくはコンマやコロンや空白スペースでアドレスを区切って下さい。アスタリスク (*) は任意の組み合わせ文字を意味し、疑問符 (?) は任意の一文字を意味します 例えば、以下のようになります。 [address@spammers.net](#), [user?@spammers.net](#), [*@spammers.net](#))。 [*@spammers.net](#) を指定すると [spammers.net](#) というドメインからの全てのメールをブロックします。追加したエントリを保存するには、**[OK]** をクリックして追加を確認して、もう一度 **[OK]** をクリックしてください。
 - ブラックリストからエントリを削除するには、**[ブラックリスト]** タブからエントリを選択して **[削除]** をクリックします。削除を確認して **[OK]** をクリックします。
 5. 特定の送信者からのメールを確実に受信するには、**[ホワイトリスト]** タブをクリックしてスパムフィルタのホワイトリストにそのメールアドレスまたは完全なドメイン名を追加します。
 - ホワイトリストにエントリを追加するには、**[アドレスの追加]** をクリックします。ファイルにエントリのリストがある場合は、それを**[参照]** で指定し **[OK]** をクリックします。もしくは、**[リストから]** オプションを選択し **[メールアドレス]** ボックスにメールアドレスを入力します。その際、アドレスごとに改行するか、もしくはコンマやコロンや空白スペースでアドレスを区切って下さい。アスタリスク (*) は任意の組み合わせ文字を意味し、疑問符 (?) は任意の一文字を意味します 例えば、以下のようになります。 [address@mycompany.net](#), [user?@mycompany.net](#), [*@mycompany.net](#))。 [*@mycompany.net](#) を指定すると [mycompany.net](#) というドメインのメールアドレスがすべてホワイトリストに追加されます。追加したエントリを保存するには、**[OK]** をクリックして追加を確認して、もう一度 **[OK]** をクリックします。
 - ホワイトリストからエントリを削除するには、**[ホワイトリスト]** タブからエントリを選択して **[削除]** をクリックします。削除を確認して **[OK]** をクリックします。
 6. スпамフィルタの設定が終了したら、**[OK]** をクリックします。





スパム検出の精度の向上

スパムの精度は、メールボックス内に保存されたメールメッセージでスパムフィルタをトレーニングすることで改善できます。

➤ スпам検出の精度を改善するには、以下を実行します。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メールアカウント]（[メール]グループ内）> メールアドレス > [スパムフィルタ] > [トレーニング]に進みます。

メールボックス内のすべてのメールメッセージが、画面に表示されます。

注：Parallels Plesk Panel for Linux/Unix プラットフォームの場合、各メッセージの左の列にアイコンが表示されます。このアイコンから、メッセージがスパムと認識される（)か、非スパムと認識される（)か、認識不可である（)かが分かります。メッセージでスパムフィルタのトレーニングを実施し、結果をスパムフィルタのデータベースに記録している場合、右側の列にアイコンが表示されます。

2. スパムフィルタをトレーニングします。

通常は、件名行と送信者名を調べるとメッセージがスパムかどうか分かります。件名行と送信者名から手がかりが得られない場合、E-mail プログラムまたは Web メールインターフェースを使用してメッセージ内を調べてみて下さい。

- メッセージにスパムとマークする場合は、対応するチェックボックスを選択し、「SPAM です」をクリックします。
 - メッセージに非スパムとマークする場合は、対応するチェックボックスを選択し、「SPAM ではありません」をクリックします。
 - スパムフィルタのデータベースから特定のメッセージに関する情報を削除するには、対応するチェックボックスを選択し、「取り消します」をクリックします。
3. トレーニングが終了したら、メールプログラムまたはWebメールインターフェースを使用して、メールボックスからスパムメールを削除できます。

スパムフィルタのデータベースの消去

間違ってスパムフィルタに大量のスパムメールを非スパムと学習させた場合、またはその逆の場合、スパムフィルタの学習結果が間違っただけになる可能性があります。スパムフィルタのデータベースを消去するには、以下を実行します。

➤ **スパムフィルタのデータベースを消去するには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メールアカウント]（[メール] グループ内）> メールアドレス > [スパムフィルタ] > [トレーニング] タブに進みます。
2. [データ削除] ボタンをクリックします。

スパムフィルタの無効化

➤ **メールボックスのスパムフィルタを無効にするには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メールアカウント]（[メール] グループ内）> メールアドレス > [スパムフィルタ] に進みます。
2. [SpamAssassinスパムフィルタを有効にします] チェックボックスの選択を外し、[OK] をクリックします。

ウイルスからのメールボックスの保護

システムをウイルスから防御する場合、疑わしいメールの添付ファイルを開かず、サーバ側のアンチウイルス保護を有効にし、ファイアウォールとアンチウイルスソフトウェアがパーソナルコンピュータにインストールされていることを確認します。オペレーティングシステムを常に最新の状態に維持し、適宜、セキュリティホットフィックスおよびパッチをインストールします。

このセクションの内容:

アンチウイルス保護の有効化	339
アンチウイルス保護の無効化	339

アンチウイルス保護の有効化

➤ **メールボックスのアンチウイルス保護を有効にするには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メールアカウント]（[メール] グループ内）> メールアドレス > [ウイルス保護] に進みます。
2. 使用するメールスキャンモードを選択します。受信メール、発信メール、または送受信メールに対してスキャンを有効にできます。

注：サーバで Kaspersky アンチウイルスを使用している場合、スキャン設定の調整に [スキャン設定] アイコンを使用できます。スキャン設定に関する情報を表示するには、ナビゲーションペインの [ヘルプ] ショートカットをクリックしてください。

3. [OK] をクリックします。

アンチウイルス保護の無効化

➤ **メールボックスのアンチウイルス保護を無効にするには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メールアカウント]（[メール] グループ内）> メールアドレス > [ウイルス保護] に進みます。
2. [ウイルスをスキャンしない] オプションを選択して [OK] をクリックします。

メールボックスの中断および中断解除

➤ **メールボックスのメールサービスを一時的に中断するには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メールアカウント]（[メール] グループ内）> メールアドレスに進みます。
2. [メールボックス] をクリックします。
3. [メールボックス] チェックボックスを解除します。
4. [OK] をクリックします。

➤ **メールボックスのメールサービスを再開するには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メールアカウント]（[メール] グループ内）> メールアドレスに進みます。
2. [ツール] グループの [メールボックス] をクリックします。
3. [メールボックス] チェックボックスを選択します。
4. [OK] をクリックします。

➤ **ドメイン内のすべてのメールボックスについてメールサービスを一時的に中断するには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メールアカウント]（[メール] グループ内）に進みます。
2. [ツール] グループの [スイッチオフ] をクリックします。

➤ **ドメイン内のすべてのメールボックスについてメールサービスを再開するには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メールアカウント]（[メール] グループ内）に進みます。
2. [ツール] グループの [スイッチオン] をクリックします。

メールボックスの削除

➤ **メールボックスを削除するには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メールアカウント]（[メール] グループ内）に進みます。
2. 削除するメールボックスのチェックボックスを選択します。
3. [削除] をクリックします。
4. 確認画面が表示されたら、削除を確認して [OK] をクリックします。

アカウントのメールボックスフォワーダへの変更を決定した場合のメールボックスサービスの無効化

既存のメールアカウントをメールフォワーダまたはメーリングリストとして使用する予定がある場合、メールボックスサービスを無効にすることをお奨めします。メールボックスですべての受信メッセージを保存し、転送後も自動的に削除されないようにします。従って、アカウントで「メールボックス + メールフォワーダ」の設定を選択する場合は、必ず、時々メールボックスをクリーンアップしてください。

➤ **メールボックスの全てのメッセージを破棄するアカウントのメールボックスサービスを無効にするには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メールアカウント]（[メール] グループ内）> メールアドレス > [メールボックス] に進みます。
2. [メールボックス] チェックボックスを解除します。
3. [OK] をクリックします。

単一メールアドレスへのメール転送の設定

➤ メールを受け付けるメールアドレスを設定し、このメールを別のメールアドレスに転送するには、以下を実行します。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [転送の作成]（[メール] グループ内）に進みます。
2. メールフォワーダに変更するメールアドレスを選択するか、[新しいメールアドレスの追加] をクリックして新しいメールアドレスを設定します。
3. [次へ >>] をクリックします。
ドメイン名が @ 記号の右側に表示されるため、あとは名前を入力するだけです。ドットで区切った名字と名前、部署名、その他のラテン記号のテキストなどを指定できます。名前は覚えられる長さにする必要があります。英数字、ダッシュ、ドット、アンダースコアの記号を使用できます。
4. [転送] チェックボックスを選択して、メールを転送する宛先メールアドレスを入力します。
5. [終了] をクリックします。

このセクションの内容:

メールフォワーダの中断および中断解除.....342

メールフォワーダの中断および中断解除

➤ メールフォワーダを中断するには、以下を実行します。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メールアドレス]（[メール] グループ内）> メールアドレス > [転送] に進みます。
2. [転送] チェックボックスを解除します。
3. [OK] をクリックします。

➤ メールフォワーダの中断を解除するには、以下を実行します。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メールアドレス]（[メール] グループ内）> メールアドレス > [転送] に進みます。
2. [転送] チェックボックスを選択します。
3. [OK] をクリックします。

複数メールアドレスへのメール転送の設定

➤ メールを受け付けるメールアドレスを設定し、このメールを複数の別のメールアドレスに転送するには、以下を実行します。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メールアカウント]（[メール] グループ内） > メールアドレス > [メールグループ] に進みます。
2. [新しいメンバーを追加] をクリックします。

複数のメールアドレスへのメール転送を有効にする前に、1つ以上のメールアドレスを追加する必要があります。

3. [メールアドレス] 入力ボックスに必要な外部メールアドレスを入力するか、チェックボックスでリストから1つまたは複数のメールアカウントを選択する、あるいは両方の作業を行います。
4. [OK] をクリックします。
5. [スイッチオン] をクリックします。

このセクションの内容:

受信者アドレスの追加および削除	344
複数メールアドレスへのメール転送の無効化.....	345

受信者アドレスの追加および削除

➤ **転送されたメール通信を受け取るメールアカウントのリストに、外部メールアドレスを追加するには、以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メールアカウント]（[メール]）グループ内 > メールアカウント > [メールグループ] に進み、[新しいメンバを追加] をクリックします。
2. [メールアドレス] 入力フィールドに追加する該当する外部メールアドレスを入力し、[OK] をクリックします。

➤ **転送されたメール通信を受け取るメールアカウントのリストから、外部メールアドレスを削除するには、以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メールアカウント]（[メール] グループ内） > メールアカウント > [メールグループ] に進みます。
2. リストから削除したいメールアカウントのチェックボックスを選択します。
3. [削除] をクリックして、削除を確認し [OK] をクリックします。

➤ **転送されたメール通信を受け取るメールアカウントのリストに、サーバに登録されたメールアドレスを追加するには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メールアカウント]（[メール] グループ内） > メールアカウント > [メールグループ] に進みます。
2. [利用可能なメールグループ] リストから複数のメールフォワーダを選択して [追加 >>] をクリックし、[OK] をクリックします。

サーバに登録されたメールアドレスも、外部メールアドレス追加の手順(上記をご参照ください)に従って更新リストに追加することができます。

➤ **転送されたメール通信を受け取るメールアカウントのリストから、サーバに登録されたメールアドレスを削除するには、以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メールアカウント]（[メール] グループ内） > メールアカウント > [メールグループ] に進みます。
2. [以下のメールグループのメンバ] リストから複数のメールフォワーダを選択して [<< 削除] をクリックし、[OK] をクリックします。

サーバに登録されたメールアドレスも、外部メールアドレス削除の手順(上記をご参照ください)に従って更新リストから削除することができます。

複数メールアドレスへのメール転送の無効化

➤ **複数メールアドレスへのメール転送をオフに切り替えるには以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メールアカウント]（[メール] グループ内）> メールアドレス > [メールグループ] に進みます。
2. [スイッチオフ] をクリックします。

メールフォワーダの削除

➤ **メールフォワーダを削除するには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メールアカウント]（[メール] グループ内）に進みます。
2. 削除するメールフォワーダのチェックボックスを選択します。
3. [削除] をクリックします。
4. 確認画面が表示されたら、削除を確認して [OK] をクリックします。

自動応答の設定

休暇に入る予定があり、しばらくの間メールをチェックできない場合、アドレスにメールを送信した送信者に対して、自動的に休暇通知が送信されるように設定しておくことができます。これは自動応答とも呼ばれる、自動応答機能を使用して行います。休暇通知以外に、組織では自動応答を使用して、オーダーや技術サポートの受領と、これらの迅速な処理を顧客に通知することができます。自動応答には、プレーンテキストまたはHTML形式で事前に作成されたメッセージを含めること、また添付ファイルを含めることもできます。

➤ メールボックスの自動応答を設定するには、以下を実行します。

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [メールアカウント]（[メール] グループ内）> **メールアドレス** > [自動応答] に進みます。
2. 自動応答にファイルを添付する予定がない場合は、手順3に進みます。自動応答にファイルを添付するには、以下を実行します。
 - a. [ツール] グループの [ファイル添付] アイコンをクリックします。
 - b. [参照] をクリックしてファイルを探し、選択した後 [ファイル送信] をクリックします。

ファイルが添付ファイル保存に追加され、このファイル 別 複数の自動応 追加できるようになります。
 - c. 終了したら [上へ] をクリックし、次の手順に進みます。
3. [ツール] グループの [新しい自動応答を追加] アイコンをクリックします。
4. 自動応答を設定します。
 - a. [自動応答名] ボックスに、この自動応答の名前を入力します。

例えば、休暇通知などです。
 - b. 不在の間、受信メールを別のメールアドレスに転送する場合、[自動応答の後、オリジナルメッセージを指定されたメールアドレスに転送する] ボックスにメールアドレスを指定します。
 - c. 受信するメールメッセージへの応答に、この自動応答を送信する場合は、[条件] グループで [常に返信する] オプションを選択した状態にします。メッセージテキストまたは件名行に特定の語句を含むメールメッセージにのみ自動的に応答する場合は、適切なオプションを選択し、入力ボックスに語句の組み合わせを入力します。
 - d. デフォルトでは受信メールの件名が自動応答で送信するメッセージの件名に挿入されます。カスタムの件名を使用するには、[応答] 件名入力ボックスにカスタム件名を入力します。

- e. こちらから送信されたメッセージが自動応答であると相手側が想定できないため、相手側が自動応答に対して返答する場合があります。このため、**【返信先アドレス】**として自分のメールアドレスを指定する必要があります。
 - f. 自動応答メッセージの形式（プレーンテキストまたはHTML）と、文字のエンコード方式（UTF-8を推奨）を指定します。HTML自動応答メッセージにHTMLタグを使用する場合、**【HTML】** オプションを選択します。
 - g. **【返信テキスト】** フィールドにメッセージを入力します。
 - h. 必要に応じて、ファイルを添付します。この場合、**【新しい添付ファイルの追加】** ボタンをクリックし、以前に添付保存にアップロードしていたファイルに対応するチェックボックスを選択し、**【OK】** をクリックします。添付ファイルを自動応答から削除するには、該当するチェックボックスを選択して**【削除】** をクリックします。
 - i. 同じメールアドレスへの1日あたりの自動応答の数を制限するには、**【制限】** 内の各入力ボックスに上限数を入力します。
デフォルトでは同じメールアドレスに対する応答として1日あたり10回までに設定されています。
 - j. メールサーバの負荷を減らすために、自動応答が記憶する固有のアドレスの数を制限できます。それには、**【保存-】** ボックスに上限数を入力します。
5. **【OK】** をクリックします。
6. **【ツール】** グループの**【スイッチオン】** アイコンをクリックします。

自動応答の無効化

➤ **メールボックスの自動応答を無効にするには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メールアカウント]（[メール] グループ内） > メールアドレス > [自動応答] に進みます。
2. [スイッチオフ] をクリックします。

自動応答が無効になりました。自動応答の設定はコントロールパネルから削除されていないため、この自動応答を次に使用する必要が生じる場合、上記の手順を繰り返し、最後の手順で [スイッチオン] をクリックします。

➤ **不要になった自動応答設定を削除するには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メールアカウント]（[メール] グループ内） > メールアドレス > [自動応答] に進みます。
2. 設定名に対応するチェックボックスを選択し、[削除] をクリックします。

存在しないユーザ宛メールの処理に対するサイト単位のプリファレンスの設定（メール転送）


誰かがドメインに存在しないメールアドレスに対してメールメッセージを送信した場合、デフォルトでは、メールサーバはメールを受信し、処理して、このような受信者がドメイン内に存在しないと認識した後、「this address no longer accepts mail（このアドレスはメールを受け取ることができません）」という通知をつけて送信者にメールを返します。この場合、次の選択が可能です。

- そのメールをすべて送信者に返信し続ける（【拒否】または【メッセージつきで拒否します】オプション）
- そのメールをすべて指定したメールアドレスに転送する（【キャッチ転送】オプション）
- そのメールをすべて指定した IP アドレスを持つ外部メールサーバに転送する（【IP アドレスを持つ外部メールサーバに転送】オプション）（Windows ホスティングに限り使用可能）
- このようなメールを受け取らず、送信者に通知せずに拒否する（【拒否】オプション）
この設定により、多くの場合ランダムに生成されたユーザ名に送信される大量のスパムにより生じた、メールサーバの負荷を減らすことができます。ただし、スパマーの側からすれば、この設定によりメールサーバのスキャンで有効なメールアドレスを検出する時間を多少短縮できます。

➤ 存在しないユーザへのメールの処理に対するサイト単位の設定を行うには、以下を実行します。

1. 【ドメイン】 > ドメイン名 > 【メール】 グループタイトルメニュー > 【メール設定】に進みます。
2. 必要なオプションを選択して、必要に応じて情報を指定します。
3. 【OK】をクリックします。

複数のメールアドレスへの類似変更の同時処理の導入

- 複数のメールアドレスへの類似変更の同時処理を導入するには、以下を実行します。
1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メールアドレス]（[メール]グループ内）に進みます。
 2. 設定を変更したいメールアドレスに対応するチェックボックスを選択します。
 3.  [修正] をクリックします。
 4. 必要に応じて、設定を調整してください。
 - [スイッチオン] を選択して、選択したメールアドレスの各オプションを有効にします。
 - [スイッチオフ] を選択して、選択したメールアドレスの各オプションを無効にします。
 - 関連オプションを変更したくない場合は [変更しない] オプションを選択したままにします。
 5. [OK] をクリックします。

複数の顧客に対するメール一括送付

サーバメンテナンススケジュールのお知らせや新サービス提供のご紹介などを顧客に送付したい場合、大量メール機能（[ホーム] > [サーバ] グループタイトルメニュー > [大量メールメッセージ]）を使用して、複数の顧客に対するメールを一括送付することができます。

必要に応じてメッセージのテンプレートを作成して使用したり、テンプレートを使用しないでメッセージを送信することもできます。

以下を実行するにはこの章をお読みください。

今後のために一括テンプレートを作成する（352 ページ）

複数の顧客にメールを送信する（355 ページ）

このセクションの内容:

メッセージテンプレートの作成、編集、削除	352
メール通知の送信	355

メッセージテンプレートの作成、編集、削除

➤ **新しいメッセージテンプレートを作成するには以下を実行します。**

1. [ホーム] > [サーバ] グループタイトルメニュー > [大量メールメッセージ] に進んで、[大量メールテンプレートを追加する] をクリックします。
2. [テンプレート名] フィールドにテンプレート名を指定します。
3. [送信元] フィールドに送信者の名前とメールアドレスを指定してください。
名前またはメールアドレス、もしくは両方を指定できます。名前とメールアドレスの両方を指定するには、以下のフォーマットを使用してください。名前
<your@e-mail.address> 例えば、以下のようになります。 John Doe
<admin@pleskserver.com>
4. メールメッセージの受信者を選択してください。
 - 代理店にメッセージを受信して欲しい場合は、[代理店] チェックボックスを選択して受信者の範囲を選択してください。[全て] ではすべての代理店に送信され、[選択のみ] では手動で選択したクライアントにのみ送信され、[選択以外全て] では手動で選択した代理店以外のすべての代理店にされます。
 - 複数の代理店を選択するには [代理店] チェックボックスの右側の [アドレスの選択] をクリックし（このボタンは [全て] が選択されているときは使えません）、[利用可能な代理店] フィールドで対象となる代理店を選択し [追加 >>] をクリックします。選択した代理店一覧から代理店を削除するには、対象となる代理店を [選択された代理店] フィールドで選択し [<<削除] をクリックします。
 - クライアントにメッセージを受信して欲しい場合は、[クライアント] チェックボックスを選択して受信者の範囲を選択してください。[全て] では全てのクライアントに送信され、[選択のみ] では手動で選択したクライアントにのみ送信され、[選択以外全て] では手動で選択したクライアント以外の全てのクライアントにされます。
 - 複数のクライアントを選択するには [クライアント] チェックボックスの右側の [アドレスの選択] をクリックし（このボタンは [全て] が選択されているときは使えません）、[利用可能なクライアント] フィールドで対象となるクライアントを選択し [追加 >>] をクリックします。選択したクライアントから削除するには、対象となるクライアントを [選択されたクライアント] フィールドで選択し [<<削除] をクリックします。
 - ドメイン管理者にメッセージを受信して欲しい場合は、[ドメイン管理者] チェックボックスを選択して受信者の範囲を選択してください。[全て] では全てのドメイン管理者に送信され、[選択のみ] では選択したドメイン管理者にのみ送信され、[選択以外全て] では選択した以外の全てのドメイン管理者にされます。

- 複数のドメイン管理者を選択するには【ドメイン管理者】チェックボックスの右側の【アドレスの選択】をクリックし（このボタンは【全て】が選択されているときは使えません）、【利用可能なドメイン管理者】フィールドで対象となるドメイン管理者を選択し【追加 >>】をクリックします。選択したドメイン管理者から削除するには、対象となるドメイン管理者を【選択したドメイン管理者】フィールドで選択し【<< 削除】をクリックします。

クライアントやドメイン管理者がどのように選択されているかは、それぞれの【選択したものを表示する(または隠す)】ボタンをクリックすればいつでも見ることができます。

- 送信するメッセージのコピーを自分のメールボックスにコピーするには、【Parallels Plesk Panel サーバ管理者】チェックボックスを選択してください。

5. 【件名】フィールドにメッセージの件名を指定してください。
6. 【メッセージテキスト】フィールドにメッセージをプレーンテキストフォーマットで入力してください。Parallels Plesk Panelによって自動的に受信者名をメッセージに含めるには、<name> 変数を使用してください。【連絡先】フィールドで指定された情報から名前情報が得られます。
7. 【OK】をクリックしてテンプレートを保存してください。

➤ メッセージテンプレートを編集するには以下を実行します。

1. 【ホーム】>【サーバ】グループタイトルメニュー>【大量メールメッセージ】に進んで、一覧から該当のテンプレートをクリックします。
2. 【テンプレート名】フィールドにテンプレート名を指定します。
3. 【送信元】フィールドに送信者の名前とメールアドレスを指定してください。

名前またはメールアドレス、もしくは両方を指定できます。名前とメールアドレスの両方を指定するには、以下のフォーマットを使用してください。名前

<[your@e-mail.address](#)> 例えば、以下のようになります。John Doe
<[admin@pleskserver.com](#)>

4. メールメッセージの受信者を選択してください。
 - 代理店にメッセージを受信して欲しい場合は、【代理店】チェックボックスを選択して受信者の範囲を選択してください。【全て】ではすべての代理店に送信され、【選択のみ】では手動で選択したクライアントにのみ送信され、【選択以外全て】では手動で選択した代理店以外のすべての代理店に送れます。
 - 複数の代理店を選択するには【代理店】チェックボックスの右側の【アドレスの選択】をクリックし（このボタンは【全て】が選択されているときは使えません）、【利用可能な代理店】フィールドで対象となる代理店を選択し【追加 >>】をクリックします。選択した代理店一覧から代理店を削除するには、対象となる代理店を【選択された代理店】フィールドで選択し【<<削除】をクリックします。

- クライアントにメッセージを受信して欲しい場合は、[クライアント] チェックボックスを選択して受信者の範囲を選択してください。[全て] では全てのクライアントに送信され、[選択のみ] では手動で選択したクライアントにのみ送信され、[選択以外全て] では手動で選択したクライアント以外の全てのクライアントにされます。
 - 複数のクライアントを選択するには [クライアント] チェックボックスの右側の [アドレスの選択] をクリックし (このボタンは [全て] が選択されているときは使えません)、[利用可能なクライアント] フィールドで対象となるクライアントを選択し [追加 >>] をクリックします。選択したクライアントから削除するには、対象となるクライアントを [選択されたクライアント] フィールドで選択し [<<削除] をクリックします。
 - ドメイン管理者にメッセージを受信して欲しい場合は、[ドメイン管理者] チェックボックスを選択して受信者の範囲を選択してください。[全て] では全てのドメイン管理者に送信され、[選択のみ] では選択したドメイン管理者にのみ送信され、[選択以外全て] では選択した以外の全てのドメイン管理者にされます。
 - 複数のドメイン管理者を選択するには [ドメイン管理者] チェックボックスの右側の [アドレスの選択] をクリックし (このボタンは [全て] が選択されているときは使えません)、[利用可能なドメイン管理者] フィールドで対象となるドメイン管理者を選択し [追加 >>] をクリックします。選択したドメイン管理者から削除するには、対象となるドメイン管理者を [選択したドメイン管理者] フィールドで選択し [<< 削除] をクリックします。
- クライアントやドメイン管理者がどのように選択されているかは、それぞれの [選択したものを表示する(または隠す)] ボタンをクリックすればいつでも見ることができます。
- 送信するメッセージのコピーを自分のメールボックスにコピーするには、[Parallels Plesk Panel サーバ管理者] チェックボックスを選択してください。


5. [件名] フィールドにメッセージの件名を指定してください。
6. [メッセージテキスト] フィールドにメッセージをプレーンテキストフォーマットで入力してください。Parallels Plesk Panelによって自動的に受信者名をメッセージに含めるには、<name> 変数を使用してください。[連絡先] フィールドで指定された情報から名前情報が得られます。
7. [OK] をクリックして変更を保存してください。

➤ **メッセージテンプレートを削除するには以下を実行します。**

1. [ホーム] > [サーバ] グループタイトルメニュー > [大量メールメッセージ] に進みます。
2. 削除する大量メールメッセージに対応するチェックボックスを選択し、[削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

メール通知の送信

➤ **複数の顧客にメールメッセージを一括送信するには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [サーバ] グループタイトルメニュー > [大量メールメッセージ] に進みます。
2. 既に作成したメッセージテンプレート(「メッセージテンプレートの作成、編集、削除」(352 ページ)を参照)を使用するには、[メッセージの作成] の列で  アイコンをクリックしてください。そのメッセージを送信するには、[大量メールを送信する] をクリックします。
3. [送信元] フィールドに送信者の名前とメールアドレスを指定してください。
名前またはメールアドレス、もしくは両方を指定できます。名前とメールアドレスの両方を指定するには、以下のフォーマットを使用してください。名前
<your@e-mail.address> 例えば、以下ようになります。 John Doe
<admin@pleskserver.com>
4. メールメッセージの受信者を選択してください。
 - 代理店にメッセージを受信して欲しい場合は、[代理店] チェックボックスを選択して受信者の範囲を選択してください。[全て] ではすべての代理店に送信され、[選択のみ] では手動で選択したクライアントにのみ送信され、[選択以外全て] では手動で選択した代理店以外のすべての代理店にされます。
 - 複数の代理店を選択するには [代理店] チェックボックスの右側の [アドレスの選択] をクリックし (このボタンは [全て] が選択されているときは使えません)、[利用可能な代理店] フィールドで対象となる代理店を選択し [追加 >>] をクリックします。選択した代理店一覧から代理店を削除するには、対象となる代理店を [選択された代理店] フィールドで選択し [<<削除] をクリックします。
 - クライアントにメッセージを受信して欲しい場合は、[クライアント] チェックボックスを選択して受信者の範囲を選択してください。[全て] では全てのクライアントに送信され、[選択のみ] では手動で選択したクライアントにのみ送信され、[選択以外全て] では手動で選択したクライアント以外の全てのクライアントにされます。
 - 複数のクライアントを選択するには [クライアント] チェックボックスの右側の [アドレスの選択] をクリックし (このボタンは [全て] が選択されているときは使えません)、[利用可能なクライアント] フィールドで対象となるクライアントを選択し [追加 >>] をクリックします。選択したクライアントから削除するには、対象となるクライアントを [選択されたクライアント] フィールドで選択し [<<削除] をクリックします。
 - ドメイン管理者にメッセージを受信して欲しい場合は、[ドメイン管理者] チェックボックスを選択して受信者の範囲を選択してください。[全て] では全てのドメイン管理者に送信され、[選択のみ] では選択したドメイン管理者にのみ送信され、[選択以外全て] では選択した以外の全てのドメイン管理者にされます。

- 複数のドメイン管理者を選択するには【ドメイン管理者】チェックボックスの右側の【アドレスの選択】をクリックし（このボタンは【全て】が選択されているときは使えません）、【利用可能なドメイン管理者】フィールドで対象となるドメイン管理者を選択し【追加 >>】をクリックします。選択したドメイン管理者から削除するには、対象となるドメイン管理者を【選択したドメイン管理者】フィールドで選択し【<< 削除】をクリックします。

クライアントやドメイン管理者がどのように選択されているかは、それぞれの【選択したものを表示する(または隠す)】ボタンをクリックすればいつでも見ることができます。

- このメッセージのコピーを自分のメールに送信するには、【Parallels Plesk Panel サーバ管理者】チェックボックスを選択してください。

5. 【件名】フィールドにメッセージの件名を指定してください。
6. 【メッセージテキスト】フィールドにメッセージをプレーンテキストフォーマットで入力してください。 Parallels Plesk Panelによって自動的に受信者名をメッセージに含めるには、<name> 変数を使用してください。 【連絡先】フィールドで指定された情報から名前情報が得られます。
7. このメッセージを、今後使用するテンプレートとしてテキストそのものも受信者の情報も両方保存するには、【テキストを新しいテンプレートに保存する】フィールドの左側のチェックボックスを選択し、このフィールドでテンプレート名を指定してください。
8. 【送信】をクリックしてメッセージを送信します。 メッセージの内容をテンプレートとして保存することを選択した場合、テンプレートが作成され使用可能なテンプレートのリストに追加されます。

メーリングリストの保守

顧客にオファーおよびプロモーションを配信する、ニュースレターを運営する、あるいはサイトの閲覧者に最新の更新について通知する場合、サイトにメーリングリストを設定し、ユーザをメーリングリストに登録するか、ユーザに登録を勧める必要があります。

メーリングリストは1度に多くのユーザへの宣伝ができるので便利です。メーリングリストには、情報やニュースレターを投稿する単一のメールアドレスの下にまとめられた、加入者のメールアドレスのリストが保存されています。

このセクションの内容:

メーリングリストの設定	357
ユーザの登録および登録解除	358
メーリングリストへの投稿	359
メーリングリストの削除	359


メーリングリストの設定

➤ **メーリングリストを設定するには、以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メーリングリスト]（[メール] グループ内）に進みます。
2. [スイッチオン] をクリックして、メーリングリストサービスを開始します。
3. [新しいメーリングリストの追加] をクリックします。
4. メーリングリストに必要な名前を指定します。
部署名、メーリングリストのトピック、その他のラテン記号テキストなどを指定できます。名前は覚えられる長さにする必要があります。英数字、ダッシュ、ドット、アンダースコアの記号を使用できます。
5. メーリングリストの管理に使用するパスワードを指定します。
6. メーリングリスト管理者のメールアドレスを指定します。
7. [メーリングリスト作成を管理者に通知する] チェックボックスを選択したままにしておきます。
指定した管理者のメールアドレスでのメーリングリストの使用および維持に関する指示が表示されます。メッセージを記録用に保管しておいて下さい。
8. [OK] をクリックします。

メーリングリストは、デフォルト設定で操作できます。しかしながら、モデレーションの有効化、投稿内容のフィルタリング、メッセージのアーカイブなどを実行できるように設定することができます。

➤ **メーリングリストを設定するには、以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メーリングリスト]（[メール] グループ内）に進みます。
2. 該当するメーリングリストのメールアドレスの横の  アイコンをクリックします。
ログイン画面が表示されます。
3. リスト管理者のパスワードを入力し、[Let me in ...] をクリックします。

➤ **または、メーリングリストの設定には、以下の方法でアクセスできません（Linux ホスティング）。**

1. WebブラウザでURL <http://lists.your-domain.com/mailman/admin/listname>を入力します。**your-domain.com**は使用しているドメイン名、**listname**はメーリングリストの名前（すなわちメーリングリストのメールアドレスの @ 記号の左側の部分）です。

ログイン画面が表示されます。

2. リスト管理者のパスワードを入力し、[Let me in ...] をクリックします。

メーリングリストにニュースレターを発行したりその他の情報を投稿するには、メーリングリストのメールアドレスへメールで送信します。すべての登録ユーザが受け取ります。

ユーザの登録および登録解除

➤ **メーリングリストにユーザを登録するには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メーリングリスト]（[メール] グループ内）> メーリングリスト名 > [新しいメンバーの追加] に進みます。
2. ユーザのメールアドレスを指定してください。
3. [OK] をクリックします。

➤ **メーリングリストからユーザを登録解除するには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メーリングリスト]（[メール] グループ内）> メーリングリスト名に進みます。
2. ユーザのメールアドレスの左側のチェックボックスを選択します。
3. [削除] をクリックします。
4. 削除を確認して [OK] をクリックします。

メーリングリストへの投稿

メーリングリストにニュースレターを発行したりその他の情報を投稿するには、メーリングリストのメールアドレスへメールで送信します。すべての登録ユーザが受け取ります。

メーリングリストの削除

➤ **サイトからメーリングリストを削除するには、以下を実行します**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [メーリングリスト]（[メール] グループ内）に進みます。
2. 削除するメーリングリストアドレスのチェックボックスを選択します。
3. [削除] をクリックします。
4. 確認画面が表示されたら、削除を確認して [OK] をクリックします。

ヘルプデスクを使用した顧客の問題の解決

コントロールパネルに統合され、「ヘルプデスクを設定」(127 ページ)のセクションの説明に従って設定したヘルプデスクの使用を決定した場合、ヘルプデスクを使用して顧客から問題のレポートまたはサポート要求を受け取り、問題が解決された場合に顧客に通知することができます。

このセクションの内容:

ヘルプデスクでのトラブルチケットの表示	361
トラブルチケットへのコメントおよびクローズ	362

ヘルプデスクでのトラブルチケットの表示

- **受け取った問題のレポートをヘルプデスクに表示するには、以下を実行します。**
1. ナビゲーションペインの [ヘルプデスク] ショートカットをクリックします。
 2. このサーバのユーザが提出した問題レポートを見る必要がある場合はステップ4に進みます。
 3. 自分が管理する他のサーバのヘルプデスクが提出した問題レポートを見る必要がある場合（「多数のParallels Plesk Panelサーバに対する集中アクセスの使用」（408 ページ）のセクションに説明があります）は [グローバルTTS] グループで [サーバ] をクリックしてから必要なサーバを選択します。
 4. 新しい問題レポートを表示するには、[ローカルチケットリスト] グループで [新しいチケット] をクリックします。 レポートをすべて表示するには、[すべて] をクリックします。 開示されまだ解決されていないすべての問題レポートを表示するには、[すべてのオープン済みチケット] をクリックします。 問題が解決されていないことがわかったためにユーザが再オープンしたチケットを表示するには、[再オープンチケット] をクリックします。 クローズしたチケットを確認するには、[クローズ済みのチケット] をクリックします。
 5. チケットが一覧に表示され、次の補足情報が表示されます。
 - ID： 投稿時にシステムによって割り当てられる ID 番号
 - チケットのタイトル： チケット投稿者が入力した問題の概略
 - チケットの状態： 新規、再オープン、クローズ
 - 投稿者のタイプ： コントロールパネルに表示されるチケットの発信元のユーザアカウントまたはメールアドレス。代理店、クライアント、ドメイン管理者、コントロールパネルへのアクセス権を持つメールユーザ、またはメールでチケットを投稿したユーザ
 - 投稿者の名前： チケットの投稿者の名前、ドメイン所有者が投稿したチケットのドメイン名、またはメールで投稿されたチケットのメールアドレス
 - 更新日： チケットが更新(コメントの追加や状態の変更)された日
 - キュー： 問題の投稿者が問題の解決を優先する順序
 - 優先度： 問題の投稿者が設定した問題の重大度
 - カテゴリ： チケットを関連付けるカテゴリ
 6. チケットの内容を表示するには、チケットIDまたはチケット件名をクリックします。

トラブルチケットへのコメントおよびクローズ

- **問題が解決された後、チケットをクローズする、またはコメントを投稿するには、以下を実行します。**
1. ナビゲーションペインの [ヘルプデスク] ショートカットをクリックします。貴社が管理する別のサーバのヘルプデスクを訪問するには、[グローバルTTS] グループで [サーバ] をクリックしてから必要なサーバを選択します。
 2. 作業を行うチケットを探し、その件名かID番号をクリックします。
 3. チケットをクローズ、再オープンするには、またはチケットにコメントを投稿するには、[イベント] メニューから実行する作業を選択し、必要に応じて [新規コメント] 入力フィールドに新しいコメントを入力します。 [OK] をクリックして送信します。

他のホスティングプラットフォームからデータの移行

データ（ユーザアカウント、設定、ウェブサイト、およびメール）を、Parallels Plesk Panel の前のバージョンで管理している他のホスティングサーバから、ご使用の Parallels Plesk Panel または他のウェブホスティングソフトウェアに転送できます。

データ転送がサポートされているウェブホスティングプラットフォームの完全なリストは、<http://www.parallels.com/products/plesk/resources/> で (Migration Guide) を参照してください。

重要： Windows ベースのサーバからデータを転送する前に、Parallels サイトの <http://www.parallels.com/jp/download/plesk/utilities/> から Parallels Plesk Panel Migration Manager Agent インストーラを取得して、ソースサーバにインストールして実行する必要があります。その方法については <http://www.parallels.com/products/plesk/resources/> の (マイグレーションガイド (Migration Guide)) を参照してください。その後でなければ、以下の手順でデータを転送することができません。

➤ **他のホスティングサーバから、全てのユーザアカウント、ドメイン、いろいろなアプリケーションを持つウェブサイトを転送するには、以下を実行します。**

1. [ホーム] > [マイグレーションマネージャ]（[ヘルプ & サポート] グループ内）に進みます。
2. マイグレーションマネージャのコンポーネントにアップデートがないかどうか調べるには、[同期化] をクリックします。これらのアップデートには、データを Parallels Plesk Panel 以外のホスティングプラットフォームからのデータ転送をサポートするマイグレーションエージェントのファイルが含まれる場合があります。
3. [新しいマイグレーションを開始] をクリックします。
4. [別のサーバからデータを転送します] オプションを選択したままで、次に挙げるオプションを指定します。
 - ソースサーバのアドレス。移行したいデータのサーバの IP アドレスまたはホスト名のどちらかを指定します。
 - ソースサーバへのログインに使用するログイン名およびパスワード。

注: オプション [マイグレーションエージェントが処理済みであり、ローカルホストにあるデータを転送します] を使用して、「ファイルからデータのインポート」(366 ページ) のセクションで説明したようにファイルからデータをインポートできます。これはデータを転送するもう 1 つの方法であり、ソースサーバがオフラインで以前データをそこから収集した場合に使用できます。

5. ソースホストで起動しているOSのタイプを選択します。（このオプションは、Parallels Plesk Panel 9 for Windowsホスティングプラットフォームを使用している場合に有効です）。
6. テンポラリファイルを保管するディレクトリへのパスを指定します。
7. ソースサーバからユーザアカウントおよびドメイン関連のデータをすべて転送するか、または特定のアイテムだけかを指定します。
8. データ圧縮オプションを選択します（転送したデータの量に対して支払っているのか、あるいは帯域幅を節約したいか）。データ圧縮によって帯域幅は節約されますが、消費するディスク容量が増えます。
9. [次へ >>] をクリックします。マイグレーションマネージャは、指定されたサーバへ接続し、ソースホスティングプラットフォームのビジネスオブジェクトに関する情報を集めます。
10. Parallels Plesk Panel以外のホスティングプラットフォームからデータを転送する場合は、使用するマイグレーションエージェントのバージョンを選択してから [次へ >>] をクリックします。Parallels Plesk Panelは適切なエージェントのバージョンを自動的に選択しますが、データ転送が失敗した場合は、別のバージョンのマイグレーションエージェントを選択して試みることができます。
11. 特定のアイテムだけを転送することにした場合は、この段階で、転送するユーザアカウントおよびドメイン（ウェブサイト）のチェックボックスを選択します。また、転送するデータのタイプを指定します。
 - すべての設定およびコンテンツ。
 - メール以外のすべての設定およびコンテンツ。
 - メールメッセージと一緒にメールアカウントのみ。
12. [次へ >>] をクリックします。
13. ソースサーバからデータを取得したら、使用する新しいIPアドレスを指定します。IPアドレスが大量にある場合は、この段階で、現行のIPマッピングファイルをダウンロードして、それをテキストエディタでまたはカスタマイズした検索および置換のスクリプトで修正して、サーバにアップロードして戻します。

14. [次へ >>] をクリックします。データ転送処理がすぐに開始される筈です。ただし、構成またはリソース使用量が競合する可能性があるために選択したアイテムの一部を転送できなかった場合、競合解決ポリシーを指定するように指示されます。

15. 指示された場合は、以下のタイプの競合を解決する方法を指定します。

- a 変更した日により新しいアイテムが宛先サーバに既に存在している場合に発生する、タイミングの競合。以下のオプションをどれでも選択できます。
 - ソースサーバの構成およびデータを使用します。これによって、現在宛先サーバにある構成およびデータが、ソースサーバから取得した構成およびデータで上書きされます。
 - 宛先サーバの構成と、ソースサーバのデータを使用します。
 - タイミングが競合しているアイテムは転送しません。
- b 転送するアイテムが、宛先サーバで定義したリソース使用量制限を超えると、このタイプのアイテムについてリソース使用量の競合が発生します。以下のオプションをどれでも選択できます。
 - アイテムを転送して、リソースの利用超過を許可します。
 - アイテムを転送しません。
- c 転送するアイテムの設定が、宛先サーバで許可されていないか使用できない場合に発生する、構成の競合。この場合、次の選択が可能です。
 - アイテムを転送して、必要な構成オプションおよび設定を許可します。
 - アイテムを転送しません。

16. [次へ >>] をクリックします。

17. データ転送が完了したら、詳細レポートが画面に表示されます。 [OK] をクリックしてウィザードを終了します。

注: ホスティングデータ転送について、特に Plesk 8.x 以前のバージョンからの転送について詳細は、<http://www.parallels.com/jp/products/plesk/resources/> の（マイグレーションガイド（Migration Guide））を参照してください。

この章の内容:

ファイルからデータのインポート 366

ファイルからデータのインポート

データを別のサーバからオンラインで転送する場合、Parallels Plesk Panel のマイグレーションマネージャ機能の使用に加えて、マイグレーションマネージャ ユーティリティを使用してソースサーバから転送するデータを収集し、アーカイブファイルとして保管して、これらのデータを宛先サーバにインポートすることができます。

- Windows ベースのホスティングサーバにあるデータを収集するには、migration-agent.msi プログラムをインストールして使用する必要があります。マイグレーションエージェントプログラムのインストールについては、<http://www.parallels.com/jp/products/plesk/resources/> にある（Migration Guide）を参照してください。ソースサーバにマイグレーションエージェントをインストールしたら、「Windows ベースのサーバからデータのインポート」（368 ページ）のセクションで説明しているデータのインポートに進むことができます。
- Linux/Unix ベースのサーバ上のデータを収集するには、PleskX.pl コマンドラインユーティリティを使用する必要があります。このユーティリティは通常、Linux/Unix ベースのサーバでは
`<parallels_plesk_panel_installation_directory>/PMM/Agents/PleskX/` に、Windows ベースのサーバでは
`<parallels_plesk_panel_installation_directory>\PMM\Migration\Platforms\UnixShared\PleskX\` にあります。この手順は、「Linux/Unix ベースのサーバからデータのインポート」（367 ページ）のセクションで説明しています。

このセクションの内容:

Linux/Unix ベースのサーバからデータのインポート	367
Windows ベースのサーバからデータのインポート	368

Linux/Unix ベースのサーバからデータのインポート

- データインポート機能を使用してデータを転送するには、以下を実行します。

1. Parallels Plesk Panel 9サーバで以下のフォルダを探して、そこにあるファイルをすべてサーバ上のデータを転送する単一ディレクトリにコピーします。

- Windows プラットフォームの場合は、以下のフォルダにあるファイルをすべてコピーする必要があります。 C:\Program Files\Parallels\Plesk\PM\Migration\Platforms\UnixShared\PleskX\ および C:\Program Files\Parallels\Plesk\PM\Migration\Platforms\UnixShared\shared\
- Linux/Unix プラットフォームの場合は、以下のフォルダにあるファイルをすべてコピーする必要があります。
<parallels_plesk_panel_installation_directory>/PM/Agents/PleskX/ および
<parallels_plesk_panel_installation_directory>/PM/Agents/shared

2. ソースサーバで、PleskX.plユーティリティを適切なコマンドラインオプションで実行します。

- 全データのコピーを作成するには、次のコマンドを実行します

```
# PleskX.pl -dump-all
```

- 特定のドメインのコピーを作成するには、次のコマンドを実行します

```
# PleskX.pl -dump-domains=<コンマで区切られた、ドメイン名のリスト>
```

- 特定のユーザアカウントのコピーを作成するには、次のコマンドを実行します

```
# PleskX.pl -dump-resellers=<ソースサーバの Parallels Plesk Panel システムが割り当てた代理店 ID の、コンマで区切られたリスト>
```

または

```
# PleskX.pl -dump-clients=<ソースサーバの Parallels Plesk Panel システムが割り当てたクライアント ID の、コンマで区切られたリスト>
```

- PleskX ユーティリティがサポートしている追加コマンドラインオプションを表示するには、次のコマンドを実行します。

```
# PleskX.pl-help
```

3. 必要なファイルがすべて作成されたら、ファイルcontent-list.xmlを開いて、どのファイルが作成されたか確認します。 dump.xmlを含むこれらのファイルをすべて、宛先サーバに移動します。

4. Webブラウザで管理者としてParallels Plesk Panelにログインして、[ホーム] > [マイグレーションマネージャ]（[ヘルプ & サポート] グループ内）に進んで[マイグレーションを開始する]をクリックします。
5. オプション[マイグレーションエージェントが処理済みであり、ローカルホストにあるデータを転送します]を選択します。
6. [データファイルロケーションのマイグレーション] ボックスに、ステップ3でデータを保存したディレクトリへのパスを入力します。
7. [次へ >>] をクリックします。

指定したディレクトリに、ソースホストのビジネスオブジェクトに関する情報が記載されたXML ファイルがあると、データのインポートが開始されます。

Windows ベースのサーバからデータのインポート

Windows ベースのサーバからオンラインでデータを転送しようとして、データ転送に失敗した場合、これらのデータのインポートを試行することができます。収集したデータを、前に試行したときに Parallels Plesk Panel に指定したテンポラリフォルダ内の宛先サーバに置く必要があります。

➤ **データインポート機能を使用してデータを転送するには、以下を実行します。**

1. 管理者としてParallels Plesk Panelにログインして、[ホーム] > [マイグレーションマネージャ]（[ヘルプ & サポート] グループ内）に進んで[マイグレーションを開始する]をクリックします。
2. オプション[マイグレーションエージェントが処理済みであり、ローカルホストにあるデータを転送します]を選択します。
3. [データファイルロケーションのマイグレーション] ボックスに、前に試行したときにデータを保存したテンポラリディレクトリへのパスを入力します。

例えば C:\temp です。

4. [次へ >>] をクリックします。

指定したディレクトリに、ソースホストのビジネスオブジェクトに関する情報が記載されたXML ファイルがあると、データのインポートが開始されます。

データのバックアップおよび復元

最新バージョンのバックアップユーティリティおよび復元ユーティリティをコントロールパネルにインストールしている場合、次の作業が可能です。

サーバ全体のバックアップ。 バックアップアーカイブには、コントロールパネルのライセンスキー、メールサーバおよび DNS サーバの設定、データベースサーバに関する情報、ドメインのテンプレート、仮想ホストテンプレート、ユーザアカウント、ドメイン、Web サイトと Web コンテンツ、SSL 証明、データベース、Web アプリケーション、およびカスタムボタンが保存されます。

ドメインを含む個々のユーザアカウントの バックアップ。 バックアップアーカイブには、コントロールパネル内で操作を実行するためのリソース割り当ておよび権限に関する情報を含む、ユーザアカウントとユーザのドメイン (Web サイト) に関連した、コントロールパネルのすべての設定およびデータが含まれます。

個々のドメイン (Web サイト) をバックアップ。 バックアップアーカイブには、ドメイン管理者アカウントやドメイン (Web サイト) やメールサービス (メールボックスや Horde Turba アドレスブック連絡先一覧、アンチスパムやアンチウィルスの設定など) 関連のすべてのデータが含まれます。

バックアップのスケジュール。

バックアップアーカイブからデータを復元

バックアップ機能および復元機能の使用権限が付与された顧客は、コントロールパネルから独自のアカウント設定および Web サイトをバックアップし、復元することができます。顧客、代理店、代理店の顧客のホームページには、それぞれのバックアップリポジトリへのショートカットが表示されます ([ホーム]>[バックアップマネージャ])。

この章の内容:

グローバルバックアップの設定	370
FTP リポジトリ使用のためのコントロールパネルの設定	371
サーバ全体のバックアップ	372
ユーザのドメインによる個別ユーザアカウントのバックアップ	373
個別ドメイン (Web サイト) のバックアップ	374
データベースのバックアップ (Windows ホスティング)	375
バックアップのスケジューリング	376
バックアップアーカイブからのデータの復元	377
バックアップファイルリポジトリの維持	381
データベースのバックアップファイルリポジトリの維持 (Windows ホスティング)	384

グローバルバックアップの設定

多数の Web サイトを提供している場合、サーバリソースをあまり使わないで済むように、バックアップ処理を設定することができます。

➤ **サーバ負荷を軽減してディスクスペース使用量ポリシーを設定するには、以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [サーバ] グループタイトルメニュー > [バックアップ設定] に進みます。
2. [同時に実行するバックアッププロセスの最大値] で同時に実行するバックアッププロセスの最大値を指定します。デフォルト値は10です。それよりも小さい値を入力してください。
3. [バックアッププロセスを低い優先度で実行する] チェックボックスを選択します。
4. [バックアップファイルを圧縮しない] チェックボックスを選択して、圧縮できないようにします。
5. [OK] をクリックします。
6. バックアップ処理がサーバ上の使用可能なディスクスペースをすべて消費しないようにするには、以下を実行してください。
 - a サーバのファイルシステムにアクセスして、ファイル <Parallels Plesk Panel インストールディレクトリ>/admin/share/pmmcli/pmmcli-rc を検索してテキストエディタで開きます。
 - b このファイルで `FREE_DISK_SPACE 20` という行を検索して、20 の箇所、予約する必要のある空きディスクスペースの量を指定します。
 - c ファイルを保存します。

FTP リポジトリ使用のためのコントロールパネルの設定

➤ バックアップファイルの保存にFTP サーバを使用する場合はコントロールパネルを適切にセットアップする必要があります。

1. 必要なリポジトリへ移動してください。

- 自分のバックアップファイルを保管するリポジトリについては、[ホーム] > [バックアップマネージャ]（[サーバ] グループ内）> [パーソナル FTP レポジトリ設定] に進んでください。
- 代理店アカウントレベルのリポジトリへは、[代理店] > 代理店の名前 > [バックアップマネージャ]（[ファイル] グループ内）> [パーソナル FTP レポジトリ設定] に進みます。
- クライアントアカウントレベルのリポジトリへは、[クライアント] > クライアントの名前 > [バックアップマネージャ]（[ファイル] グループ内）> [パーソナル FTP レポジトリ設定] に進みます。
- ドメインレベルのリポジトリへは、[ドメイン] > ドメイン名 > [バックアップマネージャ]（[ファイル] グループ内）> [パーソナル FTP レポジトリ設定] に進みます。

2. 以下のプロパティを指定してください。

- FTP サーバの IP アドレスまたはホスト名
- バックアップファイルを保存したいサーバのディレクトリ
- FTP アカウントにアクセスするユーザ名とパスワード

3. [OK] をクリックします。

サーバ全体のバックアップ

➤ サーバコンフィギュレーション設定およびホスティングマシンで保有するすべてのユーザデータをバックアップするには、以下を実行します。

1. ホームページで [バックアップマネージャ]（[サーバ] グループ内）をクリックします。
2. [バックアップ] をクリックします。
3. 以下を指定します。
 - バックアップファイル名の接頭語および説明。 任意のファイル名は指定できませんが、バックアップファイル名に接頭語を追加するようにコントロールパネルを設定できます。 コントロールパネルが、バックアップファイル作成の日時を（グリニッジ標準時間で）自動的にバックアップファイル名に追加することにご注意ください。
 - バックアップファイルの分割。 多重ボリュームのバックアップを作成するには、それぞれのチェックボックスを選択してボリュームサイズをメガバイトで指定してください。
 - バックアップファイルを保存する場所。 バックアップファイルを保存するリポジトリを選択します。
 - バックアップ完了時のメール通知。 バックアップ完了の通知を受け取りたい場合は、メールアドレスを入力します。
 - バックアップするデータ。 サーバ設定だけ、またはサーバ設定と全ユーザデータをバックアップできます。
4. [バックアップ] をクリックします。 バックアップ処理が開始され、進捗状況が [現在のバックアップタスク] タブに表示されます。 [更新] ボタンを使用して、画面上の情報を更新できます。
5. バックアップが終了すると、選択したリポジトリにバックアップファイルが保存されます。

ユーザのドメインによる個別ユーザアカウントのバックアップ

➤ ドメインによりユーザアカウントをバックアップするには、以下を実行します。

1. ナビゲーションペインの [代理店] または [クライアント] ショートカットをクリックします。
2. 必要なユーザ名をクリックします。
3. [バックアップマネージャ]（[ファイル] グループ内）をクリックします。
4. [バックアップ] をクリックします。
5. 以下を指定します。
 - バックアップファイル名の接頭語および説明。 任意のファイル名は指定できませんが、バックアップファイル名に接頭語を追加するようにコントロールパネルを設定できます。 コントロールパネルが、バックアップファイル作成の日時を（グリニッジ標準時間で）自動的にバックアップファイル名に追加することにご注意ください。
 - バックアップファイルの分割。 多重ボリュームのバックアップを作成するには、それぞれのチェックボックスを選択してボリュームサイズをメガバイトで指定してください。
 - バックアップファイルを保存する場所。 バックアップファイルを保存するリポジトリを選択します。
 - バックアップ完了時のメール通知。 バックアップ完了時にメール通知を送信したい場合は、メールアドレスを入力します。
 - バックアップするデータ。 ユーザアカウント設定だけ、またはユーザアカウント設定と全ユーザのデータをバックアップできます。
6. [バックアップ] をクリックします。 バックアップ処理が開始され、進捗状況が [現在のバックアップタスク] タブに表示されます。 [更新] ボタンを使用して、画面上の情報を更新できます。

バックアップが終了すると、バックアップファイルは選択したリポジトリに保存され、FTP サーバ、または [代理店] > 代理店の名前 > [バックアップマネージャ] または [クライアント] > クライアントの名前 > [バックアップマネージャ] ロケーションのどちらからでもアクセスできます。

個別ドメイン（Web サイト）のバックアップ

➤ **ドメイン（Web サイト）をバックアップするには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [バックアップマネージャ]（[ファイル]グループ内）に進みます。
2. [バックアップ] をクリックします。
3. 以下を指定します。
 - バックアップファイル名の接頭語および説明。 任意のファイル名は指定できませんが、バックアップファイル名に接頭語を追加するようにコントロールパネルを設定できます。 コントロールパネルが、バックアップファイル作成の日時を（グリニッジ標準時間で）自動的にバックアップファイル名に追加することにご注意ください。
 - バックアップファイルの分割。 多重ボリュームのバックアップを作成するには、それぞれのチェックボックスを選択してボリュームサイズをメガバイトで指定してください。
 - バックアップファイルを保存する場所。 バックアップファイルを保存するリポジトリを選択します。
 - バックアップするデータ。 Web ホスティング設定、Web コンテンツ、およびメールアカウントをメールメッセージごとバックアップできます。
 - バックアップ完了時のメール通知。 バックアップ完了時にメール通知を送信したい場合は、メールアドレスを入力します。
 - バックアップが終了するまで Web サイトを中断。 バックアップ中に、誰にもサイトのコンテンツまたは設定を変更されたくない場合は、該当のチェックボックスを選択します。
4. [バックアップ] をクリックします。 バックアップ処理が開始され、進捗状況が[現在のバックアップタスク] タブに表示されます。 [更新] ボタンを使用して、画面上の情報を更新できます。
5. バックアップが終了すると、バックアップファイルはこのユーザアカウントのリポジトリに保存され、この後 [ドメイン] > **ドメイン名** > [バックアップマネージャ] で表示される場所からアクセスできます。

データベースのバックアップ (Windows ホスティング)

Parallels Plesk Panel を用いて、サーバでホスティングしているドメインが使用しているデータベース、データベースユーザアカウント、およびデータをバックアップした後で復元できます。以下が可能となります。

- ドメインデータベースをデータやユーザアカウントごとバックアップ
- データベースをバックアップファイルから復元
- データベースのバックアップファイルのダウンロード/アップロード/削除
- 復元後に孤立したユーザの復元

➤ **データベースのバックアップを作成するには、以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [データベース] に進みます。
2. バックアップするデータベースに対応するチェックボックスを選択し、[バックアップ] をクリックします。
3. バックアップファイルの名前を指定して [OK] をクリックします。
4. 作成したバックアップファイルをダウンロードするには、バックアップ処理が終了した後に次のページでファイル名をクリックします。ファイルを保存する場所を選択し、[保存] をクリックします。
5. [OK] をクリックします。

➤ **ドメイン上の全データベースのバックアップを作成するには、以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [バックアップマネージャ] > [データベースバックアップリポジトリ] に進み、[データベース] フィールドで [すべてのドメインリポジトリ] が選択されているのを確認して、[バックアップ] をクリックします。
2. バックアップファイルの名前を指定して [OK] をクリックします。
3. 作成したバックアップファイルをダウンロードするには、バックアップ処理が終了した後に次のページでファイル名をクリックします。ファイルを保存する場所を選択し、[保存] をクリックします。

4. [OK] をクリックします。

バックアップのスケジューリング

- データのバックアップをスケジュールするには、以下を実行してください。

1. バックアップするデータのタイプに該当するバックアップファイルリポジトリに移動します。
 - サーバ設定および全ユーザのデータをバックアップするには、[ホーム] > [バックアップマネージャ]（[サーバ] グループ内）に進みます。
 - ユーザアカウントをユーザのサイトごとバックアップするには、[代理店] > *代理店の名前* > [バックアップマネージャ]（[ファイル] グループ内）、または [クライアント] > *クライアントの名前* > [バックアップマネージャ]（[ファイル] グループ内）に進みます。
 - Webサイトをバックアップするには、[ドメイン] > *ドメイン名* > [バックアップマネージャ]（[ファイル] グループ内）に進みます。
2. [スケジュールバックアップ設定] をクリックします。
3. [このバックアップタスクを有効化する] チェックボックスを選択して以下を指定します。
 - バックアップをいつ、どのくらいの頻度で実行するか。
 - バックアップファイル名。
 - バックアップファイルの分割。多重ボリュームのバックアップを作成するには、それぞれのチェックボックスを選択してボリュームサイズをメガバイトで指定してください。ボリュームサイズが 4095 メガバイトを超えることはできないことにご注意ください。
 - バックアップファイルを保存する場所。バックアップファイルを保存するリポジトリを選択します。
 - リポジトリに保存されるバックアップファイルの最大数。バックアップファイルを再利用する場合は、数字を入力します。この制限に達した場合、最も古いバックアップファイルが削除されます。
 - バックアップエラーにおけるメール通知。バックアップが正常に実行されない場合にメール通知を送信するには、メールアドレスを入力します。
 - バックアップするデータ。設定だけ、あるいは設定とユーザデータをバックアップできます。
4. [OK] をクリックします。

バックアップアーカイブからのデータの復元

➤ バックアップファイルからデータを復元するには、以下を実行してください。

1. バックアップファイルがあるバックアップファイルリポジトリに移動します。
 - サーバ設定および全ユーザのデータをすべて復元するには、[ホーム] > [バックアップマネージャ]（[サーバ] グループ内）に進みます。
 - ユーザアカウントをユーザのサイトごと復元するには、[代理店] > *代理店の名前* > [バックアップマネージャ]（[ファイル] グループ内）、または[クライアント] > *クライアントの名前* > [バックアップマネージャ]（[ファイル] グループ内）に進みます。
 - Webサイトを復元するには、[ドメイン] > *ドメイン名* > [バックアップマネージャ]（[ファイル] グループ内）に進みます。
2. バックアップファイル名をクリックします。
3. 以下の設定を指定します。
 - 復元するデータのタイプ。
 - 復元タスクが完了するまでドメイン（Webサイト）を中断する。これを選択すると、サイトのコンテンツや設定を復元中に、ユーザがそれらを変更した場合に発生する可能性のある競合が回避されます。
 - 復元タスクが完了したときにメール通知を送信する。復元タスクが完了したときにコントロールパネルから通知が欲しい場合は、メールアドレスを入力します。
 - 競合解決ポリシー。復元中に競合が発生した場合に実行することを指定します。
4. [復元] をクリックします。

データの復元中にエラーまたは競合が発生した場合は、適切な解決を選択するようにウィザードから指示されます。画面の指示に従ってウィザードを完了します。

注：データの復元における上書きモードは、すべてのオブジェクトはシステム内に現在あるかどうかに関係なくバックアップファイルから復元されることを意味します。上書きモードは以下のように動作します。

- バックアップファイルからのオブジェクトまたは設定が Parallels Plesk Panel にない場合、それらが Parallels Plesk Panel に作成または設定されます。
- バックアップファイルからのオブジェクトまたは設定が Parallels Plesk Panel にある場合、それらがバックアップファイルからのオブジェクトまたは設定に置き換わります。

- バックアップファイルからのオブジェクトまたは設定が Parallels Plesk Panel にあり、バックアップファイルにはない場合、現在 Parallels Plesk Panel にあるオブジェクトまたは設定は変更されません。

このセクションの内容:

データベースの復元 (Windows ホスティング)	379
孤立したデータベースユーザの復元 (Windows ホスティング)	380

データベースの復元（Windows ホスティング）

- データベースが既に存在しており、その内容の復元だけを行えばいい場合は、以下を実行してください。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [データベース]（[アプリケーション & サービス] グループ内）> データベース名 > [データベースバックアップリポジトリ] に進み、リストからバックアップファイルを選択して[選択対象を復元]をクリックします。

サーバにバックアップファイルがなければ、ローカルマシンからサーバリポジトリにバックアップファイルをアップロードできます。詳細は「バックアップファイルのサーバへのアップロード」（385 ページ）のセクションをご参照ください。

2. 該当のチェックボックスを選択して復元を確認し、[OK] をクリックします。

MS SQL データベースを復元すると、一部のデータベースユーザが孤立する場合があります。これらのユーザがデータベースにアクセスしてデータベースを使用できるようにするには、修復する必要があります。詳細は「孤立したデータベースユーザの回復」（380 ページ）のセクションをご参照ください。

- データベースが存在せず最初から再作成する必要がある場合は、以下を実行してください。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [データベース]（[アプリケーション & サービス] グループ内）に進み、[新しいデータベースの追加] をクリックします。
2. データベースの名前とタイプ、および復元するデータベースのサーバを入力します。

注：新しいデータベース名を指定できますが、正しいデータベースタイプを選択する必要があります。例えば MySQL データベースを復元する場合は、MySQL データベースタイプを選択します。

3. [バックアップファイルよりデータベースを復元します] チェックボックスを選択します。
4. データベースのバックアップファイルの場所を指定します。ローカルマシンからバックアップファイルをアップロードすることも、サーバ上にあるファイルを指定することもできます。
5. 復元されるデータベースのデフォルトユーザ名およびパスワードを入力します。
6. [OK] をクリックします。

MS SQL データベースを復元すると、一部のデータベースユーザが孤立する場合があります。これらのユーザがデータベースにアクセスしてデータベースを使用できるようにするには、修復する必要があります。詳細は「孤立したデータベースユーザの回復」(380 ページ)のセクションをご参照ください。

孤立したデータベースユーザの復元 (Windows ホスティング)

MS SQL データベースを復元すると、一部のデータベースユーザが孤立する場合があります。これらのユーザがデータベースにアクセスしてデータベースを使用できるようにするには、修復する必要があります。

➤ **データベースに孤立したユーザがないかどうか確認するには、以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [データベース] ([アプリケーション & サービス] グループ内) > データベース名に進みます。
2. 正しく機能するために修復が必要な孤立したユーザが複数あるという警告が表示されたら、修復が必要な孤立したユーザがあるということです。

➤ **孤立したユーザを修復するには、以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [データベース] ([アプリケーション & サービス] グループ内) > データベース名に進み、修復する孤立したユーザに対して[修復] ボタンをクリックします。
2. このユーザのパスワードを入力して[修復] をクリックします。
パスワードが指定されていないシステムユーザである場合は、パスワードフィールドを空にして修復を実行してください。
3. 孤立したユーザをすべて修復するまで、ステップ1-2を繰り返します。

バックアップファイルリポジトリの維持

バックアップファイルに対して以下の操作を実行できます。

- サーバへバックアップファイルのアップロード
- サーバからバックアップファイルのダウンロード
- バックアップファイルの削除

このセクションの内容:

バックアップファイルのサーバへのアップロード	381
サーバからのバックアップファイルのダウンロード	382
サーバからのバックアップファイルの削除	383

バックアップファイルのサーバへのアップロード

➤ **バックアップファイルをバックアップリポジトリにアップロードするには、以下を実行します。**

1. 必要なリポジトリにアクセスします。
 - バックアップファイルの自分のリポジトリにアクセスするには、[ホーム] > [バックアップマネージャ]（[サーバ] グループ内）に進みます。
 - 代理店またはクライアントのリポジトリにアクセスするには、[代理店] > *代理店の名前* > [バックアップマネージャ]（[ファイル] グループ内）、または [クライアント] > *クライアントの名前* > [バックアップマネージャ]（[ファイル] グループ内）に進みます。
 - 特定の Web サイト関連のリポジトリにアクセスするには、[ドメイン] > *ドメイン名* > [バックアップマネージャ]（[ファイル] グループ内）に進みます。
2. [サーバレポジトリにファイルアップロードする] をクリックします。
3. [参照] をクリックして、必要なバックアップファイルを選択します。
4. [OK] をクリックします。


バックアップファイルが、バックアップリポジトリにアップロードされます。

サーバからのバックアップファイルのダウンロード

➤ バックアップファイルをバックアップリポジトリからダウンロードするには、以下を実行します。

1. 必要なリポジトリにアクセスします。

- バックアップファイルの自分のリポジトリにアクセスするには、[ホーム] > [バックアップマネージャ]（[サーバ] グループ内）に進みます。
- 代理店またはクライアントのリポジトリにアクセスするには、[代理店] > *代理店の名前* > [バックアップマネージャ]（[ファイル] グループ内）、または [クライアント] > *クライアントの名前* > [バックアップマネージャ]（[ファイル] グループ内）に進みます。
- 特定の Web サイト関連のリポジトリにアクセスするには、[ドメイン] > *ドメイン名* > [バックアップマネージャ]（[ファイル] グループ内）に進みます。

2. ダウンロードするバックアップファイルに対応する  アイコンをクリックします。

3. バックアップを保存する場所を選択し、[保存] をクリックします。
バックアップファイルが、バックアップリポジトリからダウンロードされます。

サーバからのバックアップファイルの削除

➤ バックアップファイルをバックアップリポジトリから削除するには、以下を実行します。

1. 必要なリポジトリにアクセスします。
 - バックアップファイルの自分のリポジトリにアクセスするには、[ホーム] > [バックアップマネージャ]（[サーバ] グループ内）に進みます。
 - 代理店またはクライアントのリポジトリにアクセスするには、[代理店] > *代理店の名前* > [バックアップマネージャ]（[ファイル] グループ内）、または [クライアント] > *クライアントの名前* > [バックアップマネージャ]（[ファイル] グループ内）に進みます。
 - 特定の Web サイト関連のリポジトリにアクセスするには、[ドメイン] > *ドメイン名* > [バックアップマネージャ]（[ファイル] グループ内）に進みます。
2. 削除したいバックアップファイルに対応するチェックボックスを選びます。
3. [削除] をクリックします。
4. 削除を確認して [OK] をクリックします。

データベースのバックアップファイルリポジトリの維持（Windows ホスティング）

データベースのバックアップファイルは自分のデータベースバックアップリポジトリに保存されており、ホームページから [ドメイン] > *ドメイン名* > [バックアップマネージャ]（[ファイル] グループ内）> [データベースバックアップリポジトリ] をクリックすればアクセスできます。各データベースには固有のバックアップファイルリポジトリがあります。特定のデータベースのバックアップファイルを見るには、[データベース] メニューからデータベースを選択します。デフォルトでは、データベースバックアップリポジトリはドメイン上の全データベースのバックアップファイルを表示します。

データベースバックアップリポジトリで以下を実行できます。

- 他のコンピュータに保存されているデータベースのバックアップファイルのアップロード
- 他のコンピュータへのデータベースのバックアップファイルのダウンロード
- データベースバックアップリポジトリからの冗長データベースバックアップファイルの削除

このセクションの内容:

サーバへデータベースのバックアップファイルのアップロード	385
サーバからデータベースのバックアップファイルのダウンロード	386
サーバからデータベースのバックアップファイルの削除.....	386

サーバへデータベースのバックアップファイルのアップロード


➤ バックアップファイルをバックアップリポジトリにアップロードするには、以下を実行してください。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [バックアップマネージャ]（[ファイル]グループ内）> [データベースバックアップリポジトリ]に進み、[バックアップファイルのアップロード]をクリックします。
2. バックアップファイルをアップロードするリポジトリのデータベースを、[データベース名]メニューから選択します。
3. [参照...]をクリックして、必要なバックアップファイルを選択します。
4. バックアップファイルがアップロードされたらすぐにデータベースの内容を復元したい場合は、[アップロードを実行次第、データベースバックアップを復元します]チェックボックスを選択したままにします。
5. [OK]をクリックします。

データベースのバックアップファイルが、指定したデータベースのバックアップリポジトリにアップロードされます。

サーバからデータベースのバックアップファイルのダウンロード

➤ バックアップファイルをバックアップリポジトリからダウンロードするには、以下を実行してください。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [バックアップマネージャ]（[ファイル]グループ内） > [データベースバックアップリポジトリ] に進みます。
2. [データベース] メニューから、バックアップファイルを参照するデータベースを選択します。ドメイン上の全データベースのバックアップファイルを参照するには、[すべてのドメインデータベース] を選択したままにします。
3. ダウンロードするデータベースのバックアップファイルに対応する  アイコンをクリックします。
4. バックアップファイルを保存する場所を選択し、[保存] をクリックします。

バックアップファイルが、バックアップリポジトリからダウンロードされます。

サーバからデータベースのバックアップファイルの削除

➤ バックアップファイルをバックアップリポジトリからダウンロードするには、以下を実行してください。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [バックアップマネージャ]（[ファイル]グループ内） > [データベースバックアップリポジトリ] に進みます。
2. [データベース] メニューから、バックアップファイルを参照するデータベースを選択します。ドメイン上の全データベースのバックアップファイルを参照するには、[すべてのドメインデータベース] を選択したままにします。
3. 削除したいデータベースバックアップファイルに対応するチェックボックスを選びます。 [削除] をクリックして、削除を確認し [OK] をクリックします。

統計の表示

➤ **サーバ利用に関する情報を表示するには、以下を実行します。**

1. [ホーム] > [リソース使用量]（[ログ&統計] グループ内）に進みます。

次の情報が表示されます。

- プロセッサ情報
- Parallels Plesk Panel のバージョンとビルド番号
- OS とそのカーネルバージョン
- Parallels Plesk Panel ライセンスキー番号
- サーバアップタイム
- 直近の 1 分、5 分、15 分のプロセッサの負荷平均
- RAM のインストール量および使用量
- 使用されているスワップスペース容量
- ハードディスクのパーティションおよびディレクトリ別使用量
- 接続（マウント）しているストレージとネットワークストレージデバイス
- ホストされたドメインの数を示すには以下を実行します。 [アクティブ] にはオンラインのドメインの数が示されます。[問題] オンライン状態のままだがディスク容量と帯域幅の割り当てを超えているドメインが示されます。[パッシブ] には各ユーザまたはユーザのリセラーにより保留にされたためにオフラインのドメインが示されます。

2. サーバ統計を最新のデータで更新する場合は、[更新] をクリックします。

➤ **サーバにインストールされ、Parallels Panel で管理されるソフトウェアコンポーネントに関する情報を表示するには、以下を実行します。**

1. [ホーム] > [サーバコンポーネント]（[サーバ] グループ内）に進みます。

2. [更新] をクリックして、画面上の情報を更新します。

- ユーザおよびそのサイトが使用するディスク容量および帯域幅の情報を表示するには、以下を実行してください。

ホームページで、適切な【統計】ショートカットをクリックします。

- アカウントおよびサイトの統合レポートを表示するには、以下を実行してください。

ホームページで【ログ & 統計】グループタイトルメニューを開き、【概要レポート】を選択します。

- ユーザアカウントとユーザのサイトに関する連結レポートを表示するには、以下を実行します。

1. ナビゲーションペインの【クライアント】または【リセラー】ショートカットをクリックします。
2. 必要なユーザ名をクリックします。
3. 【統計】グループタイトルメニューで【概要レポート】を選択します。

- 特定のドメイン名またはウェブサイトで使用されるサーバリソースとホスティング機能に関する詳細レポートを表示するには、以下を実行します。

1. ナビゲーションペインの【ドメイン】ショートカットをクリックします。
2. 必要なドメイン名をクリックします。
3. 【統計】グループタイトルメニューで【概要レポート】を選択します。

以下はレポートの共通操作です。

- 詳細を表示するには、【レポート】ドロップダウンメニューから【フルレポート】オプションを選択します。

- レポートに表示される情報の量を調整するには、^ **[カスタマイズ]** をクリックし、既存のレポートテンプレートを変更します（この場合、レポートテンプレート名をクリック）か、新しいレポートテンプレートを作成します（この場合、**[新しいレポートの追加]** をクリックします）。次に、レポートの各セクションで必要な情報の量を指定します。どの情報も必要としない場合は**[なし]**を、詳細な概要が必要な場合は**[サマリー]**を、詳細なレポートが必要な場合は**[フル]**をそれぞれ選択します。**[フォルトレポートとして使用]** チェックボックスを選択し、**[OK]** をクリックします。カスタムレポートレイアウトを削除するには、レポートレイアウト名の対応するチェックボックスを選択して、**[削除]** をクリックします。
- レポートを印刷するには、**[印刷]** をクリックします。別のブラウザウィンドウにレポートが表示されます。ブラウザのメニューから**[ファイル]** > **[印刷]** オプションを選択して、レポートを印刷します。
- メールでレポートを送信するには、**[レポート]** グループの右側にある入力ボックスに受信者のメールアドレスを入力して、**[メールにより送信]** をクリックします。自分が受信者である場合、メールアドレスを指定する必要がありません。システムはデフォルトで、使用中のユーザがレポート受信者と想定し、使用中のユーザのコントロールパネルアカウントに登録されたメールアドレスを指定します。
- レポートを毎日、毎週、または毎月自動的に生成し、メールで配信するには、**[レポート送信]** をクリックし、「レポート生成とメールによる配信の自動化」（394ページ）のセクションの指示に従ってください。

➤ **サイトの閲覧者数、閲覧元の国、およびサイトで閲覧されたページの内容を調べるには、以下を実行します。**

1. **[ドメイン]** > **ドメイン名** > **[ウェブ統計]**（**[統計]** グループ内）に進みます。
2. サイトの特定のエリア間でダウンロードもしくはアップロードしたウェブページまたはファイルの統計を閲覧するには、以下を実行します。
 - ハイパーテキスト転送プロトコル（HTTP）でサイトから転送されたウェブページの統計を表示するには、**[ウェブ統計]** をクリックします。
 - 保護付きハイパーテキスト転送プロトコル（HTTPS）でサイトから転送されたウェブページの統計を表示するには、**[ウェブ統計 SSL]** をクリックします。
 - ファイル転送プロトコル（FTP）で転送されたファイルの統計を表示するには、**[FTP 統計]** をクリックします。
 - 帯域幅利用量を月別に表示するには、**[トラフィック履歴]** をクリックします。
 - 帯域幅利用量をこのドメイン内の FTP 別、ウェブ別、メールサービス別に表示するには、**[トラフィック]** をクリックします。

注: アカウント上で Webalizer 統計パッケージを使用している場合、表示されるグラフレポートをカスタマイズすることができます。その手順については「ウェブ統計表示のプリファレンスの調整」のセクションを参照してください。

または、次の URL を表示することによってサイトのウェブ統計を確認できます。
<https://your-domain.com/plesk-stat/webstat> ユーザ名とパスワードの入力画面が表示されたら、FTP アカウント信用情報を指定します。

この章の内容:

Webalizer による Web 統計表示のプリファレンスの調整	390
レポート生成とメールによる配信の自動化	394
ログファイルの表示およびログファイルの再利用の設定	396
ウイルスおよびスパム保護統計の表示	397

Webalizer による Web 統計表示のプリファレンスの調整

デフォルトでは、統計ユーティリティは自分のサイトから、すなわち自分専用の Web ページから行った Web ページおよびその他のファイルに対する要求をカウントし、報告します。 よって、ユーザのブラウザが自分のサイトから、スクリプト、カスケードスタイルシート、メディアファイルなどの他のファイルの参照を含む単一の Web ページを要求した場合、統計ユーティリティはこれらのファイルの参照を、自分の Web ページを閲覧したかのように報告します。 このため、デフォルトの設定では、利用量の統計は正確性を欠くことになります。

これに対応するため、次のような操作が可能です。

- 上記のような内部参照、および他のサイトからの参照を隠す。
- 複数のサイトからの参照をグループ化し、単一の場所から参照されたかのように見せかける。
- ダイレクトリクエストを隠す。 ユーザがブラウザに URL を入力した自分のサイトにアクセスした場合、ダイレクトリクエストが自分の Web サーバに送信されます。

このセクションの内容:

自分のサイトおよび他のサイトからの内部参照の表示および非表示	391
他のサイトからの参照のグループ化とグループ解除	392
ダイレクトリクエストの表示と非表示	393

自分のサイトおよび他のサイトからの内部参照の表示および非表示

➤ **内部参照および他のサイトからの参照を隠すには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [Web統計]（[統計] グループ内）> [プリファレンス] に進みます。
2. [エントリを隠す] をクリックします。
3. [エントリのタイプ] ドロップダウンボックスで、[リファラ] 値を選択したままにしておきます。
4. [リファラ] フィールドに、Web統計レポートにリファラを表示する必要のないドメイン名を入力します。
「*」ワイルドカード文字を使用すると、ドメイン名の一部を指定できます。
5. [OK] をクリックします。

➤ **参照を表示するには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [Web統計] > [プリファレンス] に進みます。
2. 非表示にするエントリに対応するチェックボックスを選択し、[削除] をクリックします。
3. 内容を確認して [OK] をクリックします。

他のサイトからの参照のグループ化とグループ解除

➤ 特定のサイトからの参照をグループ化するには、以下を実行します。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [Web統計]（[統計]グループ内）> [プリファレンス] > [グループ化されたリファラ] タブ > [グループ化されたリファラ] に進みます。

2. 特定のサイトのすべてのリファラに表示するグループ名を入力します。

3. [リファラ] 入力ボックスに、すべてのリファラをグループ化するサイト（ドメイン名）を指定します。

「*」ワイルドカード文字を使用すると、ドメイン名の一部を指定できます。

4. [OK] をクリックします。

➤ 特定のサイトからの参照をグループ解除するには、以下を実行します。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [Web統計]（[統計]グループ内）> [プリファレンス] > [グループ化されたリファラ] タブに進みます。すべてのリファラグループ名がリストに表示されます。

2. 必要なグループ名に対応するチェックボックスを選択し、[削除] をクリックします。

3. 内容を確認して [OK] をクリックします。

ダイレクトリクエストの表示と非表示

➤ **ダイレクトリクエストを非表示にするには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [Web統計]（[統計]グループ内）> [プリファレンス]に進みます。
2. [エントリを隠す]をクリックします。
3. [エントリのタイプ] ドロップダウンボックスで、[ダイレクトリクエスト] 値を選択します。
4. [OK] をクリックします。

➤ **ダイレクトリクエストを表示するには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > **ドメイン名** > [Web統計]（[統計]グループ内）> [プリファレンス]に進みます。非表示のエントリがすべてリストに表示されます。
2. [ダイレクトリクエスト] に対応するチェックボックスを選択し、[削除] をクリックします。
3. 内容を確認して [OK] をクリックします。

レポート生成とメールによる配信の自動化

➤ 1つまたは複数のユーザアカウントの連結レポートを定期的に受信するには、以下を実行します。

1. [クライアント]> クライアント名 > [統計] グループタイトルメニュー > [概要レポート] > [送信スケジュール] に進みます。
2. [レポート送信スケジュールの追加] をクリックします。
3. システムに登録されたメールアドレスへのレポートを受信するには、[受取者] ドロップダウンメニューから [サーバ管理者] の値を選択します。別のメールアドレスへのレポートを受信するには、[送信先のEメールアドレスを指定] オプションを選択し、メールアドレスを入力します。クライアントにレポートを送信するには、[クライアント] オプションを選択します。各クライアントすべてにクライアントレポートを送信するには、[すべてのクライアントのレポート] オプションを選択します。
4. [送信頻度] ドロップダウンメニューから送信間隔を選択し、[OK] をクリックします。レポートは毎日、毎週、毎月のいずれかの間隔で送信できます。

➤ アカウントステータスレポートの送信スケジュールを変更するには、以下を実行します。

1. [クライアント]> クライアント名 > [統計] グループタイトルメニュー > [概要レポート] > [送信スケジュール] に進みます。
2. [頻度] の列で、変更する送信スケジュールに対応するハイパーリンクをクリックします。
3. 必要に応じて設定を調整し [OK] をクリックします。

➤ アカウントステータスレポートの受信を停止するには、以下を実行します。

1. [クライアント]> クライアント名 > [統計] グループタイトルメニュー > [概要レポート] > [送信スケジュール] に進みます。
2. 送信スケジュールに対応するチェックボックスを選択し、[削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

➤ **1つまたは複数のドメイン（Web サイト）に関する詳細レポートを定期的に受信するには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [統計] グループタイトルメニュー > [概要レポート] > [送信スケジュール] > [レポート送信スケジュールの追加] に進みます。
2. システムに登録されたメールアドレスへのレポートを受信するには、[受取者] ドロップダウンメニューからサーバ管理者の値を選択します。別のメールアドレスへのレポートを受信するには、[指定したメールアドレス] オプションを選択し、メールアドレスを入力します。このドメイン名やWebサイトが別のユーザに属する場合、そのユーザにレポートを送信できます。[クライアント] オプションまたは[ドメイン管理者] オプションを選択します。
3. 特定のドメイン（Webサイト）に関するレポートを受信するには、[このドメイン] オプションを選択したままにしておきます。特定のユーザアカウントに属する各ドメインに関する詳細レポートを受信するには、[このクライアントによって管理されている、全てのドメイン] オプションを選択します。サーバでホスティングされる全てのドメインに関するレポートを受信するには、[全てのドメイン] オプションを選択します。
4. [送信頻度] ドロップダウンメニューから送信間隔を選択し、[OK] をクリックします。レポートは毎日、毎週、毎月のいずれかの間隔で送信できます。

➤ **詳細なドメインやWeb サイトレポートの送信スケジュールを変更するには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [統計] グループタイトルメニュー > [概要レポート] > [送信スケジュール] に進みます。
2. [頻度] の列で、変更する送信スケジュールに対応するハイパーリンクをクリックします。
3. 必要に応じて設定を調整し [OK] をクリックします。

➤ **ドメインレポートの受信を停止するには、以下を実行します。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [統計] グループタイトルメニュー > [概要レポート] > [送信スケジュール] に進みます。
2. 送信スケジュールに対応するチェックボックスを選択し、[削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。


ログファイルの表示およびログファイルの再利用の設定

Web サーバへの全ての接続とサーバに見つからないファイルの要求は、ログファイルに登録されます。これらのログファイルはサーバ上で実行される統計ユーティリティで分析され、オンデマンドでグラフィカルレポートで表示されます。これらのログファイルをコンピュータにダウンロードして、サードパーティ製の統計ユーティリティで処理したり、Web サーバをデバッグするためにログファイルのコンテンツを調べることができます。

➤ これらのログファイルが増大するのを防ぐために、ログファイルの自動クリーンアップと再利用を有効にする必要があります。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [ログマネージャ]（[統計ファイル] グループ内）> [ログローテーション] に進み、[スイッチオン] をクリックします。[スイッチオフ] しか表示されない場合、ログの再利用がすでに有効になっています。
2. ログファイルを再利用する時期、およびサーバに格納する各ログファイルのインスタンス数を指定します。ログファイルを圧縮するか、処理の後にメールアドレスに送信するかを指定します。[OK] をクリックします。

➤ ログファイルのコンテンツを表示する、またはコンピュータにダウンロードするには、以下を実行します。

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [ログマネージャ]（[統計ファイル] グループ内）に進みます。ログファイルのリストが表示されます。
2. 以下のいずれかを実行します。
 - ログファイルの表示する行数を、最後から数えた行数で指定し、[プリファレンス] グループの入力ボックスに数字を入力します。
 - ログファイルのコンテンツを表示するには、ファイル名をクリックします。
 - コンピュータにファイルをダウンロードするには、必要なファイルに対応するアイコンをクリックします。
 - サーバから処理済みのログファイルを削除するには、対応するチェックボックスを選択し、[削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

ウイルスおよびスパム保護統計の表示

➤ **Kaspersky アンチウイルスが検出して削除したウイルスの情報を表示するには、以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [メールサーバ設定]（[サーバ] グループ内）> [統計] タブに進み、[ウイルス統計] をクリックします。
2. 表示するウイルス統計の期間を選択します。

ウイルスやメール送信者または受信者のメールアドレスの詳細を表示するには、それぞれのタブをクリックします。

➤ **Spamassassin 検出してフィルタリングしたウイルスの情報を表示するには、以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [メールサーバ設定]（[サーバ] グループ内）> [統計] タブに進み、[SPAM統計] をクリックします。
2. 表示するSPAM統計の期間を選択します。

スパムメッセージ受信者の詳細を表示するには、[受信者] タブをクリックします。





第 9 章

コントロールパネルへの接続と FTP サービスのモニター

この章の内容:

コントロールパネルへの接続のモニタリング	399
FTP サービスへの接続のモニタリング	400
サーバへのターミナルセッション接続のモニタリング (Windows ホスティング)	402

コントロールパネルへの接続のモニタリング






- 現在コントロールパネルにログインしている顧客名を探すには、以下を実行します。
1. [ホーム] > [アクティブセッション]（[セキュリティ] グループ内）に進みます。自分も含めたすべてのセッションが表示され、次の詳細が表示されます。
 - **タイプ。** セッションを確立したコントロールパネルユーザのタイプ
 -  : サーバ管理者向け
 -  : 代理店またはクライアント向け
 -  : ドメインまたは Web サイト所有者向け
 -  : メールボックス所有者向け
 - **ログイン。** ユーザがログインしたときのログイン名
 - **IP アドレス。** コントロールパネルにアクセスした IP アドレス
 - **ログイン時間。** ユーザがコントロールパネルにログインした日時
 - **アイドル時間。** ユーザがログイン中にコントロールパネルで何も作業を行っていない時間
 2. ユーザセッションのリストを更新するには、[更新] をクリックします。
 3. ユーザセッションを終了するには、各チェックボックスを選択し、[削除] をクリックし、削除を確認してから [OK] をクリックします。

FTP サービスへの接続のモニタリング

Parallels Plesk Panel は、ホスティングサーバに以下の FTP サーバプログラムのいずれかがインストールされている場合に限り、アクティブな FTP セッションを表示できます。

- Microsoft [FTP 7.0](#) (Windows ホスティング)
- Gene6 FTP サーバ (Windows ホスティング)
- Serv-U FTP サーバ (Windows ホスティング)
- ProFTPd (Linux/UNIX ホスティング)

➤ **FTP を使用してサーバに接続しているユーザ名、そのユーザが作業しているディレクトリ名、およびサーバ間でアップロードまたはダウンロードを行っているファイル名を確認するには、以下を実行します。**

1. [ホーム] > [アクティブセッション]（[セキュリティ] グループ内）に進みます。
2. [FTPセッション] タブをクリックします。自分も含めたすべてのセッションが表示され、次の詳細が表示されます。
 - **タイプ。** セッションを確立したユーザのタイプ
 -  : コントロールパネルに登録していないユーザ向け
 -  : 匿名 FTP ユーザ向け
 -  : ドメインまたは Web サイト管理者向け
 -  : サブドメイン管理者向け
 -  : Web ユーザ（個別のドメイン名を持たない個人 Web ページの所有者）向け
 - **ステータス。** FTP 接続の現在のステータス
 - **FTP ユーザログイン。** FTP アカウントへのアクセスに使用したログイン名
 - **ドメイン名。** FTP ユーザが現在接続しているドメイン
 - **現在のロケーション。** FTP ユーザが現在いるディレクトリ
 - **ファイル名。** 操作中のファイル名
 - **速度。** 転送速度（キロバイト）
 - **完了 (%)。** パーセンテージで示されるファイル移行の進捗度

- IP アドレス。FTP アカウントにアクセスしている IP アドレス
 - ログイン時間。現在のユーザがログインしてからの経過時間
 - アイドル時間。FTP を使用してサーバに接続している間に、ユーザが何も作業を行っていなかった時間
3. FTPセッションのリストを更新するには**【更新】**をクリックします。
 4. セッションを終わらせるには、該当するチェックボックスをチェックして、**【削除】**をクリックします。

サーバへのターミナルセッション接続のモニタリング（Windows ホスティング）

➤ 現在ターミナルサーバセッション経由でどの顧客がサーバにログインしているかを見つけるには以下を実行してください。

1. [ホーム] > [アクティブセッション]（[セキュリティ] グループ内）に進みます。
2. [TSセッション] タブをクリックします。自分も含めたすべてのセッションが表示され、次の詳細が表示されます。
 - S。ターミナルセッションのステータスです。
 - 🟡 - サーバ管理者向け。
 - 🟢 - クライアントが、有効なログイン名およびパスワードで接続およびログイン。
 - 🟢 - クライアントが接続しているがログインはしていない。
 - 🔴 - クライアントは接続していない。
 - [名前]。ターミナルセッションの名前です。
 - [ユーザ]。ターミナルセッションユーザの名前です。リストのセッション名をクリックするとセッションの詳細が表示されます。
3. ターミナルセッションのリストを更新するには、[更新] をクリックします。
4. ターミナルセッションの接続を解除するには、各チェックボックスを選択し、🛑 [接続解除] をクリックし、接続解除を確認してから [OK] をクリックします。
5. ターミナルセッションを閉じるには、各チェックボックスを選択し、🔒 [ログアウト] をクリックし、ログアウトを確認してから [OK] をクリックします。

リモートデスクトップ (Windows ホスティング) 経由でサーバにアクセス

リモートデスクトップ (RDP) アクセス機能によって Parallels Plesk Panel にリモートログインして標準 Microsoft Windows デスクトップインターフェース経由で相互作用ができます。

➤ **リモートデスクトップインターフェース経由でサーバにアクセスするには以下を実行してください。**

1. [ドメイン] > ドメイン名 > [リモートデスクトップ] ([ファイル] グループ内) に進みます。
2. [ターミナルセッションの画面解像度] メニューでセッションの画面解像度を設定します。

注: 解像度が高いと相互作用のスピードが落ち、より多くの帯域幅を使用します。

3. ブラウザによって接続方法を選択します。
 - **Microsoft RDP ActiveX** - 他のブラウザでは動作しないため、Internet Explorer ブラウザの使用が推奨されています。初めてこの方法を使用する場合は、Internet Explorer のセキュリティ設定で許可されていれば、必要な ActiveX コンポーネントをブラウザが自動的にインストールします。ブラウザにセキュリティアラートが表示された場合は、ブラウザオプションでセキュリティレベルを一時的に低くしてみてください。
 - **properoJavaRDP** - Internet Explorer では動作しないため、Netscape、Mozilla、Firefox ブラウザの使用が推奨されています。Opera の 8.0 以上のバージョンだけがサポートされています。このコンポーネントは JRE (Java Runtime Environment) がシステムにインストールされていることが必要です。JRE は <http://java.sun.com/j2se/1.5.0/download.jsp> からインストールすることができます (バージョン 1.4 以上) 。

注:

Internet Explorer または Mozilla を使用する場合は Microsoft Windows のターミナルサービスコンフィグレーションコンソールを開いて ([開始] > [管理タスク])、サーバ設定画面でユーザごとに [ライセンスリング] オプションを設定する必要があります。

4. [OK] をクリックします。新規ウィンドウが開きます。
5. システムにログインします。デフォルトでParallels Plesk PanelはドメインのFTP/Microsoft FrontPageログインを使用しています。どの有効なログイン名およびパスワードでもできます。
6. システムにログインしたあとは通常のWindowsデスクトップのようにして作業を開始できます。

➤ **リモートデスクトップセッションを終了するには以下を実行してください。**

- リモートデスクトップセッションのブラウザウィンドウをクローズします。この方法だとセッションはデスクトップから切り離されますが、サーバ上で動作し続けるので、次回ログインしたときにリモートデスクトップは前の状態を維持しています。または
- セッションから完全に出たい場合は [スタート] > [ログオフ] を選択します

第 11 章

コントロールパネルで顧客が実行したアクションのロギング

システムの様々なユーザが行ったアクションのトラッキングが必要な場合があります。すべてのアクションはログファイルに記録されており、ダウンロードして閲覧することができます。以下のシステムイベント（アクション）のログを残すことができます。

- 管理者情報変更
- システムサービスの再起動、起動、停止
- IP アドレスの追加、削除、変更
- ログイン設定（コントロールパネルにおけるすべてのユーザセッションに許可された非活動期間）の変更
- クライアントアカウントの作成、削除、個人もしくはシステム情報の変更
- クライアントアカウントのステータス変更（停止/停止解除）
- クライアントのインターフェースプリファレンスの変更
- クライアントの IP プールの変更
- クライアントのプールに追加または削除された Web アプリケーション
- クライアントアカウントのディスクスペース制限超過
- クライアントアカウントのトラフィック使用率の制限超過
- ホームページプリセットの作成、削除、変更
- ドメインのディスク容量制限超過
- ドメインのトラフィック使用率の制限超過
- ドメイン管理者アカウントプロパティの変更
- ドメインの作成、削除、設定の変更
- ドメイン所有者の変更
- ドメインのステータス変更（停止/停止解除）
- ドメインの DNS ゾーン更新
- サブドメインの作成、削除、設定の変更
- ドメインエイリアスの作成、削除、設定の変更
- ドメインエイリアスの DNS ゾーンの変更
- クライアントアカウント制限（リソース割り当て）の変更
- クライアントの権限の変更
- ドメイン制限（リソース割り当て）の変更
- ユーザのコントロールパネルへのログインとログアウト

- メールアカウントの作成、削除、変更
- メーリングリストの作成、削除、設定変更
- 物理的ホスティングの作成、削除、変更
- 標準またはフレーム転送ホスティングアカウントの作成、削除、再構成
- Web ユーザアカウントの作成、削除、変更
- Web アプリケーションのインストール、再構築、アンインストール
- Web アプリケーションパッケージのインストール、アンインストール、更新
- ライセンスキーの失効または更新
- データベースサーバの作成、削除、更新
- データベースの作成または削除
- データベースユーザアカウントの作成、削除、更新
- クライアントの GUID の更新
- ドメインの GUID の更新
- Parallels Plesk Panel コンポーネントの更新または追加

この章の内容:

アクションログの設定	406
アクションログのダウンロード	407
アクションログの消去	407

アクションログの設定

➤ **アクションログを設定するには、以下を実行します。**

1. [ホーム] > [アクションログ]（[ログ&統計] グループ内）に進みます。
2. [記録されるアクション] グループで、チェックボックスを使用してログに記録されるアクションを選択します。
3. [データベースにレコードを記録します] フィールドでアクションログ解除オプションを選択します。日次、週次、月次、もしくはデータベースに保存されるレコードの数を指定することもできます。
4. 全てのアクションログレコードを保存する場合は、[ログを削除しない] オプションを選択します。
5. 変更を適用するには、[OK] をクリックします。

アクションログのダウンロード

➤ コンピュータにアクションログをダウンロードするには、以下を実行します。

1. [ホーム] > [アクションログ]（[ログ&統計] グループ内）に進みます。
2. [ログファイル] セクションでドロップダウンボックスを使用して期間を選択し、[ダウンロード] をクリックします。
ダウンロードするファイルを保存する場所を尋ねるダイアログウィンドウが開きます。
3. 保存場所を指定して[保存] をクリックします。


アクションログの消去

➤ アクションログを消去するには、以下を実行します。

1. [ホーム] > [アクションログ]（[ログ&統計] グループ内）に進みます。
2. [ログファイル] セクションで、[ログ消去] をクリックします。

多数の Parallels Plesk Panel サーバに対する集中アクセスの使用

Parallels Plesk Panel が管理するサーバが複数存在する場合、いずれかのサーバのコントロールパネルを使用して、他のサーバのアクセスおよび管理を実行できます。この機能がコントロールパネル内で使用できるかどうかを確認するには、ナビゲーションパネルの [マスター] ショートカットの表示を確認します。

マスター機能では (Web ブラウザのパスワードマネージャと同様に)、Parallels Plesk Panel が管理する他のサーバにアクセスするための信用情報を記憶することができます。いずれかのサーバのコントロールパネルにログインする必要がある場合、そのコントロールパネルのスレーブサーバのリストを表示し、 アイコンをクリックする必要があります。別のサーバで実行中のコントロールパネルは、新しいブラウザウィンドウに表示されます。

複数のサーバへの単一のエントリポイントを示す以外に、マスター機能は指定した他のサーバのポーリング、システムサービスの状態およびリソース利用量に関する情報の取得、およびこのような情報のコントロールパネルへの表示も実行します。

見ての通り、マスター機能では時間が少しだけ短縮されてクリックが数回少なくなるだけです。サーバの数が多く、本格的にサーバ集中管理が必要になる場合は、Parallels の Parallels Plesk Panel Expand または Parallels Business Automation ソリューションをご利用ください。

この章の内容:

サーバレコードの追加	409
サーバ情報の表示およびサーバへのログイン	409
サーバレコードの削除	410

サーバレコードの追加



➤ **Parallels Plesk Panel が管理するサーバに関するレコードをコントロールパネルに追加するには、以下を実行します。**

1. [マスター] > [新しいサーバの追加] に進みます。
2. 適切なフィールドにホスト名とポート番号を入力し、Parallels Plesk Panelが所定のスレーブサーバにログインする際に使用するログイン名とパスワードを指定します。スレーブサーバの説明を入力することもできます。この時点で詳細なサーバ情報を取り出し表示する必要がない場合は、[サーバに情報を要求しない] チェックボックスを選択します。
3. [設定] をクリックします。
4. そのサーバのコントロールパネルへのセキュアな接続に使用するSSL証明書をアップロードするには、[証明書] ボタンをクリックします。[参照...] をクリックして、証明書ファイルを探すか、クリップボードから証明書の内容を貼り付けます。その後、それぞれ[ファイル送信]または[テキスト送信] ボタンをクリックし、スレーブサーバに証明書をアップロードします。

サーバレコードの変更が必要な場合、ナビゲーションペインで[マスター] ショートカットをクリックし、必要なホスト名をクリックします。

サーバ情報の表示およびサーバへのログイン


➤ **サーバに関する情報を表示し、サーバのコントロールパネルにログインするには、以下を実行します。**

1. ナビゲーションペインの[マスター] ショートカットをクリックします。
追加した全てのサーバに関する次の情報が表示されます。
 - S 列のステータスアイコン
 -  - サーバが操作可能な状態であり、リソースの使用過多がない。
 -  - 一部のシステムサービスが停止している。

❗ - 少なくとも 1 つのユーザアカウントがリソース（ディスクスペースまたは帯域幅）割り当てを超えている。

❌ - サーバが停止またはアクセス不可。

❓ - サーバでステータスのポーリングが行われていない。

- ホスト名。
 - 指定した [詳細]
2. 詳細なサーバレポートを表示するには、必要なホスト名をクリックします。
 3. サーバのコントロールパネルにログインするにはそれぞれの  アイコンをクリックします。

サーバレコードの削除

➤ **サーバレポートを削除するには、以下を実行します。**

1. ナビゲーションペインの [マスター] ショートカットをクリックします。
2. 削除したいレコードに対応するチェックボックスを選択します。
3. [削除] をクリックします。 削除を確認して [OK] をクリックします。

コントロールパネルのアップグレード

コントロールパネル内で Parallels Plesk Panel アップデーター機能を使用すると、必要なアップデートおよびコントロールパネルアドオンを簡単にインストールでき、さらにコントロールパネルを最新のリリースにアップグレードできます。

➤ **Parallels Plesk Panel をアップグレードするには、またはそのコンポーネントを更新するには、以下を実行します。**

1. [ホーム] > [アップデート]（[ヘルプ & サポート] グループ内）に進みます。

コントロールパネルが URL <http://autoinstall.plesk.com>にある Parallels の公式アップデートサーバに接続し、入手可能なリリースの情報を取得してシステムにインストールされているコンポーネントを解析し、使用可能なリリースおよびコンポーネントの更新一覧を表示します。各リリースについて、有効な操作の簡単な説明が表示されます。

注： Parallels Plesk Panel が管理しているサーバが複数存在し、（Parallels Plesk Panel 9 インストールガイドの説明に従って）ネットワークにアップデートサーバのミラーを設定している場合、「アップデーター設定の変更」（413 ページ）のセクションを参照して、Parallels Plesk Panel アップデーターを設定してローカルミラーからインストールेशनファイルを取り出します。

2. アップデートまたはアップグレードしたいリリースバージョンを選択します。 利用可能なコンポーネント一覧が表示されます。
3. インストールしたいコンポーネントに対応するチェックボックスをチェックし、[インストール] をクリックしてください。 確認ページが表示されます。
4. メールアドレスを入力します。 アップデートが完了すると、メールで通知が送信されます。 選択したコンポーネントのインストールを確認するには、チェックボックスを選択して [OK] をクリックします。 選択したコンポーネントまたはアップデートがダウンロードされ、バックグラウンドモードに自動的にインストールされます。

アップデート処理についての注意事項：

コントロールパネルのバージョンを新しいバージョンにアップグレードする場合、アップグレード処理の開始と終了がメールで通知されます。アップグレードが成功すると、通知メッセージにはイベントログとインストールされたパッケージのリストが含まれます。ただし、メールサーバに不具合が生じてエラーメッセージは送信されません。この場合、サーバのハードドライブ上の/tmp ディレクトリにある autoinstaller.log ファイルでエラーをチェックできます。

コントロールパネルのオペレーションはすべて、コントロールパネルの中核機能に影響を及ぼすいわゆる「基本」パッケージのインストール中は停止します。

アップグレード後に新しいライセンスキーのインストールが必要になる場合、「ライセンスキーのアップグレード」(28 ページ)のセクションを参照してください。ライセンスキーのインストールについて問題が発生した場合は、sales@parallels.co.jpにご連絡ください。

この章の内容:

アップデーター設定の変更	413
コントロールパネルからアップデーター機能へのアクセスを拒否 (Linux ホスティング)	414


アップデーター設定の変更

デフォルトでは Parallels Plesk Panel やオペレーティングシステムの更新は <http://autoinstall.plesk.com>にある公式アップデートサーバからダウンロードするようになっています。

➤ **ローカルネットワークストレージから Parallels Plesk Panel アップデートを受け取るには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [アップデート]（[ヘルプ & サポート] グループ内）に進みます。
2. [プリファレンス] をクリックします。
3. [Parallels Plesk Panelアップデートソース] タブをクリックします。
4. [ソースタイプ] メニューから [ネットワークストレージ] オプションを選択してアップデートが置いてあるディレクトリへのURLを指定します。
5. [OK] をクリックすると設定が適用されます。

➤ **オペレーティングシステムベンダーのサイトからサーバのオペレーティングシステムのアップデートを受け取るには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [アップデート]（[ヘルプ & サポート] グループ内）に進みます。
2. [プリファレンス] をクリックします。
3. [オペレーティングシステムアップデートのソース] のタブをクリックします。
4. アップデートソースからアップデートサーバを出すには、[S] 列の [Parallels Plesk Panelアップデートサーバ] エントリに対応するアイコン  をクリックします。
5. [ソースの追加] をクリックして以下を指定します。
 - **ソースタイプ。** ベンダーのサイトからアップデートを受け取るのであれば `repomd`（`xml-rpm-metadata` リポジトリ）の値は選択したままにします。サーバのハードディスクやマウントされたネットワークシェアからアップデートを受け取るのであれば（ローカルディレクトリ）の値を選択します。

- **ソース URL。** パッケージファイルのある URL を入力します。例えば、<http://download.fedora.redhat.com/fedora/linux/core/updates/2/i386>となります。
 - **ソースの優先度。** 複数のダウンロードサイトをご利用の場合、アップデートを取得する順番を指定することができます。それには、各ソースに対して異なるレベルの優先度を指定します。リストから値を選択するか、[カスタム]を選択して 1（最低）から 999（最高）までの数を入力します。
 - **認証。** アップデートを受け取るのにベンダーのサイトの認証が必要であれば[認証] チェックボックスを選択してユーザ名およびパスワードを指定します。
6. [OK] をクリックします。

コントロールパネルからアップデート機能へのアクセスを拒否（Linux ホスティング）

サーバ管理タスクを他のユーザに委任するけれども、彼らにコントロールパネルからアップデート機能を使用したりアップデートの設定を変更したりして欲しくない場合は、コントロールパネルからアップデーター設定に関する画面や[アップデート]アイコンを削除することができます。それには、次の MySQL コマンドを使用します。 `echo 'REPLACE misc SET param="disable_updater", val="true"' | mysql psa -uadmin -p`cat /etc/psa/.psa.shadow``

コントロールパネルに[アップデート]アイコンおよび画面を復元するには、次の MySQL コマンドを使用します。 `echo 'REPLACE misc SET param="disable_updater", val="false"' | mysql psa -uadmin -p`cat /etc/psa/.psa.shadow``

付録. 拡張機能

コントロールパネルで使用可能なオペレーションに加えて、Parallels Plesk Panel ソフトウェアは管理者がコマンドラインから実行できるいくつかの拡張管理機能を提供します。管理者は以下の作業が可能です。

- イベント追跡メカニズムを使用した、Parallels Plesk Panel と外部システム間のデータ内部交換の編成
- ドメイン固有の Apache 設定ディレクティブのウェブサーバ設定ファイルへのインクルード
- Tomcat コネクタポートの変更
- Parallels Plesk Panel メール設定の復元

この章の内容:

イベント追跡メカニズムの使用	416
Web サーバ設定ファイルへのディレクティブのインクルード	421
Tomcat Java コネクタポートの変更	422
メール設定の復元	423
Qmail または Courier-IMAP メールサーバのカスタム SSL 証明書のインストール	423

イベント追跡メカニズムの使用

イベントマネージャはParallels Plesk Panelと外部システム間のデータ交換の構成に役立つよう設計されたものです。それは次のように作動します。特定のコントロールパネルイベントで実行されるスクリプトを作成し、イベントの処理をトリガーするイベントハンドラを作成します。複数のハンドラを1つのイベントに割り当てることができます。

Linux ホスティングユーザに対する注意事項 サーバ管理者はユーザ root に代わりサーバ上で実行可能なイベントハンドラを作成できます。root アカウントの使用を制限するには、`root.event_handler.lock` という名前の空ファイルをロケーション `/parallels_plesk_panel_installation_directory/var/` に作成します。

このセクションの内容:

イベントハンドラの追加 (Linux ホスティング)	417
イベントハンドラの追加 (Windows ホスティング)	419
イベントハンドラの削除	420

イベントハンドラの追加 (Linux ホスティング)

例えば、「クライアントアカウント作成」イベントのイベントハンドラを作成してみます。ハンドラは環境変数のクライアント名およびクライアントログイン名を承認します。説明を簡単にするために、以下のような `test-handler.sh` と呼ばれるシェルスクリプトを使用します。

```
#!/bin/bash
echo "-----" >> /tmp/event_handler.log

/bin/date >> /tmp/event_handler.log # information on
the event date and time

/usr/bin/id >> /tmp/event_handler.log # information on
the user, on behalf of which the script was executed (to ensure
control)

echo "client created" >> /tmp/event_handler.log # information on the
created client account

echo "name: ${NEW_CONTACT_NAME}" >> /tmp/event_handler.log #
client's name

echo "login: ${NEW_LOGIN_NAME}" >> /tmp/event_handler.log #
client's login

echo "-----" >> /tmp/event_handler.log
```

このスクリプトはファイルにある情報をプリントし、その実行を制御します（スクリプトはバックグラウンドモードで実行されるため、`stdout/stderr` には情報を出力できません）。

例えば、使用するスクリプトがディレクトリ

`/parallels_plesk_panel_installation_directory/bin` にあると仮定します。コントロールパネル経由でイベントハンドラを作成し、スクリプトを登録します。

1. **［ホーム］ > ［イベントマネージャ］**（**［ログ&統計］** グループ内）に進みます。
2. **［新しいイベントハンドラの追加］** をクリックします。 イベントハンドラ設定ページが表示されます。
3. **［イベント］** メニューでハンドラを割り当てるイベントを選択します。
4. ハンドラ実行の優先順位を選択するか、カスタム値を指定します。 それを実行するには、**［優先度］** メニューで **［カスタム］** を選択して値を入力します。

複数のハンドラを 1 つのイベントに割り当てる場合、異なる優先度（高い値に設定すると優先度も高くなります）でハンドラの実行シーケンスを指定できます。

5. ハンドラを実行するシステムユーザを選択します（例えば、「root」ユーザ）。
6. [コマンド] 入力フィールドで選択したイベントで実行するコマンドラインを指定します。この例では
`/usr/local/psa/bin/test-handler.sh`です。
7. [OK] をクリックします。

注： スクリプトでは、変数 `$NEW_CONTACT_NAME` および `$NEW_LOGIN_NAME` を指定しました。 ハンドラの実行中に、作成したクライアントの名前とログインをそれぞれ置き換えます。 使用可能な変数の全リストは、Parallels Web サイトから入手できる (Parallels Plesk Panel Advanced Administration Guide) に記載されています。

削除オペレーションでは、`new_xxx` の変数はセットされないことにご注意ください。そして作成オペレーションでは `$OLD_xxx` のパラメータはセットされません。

Parallels Plesk Panel にログインし新規クライアントを作成するには、[連絡名] フィールドに「Some Client」、[ログイン] フィールドに「some_client」という値を指定してハンドラを呼び出すと、以下のレコードが `/tmp/event_handler.log` に追加されます。

```
Fri Mar 16 15:57:25 NOVT 2007
uid=0(root) gid=0(root) groups=0(root)
client created
name: Some client
login: some_client
```

1 つ以上のハンドラを指定するには、他のハンドラについても同じアクションを繰り返してください。

イベントハンドラの設定時に使用可能なパラメータテンプレートの全リストは、Parallels Web サイトから入手可能な (Parallels Plesk Panel Advanced Administration Guide) を参照してください。

イベントハンドラの追加 (Windows ホスティング)

➤ イベントハンドラを追加するには、以下を実行します。

例えば、「クライアントアカウント作成」イベントのイベントハンドラを作成してみます。ハンドラはクライアント名を最初のパラメータとして受け入れ、クライアントのログインを2番目のパラメータとして受け入れます。説明を簡単にするために、以下のような test-handler.bat と呼ばれるバッチファイルを使用します。

```
echo "-----" >> c:\windows\temp\event_handler.log
rem 情報 (イベント日時)
date /T >> c:\windows\temp\event_handler.log
rem 情報 (作成したクライアントアカウント)
echo "client created" >> c:\windows\temp\event_handler.log
rem クライアントの名前
echo "name: %1" >> c:\windows\temp\event_handler.log
rem クライアントのログイン名
echo "login: %2" >> c:\windows\temp\event_handler.log
echo "-----" >> c:\windows\temp\event_handler.log
```

ファイルの実行を制御できるように、このスクリプトはそのファイルに情報を付加します。

スクリプトがディレクトリ c:\¥program files¥parallels¥plesk¥scripts¥ に置いてあるとします。コントロールパネル経由でイベントハンドラを作成し、スクリプトを登録します。

1. [ホーム] > [イベントマネージャ] ([ログ&統計] グループ内) に進みます。
2. [新しいイベントハンドラの追加] をクリックします。 イベントハンドラ設定ページが表示されます。
3. [イベント] ドロップダウンボックスでハンドラを割り当てるイベントを選択します。
4. ハンドラ実行の優先順位を選択するか、カスタム値を指定します。 それを実行するには、[優先度] ドロップダウンリストで [カスタム] を選択して値を入力します。

複数のハンドラを1つのイベントに割り当てる場合、異なる優先度 (高い値に設定すると優先度も高くなります) でハンドラの実行シーケンスを指定できます。

5. ハンドラを実行するシステムユーザを選択します。

6. [コマンド] 入力フィールドで選択したイベントで実行するコマンドラインを指定します。例では `c:\program files\parallels\plesk\scripts\test-handler.bat` `<new_contact_name>` `<new_login_name>` となります。

ディレクトリ名やファイル名にはスペースが含まれているため、パスは “ ” で囲んでいなければなりません。

7. [OK] をクリックします。

注： コマンドラインのうち、括弧でくくった `<new_contact_name>` と `<new_login_name>` の部分でパラメータ 指定します。 ハンドラを実行する前に、作成したクライアントの名前とログインをそれぞれ置き換えます。 利用可能なパラメータの完全なリストが提供されます。 削除オペレーションでは、`new_xxx` のパラメータは空白行にする点に注意してください。 作成オペレーションでは、`old_xxx` のパラメータが空白行になります。

Parallels Plesk Panel にログインし新規クライアントを作成するには、[連絡先] フィールドに「Some Client」、[ログイン] フィールドに「some_client」という値を指定してハンドラを呼び出すと、以下のレコードが

`c:\windows\temp\event_handler.log` に追加されます。

Sat Jun 26 21:46:34 NOVT 2004

client created

name: Some client

login: some_client

1 つ以上のハンドラを指定するには、他のハンドラについても同じアクションを繰り返してください。

イベントハンドラで処理可能なイベントについて詳細は、Parallels Web サイトから入手可能な (Parallels Plesk Panel Advanced Administration Guide) を参照してください。

イベントハンドラの削除

➤ イベントハンドラを削除するには、以下を実行します。

1. [ホーム] > [イベントマネージャ] ([ログ&統計] グループ内) に進みます。
2. ハンドラのリストで対応するチェックボックスを選択し、[削除] をクリックします。

Web サーバ設定ファイルへのディレクティブのインクルード

ドメイン固有の Apache 設定ディレクティブを Web サーバ設定ファイルにインクルードできます。Parallels Plesk Panel では、各ドメインが別ファイル `httpd.include` にバーチャルホスト設定を格納しています。

Linux システムでは、このファイルはディレクトリ `/var/www/vhosts/<domain-name>/conf/` にあります。

FreeBSD システムでは、このファイルはディレクトリ `/usr/local/psa/home/vhosts/<domain-name>/conf/` にあります。

Parallels Plesk Panel バージョン 7.5.4 以前からアップグレードしている場合、ディレクトリ `/home/httpd/vhosts/<domain-name>/conf/` にあります。

注： バーチャルホストディレクトリの場所は `transvhosts.pl` ユーティリティを使用して変更できます。このユーティリティはオペレーティングシステムに応じて、`/usr/local/psa/bin/` または `/opt/psa/bin/` のいずれかのディレクトリにあります。

このファイルはバーチャルホスト設定が変更されると上書きされ、手動での変更は破棄されます。Parallels Plesk Panel によって挿入されたカスタムディレクトリを使用または再定義するには、必要なディレクティブを使用して `vhost.conf` ファイルおよび/または `vhost_ssl.conf` ファイルを、ドメイン向けには `/path_to_vhosts/<domain-name>/conf/` ディレクトリ内、サブドメイン向けには `/path_to_vhosts/<domain-name>/subdomains/<subdomain-name>/conf/` ディレクトリ内に作成する必要があります。

ドメインの設定ファイルが生成される際にこれらのファイルが存在する場合、Parallels Plesk Panel は適切な `Incrude` ディレクティブを HTTP および/または HTTPS バーチャルホストコンテキストにそれぞれ挿入します。セキュリティ上の理由から、`vhost.conf` および `vhost_ssl.conf` ファイルを作成できるのは root のみです。

変更を有効にするには、以下のコマンドを実行する必要があります。

```
/parallels_plesk_panel_installation_directory/admin/sbin/websrvmnng-rec  
onfigure-vhost-vhost-name=<domain_name>
```

Tomcat Java コネクタポートの変更

Parallels Plesk Panel での Coyote および Warp 接続のデフォルト接続番号は 9080 と 9008 です。

Tomcat Java を他のポート（例：8090 および 8009）で操作する場合は、以下の例のように Parallels Plesk Panel データベースに接続して 2 つのパラメータをデータベースに追加する必要があります。

```
insert into misc (param,val) values ('coyote_connector_port', '8090');  
insert into misc (param,val) values ('warp_connector_port', '8009');
```

代わりに `dbclient.exe` ユーティリティを使用して Parallels Plesk Panel データベースに情報を追加することもできます。`dbclient.exe` ユーティリティの用法については(Parallels Plesk Panel for Windows Command Line Interface Reference)をご参照ください。

注： Parallels Plesk Panel がサーバにインストールされた直後に、またはドメインで Tomcat Java サービスを有効化する前に、Tomcat Java ポートを変更するようお勧めします。

メール設定の復元

Parallels Plesk Panel メールサーバ設定が破壊され、復元が必要になる場合があります。復元は Parallels Plesk Panel コントロールパネルで使用することを意図した内部ユーティリティ `mchk` で実行します。ただし、管理者は必要に応じて、Qmail および Courier-imap の設定の復元にこのユーティリティを使用することもできます。

デフォルトでは、`mchk` はバックグラウンドモードで実行されます。フォアグラウンドで実行するには `-v` オプションを使用します。例えば、以下のようになります。

```
/usr/local/psa/admin/sbin/mchk -v
```

注： Perl インタプリタの実行を必要とするため、メールアカウントの SpamAssassin 設定の復元を希望しないことがあるかもしれません。復元のを速度を上げるには、`--without-spam` オプションを使用します。

Qmail または Courier-IMAP メールサーバのカスタム SSL 証明書のインストール

メールサーバを Parallels Plesk Panel サーバと安全にやり取りするには、Parallels Plesk Panel サーバにカスタム SSL 証明書をインストールする必要があります。具体的には、SSL 証明書を Qmail メール転送エージェントまたは Courier-IMAP メールサーバ（IMAP および POP3 プロトコル対応）にインストールできます。

カスタム SSL 証明書をインストールするには、証明書を Parallels Plesk Panel サーバにダウンロードしてから、インストール済みの Qmail および Courier-IMAP サーバ用デフォルト SSL 証明書をダウンロードしたカスタム証明書に置き換える必要があります。

このセクションでは、Qmail および Courier-IMAP サーバ用のカスタム SSL 証明書をインストールする手順についてご説明致します。

このセクションの内容:

Qmail 用 SSL 証明書のインストール.....	424
Courier-IMAP メールサーバの SSL 証明書のインストール	426

Qmail 用 SSL 証明書のインストール

➤ **Parallels Plesk Panel サーバに Qmail 用のカスタム SSL 証明書をインストールするには、以下を実行してください。**

1. すべてを含んだ .pem 証明書ファイルを作成します。

すべてを含んだ .pem 証明書ファイルを作成するには、好きなテキストエディタを起動して、各証明書ファイルおよびファイルのプライベートキーの内容を以下の順番で貼り付けます。

- a プライベートキー
- b プライマリ証明書
- c 中間証明書
- d ルート証明書

キーおよび各証明書の *begin* および *end* タグを破線ごとを含めるようにしてください。その結果、以下のようなテキストになります。

```
-----BEGIN RSA PRIVATE KEY-----
.....
.....
(ここにプライベートキーが入ります)
.....
-----END RSA PRIVATE KEY-----
-----BEGIN CERTIFICATE-----.....
(ここにプライマリ SSL 証明書が入ります)
.....
-----END CERTIFICATE-----
-----BEGIN CERTIFICATE-----
.....
(ここに中間証明書が入ります)
.....
-----END CERTIFICATE-----
-----BEGIN CERTIFICATE-----
.....
(ここにルート証明書が入ります)
.....
-----END CERTIFICATE-----
```

2. すべてを含んだ証明書ファイルを `plesk.pem` として保存します。
3. SSH経由でParallels Plesk Panelサーバにrootユーザとしてログインします。

4. すべてを含んだ証明書ファイル`plesk.pem`をダウンロードします。
5. Qmail用の既存のデフォルトSSL証明書のバックアップコピーを作成します。

例えば RedHat または Fedora オペレーティングシステムについては、バックアップする必要がある SSL 証明書は `var/qmail/control/servercert.pem` です。

注：他のオペレーティングシステムについては、デフォルト証明書ファイルの場所とは異なる場合があります。

6. お好きなテキストエディタを使用してデフォルト証明書ファイル `var/qmail/control/servercert.pem`を開き、ファイルの内容をすべてを含んだ証明書`plesk.pem`の内容に置き換えます。
7. ファイルを保存してクローズします。
8. 証明書のインストールを終了するには、Qmailを再起動します。

Courier-IMAP メールサーバの SSL 証明書のインストール

- **Plesk サーバに Courier-IMAP (IMAP/POP3) メールサーバ用のカスタム SSL 証明書をインストールするには、以下を実行してください。**

1. SSH経由でPleskサーバにrootユーザとしてログインします。
2. インストールするSSL証明書ファイルを1つ以上ダウンロードします。

注：IMAP および POP3 はそれぞれ別々の証明書ファイルを必要としますが、両方のファイルが同じ証明書を包含することができます。

3. Courier-IMAPメールサーバ用の既存のデフォルトSSL証明書のバックアップコピーを作成します。

RedHat または Fedora オペレーティングシステムの例では、以下のデフォルト SSL 証明書ファイルのバックアップを作成する必要があります。

- /usr/share/courier-imap/imapd.pem - 証明書によって IMAP プロトコル経由の安全なデータ転送が可能になります。
- /usr/share/courier-imap/pop3d.pem - 証明書によって POP3 プロトコル経由の安全なデータ転送が可能になります。

注：他のオペレーティングシステムについては、デフォルト証明書ファイルの場所とは異なる場合があります。

4. お好きなテキストエディタを使用してファイルを開き、ファイルの内容を、インストールするSSL証明書ファイルの内容に置き換えます。

例えば、カスタム SSL 証明書からコピーして、デフォルト証明書ファイルの本文の代わりに貼り付ける内容は以下ようになります。

```
-----BEGIN CERTIFICATE-----
MIIB8TCCAzsCBEUpHKkwDQYJKoZIhvcNAQEEBQAwgYExCzAJBgNVBAYTAlJPM
Qww
.....
.....
eNpAIeF34UctLcHkZJGIK6b9Gktm
-----END CERTIFICATE-----
```

```
-----BEGIN RSA PRIVATE KEY-----
MIICXgIBAAKBgQDv6i/mxtS2B2PjShArtOAmdRoEcCWa/LH1GcrbWl4zdbmIq
rx
.....
.....
```

```
faXRHcG37TkvglUZ3wgy6eKuyrDi5gkwV8WAuaoNct5j5w==  
-----END RSA PRIVATE KEY-----
```

5. ファイルを保存してクローズします。
6. 証明書のインストールを終了するには、Courier-IMAPを再起動します。